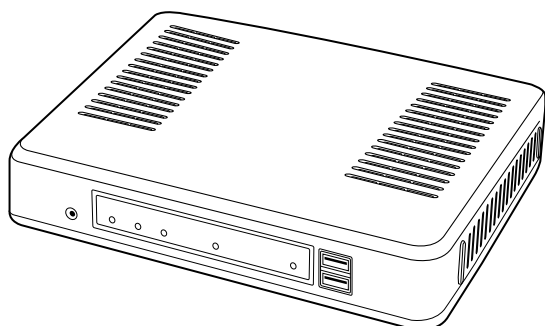




取扱説明書

IP ADVANCED RADIO SYSTEM
CONTROLLER

IP1000C



Icom Inc.

はじめに

1 ご使用になる前に

2 導入ガイド

3 そのほかの基本機能

4 設定画面について

5 保守について

6 ご参考に

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、IPネットワークを経由して弊社製IP100Hを制御するためのコントローラーです。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。

本書の内容の一部または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

表記について

本書は、次の規則にしたがって表記しています。

「 」表記：本製品の各メニューと、そのメニューに属する設定画面の名称を(「 」)で囲んで表記します。

[] 表記：各設定画面の設定項目名を([])で囲んで表記します。

〈 〉 表記：設定画面上に設けられたコマンドボタンの名称を(〈 〉)で囲んで表記します。

※ 本書は、Ver. 2.10のファームウェアを使用して説明しています。

※ 本書では、Windows 7の画面を例に説明しています。

※ 本書では、パナソニック社製IP電話機(KX-UT123N、KX-UT136N、KX-HDV130N、KX-HDV230N)を「KXシリーズ」と表記しています。

※ 本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。

※ 本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

はじめに

本製品の概要について

◎ 本製品は、弊社製IP100Hを制御するコントローラーとして、IPネットワークを経由した呼び出しやメッセージの送受信に対応しています。

※ご利用になるためには、無線アクセスポイントが必要です。

【構築例】



◎ 弊社製IP100H(トランシーバー)、IP100FS(リモートコミュニケーター)を、合計100台まで本製品に登録して使用できます。

※IP1000C#02をご使用になる場合は、最大20台まで登録できます。

※IP100FSは、本製品に接続されたIP100HとIPネットワークを経由して音声通信できるソフトウェアです。

◎ 2種類(単信/複信)の通信方式に対応しています。

※単信は送信と受信を交互に切り替えて交信する方式、複信は電話のように同時通話できる方式です。

◎ 呼出種別は、「全体」、「グループ」、「個別」、「電話」に対応しています。

◎ 全体、グループ呼び出しでは、呼び出し先ごとに、「同報」(1対N)、「会議」(多者間通話)が設定できます。

※端末側でどのグループに所属するかを選択できるトークグループも設定できます。

◎ 近隣呼出機能を設定すると、特定のエリア(例: 1Fフロア)での運用ができます。

◎ 複数のコントローラーで他拠点接続機能を設定すると、はなれた拠点間で呼び出しができます。

※必要に応じて、VPNルーターをご用意ください。

◎ 弊社製VE-PG3に接続すると、弊社製無線機(特定小電力トランシーバーやデジタル簡易業務用無線機など)とも通信できます。

※弊社製SR-7100VNも併用して内線/外線通話もするときは、コンバーターモードに設定されたVE-PG3のブリッジポートに接続してください。

◎ 設定グループごとに、アドレス帳(最大50件)やメッセージ(最大10件)が登録できます。

◎ IP100Hから送信されたステータス情報(例: 会議中)を、本製品やIP100FS(リモートコミュニケーター)側で確認できます。

※本製品で登録できるステータス情報(プレゼンス)は、最大10件です。

◎ 本製品で設定した内容は、IP100Hの電源を入れたときに自動転送されます。

◎ 本製品からIP100Hのファームウェアを自動更新できます。

◎ 本製品の専用ページから、オーダーコールシステムの受信機と接続できます。

接続した受信機の状態を、IPネットワークを経由して、IP100HやIP100FSで確認できます。

◎ 有線LANは、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-Tの自動切り替えに対応し、ポートの極性についても、MDI(ストレート)/MDI-X(クロス)を自動判別します。

◎ [LAN] ポートは、4ポートスイッチングHUBを搭載しています。

◎ ネットワーク管理機能として、SNMPに対応しています。

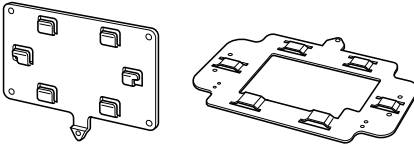
◎ あらかじめ本製品の設定ファイルやファームウェアファイルを保存した市販のUSBメモリーを差し込んでから電源を入れることで、自動で設定の復元やファームウェアのバージョンアップができます。

はじめに

別売品について

(2018年1月現在)

MB-99A
壁面取付プレート(タッピングネジ付属)



壁面プレート ユニットプレート

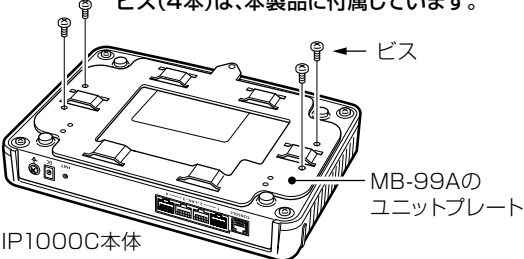
OPC-1402
設定用ケーブル(シリアル通信用(約1m))



IP100FS
リモートコミュニケーター

※IP100FSは、本製品に接続されたIP100HとIPネットワークを経由して音声通信できるソフトウェアです。

【ご注意】 ユニットプレートを固定するためのビス(4本)は、本製品に付属しています。



← ビス

MB-99Aのユニットプレート

IP1000C本体

【別売品についてのご注意】

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じるネットワーク機器の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

出荷時のおもな設定値について

設定メニュー	設定画面	設定項目	設定名称	設定値
ネットワーク設定	本体IPアドレス	IPアドレス設定	IPアドレス	192.168.0.1
			サブネットマスク	255.255.255.0
管理	DHCPサーバー	DHCPサーバー設定	DHCPサーバー	無効
	管理者	管理者パスワードの変更	管理者ID	admin(変更不可)
			現在のパスワード	admin(半角小文字)
	時刻	自動時計設定	自動時計設定	有効
		SNTPサーバー設定	SNTPサーバー機能	有効
	USB	USB設定	USBポート	有効
			USBアクセス許可	☒ ファームウェアの更新 ☒ 設定の保存／復元
ファームウェアの更新	自動更新	自動更新	有効	

※上記以外の設定値については、本書4章をご覧ください。

※本製品の管理者用ID(admin)は、変更できません。

【不正アクセス防止のアドバイス】

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。

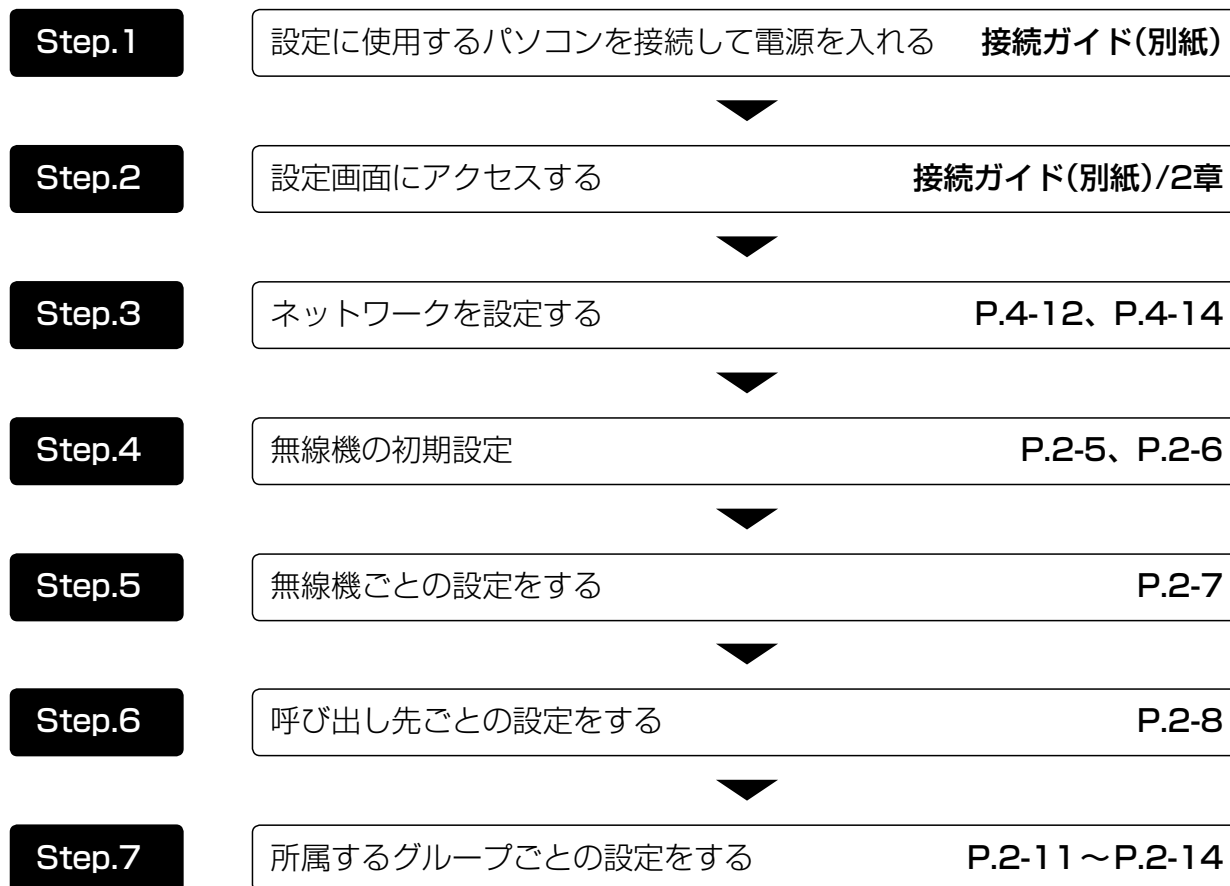
数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものにし、さらに定期的にパスワードを変更されることをおすすめします。

はじめに

ご使用までの流れ

本製品を設定されるときは、次の手順にしたがってお読みください。

※各Stepの右端に記載する数字は、本書の参照箇所です。



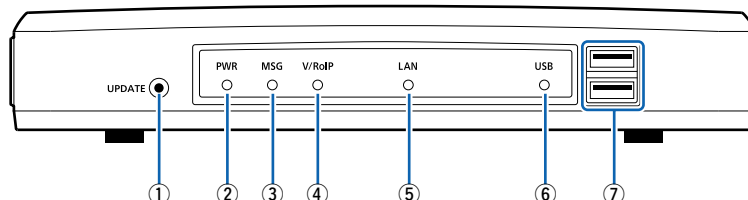
この章では、
本製品の基本操作やおもな機能などを説明しています。

1. 各部の名称と機能	1-2
■ 前面部	1-2
■ 後面部	1-4
2. 本製品のおもな機能	1-5
■ 基本構成について	1-5
■ 弊社製 VE-PG3 との接続について	1-6
■ 単信 / 複信通信について	1-7
■ VOX 機能について	1-8
■ 多重通信について	1-9
■ 全体 / グループ呼び出しについて	1-9
■ トークグループについて	1-10
■ 個別呼び出しについて	1-11
■ 通話状態について	1-11
■ 優先呼び出しと優先度について	1-12
■ 近隣呼出機能について	1-13
■ メッセージ機能について	1-14
■ プレゼンス機能について	1-15

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能

■ 前面部



①〈UPDATE〉ボタン ………

最新ファームウェアがあるとき、[MSG]ランプ(③)が点灯(緑)から点滅(緑)に切り替わるまでボタンを押して、ファームウェアを更新します。

※ファームウェアの更新や確認には、インターネットへの接続環境と本製品へのDNS設定、デフォルトゲートウェイ設定が必要です。

② [PWR]ランプ ……………

- 消 灯：電源OFF
- 緑点灯：電源ON★¹
- 緑点滅：起動処理中★¹★²
- 橙点灯：起動処理中★¹
- 橙点滅：起動処理中★¹★²

★¹ 電源投入後は、緑点滅→橙点灯→橙点滅→緑点灯となります。

★² 〈INIT〉ボタン操作から初期化完了までは、橙/緑交互点滅となります。

③ [MSG]ランプ ……………

- 消 灯：ファームウェア更新なし
- 緑点灯：ファームウェア更新あり(オンライン更新)
- 緑点滅：ファームウェアダウンロード中(オンライン更新)

④ [V/RoIP]ランプ ……………

- 消 灯：無線機の登録なし
- 緑点灯：無線機の登録あり※1つ以上

⑤ [LAN]ランプ★³★⁴ ………

- 消 灯：未接続時
- 緑点灯：LAN接続時※1つ以上(1000BASE-T接続時)
- 橙点灯：LAN接続時※1つ以上(10BASE-T/100BASE-TX接続時)

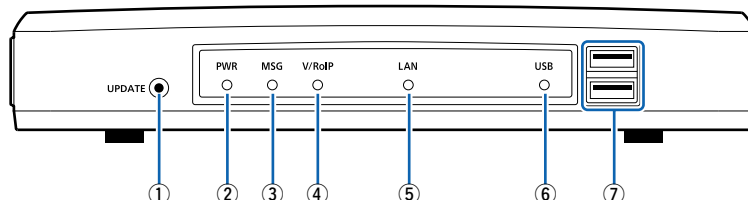
★³ 1000BASE-T、10BASE-T/100BASE-TXが混在した場合は、[LAN]ランプが橙色で点灯します。

★⁴ [LAN]ポートごとのデータ通信状態については、後面部の[LAN]ランプで確認できます。(P.1-4)

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能

■ 前面部(つづき)



⑥ [USB]ランプ

● 消 灯：USBメモリ未接続時

● 緑点灯：USBメモリ接続時

※ 緑点滅：USBメモリにアクセス中★⁵

※ 橙点滅：USBメモリにアクセス中★⁵

★⁵ USBメモリにアクセス中(設定復元、およびファームウェアのバージョンアップ)は、橙/緑交互点滅となります。

⑦ [USB]ポート (USB2.0×2)

USBメモリ(市販品)を接続すると、自動設定機能を使用できます。

ご使用になるときは、本製品のACアダプターを取りはずしてから、USBメモリを[USB]ポートの奥まで挿入してください。

※すべてのUSBメモリでの動作を保証するものではありません。

【USBメモリによる自動設定機能を使用するときは】

本製品の設定復元やバージョンアップで使用するUSBメモリを接続します。

※本製品に接続できるUSBメモリは、1つだけです。

※使用方法や注意事項については、5-9ページをご覧ください。

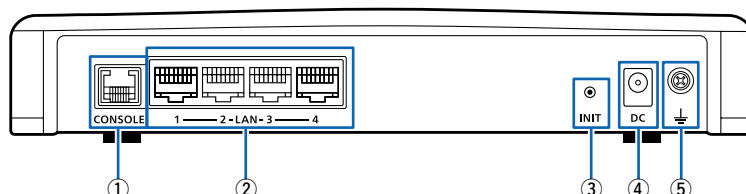
※あらかじめ、USBメモリ内のデータをバックアップしてから、ご使用ください。

※指紋認証型、アプリケーション認証(パスワード認証)型など、セキュリティー対応型のUSBメモリは使用できません。

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能(つづき)

■ 後面部



- ① [CONSOLE]ポート ……
(RJ-11型×1)

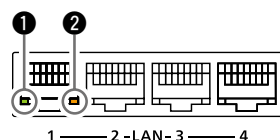
RS-232Cシリアルインターフェース搭載の制御機器と接続して、本製品を設定するとき 사용합니다。

※接続には、設定用ケーブル(別売品：OPC-1402)が必要です。

- ② [LAN]ポート ……………
(RJ-45型×4)

HUBなどのネットワーク機器と接続します。

【ランプ表示】



点灯: LAN接続時 点滅: LANデータ通信中

① 緑色 : 1000BASE-T時

② 橙色 : 10BASE-T/100BASE-TX時

- ③ <INIT>ボタン ……………

本製品に設定されたIPアドレスが不明な場合など、設定画面にアクセスできないときは、後面部の<INIT>ボタン操作で、本製品のすべての設定内容を出荷時の状態に戻せます。(P.5-4)

※ペン先などを利用して押してください。

※初期化すると、既存の設定内容がすべて消去されますので、再設定が必要になります。

- ④ DCジャック ……………

付属のACアダプターを接続します。

- ⑤ アース端子 ……………

アース線(市販品)を接続します。

1 ご使用になる前に

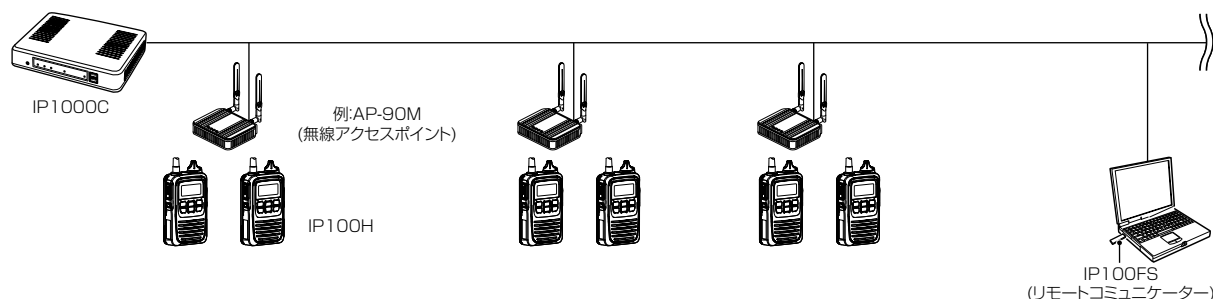
2. 本製品のおもな機能

■ 基本構成について

本製品は、弊社製IP100Hを制御するコントローラーとして、IPネットワークを経由した呼び出しやメッセージの送受信に対応しています。

※ご利用になるためには、無線アクセスポイントが必要です。

※2018年1月現在、弊社製IP100H、IP100FSが使用できます。



IP100H(トランシーバー)

IP100Hは、無線LANのIEEE802.11n/a/b/g規格に準拠しています。

無線アクセスポイントと本製品を利用して、IPネットワークを経由した音声通信やメッセージ通信ができます。

※ご使用になる環境に合わせたシステム構成を構築してから、本製品側での無線機追加設定、CS-IP100Hから無線LAN設定と保守サーバー設定をする必要があります。

※IP100Hの操作方法について詳しくは、IP100Hの取扱説明書をご覧ください。

IP100FS(リモートコミュニケーター)

本製品に登録したIP100HとIPネットワークを経由して音声通信できるソフトウェアです。

パソコンからの呼び出しやメッセージの送受信、IP100Hの位置情報、IP100Hから送信されたプレゼンス情報の確認、IP100Hの遠隔ロックなどに対応しています。

※使用方法について詳しくは、IP100FSのヘルプをご覧ください。

CS-IP100H(クローニングソフトウェア)

IP100Hをパソコンから設定するためのクローニングソフトウェアとして、CS-IP100H(弊社ホームページからダウンロードできるフリーウェア)があります。

※弊社ホームページに掲載の「CS-IP100H取扱説明書」をよくお読みいただき、手順にしたがって別売品のクローニングケーブルを接続してください。

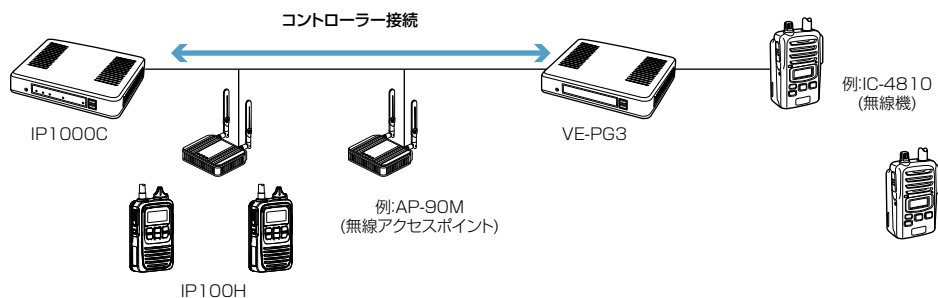
1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

■ 弊社製VE-PG3との接続について

◎コントローラー接続する場合

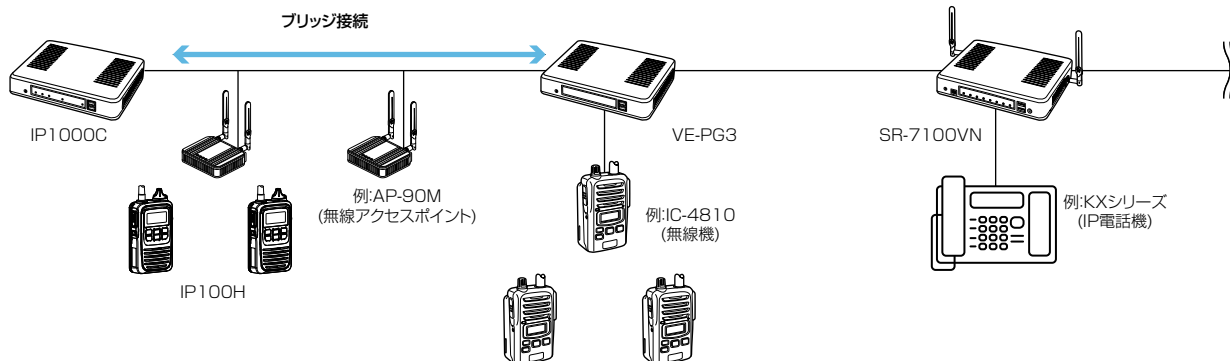
弊社製VE-PG3(Ver. 2.01以降)とコントローラー接続★¹すると、弊社製無線機(特定小電力トランシーバーやデジタル簡易業務用無線機など)とも通信できます。



★¹ 接続できるのは、ブリッジモードに設定されたVE-PG3のコントローラーポートだけです。

◎ブリッジ接続する場合

弊社製VE-PG3(Ver. 1.18以降)とブリッジ接続★²すると、弊社製無線機(特定小電力トランシーバーやデジタル簡易業務用無線機など)とも通信でき、弊社製SR-7100VNなどVoIPルーターも併用すると内線や外線の通話ができます。



★² 接続できるのは、コンバーターモードに設定されたVE-PG3のブリッジポートだけです。

1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

■ 単信/複信通信について

本製品は、2種類(単信/複信)の通信方式に対応しています。

単信は送信と受信を交互に切り替えて交信する方式、複信は電話のように同時通話できる方式です。

本製品に登録したIP100Hごとに、「無線機個別」画面で通信方式を設定します。

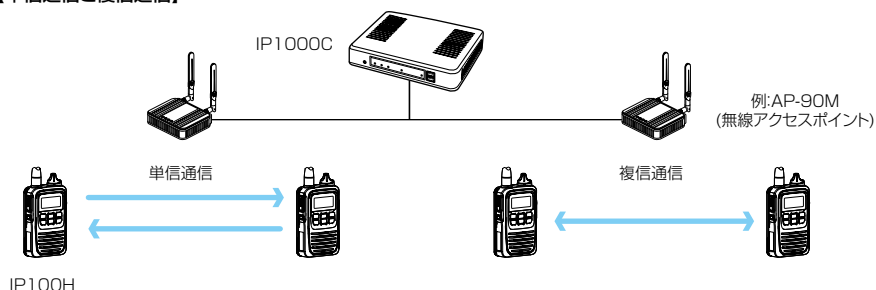
※複信通信を設定した場合は、IP100Hに別売品のマイクロホン(HM-153LS/HM-153★¹、HM-166LS/HM-166★¹、HS-85★¹)やヘッドセット(HS-102★²)を接続することで、相手が送信しているときでも、電話のように同時通話できます。

★1 OPC-2144(スリムL型プラグ変換ケーブル)が必要です。

★2 OPC-2359(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。

※IP100Hにマイクロホンなどが接続されていないときは、単信通信になります。

【単信通信と複信通信】



		接続ケーブル	複信通信	単信通信
HM-104★ ¹	単一指向性タイピン型マイクロホン	OPC-2277LS★ ²	×	○
HM-104A★ ¹	無指向性タイピン型マイクロホン	OPC-2277LS★ ²	×	○
HM-153	イヤホンマイクロホン	OPC-2144	○	○
HM-153LS	イヤホンマイクロホン	—	○	○
HM-166	小型イヤホンマイクロホン	OPC-2144	○	○
HM-166LS	小型イヤホンマイクロホン	—	○	○
HM-183LS	防水形スピーカーマイクロホン	—	×	○
HM-186	小型スピーカーマイクロホン	OPC-2144	×	○
HM-186LS	小型スピーカーマイクロホン	—	×	○
HS-102	イヤホン型ヘッドセット	OPC-2359★ ³	○	○
SP-13	イヤホン	OPC-2144	×	○
		OPC-2375LS	×	○
SP-16 (B, BW)	イヤホン	OPC-2375LS	×	○
SP-28	イヤホン	OPC-2277LS★ ²	×	○
SP-29	イヤホン	OPC-2375LS	×	○
HS-85	VOX機能付きヘッドセット	OPC-2144	○	○
HS-88 (生産終了品)	ヘッドセット	OPC-2277LS★ ²	×	○
HS-94	イヤーフック型ヘッドセット	OPC-2006LS	×	○
		OPC-2328★ ⁴	×	○
HS-95	ネックアーム型ヘッドセット	OPC-2006LS	×	○
		OPC-2328★ ⁴	×	○
HS-97	咽喉マイクロホン	OPC-2006LS	×	○
		OPC-2328★ ⁴	×	○
HS-99	耳かけ式イヤホンマイク	OPC-2006LS	×	○
		OPC-2328★ ⁴	×	○

★1 別売品のイヤホン(EH-14、EH-15、EH-15B、SP-28)と組み合わせてご使用になれます。

★2 OPC-2277LSのスイッチを使用して送信します。

★3 OPC-2359のスイッチを使用して送信します。

★4 OPC-2328のスイッチを使用して送信します。

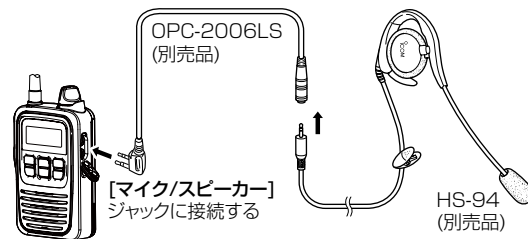
1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

■VOX機能について

IP100Hの[PTT(送信)]スイッチを押さずに、ヘッドセット(別売品)からの音声によって送受信を自動的に切り替えるVOX機能を使用できます。

※VOX機能対応のヘッドセット(別売品)を接続すると、音声によって送受信を自動的に切り替えます。



		接続ケーブル	複信通信	単信通信	本製品で設定する IP100HのVOX機能
HS-85	VOX機能付きヘッドセット	OPC-2144	○	○	無効★
HS-94	イヤーフック型ヘッドセット	OPC-2006LS	×	○	有効
HS-95	ネックアーム型ヘッドセット		×	○	
HS-97	咽喉マイクロホン		×	○	
HS-99	耳かけ式イヤホンマイク		×	○	

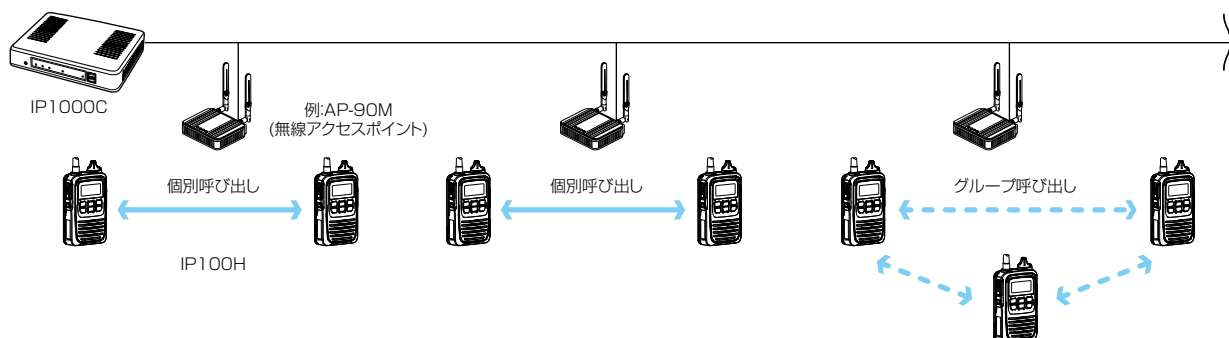
★ HS-85本体の切り替えスイッチを「VOX」にしてください。

1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

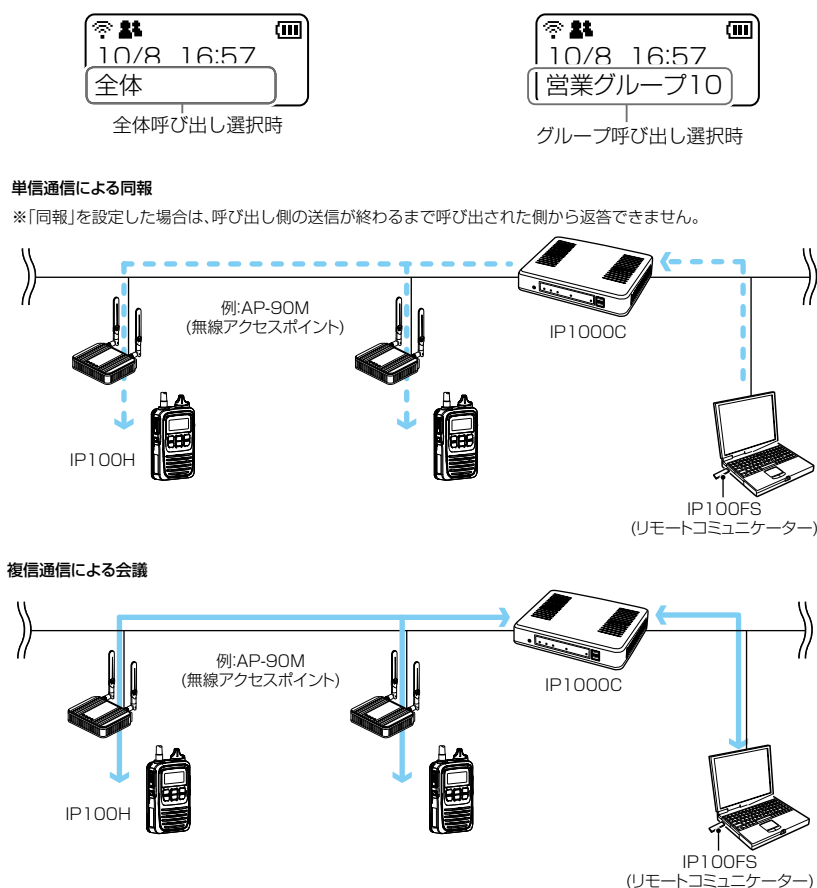
■多重通信について

IPネットワークでは混信が発生しないため、システム内で同時に複数の音声通信ができます。



■全体/グループ呼び出しについて

全体、グループ呼び出しごとに、「同報」(1対N：単信通信)、「会議」(多者間通話：複信通信)が設定できます。



全体呼び出しについて

本製品の「無線機追加」画面で登録したIP100H、IP100FSをすべて呼び出すときに使用します。

グループ呼び出しについて

呼び出したいグループをアドレス帳から選択して呼び出します。

※本製品の「無線機追加」画面で登録したIP100H、IP100FSを、「呼出先設定」画面でグループに分け、呼び出すためのグループ番号を割り当てる必要があります。

※本製品で設定したアドレス帳、呼出先設定は、IP100H、IP100FSが所属する設定グループごとで共用します。

1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

■トークグループについて

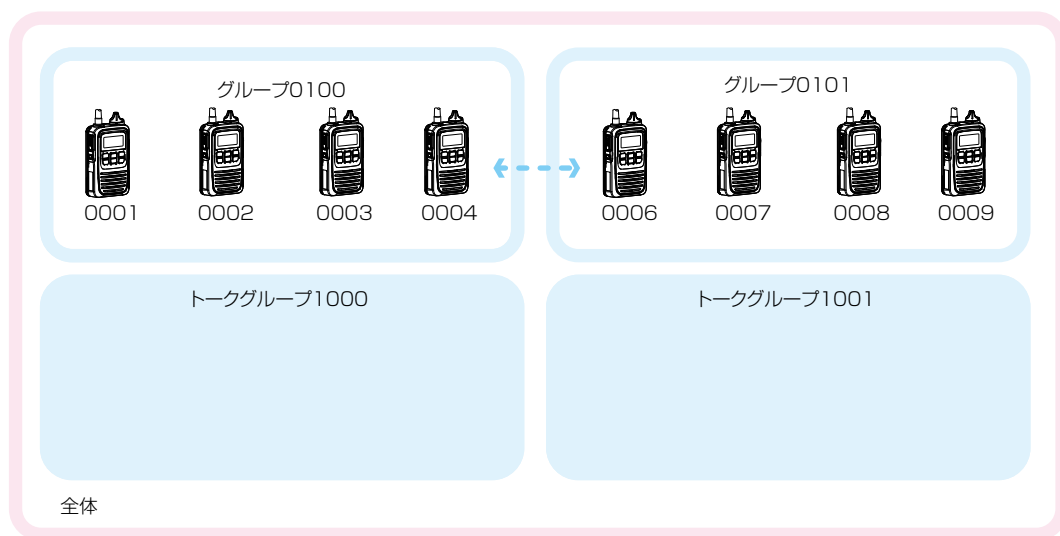
あらかじめ本製品にトークグループとして登録しておいたグループから、IP100H側でどのグループに所属するかを選択できる機能です。

同じトークグループに所属するほかの端末とグループ呼び出しができます。

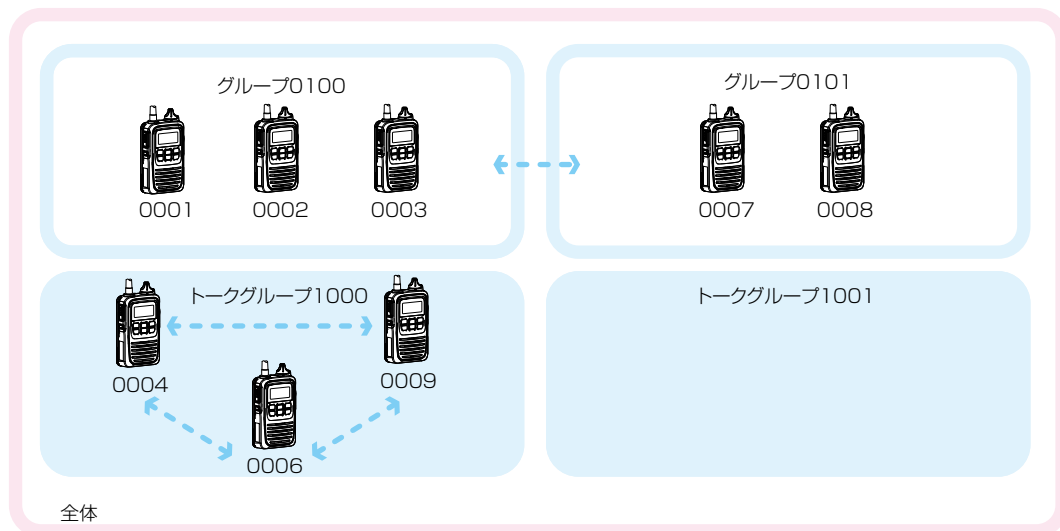
図のように、トークグループ(例：1000)を選択すると、その端末(例：0004)は通常のグループ(例：0100)からはずれます。

※IP100H側の操作方法については、2-9ページをご覧ください。

トークグループOFF時



トークグループ選択時



※本製品の「呼出先設定」画面と「アドレス帳」画面でトークグループ番号を登録する必要があります。

※「呼出先設定」画面で、トークグループ種別が「管理用」に設定されている場合は、複数のトークグループと通話できます。(P.4-107)

※全体呼び出しの対象にトークグループを含めるかどうか、トークグループの呼び出し対象にどのIP100FSを含めるかなど、本製品で設定します。

※本製品で設定したアドレス帳、呼出先設定は、IP100H、IP100FSが所属する設定グループごとで共用します。

1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

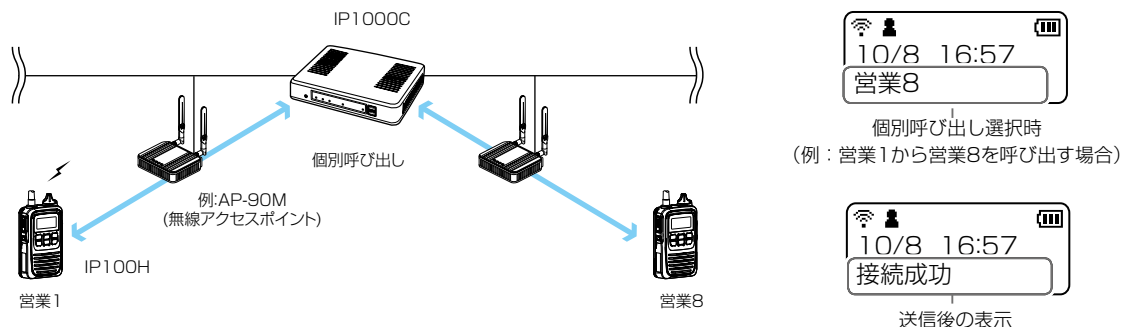
■個別呼び出しについて

指定した無線機と1対1で通話するとき 사용합니다。

個別呼び出しをすると、IP100Hの表示部に接続結果(接続成功/通話中/応答なし)が表示されます。

※相手先が圏外の場合は、「応答なし」が表示されます。

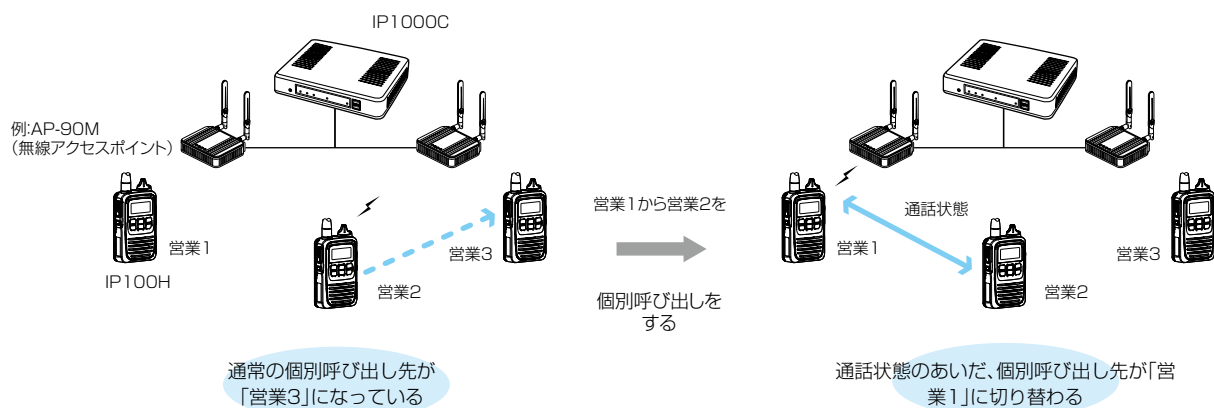
※「設定グループ詳細」画面で、接続通知音が「有効」に設定されているときは接続の成功や失敗を音でもお知らせします。



■通話状態について

発信、または着信をすると、通話状態になります。

通話状態のあいだ★は、送信操作だけで通話相手と通信できます。



★通話状態のあいだとは、終話判定時間内、または別の相手局を呼び出すまでのことです。

終話判定時間について

通話相手からの送信が終了したあと、待ち受け状態(待受画面)に戻るまでの時間です。(出荷時の設定: 5秒)

終話判定時間内の新規着信拒否(着信の優先度)について

通話相手からの送信が終了したあと、待ち受け状態(待受画面)に戻るまでに別の相手からの着信があった場合、優先度に応じて新規着信を受け付けするように設定されています。(P.4-99)

※現在の通話よりも高い優先度の着信は受け付けますが、それ以下または同等の優先度の着信は受け付けません。

終話判定時間が経過したあとに、着信を受け付けます。

※本製品で設定した終話判定時間は、IP100Hが所属する設定グループごとで共用します。

1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

■ 優先呼び出しと優先度について

出荷時、IP100Hに優先度の高い呼び出し権限を付与する場合に使用する優先呼出機能は、「無効」に設定されています。

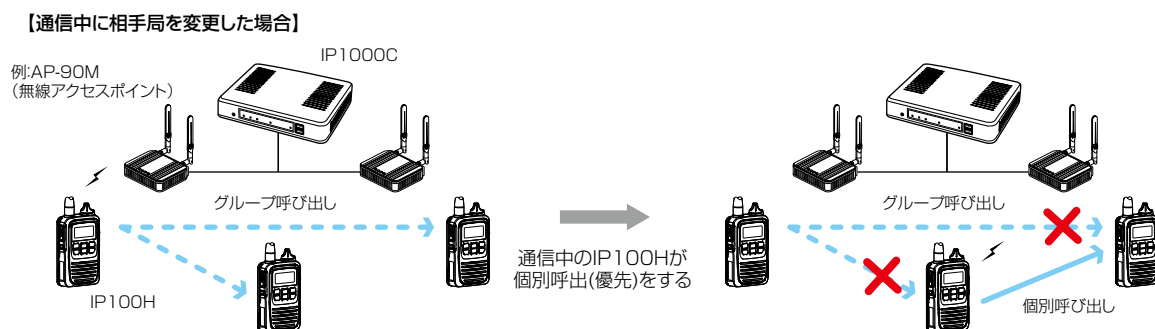
呼出種別ごとの優先度は、下記ようになります。

優先度	優先順位★	呼出種別	優先呼出	備考
高 ↑ ↓ 低	固定	電話通信	—	電話通信
		緊急呼び出し(優先)	有効	—
		緊急呼び出し	無効	—
	可変	全体呼出(優先)	有効	近隣呼出/IP100FS使用時も含む
		個別呼出(優先)	有効	IP100FS使用時も含む
		グループ呼出(優先)	有効	近隣呼出/IP100FS使用時も含む
		全体呼出	無効	近隣呼出も含む
		個別呼出	無効	—
		グループ呼出	無効	近隣呼出も含む

★「可変」は、「RoIP通信設定」画面の[通話優先順位設定]項目(P.4-24)で変更できます。

※同一優先順位内での優先度は、呼び出した順番となります。

※着信時の応答は、発信側の優先度にしたがいます。



1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

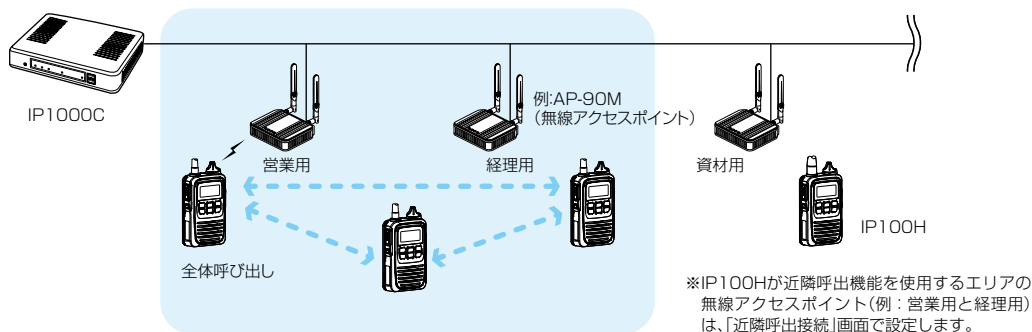
■ 近隣呼出機能について

特定のエリアに限定して運用をするときに使用する機能です。

(出荷時の設定：無効)

IP100H側で近隣呼出機能を「ON」にしている状態で全体/グループ呼び出しをすると、IP100Hが接続している無線アクセスポイントと同一エリア内のIP100Hを呼び出します。

【IP100Hから近隣呼出機能で全体呼び出しをした場合】



【IP100FSから近隣呼出機能で呼び出す場合】



※IP100FSから近隣呼出機能を使用する場合は、指定した無線アクセスポイント(例：営業用)と同一エリア内にある無線アクセスポイント(例：経理用)に接続しているIP100Hを呼び出せます。

※位置情報で無線アクセスポイントを選択すると、呼出種別(個別/グループ/全体/近隣/電話)と表示名をディスプレイに表示します。

※この機能を使用するには、本製品の「無線機個別」画面でIP100Hごとの近隣呼出機能を「有効」にし、「近隣呼出接続」画面でエリア内の無線アクセスポイント(BSSID)を登録しておく必要があります。

1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

■メッセージ機能について

IP100H、IP100FSでメッセージを送受信するときに設定します。(出荷時の設定：無効)

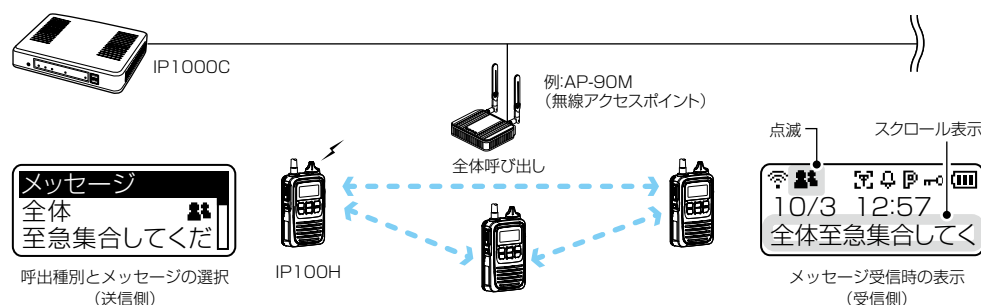
※IP100Hから送信する半角32(全角16)文字以内の定型メッセージは、「設定グループ」メニューの「メッセージ」画面で最大10件登録できます。

※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。

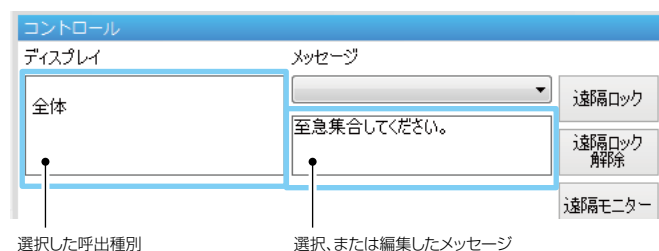
※環境依存文字を入力しないでください。

環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

【IP100Hからメッセージを送信する場合】



【IP100FSからメッセージを送信する場合】



※IP100FSでは、最大100件の定型メッセージをサイトごとに登録できます。登録したメッセージを選択、またはメッセージを編集して送信できます。

※この機能を使用するには、本製品の「無線機個別」画面でIP100Hごとのメッセージ機能を「有効」にしておく必要があります。

※本製品で設定した定型メッセージは、IP100Hが所属する設定グループごとで共用します。

1 ご使用になる前に

2. 本製品のおもな機能(つづき)

■ プレゼンス機能について

IP100Hからステータス情報(例：会議中)を送信するときに設定します。(出荷時の設定：無効)

※IP100Hから送信する半角32(全角16)文字以内のステータス情報は、「設定グループ」メニューの「プレゼンス」画面で最大10件登録できます。

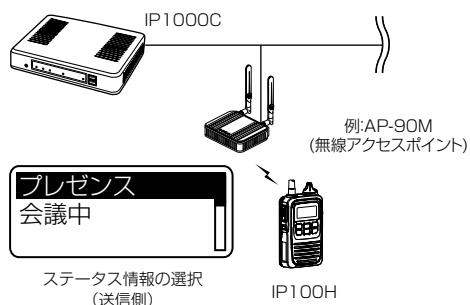
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。

※環境依存文字を入力しないでください。

環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

※IP100Hから送信されたステータス情報は、IP100FSのワンタッチボタン画面や本製品の「無線機設定」メニューの「無線機管理」画面で確認できます。

【IP100Hからプレゼンスを送信する場合】



【IP100FSでプレゼンスを確認する場合】

営業1 0001 [1] 会議中	営業2 0002 [2] 離席中	営業グループ1 0001
------------------------	------------------------	-----------------

名前、個別番号、番号(本製品で登録されたステータス番号)、ステータス情報

【本製品でプレゼンスを確認する場合】

無線機管理

										レジスト 状態の更新
☐ すべて	TRX番号	機種	名前	個別番号	レジスト状態	IPアドレス	プレゼンス	トークグループ	位置情報	バージョン
☐	1	IP100H	営業1	0001	接続中	192.168.0.10	会議中	1	00-90-C7-	Ver.
☐	2	IP100H	営業2	0002	接続中	192.168.0.11	休憩中	1	00-90-C7-	Ver.
☐	3	IP100H	営業3	0003	未接続	-	-	-	-	-
☐	4	IP100FS	営業4	0004	未接続	-	-	-	-	-

選択無線機再起動
ファームウェアの強制更新: ☒ 無効 ☐ 有効
無線機再起動:

ステータス情報

※この機能を使用するには、本製品の「無線機個別」画面でIP100Hごとのプレゼンス機能を「有効」にしておく必要があります。

この章では、
本製品をご使用いただくために必要な基本設定の手順を説明しています。

1. ご使用になるまでの流れ	2-2
■ 接続/設定準備について	2-2
■ 設定の流れについて	2-3
2. 無線機の構築について	2-4
■ 無線機の登録について	2-5
■ 登録の確認/IP100Hの再起動について	2-6
■ 無線機の個別設定について	2-7
■ グループ呼び出しについて	2-8
■ トークグループ呼び出しについて	2-9
■ アドレス帳について	2-11
■ メッセージについて	2-12
■ プレゼンスについて	2-13
■ 設定グループで共用するアドレス帳とメッセージについて	2-14
3. ブリッジ接続と呼出先設定について	2-15
4. 他拠点接続設定について	2-19
5. VE-PG3とのコントローラー接続について	2-25
6. オーダーコールシステムについて	2-29

【ネットワーク環境について】

IP100Hを使用するには、本製品に接続できるネットワーク環境が必要です。
事前にご使用のネットワーク、および無線アクセスポイントの設定をご確認ください。

2 導入ガイド

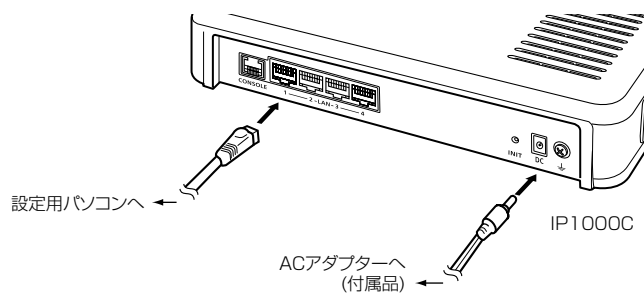
1. ご使用になるまでの流れ

■ 接続/設定準備について

本製品に機器を接続して、管理者用の設定画面にアクセスするまでの流れです。

1. 設定用パソコンの接続 (詳細は、別紙の「接続ガイド」をご覧ください。)

設定用パソコンを本製品の[LAN]ポートに接続し、電源を接続します。



2. 設定画面へアクセス (詳細は、別紙の「接続ガイド」をご覧ください。)

- ① WWWブラウザを起動し、アドレスバーに「http://本製品のIPアドレス/」を入力します。
入力例) http://192.168.0.1/
※出荷時、本製品のIPアドレスは、「192.168.0.1」に設定されています。
- ② [Enter]キーを押します。
- ③ [ユーザー名]欄に「admin」、[パスワード]欄に「admin」(出荷時の設定)を入力し、〈OK〉をクリックします。

2 導入ガイド

1. ご使用になるまでの流れ(つづき)

■ 設定の流れについて

設定画面を使用して、IP100Hを設定する場合の流れです。

※本書では、IP100Hが接続する無線アクセスポイント側の設定は完了しているものとして説明しています。

1. ネットワーク設定(P.4-12、P.4-14)

ご利用の環境に合わせて、本製品の「本体IPアドレス」画面でIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)、「DHCPサーバー設定」画面でDHCPサーバー機能(出荷時の設定：無効)を設定します。

2. 無線機の初期設定

個別番号など、使用するIP100H、IP100FSの設定を本製品に登録します。

「無線機追加」画面(P.2-5、P.4-36)

機種、名前、個別番号、パスワード、所属する設定グループを設定します。

※出荷時、パスワードは、「iptrx」に設定されていますので、任意のパスワードに変更してください。

※所属する設定グループごとに使用する共通設定は、「設定グループ」メニューで設定します。

CS-IP100H(クローニングソフトウェア)による設定(P.2-6)

本製品でIP100Hを登録したあと、無線LAN設定(接続する無線アクセスポイント)、アンテナ設定(内部/外部)、保守サーバー接続設定(本製品)を、IP100HごとにCS-IP100Hで設定します。

※CS-IP100Hは、弊社ホームページからダウンロードできるフリーウェアです。

※弊社ホームページに掲載の「CS-IP100H取扱説明書」をよくお読みいただき、手順にしたがって別売品のクローニングケーブルを接続してください。

3. 設定グループ(P.2-11～P.2-14)

「無線機追加」画面で登録したIP100H、IP100FSが所属する設定グループごとに設定します。

「アドレス帳」画面

「無線機追加」画面で登録した個別番号、「呼出先設定」画面でグループ番号を登録します。(最大50件)

※VE-PG3をブリッジ接続している場合は、通話相手の電話番号を登録できます。

「メッセージ」画面

IP100Hから送信する半角32(全角16)文字★以内の定型メッセージを登録します。(最大10件)

「プレゼンス」画面

IP100Hから送信する半角32(全角16)文字★以内のステータス情報を登録します。(最大10件)

「設定グループ詳細」画面

使用するアドレス帳のグループ番号、送信するメッセージのグループ番号を設定します。

★IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。

※環境依存文字を入力しないでください。

環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

【設定の更新について】

本製品で変更した設定をIP100Hに反映させるためには、IP100Hの再起動が必要になりますので、ご注意ください。

2 導入ガイド

1. ご使用になるまでの流れ

■ 設定の流れについて(つづき)

4. 無線機の個別設定(P.2-7)

「無線機追加」画面で登録したIP100Hごとに、「無線機個別」画面で使用する機能を設定します。

- | | |
|-------------|------------------|
| ◎アドレス帳からの呼出 | ◎通信方式(単信通信/複信通信) |
| ◎優先呼出 | ◎近隣呼出 |
| ◎メッセージ | ◎プレゼンス |

5. 呼出先設定(P.2-8)

「無線機追加」画面で登録したIP100H、IP100FSを、「呼出先設定」画面でグループに分け、呼び出すためのグループ番号を割り当て、呼び出し先ごとに通信種別(同報/会議)を設定します。

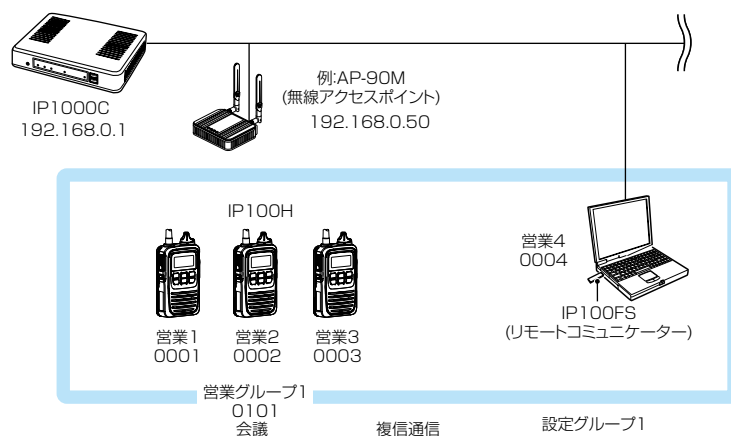
6. マイクゲイン/通知音/終話判定(P.4-40～P.4-101)

必要に応じて、「無線機個別」画面でIP100HのマイクゲインやVOX機能(HS-94/HS-95/HS-97/HS-99接続時)、「設定グループ詳細」画面で各種通知音、終話判定など設定グループで使用する共通設定をします。

2. 無線機の構築について

ご使用になる端末ごとに、個別番号などの設定が必要です。

下図を例に、本製品に登録するIP100Hの設定について説明しています。



※本製品のネットワーク上に無線アクセスポイントを接続してください。

※本製品に、IP100HやIP100FSを最大100台まで登録できます。(※IP1000C #02の場合は最大20台)

※本書では、本製品をお使いになるネットワーク上のDHCPサーバーから、IP100HやIP100FSを使用するパソコンのIPアドレスを自動取得しているものとして説明しています。

※固定IPアドレスで運用される場合など、ネットワーク上でIPアドレスが重複しないようにご注意ください。

2 導入ガイド

2. 無線機の構築について(つづき)

■ 無線機の登録について

登録するIP100H、IP100FSごとに個別番号を設定します。

- 1 「無線機設定」メニュー、「無線機追加」の順にクリックします。
「無線機追加」画面が表示されます。
- 2 [TRX番号設定]項目で、登録する機種、名前、個別番号(4桁の番号)を設定して、〈追加〉をクリックします。

TRX番号設定

TRX番号: 1 ▼

機種: IP100H ▼

名前: 営業1

個別番号: 0001

セキュリティ設定
パスワード: iptrx

ポート設定
無線機側ポート番号: 30000

サーバー側ポート番号: 30000

設定グループ
設定グループ: 1 ▼

「設定グループ詳細」画面の[設定グループ設定]項目で指定する番号です。

追加

①設定する

②クリック

- 3 [TRX番号設定一覧]項目で、登録した内容を確認します。

TRX番号設定一覧

☐ すべて	TRX番号	機種	名前	個別番号	パスワード	ポート番号 無線機側	サーバー側	設定グループ	アド グル
☐	1	IP100H ▼	営業1	0001	iptrx	30000	30000	1 ▼	1
☐	2	IP100H ▼	営業2	0002	iptrx	30002	30002	1 ▼	1
☐	3	IP100H ▼	営業3	0003	iptrx	30004	30004	1 ▼	1
☐	4	IP100FS ▼	営業4	0004	iptrx	-	30006	1 ▼	1

確認する

登録

【TRX番号一括設定について】

連番で個別番号を一括登録したり、すでに登録した設定内容をほかの個別番号にコピーしたりできます。

TRX番号一括設定

個別番号: ~ 追加

設定参照元: 初期値 ▼

設定グループ: 1 ▼

※指定した範囲の連番を個別番号として登録します。
※無線機個別設定を初期値で登録します。

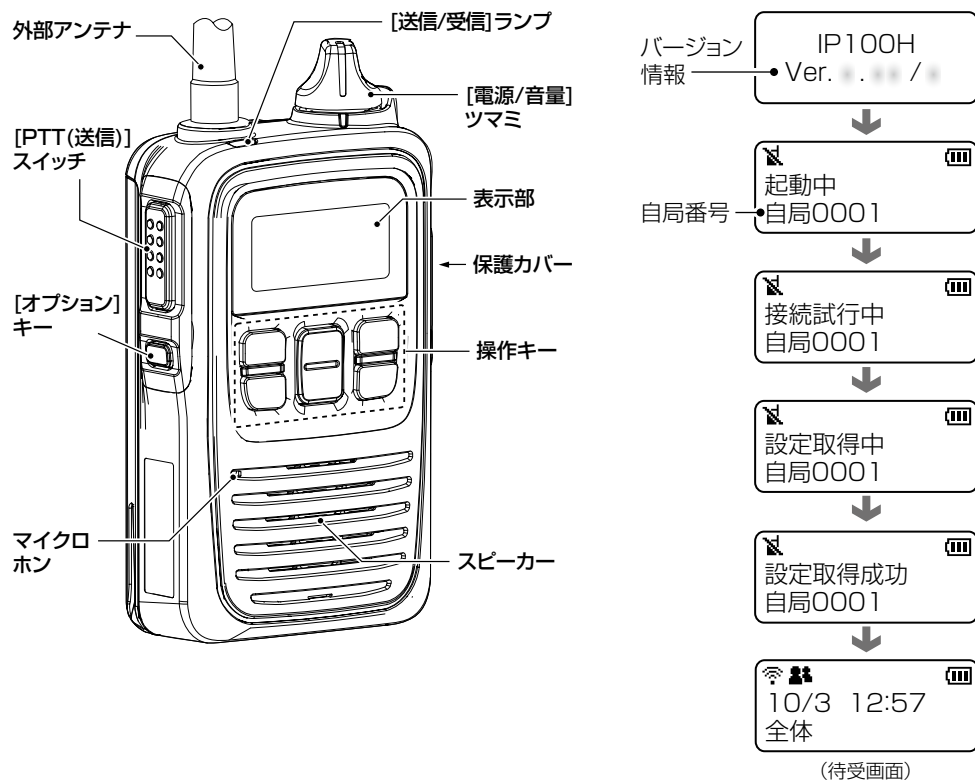
2. 無線機の構築について(つづき)

■ 登録の確認/IP100Hの再起動について

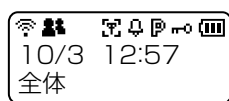
本製品にIP100Hを登録したあと、CS-IP100H(クローニングソフトウェア)でパソコンからIP100Hを設定します。

IP100Hが再起動すると、本製品の設定内容を自動的に取得します。

※IP100Hが待受画面を表示しないときは、本製品や無線アクセスポイントの設定を確認してください。

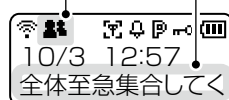


表示部のアイコンについて



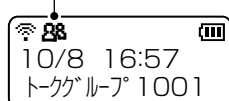
(待受画面)

点滅 スクロール表示



(メッセージ受信時)

トークグループ表示



(トークグループ選択時)

電波状態表示

無線アクセスポイントを経由して、本製品と接続したときに、電波の強度を3段階(目安)で表示します。

※無線アクセスポイントに接続できていないときは点滅(圏外)、本製品と接続できていないときは点灯(未リスト)を表示します。

呼び出しモード表示

：全体/グループ呼び出し

：個別呼び出し

：電話(発信/着信)

：トークグループ呼び出し

※呼び出しやメッセージを受信したときは、アイコンが点滅します。

近隣呼出機能表示

ポケットビーブ機能表示

Pベル機能表示

ロック機能表示

電池残量表示

【設定の更新について】

本製品で変更した設定をIP100Hに反映させるためには、IP100Hの再起動が必要になりますので、ご注意ください。

2 導入ガイド

2. 無線機の構築について(つづき)

■ 無線機の個別設定について

登録したIP100Hごとに機能の割り当てなどを設定します。

※設定変更後は、IP100Hの再起動が必要です。

- 1 「無線機設定」メニュー、「無線機個別」の順にクリックします。
「無線機個別」画面が表示されます。
- 2 「無線機個別設定」項目で、設定する個別番号を選択し、必要に応じて機能の割り当てをします。

無線機個別設定

個別番号: 0001(営業1) **① 選択する**

表示部
表示項目: 時計 名前
バックライト: 操作時点灯 **② 設定する**

送信動作
送信禁止: 無効 有効
PTTロック: 無効 有効

呼出先指定
待受画面での呼出: 無効 有効※無効にすると、待受画面に戻っても、相手局(呼出種別)を表示しません。
アドレス帳からの呼出: 無効 有効 アドレス帳先頭番号: 全体
呼出種別: 全体
起動時のトークグループ指定: 無効 有効 アドレス帳番号:

受信通知
通知音量: 10
通知動作: 通知音
通知音(受信通知を除く): 10

機能設定
通信方式: 単信通信 複信通信
優先呼出: 無効 有効
近隣呼出: 無効 有効
メッセージ: 無効 有効 メッセージ先頭番号: 1
プレゼンス: 無効 有効

- 3 <登録>をクリックします。

アドレスパスワード:

登録 **クリック**

- 4 「無線機個別設定一覧」項目で、登録した内容を確認します。

無線機個別設定一覧

機種	名前	個別番号	アドレス帳からの呼出	近隣呼出	メッセージ	プレゼンス	オプションキー
IP100H	営業1	0001	有効	有効	有効	有効	無効
IP100H	営業2	0002	有効	有効	有効	有効	無効
IP100H	営業3	0003	有効	有効	有効	有効	無効

確認する

2 導入ガイド

2. 無線機の構築について(つづき)

■ グループ呼び出しについて

登録したIP100H、IP100FSをグループにして、「会議」(複信通信による多者間通話)を設定する場合を例に説明します。

※設定変更後は、IP100Hの再起動が必要です。

- 1 「呼出先設定」メニューをクリックします。
「呼出先設定」画面が表示されます。

- 2 [呼出先設定]項目で、名前、呼出種別、グループ番号(4桁の数字)を設定して、一覧からグループに所属するIP100H、IP100FSを選択し、〈登録〉をクリックします。

呼出先設定

番号: 1

名前: 営業グループ1

呼出種別: グループ

呼出先番号: 0101

優先度: ☒ 通常 ☐ 優先

無線機呼出

通信種別: ☐ 同報 ☒ 会議

所属する無線機

☐ すべて ☒ 0001(営業1) ☒ 0002(営業2) ☒ 0003(営業3) ☐ 0004(営業4)

他拠点: なし

登録

①設定する

②選択する

③クリック

- 3 [呼出先設定一覧(グループ)]項目で、登録した内容を確認します。

呼出先設定一覧(グループ)

☐ すべて	番号	名前	呼出先番号	優先度	所属する無線機台数	他拠点
☐	1	営業グループ1	0101	通常	3	-

編集 削除

選択削除 全削除

確認する

2 導入ガイド

2. 無線機の構築について(つづき)

■ トークグループ呼び出しについて

あらかじめ本製品にトークグループとして登録しておいたグループから、IP100H側でどのグループに所属するかを選択できる機能です。

同じトークグループに所属するほかの端末とグループ呼び出しができます。

※この機能を使用する場合は、あらかじめ本製品の「呼出先設定」画面(下図)と「アドレス帳」画面(P.2-11)で、トークグループ番号を登録しておく必要があります。

トークグループを選択するキーは、[FUNC]キー、または[アドレス帳]キーから選択できます。(P.4-98)

※設定変更後は、IP100Hの再起動が必要です。

1 「呼出先設定」メニューをクリックします。
「呼出先設定」画面が表示されます。

2 「呼出先設定」項目で、名前、呼出種別、トークグループ番号(4桁の数字)を設定して、〈登録〉をクリックします。

呼出先設定

番号: 13

名前: トークグループ*1001

呼出種別: トークグループ

呼出先番号: 1001

トークグループ種別: ☒ 通常 ☐ 管理用

無線機呼出

通信種別: ☐ 同報 ☒ 会議

IP100FSへの送信: ☐ 無効 ☒ 有効

IP100FSへの呼出先指定: ☒ すべて ☐ 指定 呼出先番号: [][][][]

他拠点: なし

登録

①設定する

②クリック

[トークグループ種別]が「管理用」に設定されている場合は、複数のトークグループと通話できます。(P.4-107)

3 「呼出先設定一覧(トークグループ)」項目で、登録した内容を確認します。

呼出先設定一覧(トークグループ)

番号	名前	呼出先番号	他拠点
13	トークグループ*1001	1001	-

編集 削除 選択削除 全削除

確認する

2. 無線機の構築について

■ トークグループ呼び出しについて(つづき)

【IP100H側でトークグループを選択するときは】

◎ トークグループを[FUNC]キーで選択する

※トークグループ番号と[FUNC]キーの機能が設定されている場合に使用できます。

- ① [FUNC]キーを押して、トークグループを選択します。

※キーを押すごとに、本製品で割り当てられた機能(メッセージ/プレゼンス/近隣呼出など)が表示されます。

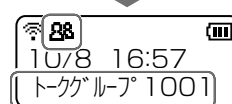
- ② [▲]/[▼]キーを押して、トークグループの番号を選択します。

- ③ [CLR/LOCK]キーを押します。

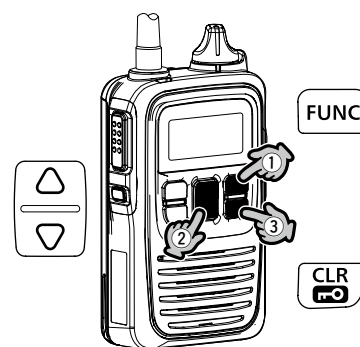
同じグループ番号(例: 1001)を選択したほかの端末と通話できる状態になります。

※トークグループ選択時、本製品の[呼出先設定一覧(グループ)]に設定された通常のグループ呼び出し(P.2-8)は使用できません。

※手順②でOFFを選択すると、トークグループが解除されます。



トークグループ
選択時の待受画面



◎ トークグループを[アドレス帳]キーで選択する

※トークグループ番号と[アドレス帳]キーの機能が設定されている場合に使用できます。

- ① [アドレス帳]キーを押して、グループ(トークグループ)を選択します。

※キーを押すごとに、呼出種別が切り替わります。

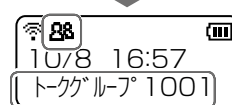
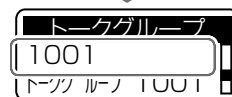
- ② [▲]/[▼]キーを押して、トークグループの番号を選択します。

- ③ [CLR/LOCK]キーを押します。

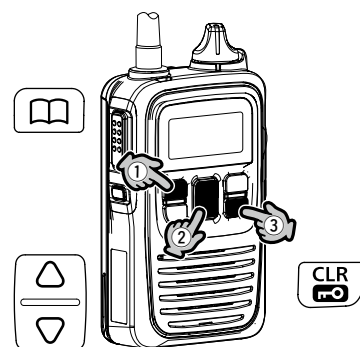
同じグループ番号(例: 1001)を選択したほかの端末と通話できる状態になります。

※トークグループ選択時、本製品の[呼出先設定一覧(グループ)]に設定された通常のグループ呼び出し(P.2-8)は使用できません。

※手順②で通常のグループを選択すると、トークグループが解除されます。



トークグループ
選択時の待受画面



2 導入ガイド

2. 無線機の構築について(つづき)

■ アドレス帳について

IP100Hが使用するアドレス帳を登録します。

※登録後は、IP100Hの再起動が必要です。

※アドレス帳を使用する場合は、[アドレス帳からの呼出]欄を「有効」に設定してください。(P.4-40)

- 1 「設定グループ」メニュー、「アドレス帳」の順にクリックします。
「アドレス帳」画面が表示されます。
- 2 [アドレス帳グループ設定]項目で、アドレス帳グループ番号を選択します。
※この画面で選択したアドレス帳グループ番号(例：1)を、「設定グループ詳細」画面で指定します。
※グループ番号ごとに、登録されているアドレス帳が切り替わります。
- 3 [アドレス帳設定]項目で、名前★、呼出種別、呼出先番号(4桁の数字)を設定して、〈登録〉をクリックします。
★IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。
★環境依存文字を入力しないでください。
環境依存文字を使用すると、100Hの画面で正常に表示されません。

アドレス帳グループ設定

アドレス帳グループ番号: 1 (1件) ※変更すると、表示するアドレス帳のグループが変更されます。

アドレス帳グループ詳細設定

アドレス帳設定

登録方法:
番号:
名前:
呼出種別:
呼出先番号:

☒ 個別入力 ☐ 一覧から選択

1
営業1
個別
0001

登録

「無線機追加」画面や「呼出先設定」画面で登録した呼出先から選択するときは、「一覧から選択」をクリックします。(P.4-84)

①設定する
②クリック

- 4 [アドレス帳設定一覧]項目で、登録した内容を確認します。

アドレス帳設定一覧

番号	名前	呼出種別	呼出先番号
1	営業1	個別	0001
2	営業2	個別	0002
3	営業3	個別	0003
4	営業4	個別	0004
5	営業グループ1	グループ	0101

編集 削除
編集 削除
編集 削除
編集 削除
編集 削除

全削除

確認する

2 導入ガイド

2. 無線機の構築について(つづき)

■ メッセージについて

IP100Hが送信するメッセージを登録します。

※登録後は、IP100Hの再起動が必要です。

※メッセージを使用する場合は、[メッセージ]欄を「有効」に設定してください。(P.4-47)

- 1 「設定グループ」メニュー、「メッセージ」の順にクリックします。
「メッセージ」画面が表示されます。
- 2 [メッセージグループ設定]項目で、メッセージグループ番号を選択します。
※この画面で選択したメッセージグループ番号(例：1)を、「設定グループ詳細」画面で指定します。
※グループ番号ごとに、登録されているメッセージが切り替わります。
- 3 [メッセージ設定]項目で、IP100Hから送信できる定型メッセージを半角32(全角16)文字以内で入力して、〈登録〉をクリックします。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
環境依存文字を使用すると、100Hの画面で正常に表示されません。
※グループごとに、最大10件まで登録できます。

メッセージグループ設定

メッセージグループ番号: 1 (0件) ※変更すると、表示するメッセージのグループが変更されます。

メッセージグループ詳細設定

メッセージ設定

番号	定型文メッセージ
1	至急集合してください。
2	メッセージを送りました。
3	メッセージを確認してください。
4	問題ないですか。
5	返信をお願いします。
6	至急返信をお願いします。
7	解散してください。
8	作業が完了次第、戻ってください。
9	荷物が届きました。
10	作業が終わりました。

登録

①入力する

②クリック

2 導入ガイド

2. 無線機の構築について(つづき)

■ プレゼンスについて

IP100Hが送信するステータス情報を登録します。

※登録後は、IP100Hの再起動が必要です。

※プレゼンスを使用する場合は、[プレゼンス]欄を「有効」に設定してください。(P.4-48)

- 1 「設定グループ」メニュー、「プレゼンス」の順にクリックします。
「プレゼンス」画面が表示されます。

- 2 [プレゼンス設定]項目で、IP100Hから送信するステータス情報は半角32(全角16)文字以内で入力して、
〈登録〉をクリックします。

※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。

※環境依存文字を入力しないでください。

環境依存文字を使用すると、100Hの画面で正常に表示されません。

※最大10件まで登録できます。

※画面左のチェックマークをはずすと、登録した内容がIP100Hに表示されません。

プレゼンス設定

☒ すべて	ステータス番号	ステータス名	
☒	1	会議中	
☒	2	離席中	
☒	3	食事中	
☒	4	巡回中	
☒	5	在席中	
☒	6	作業中	
☒	7	待機中	
☒	8	準備中	
☒	9	対応中	
☒	10	休憩中	

①入力する

②クリック

2 導入ガイド

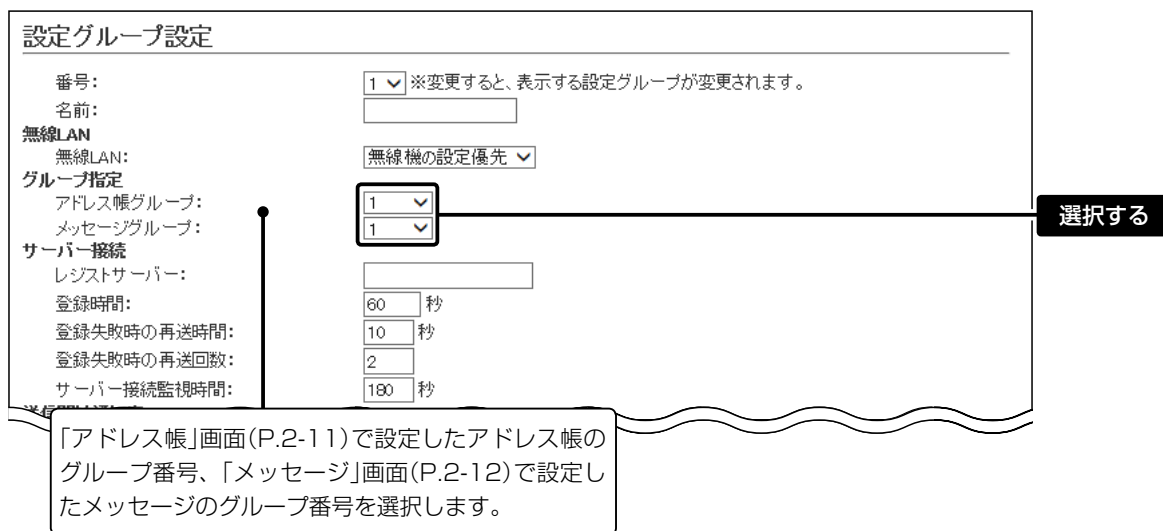
2. 無線機の構築について(つづき)

■ 設定グループで共用するアドレス帳とメッセージについて

IP100Hが所属する設定グループで使用するアドレス帳、メッセージを指定します。

※設定変更後は、IP100Hの再起動が必要です。

- 1 「設定グループ」メニュー、「設定グループ詳細」の順にクリックします。
「設定グループ詳細」画面が表示されます。
- 2 「設定グループ設定」項目で、設定グループの番号(例：1)を選択します。
※設定グループの番号は、「無線機追加」画面でIP100Hごとに指定した番号です。
- 3 「設定グループ設定」項目で、使用するアドレス帳とメッセージのグループ番号を選択します。



- 4 「登録」をクリックします。



- 5 「設定グループ設定一覧」項目で、登録した内容を確認します。

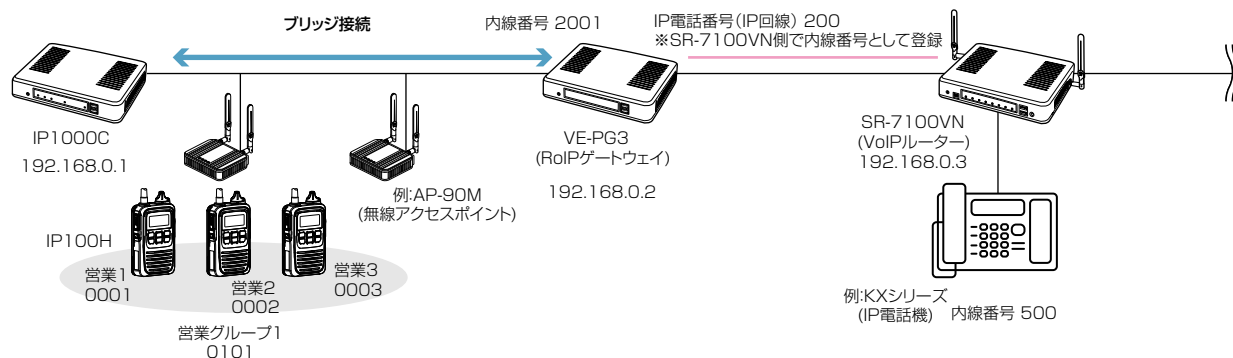


2 導入ガイド

3. ブリッジ接続と呼出先設定について

弊社製VE-PG3★とブリッジ接続すると、弊社製無線機(特定小電力トランシーバーやデジタル簡易業務用無線機など)とも通信できます。

また、弊社製SR-7100VNなどのVoIPルーターを併用すると内線や外線の通話ができます。



★VE-PG3のファームウェアが「Ver. 1.18」以降の場合、本製品と通信できます。
ご使用になる前に、VE-PG3の設定画面でファームウェア情報をご確認ください。

本製品の設定について

1. 「RoIPサーバー設定」メニュー→「ブリッジ」画面→「ブリッジ設定」項目で、接続先VE-PG3のIPアドレス(例：192.168.0.2)を設定します。

ブリッジ設定	
番号:	1
接続先アドレス:	192.168.0.2
接続先ポート番号:	21530
自局ポート番号:	21530

「呼出先設定」画面の「ブリッジ番号」欄で選択する番号です。

2. 「呼出先設定」メニュー→「呼出先設定」画面で、「呼出種別」欄で「電話」、「呼出先番号」欄でKXシリーズの内線番号(例：500)、「ブリッジ番号」欄にブリッジ接続で設定したVE-PG3の番号(例：1)を設定します。

呼出先設定	
番号:	2
名前:	500(KXシリーズ)
呼出種別:	電話
呼出先番号:	500
ブリッジ番号:	1

「ブリッジ」画面の「番号」欄で選択した番号です。

3. 「設定グループ」メニュー→「アドレス帳」画面の一覧から、「呼出先設定」画面で設定したKXシリーズの呼出先番号(例：500)を選択します。

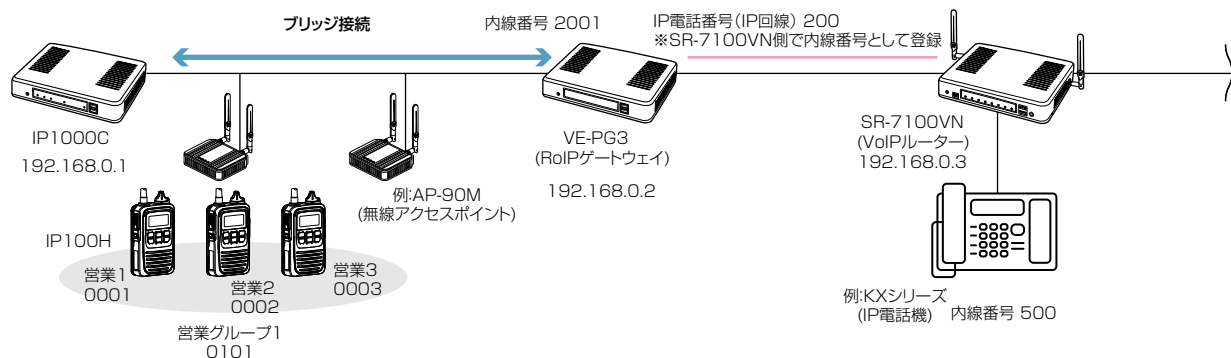
アドレス帳グループ設定	
アドレス帳グループ番号:	1(0件) ※変更すると、表示するアドレス帳のグループが変更されます。

アドレス帳設定			
登録方法:	☐ 個別入力 ☒ 一覧から選択		
☐ すべて	名前	呼出種別	呼出先番号
☒	500(KXシリーズ)	電話	500

(次ページにつづく)

2 導入ガイド

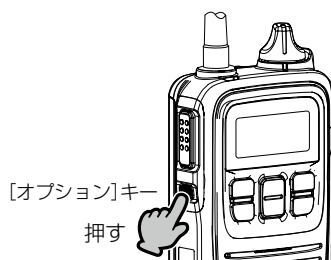
3. ブリッジ接続と呼出先設定について



本製品の設定について(つづき)

4. 「無線機設定」メニュー→「無線機個別」画面で、IP100Hごとにキー割当の「通話中の電話切断」欄が「有効」になっていることを確認します。

The screenshot shows the '無線機個別設定' (Individual Radio Settings) screen. The '個別番号' (Individual Number) is set to '0001(営業1)'. Under '表示部' (Display), '表示項目' (Display Item) is set to '時計' (Clock) and 'バックライト' (Backlight) is set to '操作時点灯' (Light up during operation). Under '送信動作' (Transmit Action), '送信禁止' (Transmit Prohibit) and 'PTTロック' (PTT Lock) are both set to '無効' (Invalid). Under '呼出先指定' (Call Forwarding Designation), '待受画面での呼出' (Call Forwarding on Standby Screen) is set to '有効※無効にすると、待受画面に戻っても、相手局(呼出種別)を表示しません。' (Valid ※ If set to Invalid, the counterpart (call type) will not be displayed even when returning to the standby screen.) and 'アドレス帳からの呼出' (Call Forwarding from Address Book) is set to '有効' (Valid). The '呼出種別' (Call Type) is set to '全体' (All). Under '通知音(受信通知を除く)' (Notification Sound (excluding reception notification)), '通知音量' (Notification Volume) is set to '10'. Under '機能設定' (Function Setting), '通信方式' (Communication Method) is set to '複信通信' (Full Duplex Communication), '優先呼出' (Priority Call) is set to '無効' (Invalid), '近隣呼出' (Nearby Call) is set to '無効' (Invalid), 'メッセージ' (Message) is set to '無効' (Invalid), 'プレゼンス' (Presence) is set to '無効' (Invalid), and '低優先度呼出の音声ミキシング' (Audio Mixing for Low Priority Call) is set to '無効' (Invalid). Under '固定呼出' (Fixed Call), '固定呼出' (Fixed Call) is set to '無効' (Invalid). Under 'キー割当' (Key Assignment), 'オプションキー' (Option Key) is set to '無効' (Invalid) and '通話中の電話切断' (Call Disconnection during Call) is set to '有効' (Valid). A callout box points to the '通話中の電話切断' setting, stating: '[オプションキー] 欄で「電話切断」を選択すると、「通話中の電話切断」欄は非表示になります。' (When 'Call Disconnection' is selected in the [Option Key] field, the [Call Disconnection during Call] field is hidden.)

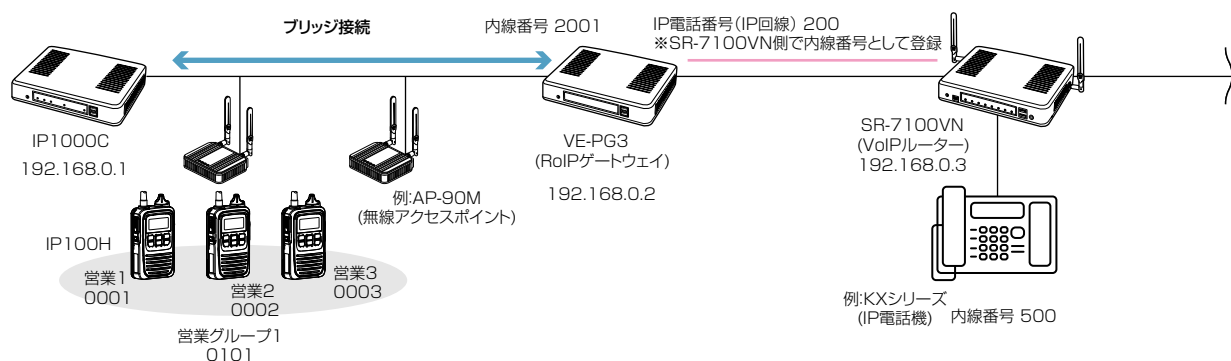


相手が応答する前、または通話中に[オプション]キーを押すと、IP100Hから電話を切れます。

※IP100Hから電話を切れるのは、電話機からIP100Hを個別に呼び出したとき、またはIP100Hから電話機を呼び出したときだけです。

(次ページにつづく)

3. ブリッジ接続と呼出先設定について(つづき)



VE-PG3(コンバーターモード)側の設定について

1. 「ポート詳細設定」メニュー→「ブリッジ」画面(例: ブリッジ1)→「ブリッジ接続設定」項目で、接続先IP1000CのIPアドレス(例: 192.168.0.1)、音声Codec(G.711uシグナリング)を設定します。
※接続に使用するポート番号が、ほかの機器と重複しないようにご注意ください。
2. 「ブリッジ通信設定」項目で、呼出種別(例: グループ)、相手先番号(例: 0101)を設定します。
3. 「ブリッジ制御設定」項目で、電話システムとの全二重通話(複信通信)をするために、受信優先を「無効」にします。

ブリッジ接続設定

接続先アドレス: 192.168.0.1
 接続先ポート番号: 21530
 自局ポート番号: 21530
 音声Codec: G.711u シグナリング
 接続状態: 送信中 切断 接続状態の更新

ブリッジ通信設定

秘話: ☒ 無効 ☐ 有効

呼出先指定
 呼出種別: グループ
 相手局番号: 0101
 自局番号: 0001

呼出先指定(同報着信)
 呼出種別: グループ
 相手局番号: 0001
 自局番号: 0001

DID呼出機能を使用しない場合は、[ブリッジ通信設定]項目で呼出先(相手局)の設定が必要です。

ブリッジ制御設定

受信優先: ☒ 無効 ☐ 有効
 PTT発信キャンセル: ☒ 無効 ☐ 有効

無線機への通知音
 着信通知: なし
 呼出開始通知: 通知音2
 通話開始通知: 通知音2
 切断通知: 通知音3
 発信失敗通知: 通知音3
 通知音量: 0 dB

電話機からのPTT制御方式
 PTT制御方式: VOX
電話機への発信方式
 発信方式: RTP

必要に応じて、PTT制御方式、発信方式を設定してください。

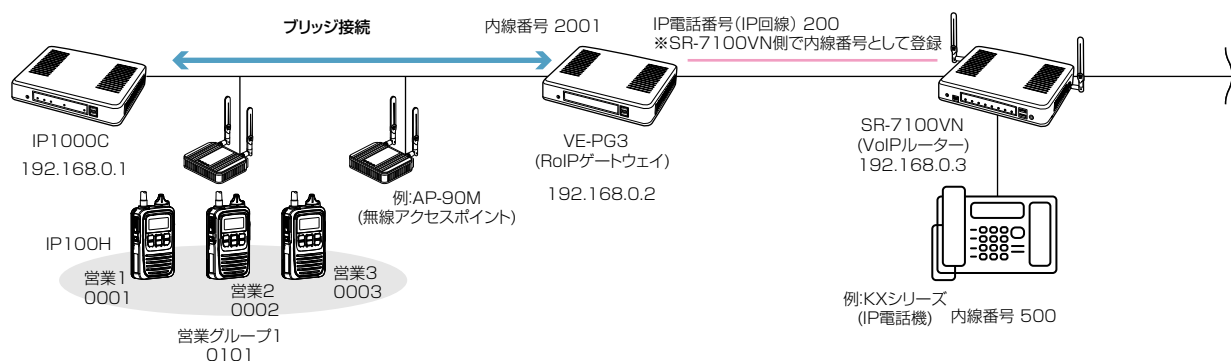
ブリッジへの音声送信制御設定

※アタックタイム、リリースタイム、音声遅延の設定値は5ミリ秒の整数倍となります。

(次ページにつづく)

2 導入ガイド

3. ブリッジ接続と呼出先設定について



VE-PG3 (コンバーターモード) 側の設定について (つづき)

4. 「V/RoIP回線設定」メニュー→「IP回線」画面→「SIPサーバー設定」項目で、接続先のSR-7100VNを設定します。

SIPサーバー設定	
番号:	1
IP電話番号:	200
SIPサーバーアドレス:	192.168.0.3
SIPサーバードメイン:	192.168.0.3
ユーザーID:	200
パスワード:	
登録時間:	600 秒
再登録周期:	通常時: 50 % 異常時: 50 %

SR-7100VNで設定された内線番号 (例: 200)、IPアドレスなどを設定します。

5. 「内線接続設定」メニュー→「内線」画面で、ポート種別 (例: ブリッジ1)、ブリッジ1の内線番号 (例: 2001) を設定します。

内線設定	
内線番号:	2001
ポート種別:	ブリッジ1
無線機システムグループ:	なし
ピックアップグループ:	グループ1
発信回線 (IP回線):	200
発信回線 (Peer to Peer):	発信しない
デフォルト発信先電話番号:	
DID呼出:	☒ 無効 ☐ 有効

6. 「内線接続設定」メニュー→「着信」画面で、着信先ポート (例: 2001) を設定します。

V/RoIP着信設定		
電話番号	回線	着信先ポート
200	IP回線	2001 (ブリッジ1)

※電話機から「200」をダイヤルすると、営業グループ1 (0011) のIP100Hに着信します。

IP100Hに表示される発信者番号は、電話機の内線番号になります。

※DID呼出機能を使用すると、電話機からIP100Hの個別番号やグループ番号をダイヤルして、特定の相手局へ発信できます。

※上記の手順5.で、[DID呼出] 欄を「有効」にした場合、電話機から「200」をダイヤルすると、4秒後 (初期値)、ダイヤルトーンが流れ、特定の相手局を呼び出すための番号をダイヤルできます。

このあいだに、営業1 (0001) を個別呼び出しするときは、「*011」+「0001」 (ブリッジ1の個別呼出プレフィクス+個別番号) をダイヤルします。 (最後に#を押すと、即時発信となり待機時間が短縮されます。)

※設定について詳しくは、VE-PG3の取扱説明書をご覧ください。

4. 他拠点接続設定について

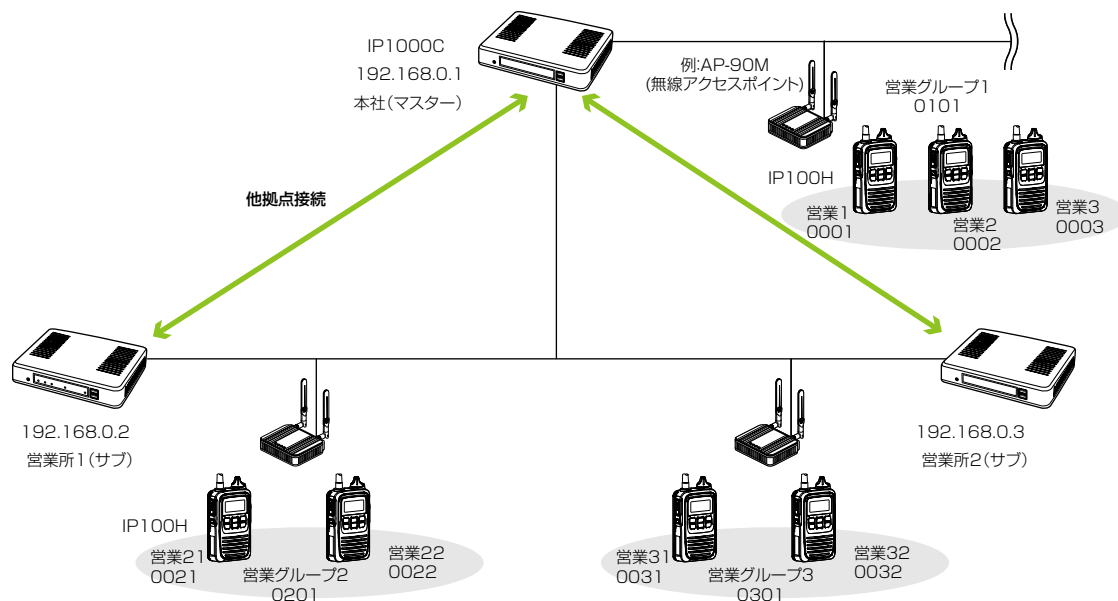
他拠点接続機能を使用すると、複数の拠点を接続して、はなれた拠点間で通話ができるようになります。

※1台のマスターに対して、最大10台のサブ(他拠点)が接続できます。

※必要に応じて、VPNルーターをご用意ください。

※2018年1月現在、他拠点接続機能に対応し、無線LANトランシーバーを制御するコントローラーとして使用できるのは、IP1000CとAP-9500(コントローラー機能搭載バージョン)です。

本書では、IP1000C同士の他拠点接続を例にして説明します。



本社(マスター)側の設定について

1. 「RoIP通信設定」メニュー→「RoIP通信設定」画面→「他拠点通信設定」項目で、他拠点接続を「有効」、他拠点通信モードを「マスター」に設定して、本製品を再起動します。

他拠点通信設定	
他拠点接続:	☐ 無効 ☒ 有効
他拠点通信モード:	☐ サブ ☒ マスター
自局ポート番号:	32000

2. 「RoIPサーバー設定」メニュー→「他拠点接続」画面で、接続先IP1000C(例: 営業所1(サブ)、営業所2(サブ))のIPアドレスを設定します。

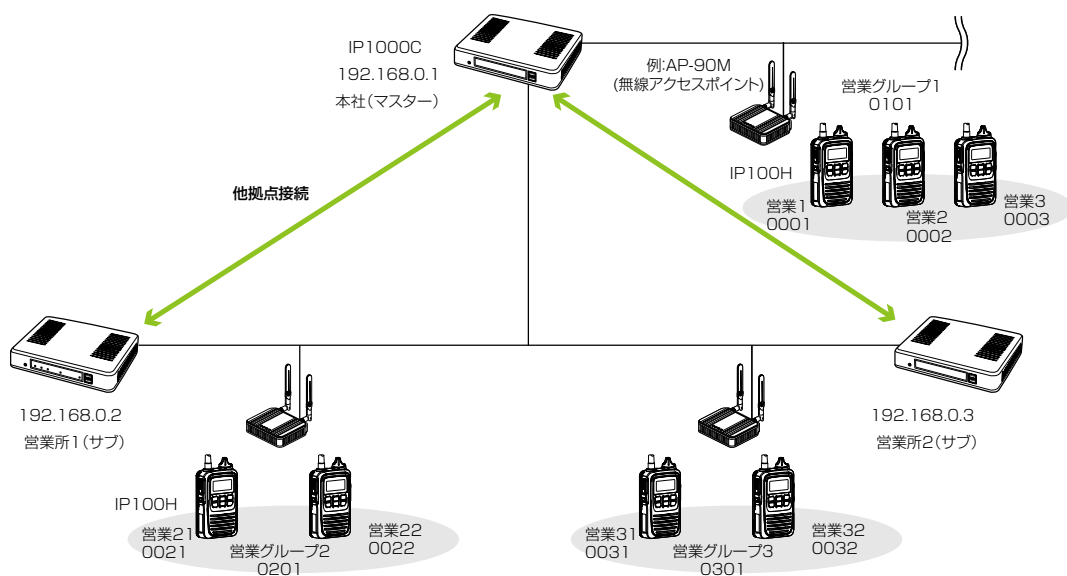
他拠点接続設定				
番号:	1			
名前:	営業所1(サブ)			
接続先アドレス:	192.168.0.2			
接続先ポート番号:	32000			
		登録 取消		

他拠点設定一覧				
番号	名前	接続先アドレス	接続先ポート番号	
1	営業所1(サブ)	192.168.0.2	32000	編集 削除
2	営業所2(サブ)	192.168.0.3	32000	編集 削除
				全削除

(次ページにつづく)

2 導入ガイド

4. 他拠点接続設定について



本社(マスター)側の設定について(つづき)

3. 「呼出先設定」メニュー→「呼出先設定」画面で、呼出種別を「グループ」、グループ番号(例: 0201)、優先度(例: 通常)、他拠点(例: 営業所1(サブ)、営業所2(サブ))を設定します。

呼出先設定

番号: 2
名前: 営業所1(サブ)
呼出種別: グループ
呼出先番号: 0201
優先度: ☒ 通常 ☐ 優先

無線機呼出
通信種別: ☐ 同報 ☒ 会議

所属する無線機
☐ すべて ☐ 0001(営業1) ☐ 0002(営業2) ☐ 0003(IP100FS)

他拠点
☐ すべて ☒ 1(営業所1) ☐ 2(営業所2)

グループ番号「0201」で営業所2から営業所1を呼び出さない場合は、営業所1だけを選択します。

登録 取消

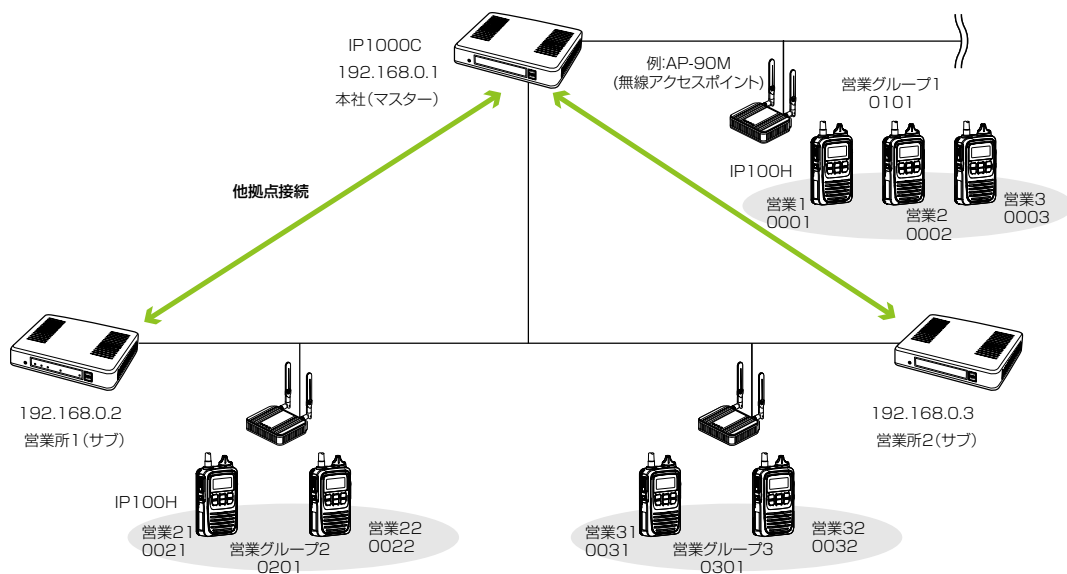
呼出先設定一覧(グループ)

☐ すべて	番号	名前	呼出先番号	優先度	所属する無線機台数	他拠点		
☐	1	営業グループ1	0101	通常	3	なし	編集	削除
☐	2	営業所1(サブ)	0201	通常	-	あり	編集	削除
☐	3	営業所2(サブ)	0301	通常	-	あり	編集	削除

選択削除 全削除

拠点内で呼び出す無線機の台数と他拠点接続設定の有無を表示します。

4. 他拠点接続設定について(つづき)



営業所1(サブ)側の設定について

営業グループ2(グループ番号「0201」)を呼び出す場合を例に説明しています。

1. 「RoIP通信設定」メニュー→「RoIP通信設定」画面→「他拠点通信設定」項目で、他拠点接続を「有効」、他拠点通信モードを「サブ」に設定して、本製品を再起動します。

他拠点通信設定

他拠点接続: ☐ 無効 ☒ 有効
 他拠点通信モード: ☒ サブ ☐ マスター
 自局ポート番号: 32000

2. 「RoIPサーバー設定」メニュー→「他拠点接続」画面で、接続先IP1000C(例: 本社(マスター))を設定します。

他拠点接続設定

番号: 1
 名前: 本社(マスター)
 接続先アドレス: 192.168.0.1
 接続先ポート番号: 32000

登録 取消

他拠点設定一覧

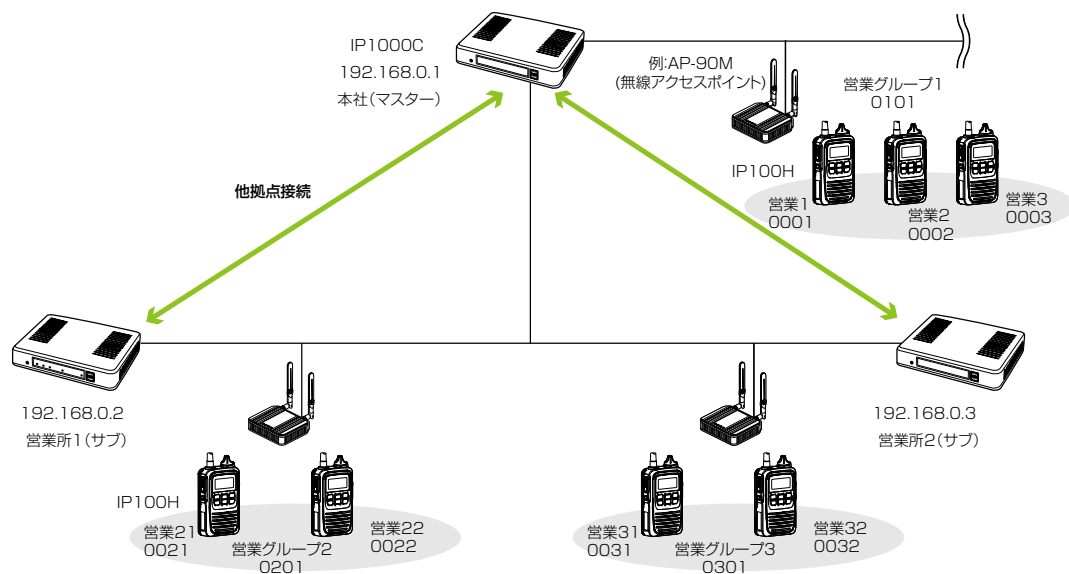
番号	名前	接続先アドレス	接続先ポート番号	編集	削除
1	本社(マスター)	192.168.0.1	32000		

全削除

(次ページにつづく)

2 導入ガイド

4. 他拠点接続設定について



営業所1 (サブ)側の設定について(つづき)

3. 「呼出先設定」メニュー→「呼出先設定」画面で、呼出種別を「グループ」、グループ番号(例: 0201)、優先度(例: 通常)、所属する無線機、他拠点(例: 本社(マスター))を設定します。

呼出先設定

番号: 1
名前: 営業グループ2(他拠点)
呼出種別: グループ
呼出先番号: 0201
優先度: ☒ 通常 ☐ 優先

無線機呼出
通信種別: ☐ 同報 ☒ 会議

所属する無線機
☐ すべて ☒ 0021(営業21) ☒ 0022(営業22)

他拠点: 1(本社(マスター))

サブ側の[他拠点]欄では、接続するマスター(例: 本社)を選択します。

登録 取消

呼出先設定一覧(グループ)

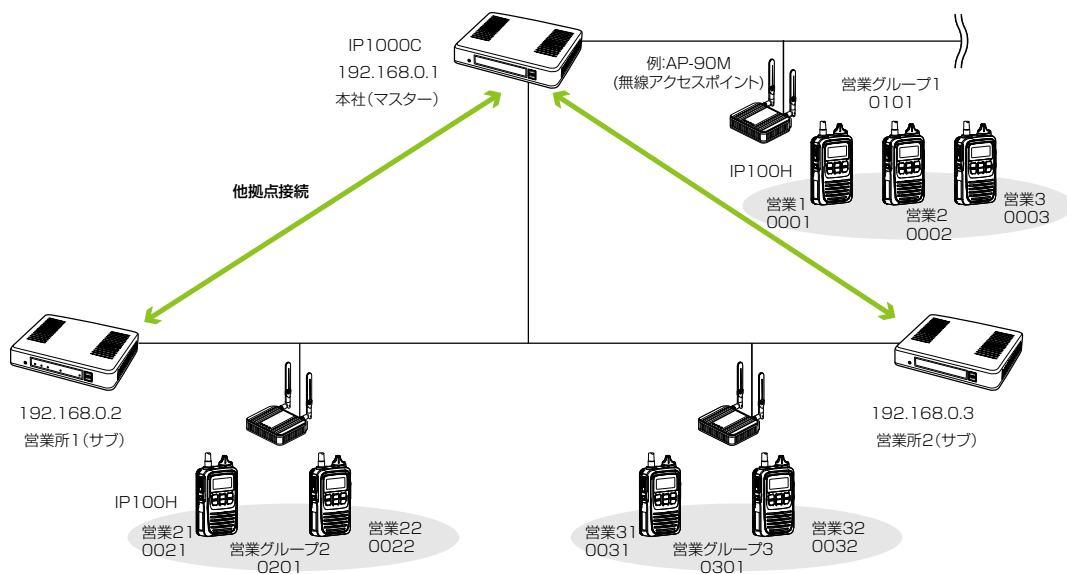
番号	名前	呼出先番号	優先度	所属する無線機台数	他拠点	編集	削除
1	営業グループ2(他拠点あり)	0201	通常	2	1(本社(マスター))		

選択削除 全削除

拠点内で呼び出す無線機の台数と他拠点接続の接続先を表示します。

(次ページにつづく)

4. 他拠点接続設定について(つづき)



営業所2(サブ)側の設定について

営業グループ2(グループ番号「0201」)を呼び出す場合を例に説明しています。

1. 「RoIP通信設定」メニュー→「RoIP通信設定」画面→「他拠点通信設定」項目で、他拠点接続を「有効」、他拠点通信モードを「サブ」に設定して、本製品を再起動します。

他拠点通信設定	
他拠点接続:	☐ 無効 ☒ 有効
他拠点通信モード:	☒ サブ ☐ マスター
自局ポート番号:	32000

2. 「RoIPサーバー設定」メニュー→「他拠点接続」画面で、接続先IP1000C(例: 本社(マスター))のIPアドレス(例: 192.168.0.1)を設定します。

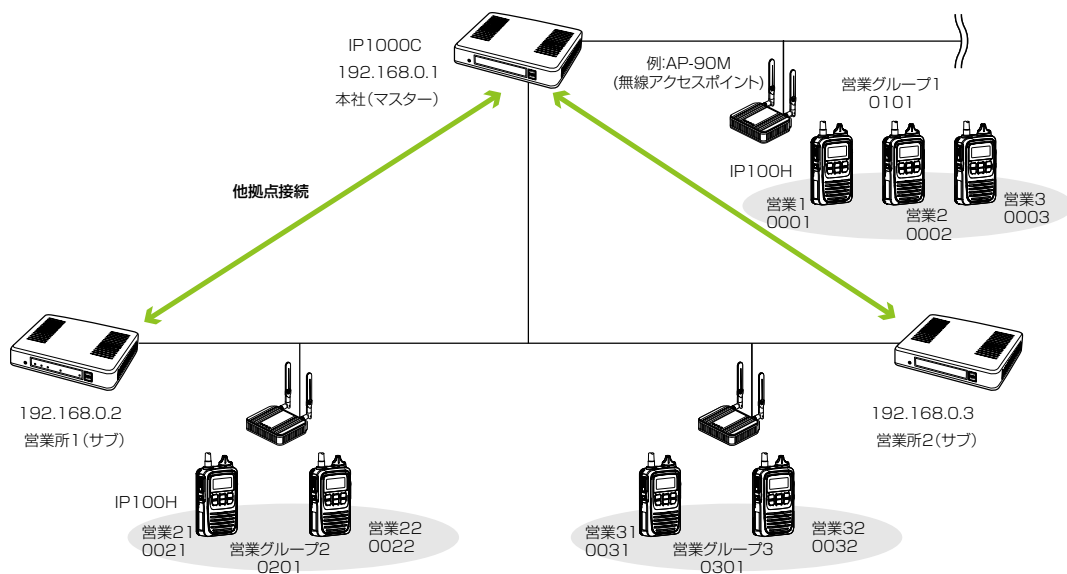
他拠点接続設定				
番号:	1			
名前:	本社(マスター)			
接続先アドレス:	192.168.0.1			
接続先ポート番号:	32000			
		登録 取消		

他拠点設定一覧				
番号	名前	接続先アドレス	接続先ポート番号	
1	本社(マスター)	192.168.0.1	32000	編集 削除
				全削除

(次ページにつづく)

2 導入ガイド

4. 他拠点接続設定について(つづき)



営業所2(サブ)側の設定について(つづき)

3. 「呼出先設定」メニュー→「呼出先設定」画面で、呼出種別を「グループ」、グループ番号(例: 0201)、優先度(例: 通常)、他拠点(例: 本社(マスター))を設定します。

呼出先設定

番号: 1
名前: 営業グループ2<他拠点>
呼出種別: グループ
呼出先番号: 0201
優先度: ☒ 通常 ☐ 優先

無線機呼出
通信種別: ☐ 同報 ☒ 会議
所属する無線機
☐ すべて ☐ 0031(営業31) ☐ 0032(営業32)
他拠点: 1(本社(マスター))

サブ側の[他拠点]欄では、接続するマスター(例: 本社)を選択します。

登録 取消

呼出先設定一覧(グループ)

☐ すべて	番号	名前	呼出先番号	優先度	所属する無線機台数	他拠点	
☐	1	営業グループ2<他拠点あり>	0201	通常	-	1(本社(マスター))	編集 削除

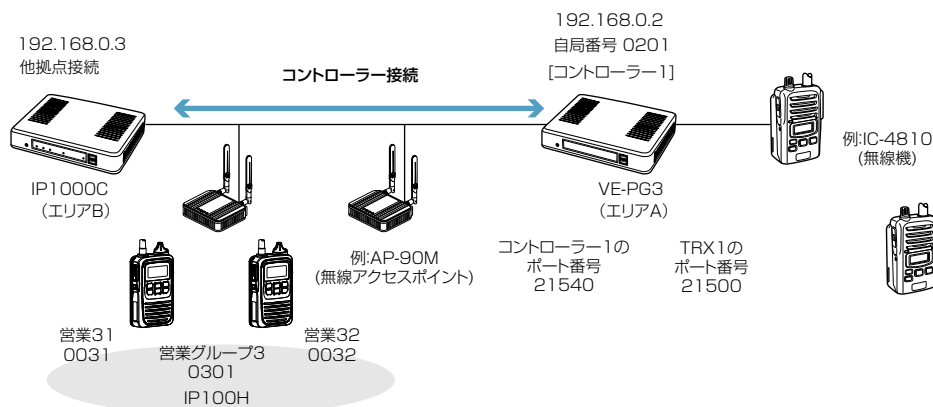
選択削除 全削除

拠点内で呼び出す無線機の台数と他拠点接続設定の接続先を表示します。

2 導入ガイド

5. VE-PG3とのコントローラー接続について

弊社製VE-PG3のコントローラーポート★を使用して本製品と接続すると、弊社製無線機(特定小電力トランシーバーやデジタル簡易業務用無線機など)とも通信できます。



★VE-PG3のファームウェアが「Ver. 2.01」以降の場合、ブリッジモードで本製品と通信できます。
ご使用になる前に、VE-PG3の設定画面でファームウェア情報をご確認ください。

本製品の設定について

1.「RoIP通信設定」メニュー→「RoIP通信設定」画面→「他拠点通信設定」項目で、他拠点接続を「有効」に設定して、本製品を再起動します。

※複数台のコントローラーで他拠点接続し、グループや全体呼び出しをする場合、サブはVE-PG3を他拠点として設定できませんので、マスターに接続するように設定してください。

他拠点通信設定	
他拠点接続:	☐ 無効 ☒ 有効
他拠点通信モード:	☒ サブ ☐ マスター
自局ポート番号:	32000

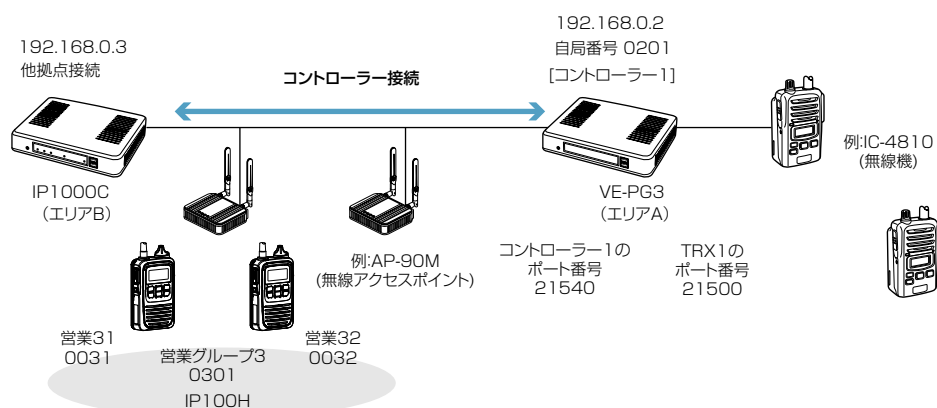
2.「RoIPサーバー設定」メニュー→「他拠点接続」画面で、接続先VE-PG3(例：エリアA)のIPアドレスを設定します。

他拠点接続設定	
番号:	1
名前:	VE-PG3(エリアA)
接続先アドレス:	192.168.0.2
接続先ポート番号:	32010

(次ページにつづく)

2 導入ガイド

5. VE-PG3とのコントローラー接続について

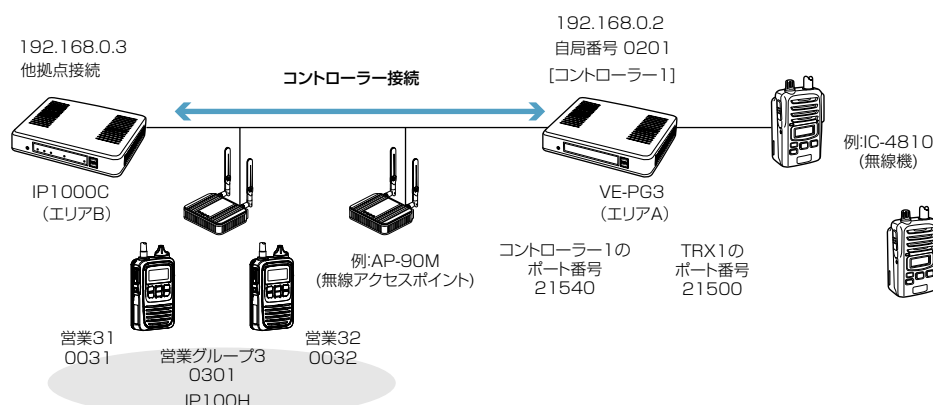


本製品の設定について(つづき)

- 3.「呼出先設定」メニュー→「他拠点接続」画面で、VE-PG3(例：エリアA)を呼び出す種別と番号(例：グループ0301)を設定し、他拠点にVE-PG3(例：エリアA)を指定します。

呼出先設定	
番号:	1
名前:	
呼出種別:	グループ
呼出先番号:	0301
優先度:	☒ 通常 ☐ 優先
無線機呼出	
通信種別:	☐ 同報 ☒ 会議
所属する無線機	
他拠点:	1(VE-PG3(エリアA))

5. VE-PG3とのコントローラー接続について(つづき)



VE-PG3(ブリッジモード)側の設定について

- 「動作モード設定」メニュー→「動作モード設定」画面→「IP通信モード設定」項目で、接続するポート(例：無線機1 (TRX1))のIP通信モードを「ユニキャスト」に選択を設定します。
※表示される画面にしたがって、VE-PG3を再起動してください。
- 「ポート詳細設定」メニュー→「無線機1 (TRX1)」画面→「無線機種設定」項目で、接続する無線機(例：IC-4810)を設定します。
- 「ブリッジ接続設定」メニュー→「ブリッジ接続先」画面→「ブリッジ接続先設定」項目で、ポート種別を「無線機1 (TRX1)」、VE-PG3に設定されたIPアドレス(例：192.168.0.2)、接続するコントローラー1のポート番号(例：21540)を設定します。
※無線機1 (TRX1)の自局ポート番号を、コントローラー1側で接続先として設定します。

ブリッジ接続先設定	
ポート種別:	無線機1 (TRX1)
接続先アドレス:	192.168.0.2
接続先ポート番号:	21540
自局ポート番号:	21500
音声Codec:	G.711u

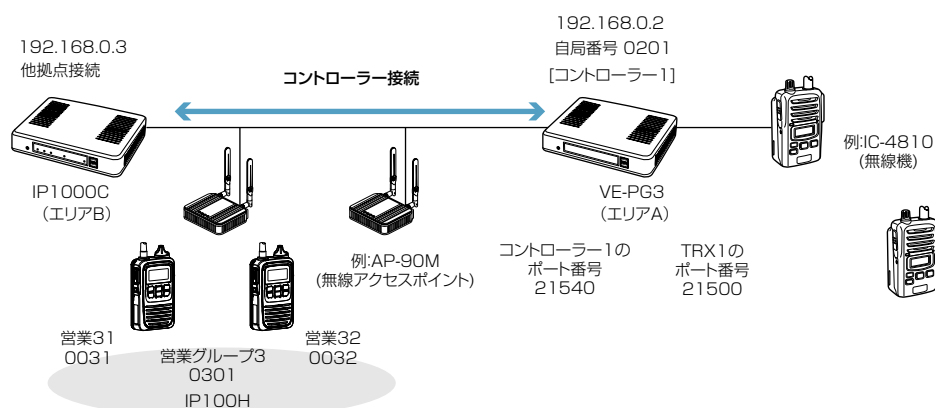
- ポート種別を「コントローラー1」、VE-PG3に設定されたIPアドレス(例：192.168.0.2)、接続する無線機1 (TRX1)のポート番号(例：21500)を設定します。
※コントローラー1の自局ポート番号を、無線機1 (TRX1)側で接続先として設定します。

ブリッジ接続先設定	
ポート種別:	コントローラー1
ブリッジ個別呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
接続先アドレス:	192.168.0.2
接続先ポート番号:	21500
自局ポート番号:	21540
音声Codec:	G.711u

- 「ブリッジ接続先設定一覧」項目で接続するポートの「接続」をクリックして、「送信中」が表示されることを確認します。
※「接続状態」欄で無線機2 (TRX2)が「送信中」となっている場合は、「切断」をクリックします。

ブリッジ接続先設定一覧						接続状態の更新		
ポート	接続先アドレス	ポート番号		音声Codec	接続状態			
		接続先	自局					
無線機1 (TRX1)	192.168.0.2	21540	21500	G.711u	送信中	切断	編集	削除
無線機2 (TRX2)	239.255.255.1	22510	22510	G.711u	未接続	接続	編集	削除
コントローラー1	192.168.0.2	21500	21540	G.711u	送信中	切断	編集	削除

5. VE-PG3とのコントローラー接続について



VE-PG3(ブリッジモード)側の設定について(つづき)

- 「ポート詳細設定」メニュー→「コントローラー1」画面で、本製品に設定されたIPアドレス(例: 192.168.0.3)、相手局番号(例: 0301)、自局番号(例: 0201)を入力し、〈登録〉をクリックします。

コントローラー接続設定

接続先アドレス: 192.168.0.3

接続先ポート番号: 32000

自局ポート番号: 32010

接続状態: 未接続

接続

接続状態の更新

コントローラー通信設定

秘話: ☒ 無効 ☐ 有効

呼出先指定

呼出種別: グループ

テナント番号: 1

相手局番号: 0301

自局番号: 0201

登録

取消

- 「コントローラー接続設定」項目の〈接続〉をクリックします。
※[接続状態]欄に、「送信中」が表示されることを確認します。

コントローラー接続設定

接続先アドレス: 192.168.0.3

接続先ポート番号: 32000

自局ポート番号: 32010

接続状態: 未接続

接続

接続状態の更新

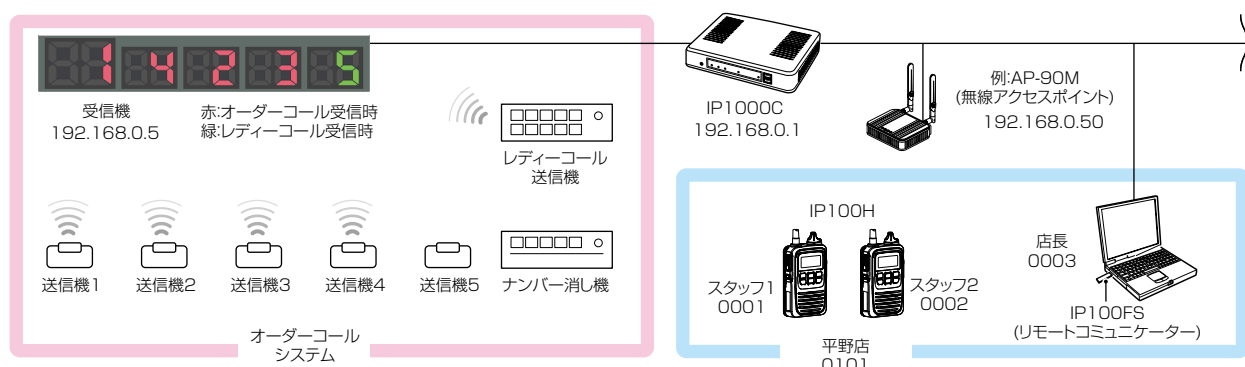
6. オーダーコールシステムについて

オーダーコールシステムと連携して運用する場合は、本製品の専用ページにアクセスして設定します。再起動後、本製品に登録されたIP100H、IP100FSで、オーダーコールシステムの受信機に表示される内容を常時確認できるようになります。

オーダーコールシステムの送信機からの呼び出しを、IP100Hの音声アナウンス、通知音や振動で確認できます。

※オーダーコールシステムの操作や設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書と併せてご覧ください。

本書では、ご使用になるオーダーコールシステムの設定などは完了しているものとして説明しています。



オーダーコールシステム連携時の初期設定について(P.2-30)

オーダーコールシステム受信機のIPアドレスを本製品に登録します。

オーダーコールシステム連携時のグループ設定について(P.2-32)

必要に応じて、オーダーコールシステムのグループごとに、呼び出しを確認する音声アナウンスを設定します。

オーダーコールシステム連携時の設定について(P.2-34)

- ◎「無線機個別」画面で、オーダーコールアナウンス時の通知音量、[オプション]キーの機能を設定します。
- ◎「設定グループ詳細」画面で、オーダーコール時やレディーコール時の通知音、所属するオーダーコールシステムグループを設定します。

オーダーコールシステム連携時の操作について(P.2-35)

「設定グループ詳細」画面で指定したオーダーコールグループに登録されたすべての受信機に表示されている番号を、確認したり、消去したりできます。

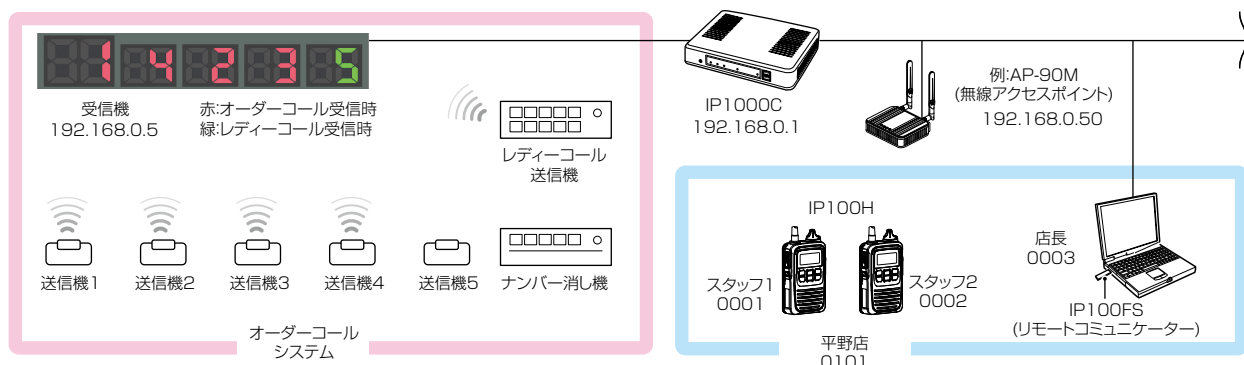
オーダーコールシステム連携時の音声データについて(P.2-37)

音声データ(拡張子:wav)をUSBメモリー(市販品)に保存後、本製品にUSBメモリーを差し込むと、音声アナウンスに使用できます。

※音声データが読み込まれていない状態や通知する内容に一致する音声ファイル名がない場合は、本製品に内蔵された標準音声データを使用します。

2 導入ガイド

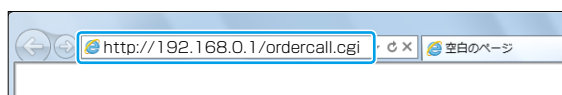
6. オーダーコールシステムについて(つづき)



オーダーコールシステム連携時の初期設定について

1. WWWブラウザのアドレスバーに、「[http://\[本製品のIPアドレス\]/ordercall.cgi](http://[本製品のIPアドレス]/ordercall.cgi)」の形式で、本製品に設定されたIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)を入力し、[Enter]キーを押します。

※初期設定後、オーダーコールシステムとの接続状態を確認する場合、または連携を解除する場合は、手順1の操作で専用ページにアクセスしてください。



2. 「オーダーコールシステム」画面で、「オーダーコールシステム」欄を「有効」に設定します。

オーダーコールシステム	
オーダーコールシステム：	☐ 無効 ☒ 有効
登録 取消	

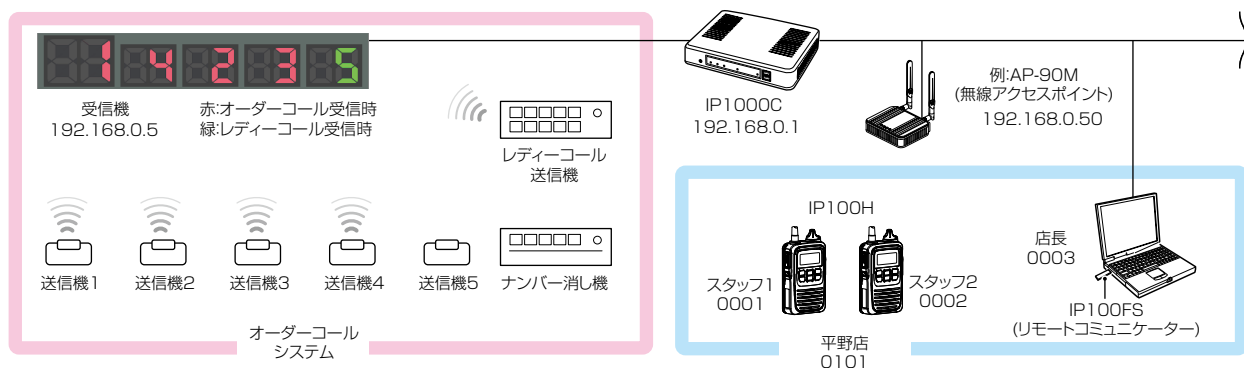
3. 〈登録〉をクリックして、表示される画面にしたがって本製品を再起動します。
4. 再起動後、[接続先IPアドレス]欄にオーダーコールシステム受信機のIPアドレス(例：192.168.0.5)、[接続先ポート番号]欄にオーダーコールシステム受信機のポート番号(例：10001)を入力し、〈追加〉をクリックします。
※テナント(P.4-23)ごとに最大20件のオーダーコールシステムを登録し、10グループまで登録できます。

オーダーコールシステム設定(テナント1)					
番号：	1				
名前：	本店				
接続先IPアドレス：	192.168.0.5	所属するオーダーコールシステムのグループを選択します。(P.2-31)			
接続先ポート番号：	10001				
オーダーコールグループ：	1				
追加 取消					
オーダーコールシステム設定一覧(テナント1)					
接続状態の更新					
番号	名前	接続先IPアドレス	接続先ポート番号	オーダーコールグループ	接続状態
全削除					

(次ページにつづく)

2 導入ガイド

6. オーダーコールシステムについて



オーダーコールシステム連携時の初期設定について(つづき)

5.〈接続〉をクリックして、[接続状態]欄に「接続中」が表示されることを確認します。

※〈接続状態の更新〉をクリックしても、「接続中(表示)」、または「接続中」と表示されない場合は、〈編集〉をクリックして設定内容を確認してください。

オーダーコールシステム設定一覧(テナント1)

番号	名前	接続先IPアドレス	接続先ポート番号	オーダーコールグループ	接続状態	接続状態の更新
1	本店	192.168.0.5	10001	1	接続中(表示)	接続 編集 削除

全削除

オーダーコールグループ設定(テナント1)

オーダーコールグループ番号: 1

名前:

オーダーコールアナウンス: ☒ 無効 ☐ 有効

レディーコールアナウンス: 無効

先頭番号付加: ☒ 無効 ☐ 有効

確認アナウンス: 最終番号通知

アナウンス回数: 2

登録 取消

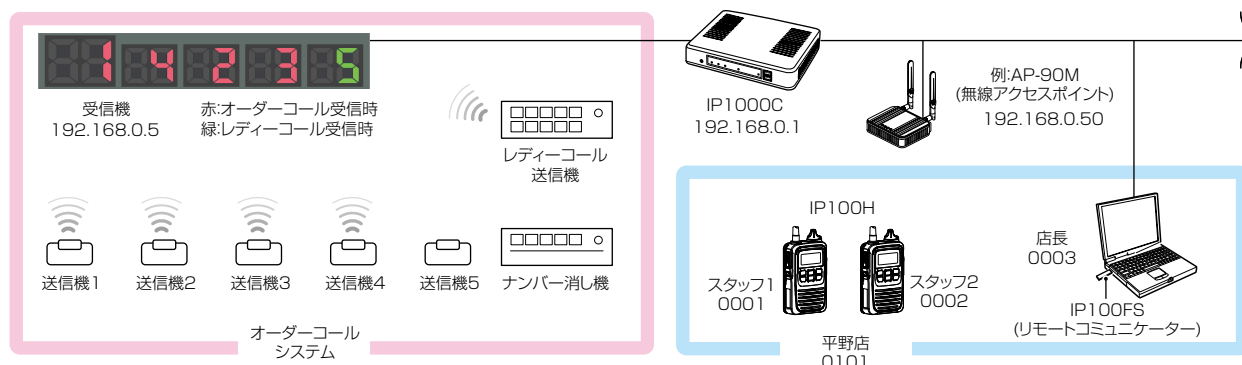
オーダーコールグループの名称が設定されている場合は、末尾に(名前)が表示されます。

【受信機の複数台接続について】

- ◎ オーダーコールグループに対して、複数の受信機が接続できます。
- ◎ 受信機を複数接続すると、最初に本製品と接続できた受信機がマスターになり、そのほかの受信機にはマスターと同じ内容が表示されます。
- ◎ 各オーダーコールグループで、IP100Hの画面表示と連動する受信機は、表示される接続状態(上図)が「接続中(表示)」になり、そのほかの受信機は「接続中」になります。
- ◎ IP100H、IP100FSから消去操作をすると、所属するオーダーコールグループの受信機(マスター)に表示されている一番左の番号を、すべての受信機から一斉に消去できます。

2 導入ガイド

6. オーダーコールシステムについて(つづき)



オーダーコールシステム連携時のグループ設定について

必要に応じて、オーダーコールシステムのグループごとに、呼び出しを確認するアナウンスが設定できます。

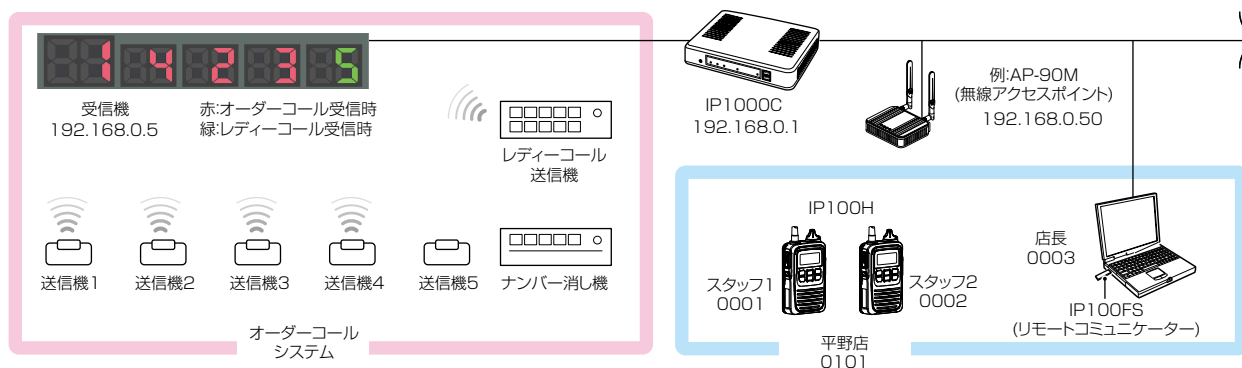
オーダーコールグループ設定(テナント1)	
① オーダーコールグループ番号:	1 ▼
② 名前:	
③ オーダーコールアナウンス:	☒ 無効 ☐ 有効
④ レディーコールアナウンス:	無効 ▼
⑤ 先頭番号付加:	☒ 無効 ☐ 有効
⑥ 確認アナウンス:	最終番号通知 ▼
⑦ アナウンス回数:	2 ▼
登録 取消	

- | | |
|-----------------|--|
| ① オーダーコールグループ番号 | アナウンスを設定するオーダーコールシステムのグループ番号を、「1」～「10」から選択します。 |
| ② 名前 | 任意の名称を、半角31(全角15)文字以内で入力します。 |
| ③ オーダーコールアナウンス | オーダーコールの送信機で呼び出しボタンが押されると通知する音声アナウンスを設定します。
(出荷時の設定: 無効)
◎無効: 通知しません。
◎有効: 押された呼び出しボタンの番号を通知します。 |
| ④ レディーコールアナウンス | レディーコールの送信機で呼び出しボタンが押されると通知する音声アナウンス(「コール」)を設定します。
(出荷時の設定: 無効)
◎無効: 通知しません。
◎有効(番号通知なし): 呼び出しボタンが押されたことを通知します。
◎有効(番号通知あり): 「コール」(P.2-38)につづき、押された呼び出しボタンの番号を通知します。 |
| ⑤ 先頭番号付加 | オーダーコール(③)、またはレディーコール(④)をアナウンスしたあとに、受信機の一番左に表示されている番号も通知するときに設定します。
先頭番号には「ファースト」(P.2-38)を付加して通知します。
(出荷時の設定: 無効) |

(次ページにつづく)

2 導入ガイド

6. オーダーコールシステムについて



オーダーコールシステム連携時のグループ設定について(つづき)

オーダーコールグループ設定(テナント1)	
①オーダーコールグループ番号:	1 ▼
②名前:	
③オーダーコールアナウンス:	☒ 無効 ☐ 有効
④レディーコールアナウンス:	無効 ▼
⑤先頭番号付加:	☒ 無効 ☐ 有効
⑥確認アナウンス:	最終番号通知 ▼
⑦アナウンス回数:	2 ▼
登録 取消	

⑥ 確認アナウンス ……………

IP100Hの[オプション]キーを短く押して、オーダーコール(受信機に表示された番号)を音声アナウンスで確認するときに設定します。

(出荷時の設定: 無効)

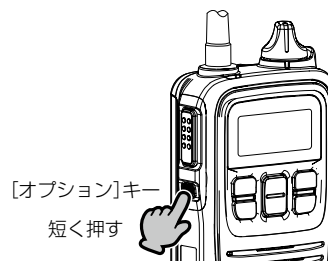
※確認アナウンスの対象になるのは、オーダーコールだけです。

※「無線機個別」画面の[キー割当]で、[確認アナウンス]を「有効」にする必要があります。(P.2-34)

◎無効 : 通知しません。

◎先頭番号通知: 受信機の一番左に表示されている番号に「ファースト」(P.2-38)を付加して通知します。

◎最終番号通知: 最後に押された送信機の番号を通知します。



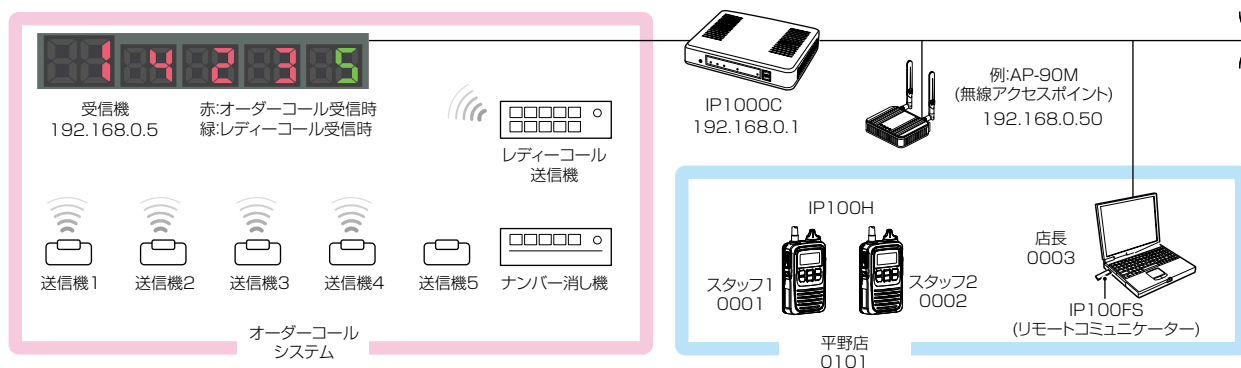
⑦ アナウンス回数 ……………

オーダーコールアナウンス(③)、またはレディーコールアナウンス(④)、確認アナウンス(⑥)で通知するときの回数を、「1」～「3」から選択します。

(出荷時の設定: 2)

2 導入ガイド

6. オーダーコールシステムについて(つづき)



オーダーコールシステム連携時の設定について

オーダーコールシステム連携に切り替わると、表示される設定画面や設定項目が一部変更になります。

「無線機設定」メニュー→「無線機個別」画面

◎[オーダーコールアナウンス通知]→[通知音量]

◎[キー割当]→[オプションキー]

◎[キー割当]→[確認アナウンス]

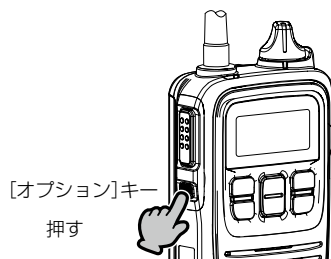
※「表示項目」は、「オーダーコール」(変更不可)になります。

受信通知		
通知音量:	10	
通知動作:	通知音	
通知音(受信通知を除く)		
通知音量:	10	
オーダーコールアナウンス通知		
通知音量:	10	
機能設定		
通信方式:	☐ 単信通信 ☒ 複信通信	
優先呼出:	☒ 無効 ☐ 有効	
近隣呼出:	☒ 無効 ☐ 有効	
メッセージ:	☒ 無効 ☐ 有効	メッセージ先頭番号: 1
プレゼンス:	☒ 無効 ☐ 有効	
低優先度呼出の音声ミキシング:	☒ 無効 ☐ 有効	
固定呼出		
固定呼出:	無効	
キー割当		
オプションキー:	表示消去	
確認アナウンス:	☒ 無効 ☐ 有効	
通話中の電話切断:	☐ 無効 ☒ 有効	
接続確認		
接続確認:	☐ 無効 ☒ 有効	
キー操作音		
キー操作音:	☐ 無効 ☒ 有効	音量: 10
マイク		

必要に応じて、通知音を変更してください。

「表示消去」に設定されているときは、IP100Hの[オプション]キーを長く(約1秒)押すと、オーダーコール表示を消去できます。

[オプション]キーを短く押して、オーダーコールをアナウンスで確認するときは、「有効」にします。(P.2-32)



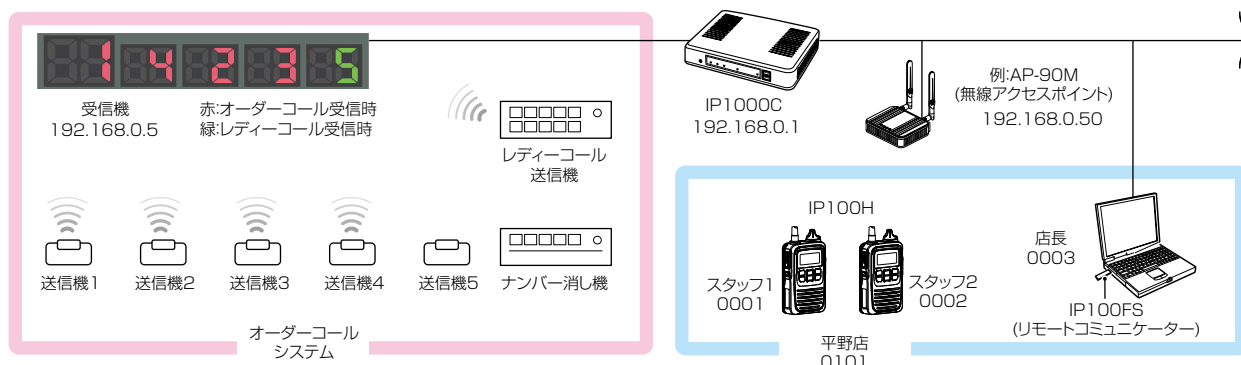
短押し: オーダーコールをアナウンスで確認するとき

長押し: オーダーコールの表示を消去するとき

(次ページにつづく)

2 導入ガイド

6. オーダーコールシステムについて



オーダーコールシステム連携時の設定について(つづき)

オーダーコールシステム連携に切り替わると、表示される設定画面や設定項目が一部変更になります。

「設定グループ」メニュー→「設定グループ詳細」画面

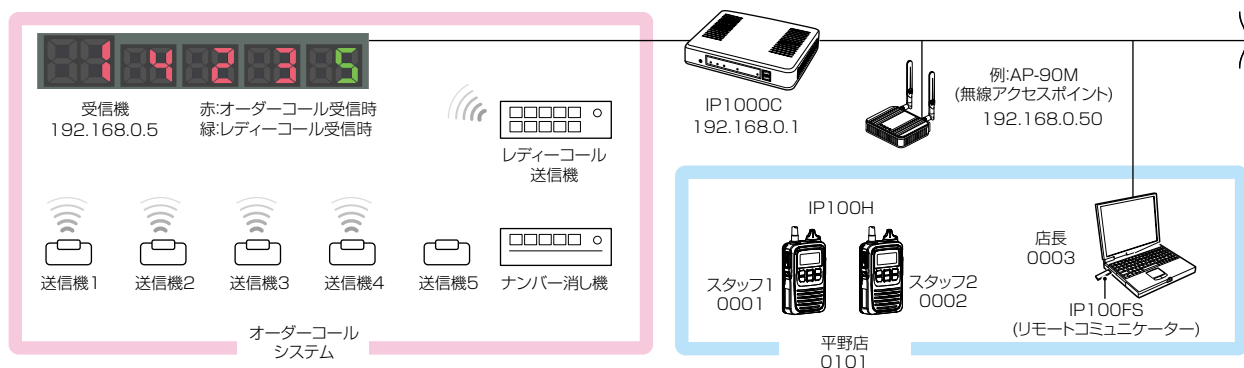
- [オーダーコールシステム]→[オーダーコールシステム]
- [オーダーコールシステム][オーダーコールグループ]
- [受信通知音]

★[オーダーコールグループ]欄で「プレゼンス指定」を選択したときは、送信するステータス情報の番号(下図参照)に応じて、所属するオーダーコールグループが切り替わります。

「設定グループ」メニュー→「プレゼンス」画面

2 導入ガイド

6. オーダーコールシステムについて(つづき)



オーダーコールシステム連携時の操作について

オーダーコールシステム連携に切り替わると、画面に表示される内容や操作が一部変更になります。

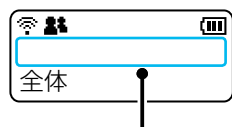
※「設定グループ詳細」画面で指定したオーダーコールグループごとに、受信機に表示されている番号を確認したり消去したりできます。

●IP100Hでは

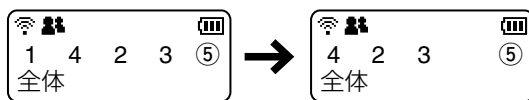
オーダーコールシステム連携時、呼び出しボタンを押した送信機の番号が画面に表示されます。

※表示番号の点滅機能には対応していません。

※[オプション]キーに「表示消去」を割り当てている場合、IP100Hの[オプション]キーを長く(約1秒)押すと、受信機の一番左に表示されている番号が消去できます。



通常の待受画面(P.2-6)と異なり、オーダーコールシステム連携時の待受画面には、日時が表示されません。



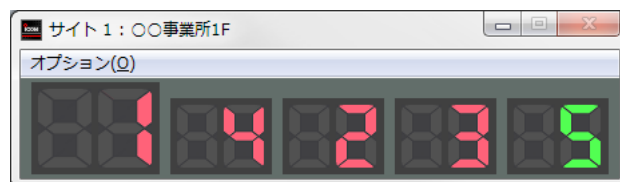
オーダーコールは左から消去されます。
※丸数字はレディーコールを示します。



●IP100FSでは

オーダーコールシステム連携時、オーダーコールシステム受信機の状態画面が別画面で常時表示されます。

※番号表示の点滅機能には対応していません。



オーダーコール、レディーコールとも任意の番号を消去できます。
消去するときは、画面上の番号表示をクリックします。

2 導入ガイド

6. オーダーコールシステムについて(つづき)

オーダーコールシステム連携時の音声データについて

オーダーコールシステム連携に切り替わると、「TOP」画面に[オーダーコール音声データ]欄が表示されます。

製品情報	
本体名称	IP1000C
IPL	Rev. 1
バージョン	Ver. 1.00 Copyright 2007-2014 Icom Inc.
LAN MACアドレス	00-00-00-00-00-00
内蔵ファームウェアバージョン(IP100H)	Ver. 1.00
オーダーコール音声データ	オリジナル

本製品に内蔵された標準音声データを使用する場合は、「オリジナル」が表示されます。
※別途音声データを用意して、USBメモリーから読み込ませた場合は、「ユーザーカスタム」が表示されます。

【対応するフォーマットについて】

コーデック	サンプリング周波数	ビット数	チャンネル数	コンテナフォーマット
リニアPCM	8kHz	16ビット	モノラル	wav
G711 μ-law	8kHz	8ビット	モノラル(μ-law)	wav

※あらかじめ音声ファイルの最初と最後に50msの無音区間が挿入されている必要があります。

※音声ファイルは、1つあたり最大5秒までです。

5秒以上の音声ファイルは最初の5秒区間だけ再生します。

※音声データが読み込まれていない状態や通知する内容に一致する音声ファイル名がない場合は、本製品に内蔵された標準音声データを使用します。

【音声データのファイル名と保存先について】

本製品に読み込ませる音声データ(拡張子: wav)は、下図のようにUSBメモリーにフォルダーを用意し、格納してください。

※自身の本体MACアドレスと一致するフォルダーがある場合は(P.5-12)、その中に格納されているordercallフォルダーに保存されているデータを読み込みます。

この場合、ルートフォルダーにあるordercallフォルダーは参照されません。

USBメモリー内の「ordercall」→「voice」に音声データを格納します。

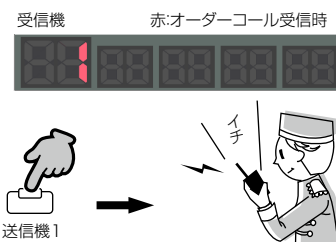
「voice」フォルダーに保存するファイル名と動作については下記をご覧ください。

◎ファイル名の数字部分と押されたボタンの番号がリンクしています。

オーダーコールで、送信機1番の呼び出しボタンを押すと、「num001.wav」を再生します。

たとえば、「num001.wav」が「イチ」の場合は、「イチ」となります。

num000.wav : 0番押下
 }
num099.wav : 99番押下

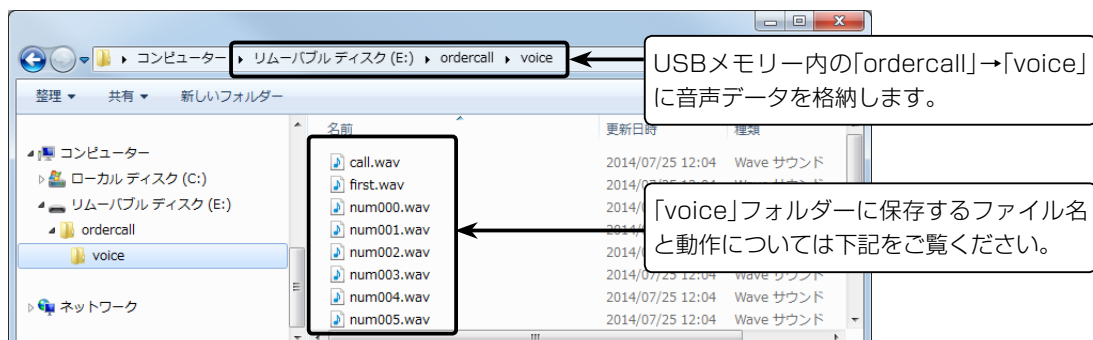


(次ページにつづく)

2 導入ガイド

6. オーダーコールシステムについて

【音声データのファイル名と保存先について】(つづき)



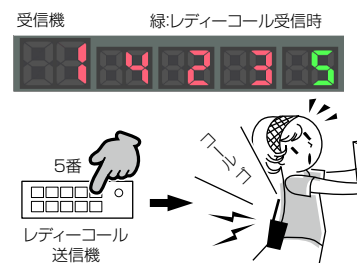
◎レディーコールアナウンス(P.2-32)が「有効(番号通知なし)」に設定されている場合

レディーコールの送信機で呼び出しボタンを押すと、「call.wav」を再生します。
たとえば、「call.wav」が「コール」の場合は、「コール」となります。



◎レディーコールアナウンス(P.2-32)が「有効(番号通知あり)」に設定されている場合

レディーコールの送信機で呼び出しボタンを押すと、「call.wav」と押されたボタンの番号(例: 5)を結合し、再生します。
たとえば、「call.wav」が「コール」の場合は、「コール ゴ」となります。



◎先頭番号付加(P.2-32)が「有効」、または確認アナウンス(P.2-33)が「先頭番号通知」に設定されている場合

オーダーコールシステム受信機の一番左に表示されている番号をアナウンスするときには、「first.wav」と先頭番号(例: 1)を結合し、再生します。
たとえば、「first.wav」が「ファースト」の場合は、「ファースト イチ」となります。



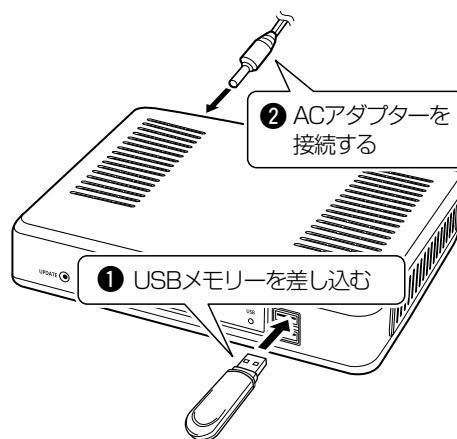
6. オーダーコールシステムについて

オーダーコールシステム連携時の音声データについて(つづき)

【音声データの読み込みについて】

音声データが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んでから、電源を入れてください。

また、[USB]ランプが交互に点滅(※橙色/※緑色)しているときに、USBメモリーを取りはずしたり、本製品の電源を切ったりすると、データ消失や故障の原因になります。



【ご注意】

◎読み込んだ音声データをご利用になる場合は、USBメモリーは本製品に取り付けた状態のまま運用してください。

◎音声データを使わなくなった場合など読み込んだ内容を消去するときは、データ保護のため、必ず本製品の電源を切ってから、USBメモリーを取りはずし、本製品の電源を入れなおしてください。

この章では、
設定の追加や変更が必要と思われる基本的な項目について説明します。

1. 設定画面へのアクセスを制限するには	3-2
設定のしかた	3-2
2. 内部時計を設定するには	3-3
設定のしかた	3-3
3. 本製品のDHCPサーバー機能を使用するには	3-4
設定のしかた	3-4

3 そのほかの基本機能

1. 設定画面へのアクセスを制限するには

出荷時、本製品の設定画面には、[管理者ID(admin)]と[パスワード(admin)]でアクセスできます。
パスワードを設定することで、管理者以外がWWWブラウザから本製品の設定を変更できないようにします。

設定のしかた

- 1 「管理」メニュー、「管理者」の順にクリックします。
「管理者」画面が表示されます。
- 2 [現在のパスワード]、[新しいパスワード]、[新しいパスワード再入力]欄に、任意の英数字/記号(半角31文字以内)で大文字/小文字の区別に注意して入力します。
入力した文字は、すべて* (アスタリスク)、または● (黒丸)で表示されます。

- 3 <登録>をクリックします。
※[ユーザー名]と[パスワード]を求める画面が表示されたときに、変更した新しい管理者パスワードを入力します。

不正アクセス防止のアドバイス

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。
数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものにし、さらに定期的にパスワードを変更すると効果があります。

【ご注意】

管理者パスワードを忘れた場合、設定画面を確認するには、工場出荷時(初期化)の状態に戻す必要があります。
※初期化するときは、5-4ページの内容にしたがって、本製品の<INIT>ボタンを操作してください。

3 そのほかの基本機能

2. 内部時計を設定するには

本製品の内部時計を正確に表示させるため、設定されることをおすすめします。

※本製品の自動時計設定機能を使用する場合についても記載していますので、併せてご覧ください。

設定のしかた

- 1 「管理」メニュー、「時計」の順にクリックします。
「時計」画面が表示されます。
- 2 パソコンから自動取得した時刻が、[時刻設定]項目に表示されていることを確認して、〈設定〉をクリックします。
内部時計に設定された時刻が、[本体の現在時刻]欄に表示されます。
※[設定する時刻]欄に表示されている時刻がパソコンと異なるときは、はじめからやりなおすと正確な時刻を取得できます。
※「時計」画面の〈登録〉では、時刻を設定できません。

時計

時刻設定

本体の現在時刻: 2018年 01月 12日 14時 07分

設定する時刻: 2018 年 01 月 12 日 14 時 07 分 設定

自動時計設定

自動時計設定: ☐ 無効 ☒ 有効

NTPサーバー1: 210.173.160.27

NTPサーバー2: 210.173.160.57

アクセス時間間隔: 1 日

前回アクセス日時: ---/--/-- --:--

次回アクセス日時: 2018/01/13 14:07

SNTPサーバー設定

SNTPサーバー機能: ☐ 無効 ☒ 有効

外部NTPサーバーへの経路が確保できない弊社RoIP機器用です。

登録 取消

※初期に参照しているNTPサーバーは、インターネットマルチフィード株式会社のものです。
<http://www.jst.mfeed.ad.jp/>

【ご注意】

自動時計設定機能は、NTPサーバーへの問い合わせ先(経路)を設定する必要があります。

経路を設定しないときは、問い合わせできませんので、自動時計設定機能をお使いいただけません。

「ネットワーク設定」メニュー→「本体IPアドレス」画面→「IPアドレス設定」項目にある「デフォルトゲートウェイ」欄、または「スタティックルーティング」画面の「スタティックルーティング設定」項目で、ルーティングテーブルを設定してください。

3 そのほかの基本機能

3. 本製品のDHCPサーバー機能を使用するには

本製品のDHCPサーバー機能を使用するときは、下記の手順でDHCPサーバー機能と自動割り当て開始IPアドレスを設定してください。

※本製品を接続するネットワーク上にDHCPサーバーが存在する場合に使用すると、IPアドレスの競合など、ネットワーク障害の原因になりますのでご注意ください。

設定のしかた

- 1 「ネットワーク設定」メニュー、「DHCPサーバー」の順にクリックします。
「DHCPサーバー」画面が表示されます。
- 2 [DHCPサーバー設定]項目で、[DHCPサーバー]欄の「有効」をクリックし、必要に応じて[割り当て開始IPアドレス]などを変更します。
※出荷時や全設定初期化時、本製品のDHCPサーバー機能は、「無効」に設定されています。

The screenshot shows the 'DHCPサーバー' (DHCP Server) configuration page. The title bar is blue with the text 'DHCPサーバー'. Below it, the section 'DHCPサーバー設定' (DHCP Server Settings) is shown. The settings include: 'DHCPサーバー' (DHCP Server) with radio buttons for '無効' (Invalid) and '有効' (Valid), where '有効' is selected; '割り当て開始IPアドレス' (Assigned start IP address) set to '192.168.0.10'; '割り当て個数' (Assigned number of addresses) set to '128' with a unit of '個' (pieces); 'サブネットマスク' (Subnet mask) set to '255.255.255.0'; 'リース期間' (Lease period) set to '72' with a unit of '時間' (hours); and fields for 'ドメイン名' (Domain name), 'デフォルトゲートウェイ' (Default gateway), 'プライマリーDNSサーバー' (Primary DNS server), and 'セカンダリーDNSサーバー' (Secondary DNS server). A '登録' (Register) button is at the bottom right. Three numbered callouts are present: ① points to the '有効' radio button with the label '1クリック' (1 click); ② points to the '割り当て個数' field with the label '2変更する' (2 change); ③ points to the '登録' button with the label '3クリック' (3 click). A text box on the left explains that the start IP address and subnet mask should be set to match the product's network settings.

- 3 「再起動」をクリックします。

This screenshot shows the bottom portion of the DHCP server configuration page. It features a '再起動' (Restart) button with a red warning message next to it: '再起動は、必要が有る場合があります' (Restart may be necessary). Below this is the 'DHCPサーバー設定' (DHCP Server Settings) section, which includes the 'DHCPサーバー' (DHCP Server) radio buttons, with '有効' (Valid) selected. A 'クリック' (Click) label points to the '再起動' button.

※表示される画面にしたがって、本製品を再起動します。

自動割り当て個数について

本製品で設定できる自動割り当て可能なIPアドレスの個数は、0個～128個までです。

出荷時の割り当て開始IPアドレスとサブネットマスクの設定値の場合、理論上割り当て可能なIPアドレスの個数は、最大253個までですが、128個を超える分については、手動でクライアントに割り当ててください。

この章では、
各メニューで表示される設定画面について説明します。

1. 設定画面の名称と機能について	4-4
2. 「TOP」メニュー	4-5
■ 製品情報	4-5
■ ネットワーク情報	4-5
■ ポート情報	4-6
■ 無線機情報	4-7
3. 「情報表示」メニュー	4-8
■ SYSLOG	4-8
■ メモリ使用率	4-9
■ トラフィック統計	4-10
4. 「ネットワーク設定」メニュー	4-11
■ 本体名称	4-11
■ IPアドレス設定	4-12
■ DHCPサーバー設定	4-14
■ 静的DHCPサーバー設定	4-16
■ 静的DHCPサーバー設定一覧	4-16
■ IP経路情報	4-17
■ スタティックルーティング設定	4-18
■ スタティックルーティング設定一覧	4-18
5. 「VoIP通信設定」メニュー	4-19
■ 他拠点通信設定	4-19
■ VoIP拡張設定	4-20
6. 「テナント設定」メニュー	4-23
■ テナント設定	4-23
7. 「VoIPサーバー設定」メニュー	4-24
■ 通話優先順位設定	4-24
■ ブリッジ設定	4-25
■ ブリッジ設定一覧	4-26
■ ブリッジグループ設定	4-27
■ ブリッジグループ設定一覧	4-28
■ 他拠点接続設定	4-29
■ 他拠点設定一覧	4-30
■ 近隣呼出接続設定	4-31
■ アクセスポイント検索設定	4-32
■ 近隣呼出接続設定一覧	4-33

(次ページにつづく)

4 設定画面について

下記は、前ページからの「つづき」です。

8.「無線機設定」メニュー	4-34
■ 無線機管理	4-34
■ TRX番号設定	4-36
■ TRX番号設定一覧	4-38
■ TRX番号一括設定	4-39
■ 無線機個別設定	4-40
■ 無線機個別設定コピー	4-74
■ 無線機個別設定一覧	4-74
9.「設定グループ」メニュー	4-75
■ 無線LAN設定	4-75
■ 無線LAN設定一覧	4-81
■ アドレス帳グループ設定	4-82
■ アドレス帳グループ詳細設定	4-82
■ アドレス帳設定の保存と書き込み	4-83
■ アドレス帳設定	4-85
■ アドレス帳設定一覧	4-87
■ メッセージグループ設定	4-88
■ メッセージグループ詳細設定	4-88
■ メッセージ設定の保存と書き込み	4-89
■ メッセージ設定	4-91
■ プレゼンス設定	4-92
■ 設定グループ設定一覧	4-93
■ 設定グループ設定	4-94
■ 設定グループ一括設定	4-102
10.「呼出先設定」メニュー	4-103
■ 呼出先設定 全体	4-103
■ 呼出先設定 グループ	4-105
■ 呼出先設定 トークグループ	4-107
■ 呼出先設定 個別	4-111
■ 呼出先設定 電話	4-112
■ 呼出先設定一覧(全体)	4-113
■ 呼出先設定一覧(グループ)	4-113
■ 呼出先設定一覧(トークグループ)	4-114
■ 呼出先設定一覧(管理用トークグループ)	4-115
■ 呼出先設定一覧(個別)	4-116
■ 呼出先設定一覧(電話)	4-117
■ 呼出先一括設定	4-118
11.「管理」メニュー	4-119
■ 管理者パスワードの変更	4-119
■ 時刻設定	4-120
■ 自動時計設定	4-121
■ SNTPサーバー設定	4-122
■ SYSLOG設定	4-123
■ SNMP設定	4-124
■ USB設定	4-125
■ PINGテスト	4-126

4 設定画面について

下記は、前ページからの「つづき」です。

■ 経路テスト	4-127
■ 再起動	4-128
■ 設定の保存	4-129
■ 設定の復元	4-129
■ オンライン設定	4-130
■ 設定内容一覧	4-131
■ 初期化	4-132
■ ファームウェア情報	4-133
■ オンライン更新	4-134
■ 自動更新	4-135
■ 手動更新	4-136

4 設定画面について

1. 設定画面の名称と機能について

本製品の設定画面の名称と各画面に含まれる項目を説明します。



ホームページのリンク

インターネットに接続できる環境で、アイコンをクリックすると、弊社のホームページを閲覧できます。

設定画面選択メニュー

各設定画面を用途別に、メニューとしてまとめています。先頭に▼があるメニュー名をクリックすることにより、そのメニューにある設定画面へのリンクを開け閉めできます。※「TOP」をクリックすると、すべての設定画面へのリンクを開け閉めできます。

設定画面表示エリア

設定画面選択メニューで選択されたタイトルの画面を表示します。

※上図は、「ネットワーク設定」メニューの「本体IPアドレス」をクリックしたときに表示される画面です。

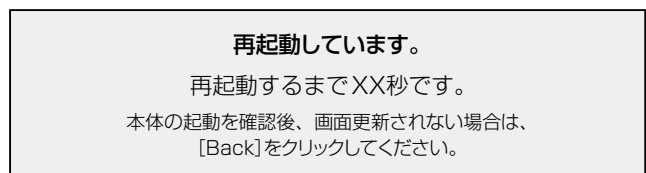
設定ボタン

設定した内容の登録や取り消しをします。

※「登録」をクリックして、「再起動が必要な項目が変更されています。」と表示されるときは、「再起動」をクリックします。

表示された画面にしたがって操作します。

再起動中は、下図を表示します。



※再起動後に、設定した内容が有効となります。

※再起動が完了するまで、[Back]と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックしても、設定画面に戻りません。

しばらくしてから再度操作してください。

※表示画面によって、表示されるボタンの種類や位置が異なります。

4 設定画面について

2.「TOP」メニュー

[「TOP」](#)

■製品情報

ファームウェアのバージョン情報、本製品の本体MACアドレス(LAN)を表示します。

製品情報	
本体名称	IP1000C
IPL	Rev. 1.00
バージョン	Ver. 1.00 Copyright 2010 Icom Inc.
LAN MACアドレス	0090C7000000
内蔵ファームウェアバージョン(IP100H)	Ver. 1.00

※MACアドレスは、本製品のようなネットワーク機器がそれぞれ独自に持っている機器固有の番号で、12桁(0090C7××××××)で表示されています。

※本製品本体に貼られているシリアルシールでも、MACアドレスを確認できます。

※本製品に登録されたIP100Hごとのファームウェアのバージョン情報は、[無線機情報]項目、または「無線機設定」メニューの「無線機管理」画面で確認できます。(P.4-35)

■ネットワーク情報

LAN側のIPアドレスなど、ネットワーク情報を表示します。

ネットワーク情報	
LAN IPアドレス	192.168.1.1
DHCPサーバー	無効

■ポート情報

本製品のポートごとに、通信速度と通信モードを表示します。

ポート情報	
LAN1	100BASE-TX full-duplex
LAN2	未接続
LAN3	未接続
LAN4	未接続

本製品の[LAN]ポートは、接続モードが「自動(Auto)」となっています。

接続する機器側も「自動(Auto)」を設定することで、通信に最適な速度、モードを自動選択します。

※接続する機器を100Mbps、または10Mbpsで固定する場合、半二重(half-duplex)設定にしてください。

弊社製品に限らず、自動(Auto)と固定速度full-duplexとがネゴシエーションする場合、自動(Auto)側はhalf-duplexと認識されることがあり、パフォーマンスが著しく低下する原因になることがあります。

※通信速度に関係なく、接続するHUBを「full-duplex」固定に設定すると、[ポート情報]項目で「half-duplex」と表示されることがあります。

4 設定画面について

2.「TOP」メニュー(つづき)

「TOP」

■無線機情報

本製品に登録しているIP100H、IP100FSのIPアドレスや接続状況などを表示します。

無線機情報							
① テナント1							
② TRX 番号	③ 機種	④ 名前	⑤ 個別番号	⑥ レジスト状態	⑦ IPアドレス	⑧ バージョン	
1	IP100H	営業1	0001	未接続	—	—	
2	IP100H	営業2	0002	接続中	192.168.0.11	Ver. 1.0.0	
3	IP100H	営業3	0003	未接続	—	—	
4	IP100FS	営業4	0004	未接続	—	—	

※画面は、表示例です。

- ① **テナント** 「テナント設定」画面の[テナント番号]項目で設定した番号を表示します。
- ② **TRX番号** 「無線機追加」画面の[TRX番号設定]項目で設定したTRX番号を表示します。
- ③ **機種** 「無線機追加」画面の[TRX番号設定]項目で設定した機種を表示します。
- ④ **名前** 「無線機追加」画面の[TRX番号設定]項目で設定した名前を表示します。
- ⑤ **個別番号** 「無線機追加」画面の[TRX番号設定]項目で設定した個別番号を表示します。
- ⑥ **レジスト状態** 本製品に登録したIP100H、IP100FSの接続状況について、「未接続」、「接続中」などを表示します。
※IP100Hの電源が入っていない、IP100FSが起動していないときなど、本製品に接続していない状態では、「未接続」を表示します。
※「再起動コマンド受信中」、「再起動コマンド受信成功」、「再起動コマンド受信失敗」、「再起動準備中」、「再起動中」、「ファームウェア更新中」、「ファームウェア更新失敗」、「ファームウェアダウンロード中」、「状態通知送信失敗」、「バッテリー不足により失敗」は、「無線機管理」画面でIP100Hの再起動を実行した場合に表示される内容です。
- ⑦ **IPアドレス** 本製品に登録したIP100H、IP100FSが使用しているIPアドレスを表示します。
※IP100Hの電源が入っていない、IP100FSが起動していないときなど、本製品に接続していない状態では、「—」を表示します。
- ⑧ **バージョン** 本製品に登録したIP100H、IP100FSのバージョン情報を表示します。
※IP100Hの電源が入っていない、IP100FSが起動していないときなど、本製品に接続していない状態では、「—」を表示します。

4 設定画面について

3.「情報表示」メニュー

「情報表示」—「SYSLOG」

■SYSLOG

本製品のログ情報を表示します。

※「管理」メニューの「SYSLOG」画面で「有効」に設定し、この画面でチェックマークを入れたレベルのログ情報だけが表示されます。

SYSLOG

現在時刻: 2017/03/15 09:16 (起動時間: 0 days 00:11:25)

① 表示するレベル: ☒DEBUG ☒INFO ☒NOTICE

② 再読み込み

③ クリア

日付・時間	レベル	内容
03/15 09:15:33	INFO	[PROV]: provisioning done.(modelIP100H ip:192.168.0.51)
03/15 09:15:26	INFO	[PROV]: provisioning done.(modelIP100H ip:192.168.0.50)
03/15 09:15:20	INFO	[PROV]: provisioning done.(modeliptrxconfig_2 ip:192.168.0.51)
03/15 09:15:14	INFO	[PROV]: provisioning done.(modeliptrxconfig_1 ip:192.168.0.50)
03/15 09:14:01	INFO	[PROV]: provisioning done.(modelIP100H ip:192.168.0.51)
03/15 09:13:54	INFO	[PROV]: provisioning done.(modelIP100H ip:192.168.0.50)
03/15 09:13:20	INFO	[PROV]: provisioning done.(modelIP100H ip:192.168.0.51)
03/15 09:05:21	NOTICE	Copyright Icom Inc.
03/15 09:05:21	NOTICE	IP1000C Ver

④ 保存

※上図のログ情報は表示例です。

- ① **表示するレベル** …………… ログ情報の各レベルについて、表示/非表示を選択します。
非表示に設定するには、非表示にするレベルのチェックボックスのチェックマーク[✓]をはずして、〈再読み込み〉(②)をクリックします。
(出荷時の設定: ☒DEBUG ☒INFO ☒NOTICE)
※チェックボックスの状態は、保存されません。
設定画面へのアクセスごとに、元の状態に戻ります。
- ② **〈再読み込み〉** …………… [表示するレベル] (①)欄でチェックマーク[✓]のあるレベルについてのSYSLOG情報を最新の状態にするボタンです。
※512件のログ情報を記憶できます。
512件を超えると、古いログ情報から削除されます。
- ③ **〈クリア〉** …………… ログ情報を削除するボタンです。
※電源を切る、または設定の変更や初期化に伴う再起動でも、それまでのログ情報は削除されます。
- ④ **〈保存〉** …………… 本製品の内部に蓄積され、[表示するレベル] (①)欄で選択したレベルの最新ログ情報を保存するボタンです。
※クリックして、表示された画面にしたがって操作すると、ログ情報をテキスト形式(拡張子: txt)で保存できます。

4 設定画面について

3.「情報表示」メニュー(つづき)

「情報表示」―「統計情報」

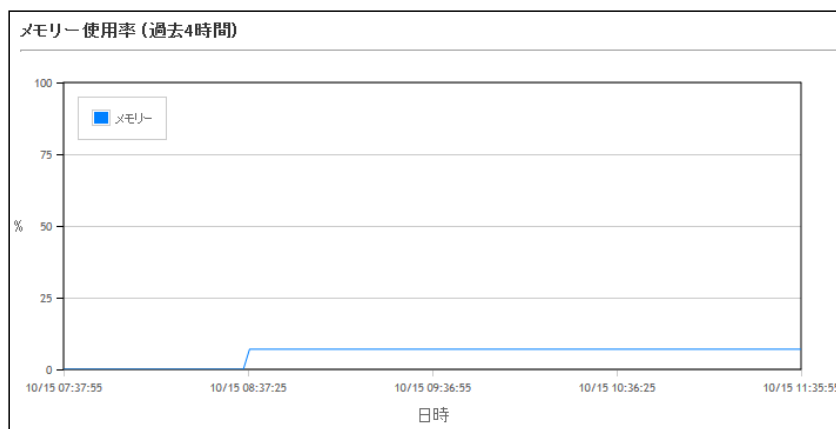
■メモリー使用率

本製品のメモリー使用率について、統計グラフを表示します。

※[メモリー使用率]項目の各設定内容は、設定画面へのアクセスごとに、出荷時の状態に戻ります。

メモリー使用率	
① 表示間隔:	2分 ▼
② 自動リロード:	☐ 無効 ☒ 有効
③ 表示	

- ① **表示間隔** グラフに表示するサンプリング間隔を、「2分」、「1時間」から選択します。
(出荷時の設定：2分)
- ② **自動リロード** 定期的にグラフを再描画するかどうかを設定します。(出荷時の設定：有効)
※再描画する間隔は、[表示間隔](①)欄で設定した時間になります。
- ③ **〈表示〉** クリックすると、メモリー使用率グラフを別画面で表示します。
【メモリー使用率グラフについて】



※上図は、表示例です。

※横軸は日時、縦軸はメモリー使用率を表示します。

4 設定画面について

3.「情報表示」メニュー(つづき)

「情報表示」―「統計情報」

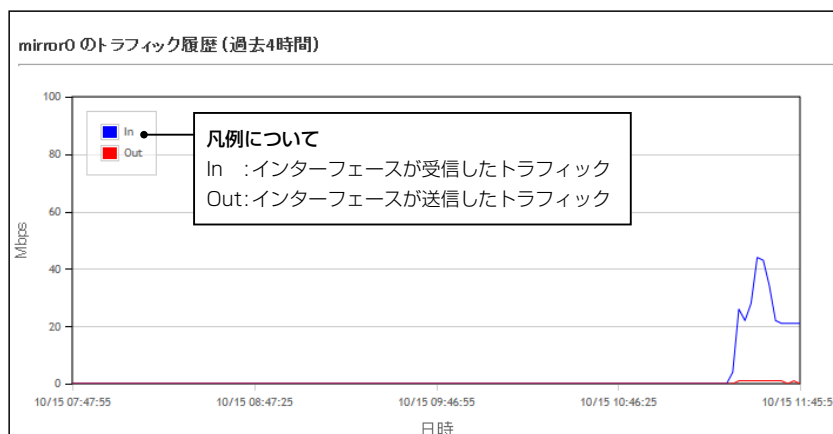
■トラフィック統計

本製品のインターフェースごとに、トラフィックの統計グラフを表示します。

※[トラフィック統計]項目の各設定内容は、設定画面へのアクセスごとに、出荷時の状態に戻ります。

トラフィック統計	
① 表示間隔:	2分 ▼
② 自動リロード:	☐ 無効 ☒ 有効
③ 表示	

- ① 表示間隔 グラフに表示するサンプリング間隔を、「2分」、「1時間」から選択します。
(出荷時の設定：2分)
- ② 自動リロード 定期的にグラフを再描画するかどうかを設定します。(出荷時の設定：有効)
※再描画する間隔は、[表示間隔](①)欄で設定した時間になります。
- ③ <表示> クリックすると、トラフィック統計グラフを別画面で表示します。
【トラフィック統計グラフについて】



※上図は、表示例です。

※横軸は日時、縦軸はトラフィックの状態を表示します。

4 設定画面について

4.「ネットワーク設定」メニュー

「ネットワーク設定」－「本体IPアドレス」

■本体名称

本製品の名称を設定します。

本体名称	
本体名称:	JP1000C

本体名称.....

「Telnet」で本製品に接続したとき、ここで設定した本体名称を表示します。
(出荷時の設定：JP1000C)

※半角英数字(a～z、A～Z、0～9、-)を、任意の31文字以内で設定します。

なお、半角英数字以外の文字は、使用しないでください。

※「- (ハイフン)」を本体名称の先頭、または末尾に使用すると、登録できません。

4 設定画面について

4.「ネットワーク設定」メニュー(つづき)

「ネットワーク設定」-「本体IPアドレス」

■IPアドレス設定

本製品のIPアドレスを設定します。

IPアドレス設定	
① IPアドレス:	192.168.0.1
② サブネットマスク:	255.255.255.0
③ デフォルトゲートウェイ:	
④ プライマリーDNSサーバー:	
⑤ セカンダリーDNSサーバー:	
⑥ 登録 ⑦ 取消	

① IPアドレス

本製品のIPアドレスを入力します。 (出荷時の設定: 192.168.0.1)
本製品を現在稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたネットワークアドレスに変更してください。
※本製品のDHCPサーバー機能を使用する場合は、[DHCPサーバー設定]項目の[割り当て開始IPアドレス]欄についてもネットワーク部と同じに設定してください。(P.4-14)

② サブネットマスク

本製品のサブネットマスク(同じネットワークで使用するIPアドレスの範囲)を設定します。 (出荷時の設定: 255.255.255.0)
※本製品を現在稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたサブネットマスクに変更してください。

【例: 「255.255.255.248」に設定する場合】

同じネットワークで使用するIPアドレスの範囲は、「192.168.0.0～192.168.0.7」になります。
この場合、端末に割り当てできるIPアドレスの範囲は、「192.168.0.2～192.168.0.6」です。
なお、端末に割り当てできないIPアドレスは次のようになります。
「192.168.0.0」: ネットワークアドレス
「192.168.0.1」: 本製品のIPアドレス
「192.168.0.7」: ブロードキャストアドレス

③ デフォルトゲートウェイ

本製品のIPアドレスとネットワーク部が異なる接続先と通信する場合、パケット転送先機器のIPアドレスを入力します。
※本製品と同じIPアドレスは登録できません。

4 設定画面について

4.「ネットワーク設定」メニュー

「ネットワーク設定」-「本体IPアドレス」

■ IPアドレス設定(つづき)

IPアドレス設定	
① IPアドレス:	192.168.0.1
② サブネットマスク:	255.255.255.0
③ デフォルトゲートウェイ:	
④ プライマリーDNSサーバー:	
⑤ セカンダリーDNSサーバー:	
⑥ 登録 ⑦ 取消	

- ④ **プライマリーDNSサーバー** 本製品がアクセスするDNSサーバーのアドレスを入力します。
※ファームウェアの自動更新を使用する場合に設定が必要です。(P.4-134)
※使い分けたいアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力してください。
- ⑤ **セカンダリーDNSサーバー** [プライマリーDNSサーバー](④)欄と同様に、本製品がアクセスするDNSサーバーのアドレスを入力します。
※ファームウェアの自動更新を使用する場合に設定が必要です。(P.4-134)
※必要に応じて、使い分けたいDNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。
- ⑥ **〈登録〉** [本体名称]項目、[IPアドレス設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑦ **〈取消〉** [本体名称]項目、[IPアドレス設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

4.「ネットワーク設定」メニュー(つづき)

「ネットワーク設定」-「DHCPサーバー」

■DHCPサーバー設定

本製品のDHCPサーバー機能を設定します。

DHCPサーバー設定	
① DHCPサーバー:	☒ 無効 ☐ 有効
② 割り当て開始IPアドレス:	192.168.0.10
③ 割り当て個数:	128 個
④ サブネットマスク:	255.255.255.0
⑤ リース期間:	72 時間
⑥ ドメイン名:	
⑦ デフォルトゲートウェイ:	
⑧ プライマリーDNSサーバー:	
⑨ セカンダリーDNSサーバー:	
⑩ プライマリーWINSサーバー:	
⑪ セカンダリーWINSサーバー:	
⑫ 登録 ⑬ 取消	

- ① DHCPサーバー 本製品のDHCPサーバー機能を設定します。 (出荷時の設定：無効)
「有効」に設定すると、[DHCPサーバー設定]項目の②～⑪に設定された内容にしたがって、DHCPサーバーとして動作します。
- ② 割り当て開始IPアドレス 本製品に接続する端末へ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。 (出荷時の設定：192.168.0.10)
- ③ 割り当て個数 本製品が自動割り当てできるIPアドレスの個数を設定します。 (出荷時の設定：128)
[割り当て開始IPアドレス](②)欄に設定されたIPアドレスから連続で自動割り当てできるIPアドレスの最大個数は、「0～128」(個)までです。
※128個を超える分については設定できませんので、手動でクライアントに割り当ててください。
※「0」を設定したときは、自動割り当てをしません。
- ④ サブネットマスク [割り当て開始IPアドレス](②)欄に設定されたIPアドレスに対するサブネットマスクです。 (出荷時の設定：255.255.255.0)
- ⑤ リース期間 DHCPサーバーが割り当てるIPアドレスの有効期間を時間で指定します。設定できる範囲は、「1～9999」(時間)です。 (出荷時の設定：72)
- ⑥ ドメイン名 指定のドメイン名を設定する必要があるときは、DHCPサーバーが有線で接続する端末に通知するネットワークアドレスのドメイン名を127文字(半角英数字)以内で入力します。

4 設定画面について

4.「ネットワーク設定」メニュー

「ネットワーク設定」-「DHCPサーバー」

■ DHCPサーバー(つづき)

DHCPサーバー設定

① DHCPサーバー:

☒無効 ☐有効

② 割り当て開始IPアドレス:

③ 割り当て個数:

個

④ サブネットマスク:

⑤ リース期間:

時間

⑥ ドメイン名:

⑦ デフォルトゲートウェイ:

⑧ プライマリーDNSサーバー:

⑨ セカンダリーDNSサーバー:

⑩ プライマリーWINSサーバー:

⑪ セカンダリーWINSサーバー:

⑫ 登録

⑬ 取消

⑦ デフォルトゲートウェイ

本製品のDHCPサーバー機能を使用するときに、[割り当て開始IPアドレス] (②) 欄のIPアドレスとネットワーク部が異なる接続先と通信する場合、パケット転送先機器のIPアドレスを入力します。
※本製品のIPアドレスと重複しないように設定してください。

⑧ プライマリーDNS

サーバー

DNSサーバーを利用する場合は、DNSサーバーアドレスを入力します。
DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力します。

⑨ セカンダリーDNS

サーバー

[プライマリーDNSサーバー] (⑧) 欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。

⑩ プライマリーWINS

サーバー

WINSサーバーを利用する場合は、WINSサーバーアドレスを入力します。
WINSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力します。

⑪ セカンダリーWINS

サーバー

[プライマリーWINSサーバー] (⑩) 欄と同様、WINSサーバーのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。

⑫ <登録>

[DHCPサーバー設定] 項目で設定した内容を登録するボタンです。

⑬ <取消>

[DHCPサーバー設定] 項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻るボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

4.「ネットワーク設定」メニュー(つづき)

「ネットワーク設定」-「DHCPサーバー」

■静的DHCPサーバー設定

固定IPアドレスを特定の端末に割り当てる設定です。

静的DHCPサーバー設定		
MACアドレス	IPアドレス	
		追加

静的DHCPサーバー設定 ...

端末のMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録します。

※本製品のDHCPサーバー機能を使用する場合に有効です。(P4-14)

※入力後は、〈追加〉をクリックしてください。

※最大32個の組み合わせまで登録できます。

※DHCPサーバー機能により自動で割り当てられるIPアドレスの範囲外でIPアドレスを設定してください。

例：[DHCPサーバー設定]項目(P.4-14)で、[開始IPアドレス]欄と[割り当て個数]欄が出荷時の設定の場合は、192.168.0.138以降のIPアドレスを設定してください。

※本製品のIPアドレスと重複しないように設定してください。

■静的DHCPサーバー設定一覧

[静的DHCPサーバー設定]項目で登録した内容を表示します。

静的DHCPサーバー設定一覧		
MACアドレス	IPアドレス	
00-90-C7-99-99-99	192.168.0.150	削除

※画面の値は、登録例です。

〈削除〉.....

登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

4 設定画面について

4.「ネットワーク設定」メニュー(つづき)

「ネットワーク設定」-「スタティックルーティング」

■IP経路情報

本製品が送信パケットをどのルーター、またはどの端末に配送すべきかの情報を表示します。

IP経路情報				
①宛先	②サブネットマスク	③ゲートウェイ	④経路	⑤作成
127.0.0.1	255.255.255.255	127.0.0.1	lo0	host
192.168.0.0	255.255.255.0	192.168.0.1	mirror0	misc
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	lo0	host

※この項目には、現在有効な経路だけを表示します。

- ①宛先 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。
- ②サブネットマスク ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するサブネットマスクを表示します。
- ③ゲートウェイ ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。
- ④経路 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェースを表示します。
◎lo0 : ループバックアドレスを意味するインターフェース
◎mirror0 : インターフェースがLANの場合
- ⑤作成 どのように経路情報が作成されたかを表示します。
◎static : スタティック(定義された)ルートにより作成
◎misc : ブロードキャストに関係するフレーム処理で作成
◎host : ホストルートにより作成

4 設定画面について

4.「ネットワーク設定」メニュー(つづき)

「ネットワーク設定」-「スタティックルーティング」

■スタティックルーティング設定

パケットの中継経路を最大32件まで登録できます。

スタティックルーティング設定			
①宛先	②サブネットマスク	③ゲートウェイ	④
192.168.10.0	255.255.255.0	192.168.0.254	追加

※画面の値は、入力例です。

- ①宛先 対象となる相手先のIPアドレスを入力します。
- ②サブネットマスク 対象となる宛先のIPアドレスに対するサブネットマスクを入力します。
- ③ゲートウェイ パケット転送先ルーターのIPアドレスを入力します。
- ④〈追加〉 クリックすると、入力内容が登録され、[スタティックルーティング設定一覧]項目に表示します。

■スタティックルーティング設定一覧

[スタティックルーティング設定]項目で登録した内容を表示します。

スタティックルーティング設定一覧			
宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	
192.168.10.0	255.255.255.0	192.168.0.254	削除

※画面の値は、登録例です。

- 〈削除〉..... 登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

4 設定画面について

5.「RoIP通信設定」メニュー

「RoIP通信設定」

■他拠点通信設定

本製品の他拠点通信機能について設定します。

他拠点通信設定	
① 他拠点接続:	☐ 無効 ☒ 有効
② 他拠点通信モード:	☒ サブ ☐ マスター
③ 自局ポート番号:	32000

※説明のため、[他拠点接続] (①) 欄を「有効」を設定したときに表示される画面を掲載しています。

- ① **他拠点接続** 本製品の他拠点通信機能について設定します。 (出荷時の設定：無効)
「有効」に設定すると、ほかのコントローラー(他拠点)と接続して、それぞれに登録されたIP100H、IP100FSが通信できるようになります。
※「RoIPサーバー設定」メニューの「他拠点接続」画面で、接続先の機器(他拠点)を登録します。
※他拠点通信機能を利用すると、ブリッジモードのVE-PG3と接続して通信できます。
- ② **他拠点通信モード** 複数のコントローラー(他拠点)と接続するときの通信モードを、「サブ」、「マスター」から選択します。 (出荷時の設定：サブ)
本製品の他拠点通信機能では、1台のマスターに対して最大10台のサブ(他拠点)が接続できます。
※複数台のコントローラーを他拠点接続し、グループや全体呼び出しをする場合、サブはブリッジモードのVE-PG3を他拠点として設定できません。
その場合は、マスターに接続するように設定してください。
- ③ **自局ポート番号** 音声信号を受信するためのポート番号を設定します。 (出荷時の設定：32000)
※設定できる範囲は、「2～65534」の偶数値だけです。
通信には、設定したポート番号(RTP)と設定したポート番号+1(RTCP)の2つを使用します。
※音声信号の送信元ポート番号としても使用します。
※ほかの機器で使用する自局ポート番号と重複しないように設定してください。

4 設定画面について

5.「RoIP通信設定」メニュー

「RoIP通信設定」

■VoIP拡張設定

本製品の通話音質について設定します。

※下記のように、TOS種別の設定ごとに[VoIP拡張設定]項目の内容が変更になります。

TOS種別：使用しない

VoIP拡張設定	
① ジッターバッファ種別:	☒ スタティック ☐ ダイナミック
② ジッターバッファサイズ:	40 ミリ秒
③ TOS種別:	使用しない
⑤ 登録 ⑥ 取消	

TOS種別：TOS

VoIP拡張設定	
① ジッターバッファ種別:	☒ スタティック ☐ ダイナミック
② ジッターバッファサイズ:	40 ミリ秒
③ TOS種別:	TOS
④ メディア(RTP):	優先度 7 サービスタイプ 0 16進表示:E0
⑤ 登録 ⑥ 取消	

TOS種別：Diffserv

VoIP拡張設定	
① ジッターバッファ種別:	☒ スタティック ☐ ダイナミック
② ジッターバッファサイズ:	40 ミリ秒
③ TOS種別:	Diffserv
④ メディア(RTP):	DSCP 56 16進表示:E0
⑤ 登録 ⑥ 取消	

※上図は、[ジッターバッファ種別] (①)欄で「スタティック」を選択したときに表示される内容です。

① ジッターバッファ種別

パケットの揺らぎによる音声途切れを軽減するために使用するジッターバッファを、「スタティック」、「ダイナミック」から選択します。

(出荷時の設定：ダイナミック)

◎スタティック

音声を受信したとき、[ジッターバッファサイズ] (②)欄で設定した時間で音声データを蓄えます。

◎ダイナミック

音声を受信したとき、揺らぎに応じて音声データを蓄える時間が変動します。

② ジッターバッファサイズ

音声を受信したとき、音声データを蓄える時間を設定します。

(出荷時の設定：40)

設定できる範囲は、「20」(ミリ秒)～「1000」(ミリ秒)です。

設定する時間が短いほど遅延は少なくなりますが、音声途切れやすくなります。

※[ジッターバッファ種別] (①)欄で「ダイナミック」を選択したときは、表示されない項目です。

4 設定画面について

5.「VoIP通信設定」メニュー

「VoIP通信設定」

■ VoIP拡張設定(つづき)

TOS種別：使用しない

VoIP拡張設定	
① ジッターバッファ種別:	☒ スタティック ☐ ダイナミック
② ジッターバッファサイズ:	40 ミリ秒
③ TOS種別:	使用しない
⑤ 登録 ⑥ 取消	

TOS種別：TOS

VoIP拡張設定	
① ジッターバッファ種別:	☒ スタティック ☐ ダイナミック
② ジッターバッファサイズ:	40 ミリ秒
③ TOS種別:	TOS
④ メディア(RTP):	優先度 7 サービスタイプ 0 16進表示:E0
⑤ 登録 ⑥ 取消	

TOS種別：Diffserv

VoIP拡張設定	
① ジッターバッファ種別:	☒ スタティック ☐ ダイナミック
② ジッターバッファサイズ:	40 ミリ秒
③ TOS種別:	Diffserv
④ メディア(RTP):	DSCP 56 16進表示:E0
⑤ 登録 ⑥ 取消	

※上図は、[ジッターバッファ種別] (①)欄で「スタティック」を選択したときに表示される内容です。

③TOS種別 本製品のTOS機能について設定します。 (出荷時の設定：使用しない)

◎使用しない

TOS機能を使用しません。

◎TOS

TOS(Type Of Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。

RFC1349に準拠して、1ビット～3ビットを優先度、4ビット～7ビットをサービスタイプとして、10進数で設定します。

残りの1ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎Diffserv

Diffserv(Differentiated Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。

1ビット～6ビットをDSCPとして、10進数で設定します。

残りの2ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。

4 設定画面について

5.「VoIP通信設定」メニュー

「VoIP通信設定」

■ VoIP拡張設定(つづき)

TOS種別：使用しない

VoIP拡張設定	
① ジッターバッファ種別:	☒ スタティック ☐ ダイナミック
② ジッターバッファサイズ:	40 ミリ秒
③ TOS種別:	使用しない
⑤ 登録 ⑥ 取消	

TOS種別：TOS

VoIP拡張設定	
① ジッターバッファ種別:	☒ スタティック ☐ ダイナミック
② ジッターバッファサイズ:	40 ミリ秒
③ TOS種別:	TOS
④ メディア(RTP):	優先度 7 サービスタイプ 0 16進表示:E0
⑤ 登録 ⑥ 取消	

TOS種別：Diffserv

VoIP拡張設定	
① ジッターバッファ種別:	☒ スタティック ☐ ダイナミック
② ジッターバッファサイズ:	40 ミリ秒
③ TOS種別:	Diffserv
④ メディア(RTP):	DSCP 56 16進表示:E0
⑤ 登録 ⑥ 取消	

※上図は、[ジッターバッファ種別] (①)欄で「スタティック」を選択したときに表示される内容です。

④メディア(RTP)： ………

TOSフィールド内に出力された音声パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

◎優先度

TOSの優先度フィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。 (出荷時の設定：7)

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ

TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～15」(10進数)です。 (出荷時の設定：0)

◎DSCP

DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。

設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。 (出荷時の設定：56)

⑤<登録> ……………

[VoIP拡張設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

⑥<取消> ……………

[VoIP拡張設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。

なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

6.「テナント設定」メニュー

「テナント設定」

■テナント設定

本製品に所属するIP100H、IP100FSをシステム上の管理目的で分けるテナント(例：警備会社/管理会社)を設定します。

※異なるテナント間では通信できません。

テナント設定	
①テナント番号:	1 ▼
②テナント名:	テナント1
③ 登録 ④ 取消	

①テナント番号 …………… 登録、または編集するテナントの番号を選択します。 (出荷時の設定：1)
最大10件のテナントを登録できます。

※登録したテナントごとの設定内容は、下記のメニューに表示され、編集できます。

- 「RoIPサーバー設定」メニュー
- 「無線機設定」メニュー
- 「設定グループ」メニュー(※「無線LAN」画面以外)
- 「呼出先設定」メニュー

②テナント名 …………… [テナント番号](①)欄で選択したテナントの名前を、任意の半角31文字(全角15)以内で入力します。 (出荷時の設定：テナント1)

※テナント名は、下記のメニューの各画面上部に表示されます。

- 「RoIPサーバー設定」メニュー
- 「無線機設定」メニュー
- 「設定グループ」メニュー(※「無線LAN」画面以外)
- 「呼出先設定」メニュー

無線機追加(テナント1)	
テナント名表示部	
TRX番号設定	
TRX番号:	1 ▼
機種:	IP100H ▼

※上図は、表示例です。

③〈登録〉 …………… [テナント設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

④〈取消〉 …………… [テナント設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

7.「RoIPサーバー設定」メニュー

「RoIPサーバー設定」-「RoIPサーバー」

■通話優先順位設定

呼出種別の優先順位を設定します。

通話優先順位設定	
① 通話優先順位:	1(電話) 2(全体) 3(個別) 4(グループ) 1(電話) 2(全体) 3(グループ) 4(個別) 1(電話) 2(個別) 3(全体) 4(グループ) 1(電話) 2(個別) 3(グループ) 4(全体) 1(電話) 2(グループ) 3(全体) 4(個別) 1(電話) 2(グループ) 3(個別) 4(全体)
	② 登録 ③ 取消

※画面の値は、設定例です。

- ①**通話優先順位** 呼出種別の優先順位を変更するときに設定します。
(出荷時の設定：1(電話) 2(全体) 3(個別) 4(グループ))
※選択できる設定値は、上図をご覧ください。
※呼出種別ごとの優先度は、1-12ページ、または4-45ページをご覧ください。
- ②**〈登録〉** [通話優先順位設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ③**〈取消〉** [通話優先順位設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。

4 設定画面について

7.「RoIPサーバー設定」メニュー(つづき)

「RoIPサーバー設定」-「ブリッジ」

■ブリッジ設定

本製品とVE-PG3がブリッジ接続するための設定です。

ブリッジ設定	
① 番号:	1
② 接続先アドレス:	172.22.69.251
③ 接続先ポート番号:	21530
④ 自局ポート番号:	21530
⑤ 登録 ⑥ 取消	

※画面の値は、設定例です。

- | | |
|------------------|---|
| ① 番号 | ブリッジ接続するVE-PG3を登録するために、「1」～「20」の番号を選択します。
最大20件まで登録できます。 |
| ② 接続先アドレス | 接続する相手側のVE-PG3に設定されたIPアドレス、またはドメイン名を
半角英数字(63文字以内)で設定します。 |
| ③ 接続先ポート番号 | 接続する相手側のVE-PG3に設定された[自局ポート番号]欄を設定します。
※設定できる範囲は、「2～65534」の偶数値だけです。
通信には、設定したポート番号(RTP)と設定したポート番号+1(RTCP)
の2つを使用します。 |
| ④ 自局ポート番号 | 音声信号を受信するためのポート番号を設定します。
※設定できる範囲は、「2～65534」の偶数値だけです。
通信には、設定したポート番号(RTP)と設定したポート番号+1(RTCP)
の2つを使用します。
※音声信号の送信元ポート番号としても使用します。
※ほかの機器で使用する自局ポート番号と重複しないように設定してくださ
い。 |
| ⑤<登録> | [ブリッジ設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[ブリッジ設定一覧]項目に表示されます。 |
| ⑥<取消> | [ブリッジ設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタン
です。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。 |

4 設定画面について

7.「RoIPサーバー設定」メニュー(つづき)

「RoIPサーバー設定」-「ブリッジ」

■ブリッジ設定一覧

[ブリッジ設定]項目で登録した接続先の一覧です。

ブリッジ設定一覧					
番号	接続先アドレス	接続先ポート番号	自局ポート番号	①	②
1	172.22.69.251	21530	21530	編集	削除
2	172.22.69.251	21532	21532	編集	削除
3	172.22.69.251	21534	21534	編集	削除
4	172.22.69.251	21536	21536	編集	削除
				③ 全削除	

※画面の値は、設定例です。

- ①<編集> クリックすると、登録内容を編集できます。
編集内容は、[ブリッジ設定]項目に表示されます。
- ②<削除> クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ③<全削除> クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

■ブリッジグループ設定

ブリッジ接続したVE-PG3への経路をグループにすると、発信時にグループ内で空いている経路を選択できます。

ブリッジグループ設定

① 番号:

② 名前:

③ 所属するブリッジ

1	2	3	4																
▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼

④ 追加 ⑤ 取消

※画面の値は、設定例です。

- ① **番号** ブリッジ接続する機器をグループにするために、「1」～「20」の番号を選択します。
最大20件まで登録できます。
- ② **名前** 任意の名称を、半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ③ **所属するブリッジ** [ブリッジ設定]項目で設定した内容から、グループに登録するブリッジを選択します。
- ④ **〈追加〉** [ブリッジグループ設定]項目で設定した内容を追加するボタンです。
クリックすると、[ブリッジグループ設定一覧]項目に表示されます。
- ⑤ **〈取消〉** [ブリッジグループ設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈追加〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

7.「RoIPサーバー設定」メニュー(つづき)

「RoIPサーバー設定」-「ブリッジ」

■ブリッジグループ設定一覧

[ブリッジグループ設定]項目で登録した接続先の一覧です。

ブリッジグループ設定一覧			
番号	名前	所属するブリッジ	
1	PG3最大ブリッジ数	1 2 3 4	① 編集 ② 削除 ③ 全削除

※画面の値は、設定例です。

- ①<編集> クリックすると、登録内容を編集できます。
編集内容は、[ブリッジグループ設定]項目に表示されます。
- ②<削除> クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ③<全削除> クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

■他拠点接続設定

ほかのコントローラーやVE-PG3(ブリッジモード)と他拠点接続するための設定です。

他拠点接続設定	
① 番号:	1 ▼
② 名前:	営業所1
③ 接続先アドレス:	192.168.0.2
④ 接続先ポート番号:	32000
⑤ 登録 ⑥ 取消	

※画面の値は、設定例です。

- | | |
|------------------|---|
| ① 番号 | 他拠点接続するコントローラーやVE-PG3(ブリッジモード)を登録するために、「1」～「100」の番号を選択します。
最大100件まで登録できます。 |
| ② 名前 | 任意の名称を、半角31(全角15)文字以内で入力します。 |
| ③ 接続先アドレス | 接続する相手側のコントローラーやVE-PG3(ブリッジモード)に設定されたIPアドレス、またはドメイン名を半角英数字(63文字以内)で設定します。 |
| ④ 接続先ポート番号 | 接続する相手側のコントローラーに設定された[自局ポート番号]欄を設定します。
※設定できる範囲は、「2～65534」の偶数値だけです。
通信には、設定したポート番号(RTP)と設定したポート番号+1(RTCP)の2つを使用します。 |
| ⑤ <登録> | [他拠点接続設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[他拠点設定一覧]項目に表示されます。 |
| ⑥ <取消> | [他拠点接続設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。 |

4 設定画面について

7.「RoIPサーバー設定」メニュー(つづき)

「RoIPサーバー設定」-「他拠点接続」

■他拠点設定一覧

[他拠点接続設定]項目で登録した接続先の一覧です。

他拠点設定一覧					
番号	名前	接続先アドレス	接続先ポート番号	①	②
1	営業所1	192.168.0.2	32000	編集	削除
2	営業所2	192.168.0.3	32000	編集	削除
				全削除	

※画面の値は、設定例です。

- ①<編集> クリックすると、登録内容を編集できます。
編集内容は、[他拠点接続設定]項目に表示されます。
- ②<削除> クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ③<全削除> クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

4 設定画面について

7.「RoIPサーバー設定」メニュー(つづき)

「RoIPサーバー設定」-「近隣呼出接続」

■近隣呼出接続設定

特定のエリアに限定して運用をするための設定です。

近隣呼出機能を使用してIP100Hが全体/グループ呼び出しをすると、IP100Hが接続している無線アクセスポイントと同一エリア内の無線アクセスポイントに接続しているIP100Hを呼び出します。

※IP100FSから近隣呼出機能を使用する場合は、無線アクセスポイント(エリア)を指定して呼び出します。

近隣呼出接続設定

① 番号:

② 名前:

③ BSSID

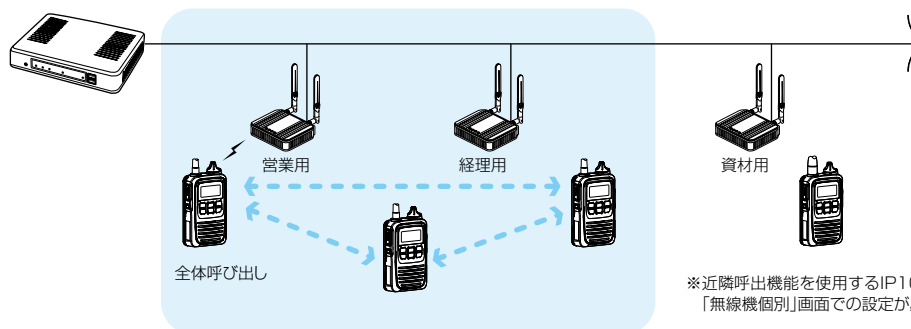
BSSID			
00-90-C7-	00-90-C7-		

④ 登録 ⑤ 取消

※画面の値は、設定例です。

- ① 番号 近隣呼出機能を使用して呼び出すエリアを登録するために、「1」～「20」の番号を選択します。
最大20件まで登録できます。
- ② 名前 任意の名称(例：1Fフロア)を、半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ③ BSSID 近隣呼出機能を使用して呼び出すエリア内にある無線アクセスポイント(例：営業用と経理用)の[BSSID]を12桁(16進数)の半角英数字で入力します。
※同一エリア内に最大20件まで無線アクセスポイントを登録できます。
- ④ 登録 [近隣呼出接続設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[近隣呼出接続設定一覧]項目に表示されます。
- ⑤ 取消 [近隣呼出接続設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお登録をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

【IP100Hから近隣呼出機能で全体呼び出しをした場合】



■アクセスポイント検索設定

同一ネットワーク上の無線アクセスポイントを検索して、近隣呼出機能を使用するエリアとして登録できます。

※2018年1月現在、対応する無線アクセスポイントは、AP-90M、AP-90MR、AP-900、AP-9000、SE-900（アクセスポイントモード時）です。

アクセスポイント検索設定

※アクセスポイント検索に対応した機種のみ検索できます。

① 検索IPアドレス: ~

② ☐ すべて

②	本体名称	IPアドレス	BSSID	③ 名前	④ 番号	⑤
☐	AP-90M	■■■■■■■■	00-90-C7-■■■■■■■■		1 ▼	登録
☐	AP-90M	■■■■■■■■	00-90-C7-■■■■■■■■		1 ▼	登録

⑥ 選択登録

検索

※画面の値は、設定例です。

- ① **検索IPアドレス** 無線アクセスポイントを検索するIPアドレスの範囲を指定して、〈検索〉をクリックします。
検索された無線アクセスポイントは、一覧表に表示されます。
- ② **選択ボックス** 検索された複数の無線アクセスポイントを登録するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
- ③ **名前** [番号]欄で選択した番号に対するエリア名が表示されます。
※エリア名は、[近隣呼出接続設定]項目の[番号]欄で登録します。
- ④ **番号** 登録するエリアを、[近隣呼出接続設定]項目の番号から選択します。
- ⑤ **〈登録〉** [アクセスポイント検索設定]項目で検索された無線アクセスポイントを登録するボタンです。
- ⑥ **〈選択登録〉** [選択ボックス](②)欄で選択した無線アクセスポイントを登録するボタンです。

4 設定画面について

7.「RoIPサーバー設定」メニュー(つづき)

「RoIPサーバー設定」-「近隣呼出接続」

■近隣呼出接続設定一覧

[近隣呼出接続設定]項目で登録した内容を表示します。

近隣呼出接続設定一覧				
番号	名前	BSSID	①	②
1	営業所1	00-90-C7- 	編集	削除
2	営業所2	00-90-C7- 	編集	削除
4	営業所4	00-90-C7- 	編集	削除
5	営業所5	00-90-C7- 	編集	削除
6	営業所6	00-90-C7- 	編集	削除
10	営業所10	00-90-C7- 	編集	削除
11	営業所11	 	編集	削除
12	営業所12	 	編集	削除
13	営業所13	 	編集	削除
20	営業所20	00-90-C7- 	編集	削除
			③ 全削除	

※画面の値は、設定例です。

- ①<編集> クリックすると、登録内容を編集できます。
編集内容は、[近隣呼出接続設定]項目に表示されます。
- ②<削除> クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ③<全削除> クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機管理」

■無線機管理

本製品に登録しているIP100H、IP100FSの状態を確認して、必要に応じて、本製品からIP100Hを一斉に再起動できます。

無線機管理										
										(7) レジスト状態の更新
(1) ☐ すべて	TRX番号	機種	名前	個別番号	(2) レジスト状態	(3) IPアドレス	(4) プレゼンス	(5) トークグループ	(6) 位置情報	(8) バージョン
☐	1	IP100H	営業1	0001	接続中	192.168.0.10	会議中	1	00-90-C7-	Ver.
☐	2	IP100H	営業2	0002	接続中	192.168.0.11	休憩中	1	00-90-C7-	Ver.
☐	3	IP100H	営業3	0003	未接続	-	-	-	-	-
☐	4	IP100FS	営業4	0004	未接続	-	-	-	-	-

選択無線機再起動

(9) ファームウェアの強制更新: ☒無効 ☐有効

(10) 無線機再起動:

※画面は、表示例です。

※設定内容が変更され、再起動が必要な場合、または再起動中は、太字で表示します。

- ① **選択ボックス** 再起動させたいIP100Hを複数選択するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※IP100FSや「接続中」と表示されていないIP100Hは選択できません。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
- ② **レジスト状態** 本製品に登録したIP100H、IP100FSの接続状況について、「未接続」、「接続中」などを表示します。
※IP100Hの電源が入っていない、IP100FSが起動していないときなど、本製品に接続していない状態では、「未接続」を表示します。
※「再起動コマンド受信中」、「再起動コマンド受信成功」、「再起動コマンド受信失敗」、「再起動準備中」、「再起動中」、「ファームウェア更新中」、「ファームウェア更新失敗」、「ファームウェアダウンロード中」、「状態通知送信失敗」、「バッテリー不足により失敗」は、「無線機管理」画面でIP100Hの再起動を実行した場合に表示される内容です。
- ③ **IPアドレス** 本製品に登録したIP100H、IP100FSが使用しているIPアドレスを表示します。
※IP100Hの電源が入っていない、IP100FSが起動していないときなど、本製品に接続していない状態では、「-」を表示します。
- ④ **プレゼンス** 本製品に登録したIP100Hから送信されたステータス情報(例：会議中)を表示します。
※プレゼンス機能が無効の場合は、「-」を表示します。
※〈レジスト状態の更新〉(7)をクリックすると、最新のステータス情報を表示します。
※IP100FSから遠隔ロックされ、IP100Hが送受信できない、または送受信できない状態では、「送受信禁止」、または「送信禁止」を表示します。
※IP100Hが緊急呼び出しをしている状態のときは、「緊急」を表示します。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機管理」

■ 無線機管理(つづき)

無線機管理

①

⑦ レジスト 状態の更新

①	TRX番号	機種	名前	個別番号	②レジスト状態	③IPアドレス	④プレゼンス	⑤トークグループ	⑥位置情報	⑧バージョン
☐	1	IP100H	営業1	0001	接続中	192.168.0.10	会議中	1	00-90-C7-	Ver. 1.00
☐	2	IP100H	営業2	0002	接続中	192.168.0.11	休憩中	1	00-90-C7-	Ver. 1.00
☐	3	IP100H	営業3	0003	未接続	-	-	-	-	-
☐	4	IP100FS	営業4	0004	未接続	-	-	-	-	-

選択無線機再起動
 ⑨ファームウェアの強制更新: ☒ 無効 ☐ 有効
 ⑩無線機再起動:

※画面は、表示例です。

※設定内容が変更され、再起動が必要な場合、または再起動中は、太字で表示します。

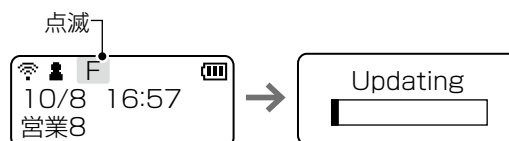
⑤ トークグループ …………… IP100Hが選択しているトークグループ番号を表示します。
 ※トークグループが選択されていない、またはIP100Hの電源が入っていないなど本製品に接続していない状態では、「-」を表示します。

⑥ 位置情報…………… IP100Hが接続している無線アクセスポイントのBSSIDを表示します。

⑦ <レジスト状態の更新> … IP100H、IP100FSの接続状況、再起動実行時の動作状況確認を更新するとき、クリックします。

⑧ バージョン …………… 本製品に登録したIP100H、IP100FSのバージョン情報を表示します。
 ※IP100Hの電源が入っていない、IP100FSが起動していないときなど、本製品に接続していない状態では、「-」を表示します。

⑨ ファームウェアの強制更新 IP100Hのファームウェアを強制的に更新するときは、「有効」を選択して、本製品からIP100Hの再起動(⑩)を実行します。
 IP100Hの表示部で「F」表示が点滅し、更新の準備が完了すると、自動的に再起動して、ファームウェアの更新が実行されます。



※更新の準備に失敗したとき、IP100Hは再起動しません。
 必要に応じて、再起動を実行してください。

⑩ 無線機再起動 …………… <実行>をクリックすると、[選択ボックス](①)欄で指定したIP100Hが一斉に再起動します。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー(つづき)

「無線機設定」－「無線機追加」

■TRX番号設定

IP100H、IP100FSを新規登録するとき、または設定内容を編集するときに使用します。

※設定変更後は、IP100Hの再起動が必要です。

TRX番号設定	
① TRX番号:	1
② 機種:	IP100H
③ 名前:	営業1
④ 個別番号:	0001
セキュリティ設定	
⑤ パスワード:	iptrx
ポート設定	
⑥ 無線機側ポート番号:	30000
⑦ サーバー側ポート番号:	30000
設定グループ	
⑧ 設定グループ:	1
⑨ 追加 ⑩ 取消	

※画面の値は、入力例です。

- | | |
|-------------------|--|
| ① TRX番号 | 使用するIP100H、IP100FSを登録するために、「1」～「100」の番号を選択します。
最大100台まで登録できます。
※IP1000C #02の場合は、最大20台まで登録できます。 |
| ② 機種 | 登録する機種を「IP100H」、「IP100FS」から選択します。
(出荷時の設定：IP100H) |
| ③ 名前 | 任意の名称を、半角31(全角15)文字以内で入力します。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大15文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。 |
| ④ 個別番号 | 使用するIP100H、IP100FSの自局番号(個別番号)を4桁で入力します。
設定できる範囲は、「0001～9999」です。(出荷時の設定：0001) |
| ⑤ パスワード | 使用するIP100H、IP100FSが本製品に接続するためのパスワードを、大文字/小文字の区別に注意して、12文字(半角英数字/記号)以内で入力します。
(出荷時の設定：iptrx) |
| ⑥ 無線機側ポート番号 | 本製品と収容機器(IP100H)との通信に、IP100Hが使用する通信ポート(UDPポート番号)です。
※特に問題がある場合を除いては、出荷時の設定でお使いください。
※出荷時、TRX番号の「1」には「30000」、「2」には「30002」と、「1」から順に「30000～30198」が割り当てられています。
※設定できる範囲は、「2～59998」の偶数値だけです。
※そのほか、本製品が使用する一部のポートで利用できないものがあります。
※[機種](②)欄で「IP100FS」を選択したときは、表示されない項目です。 |

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機追加」

■ TRX番号設定(つづき)

TRX番号設定	
① TRX番号:	1 ▼
② 機種:	IP100H ▼
③ 名前:	営業1
④ 個別番号:	0001
セキュリティ設定	
⑤ パスワード:	lptrx
ポート設定	
⑥ 無線機側ポート番号:	30000
⑦ サーバー側ポート番号:	30000
設定グループ	
⑧ 設定グループ:	1 ▼
⑨ 追加 ⑩ 取消	

※画面の値は、入力例です。

⑦ サーバー側ポート番号 …

本製品と収容機器(IP100H、IP100FS)との通信に、本製品が使用する通信ポート(UDPポート番号)です。

本製品側として設定したポート番号(RTP)と設定したポート番号+1(RTCP)の2つを使用して通信します。

※特に問題がある場合を除いては、出荷時の設定でお使いください。

※出荷時、TRX番号の「1」には「30000」、「2」には「30002」と、「1」から順に「30000～30198」が割り当てられています。

※設定できる範囲は、「2～65534」の偶数値だけです。

※ほかのIP100H、IP100FSに設定するサーバー側ポート番号と重複できません。

※そのほか、本製品が使用する一部のポートで利用できないものがあります。

⑧ 設定グループ : ……………

本製品に登録するIP100H、IP100FSが所属する設定グループ番号を設定します。

設定できる範囲は、「1」～「100」です。 (出荷時の設定：1)

共用するアドレス帳やメッセージ、通知音は、所属する設定グループごとに「設定グループ」メニューで設定します。

⑨<登録> ……………

[TRX番号設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

クリックすると、[TRX番号設定一覧]項目に表示されます。

⑩<取消> ……………

[TRX番号設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。

なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー(つづき)

「無線機設定」―「無線機追加」

■TRX番号設定一覧

[TRX番号設定]項目で登録した無線機の設定一覧です。

※[TRX番号設定]項目で登録した内容の編集や削除にも使用します。

※各設定欄の説明は、[TRX番号設定]項目をご覧ください。

TRX番号設定一覧														
① □すべて	TRX 番号	機種	名前	個別番号	パスワード	ポート番号		設定グループ	アドレス帳 グループ	メッセージ グループ	②			
						無線機側	サーバー側							
☐	1	JP100H ▾	営業1	0001	ptrx	30000	30000	1 ▾	1	1	削除			
☐	2	JP100H ▾	営業2	0002	ptrx	30002	30002	1 ▾	1	1	削除			
☐	3	JP100H ▾	営業3	0003	ptrx	30004	30004	1 ▾	1	1	削除			
☐	4	JP100FS ▾	営業4	0004	ptrx	-	30006	1 ▾	1	1	削除			
											③ 登録	④ 取消	⑤ 選択削除	⑥ 全削除

※画面の値は、設定例です。

- ① **選択ボックス** 登録された内容を複数削除するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
- ② **削除** クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ③ **登録** クリックすると、[TRX番号設定一覧]項目で編集した内容が登録されます。
- ④ **取消** クリックすると、[TRX番号設定一覧]項目で編集した内容が変更前の状態に戻ります。
※登録をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ⑤ **選択削除** クリックすると、[選択ボックス]①欄で選択した番号の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ⑥ **全削除** クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー(つづき)

「無線機設定」―「無線機追加」

■TRX番号一括設定

連番で個別番号を一括登録したり、すでに登録した設定内容をほかの個別番号にコピーしたりできます。

TRX番号一括設定	
① 個別番号:	~ 追加
② 設定参照元:	初期値 ▼
③ 設定グループ:	1 ▼

※指定した範囲の連番を個別番号として登録します。

※無線機個別設定を初期値で登録します。

① 個別番号

連番で一括に登録したい個別番号の範囲を入力します。

〈追加〉

クリックすると、テキストボックスに入力した範囲(例：0004～0010)の個別番号が登録されます。

※入力した範囲で、すでに登録された個別番号がある場合は、「設定を上書きします。」が表示されます。

② 設定参照元

出荷時の設定内容(初期値)、またはすでに登録した設定内容を参照するか選択します。
(出荷時の設定：初期値)

③ 設定グループ

本製品に登録するIP100H、IP100FSが所属する設定グループ番号を設定します。

設定できる範囲は、「1」～「100」です。
(出荷時の設定：1)
共用するアドレス帳やメッセージ、通知音は、所属する設定グループごとに「設定グループ」メニューで設定します。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー(つづき)

「無線機設定」－「無線機個別」

■無線機個別設定

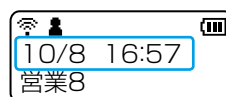
登録されたIP100Hごとに、機能の割り当てや通知音などを設定します。

※設定変更後は、IP100Hの再起動が必要です。

※画面の値は、設定例です。

①個別番号 設定内容を編集するIP100Hの個別番号(名前)を選択します。
※「無線機追加」画面の[TRX番号設定]項目で、機種を「IP100FS」に設定した個別番号は表示されません。

②表示項目 IP100Hの待受画面に時計を表示するか、自局に登録された名前★を表示するかを選択します。
(出荷時の設定：時計)



時計選択時



名前選択時

★「無線機追加」画面の[TRX番号設定]項目で、名前が登録されていない場合は、個別番号(例：0001)が表示されます。

③バックライト IP100H使用時のバックライト機能を設定します。
(出荷時の設定：操作時点灯)

- ◎常時消灯 : バックライトが点灯しません。
- ◎常時点灯 : 常にバックライトが点灯します。
- ◎操作時点灯 : 操作するとバックライトが点灯し、何も操作しない状態が約5秒つづくと、自動的に消灯します。

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定

①個別番号:

0001(営業1) ▼

表示部

②表示項目:

☒時計 ☐名前

③バックライト:

操作時点灯 ▼

送信動作

④送信禁止:

☒無効 ☐有効

⑤PTTロック:

☒無効 ☐有効

呼出先指定

⑥待受画面での呼出:

☐無効 ☒有効※無効にすると、待受画面に戻っても、相手局(呼出種別)を表示しません。

⑦アドレス帳からの呼出:

☐無効 ☒有効 アドレス帳先頭番号: 全体 ▼

⑧全体呼出の表示:

☐無効 ☒有効

⑨起動時のトークグループ指定:

☒無効 ☐有効 アドレス帳番号: ▼

受信通知

⑩通知音量:

10 ▼

⑪通知動作:

通知音 ▼

※画面の値は、設定例です。

- ④送信禁止 送信を禁止して、受信専用としてIP100Hを使用するときに設定します。
(出荷時の設定：無効)
※送信禁止中は、別売品マイクロホンのPTTスイッチやVOX機能による送信もできません。
- ⑤PTTロック IP100Hの[PTT(送信)]スイッチによる送信を禁止したいときに設定します。
(出荷時の設定：無効)
※PTTロック中でも、別売品マイクロホンのスイッチやVOX機能による送信はできます。
- ⑥待受画面での呼出 IP100Hが待受画面のときに、呼び出す相手局(呼出種別)を表示するかしないかを設定します。
(出荷時の設定：有効)
◎有効：待受画面に、相手局(呼出種別)を表示します。
IP100Hの[PTT(送信)]スイッチを押すと、待受画面に表示された相手局(呼出種別)を呼び出します。
◎無効：待受画面に戻っても、相手局(呼出種別)を表示しません。
※キー操作による相手局(呼出種別)選択時は表示されます。
※「設定グループ」メニュー→「設定グループ詳細」画面にある相手局の表示切替は、無効になります。

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定	
① 個別番号:	0001(営業1) ▼
表示部	
② 表示項目:	☒ 時計 ☐ 名前
③ バックライト:	操作時点灯 ▼
送信動作	
④ 送信禁止:	☒ 無効 ☐ 有効
⑤ PTTロック:	☒ 無効 ☐ 有効
呼出先指定	
⑥ 待受画面での呼出:	☐ 無効 ☒ 有効 ※無効にすると、待受画面に戻っても、相手局(呼出種別)を表示しません。
⑦ アドレス帳からの呼出:	☐ 無効 ☒ 有効 アドレス帳先頭番号: 全体 ▼
⑧ 全体呼出の表示:	☐ 無効 ☒ 有効
⑨ 起動時のトークグループ指定:	☒ 無効 ☐ 有効 アドレス帳番号: ▼
受信通知	
⑩ 通知音量:	10 ▼
⑪ 通知動作:	通知音 ▼

※画面の値は、設定例です。

⑦ アドレス帳からの呼出 …

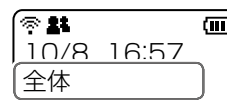
IP100Hでアドレス帳を使用するかどうか設定します。(出荷時の設定:無効)

◎**有効**: IP100Hの[アドレス帳]キーを押すごとに、呼出種別が切り替わります。

[アドレス帳先頭番号]欄で、はじめに表示する相手局(呼出種別)を「全体」、または「アドレス帳」の番号(1～50)で指定します。



[アドレス帳]キー



相手局(呼出種別)表示

※[待受画面での呼出](⑥)欄(P.4-41)が「有効」、かつ「設定グループ詳細」画面の[相手局の表示切替]欄(P.4-98)が「無効」の場合は、[アドレス帳先頭番号]欄で設定した相手局が、待受画面に表示されます。

[起動時のトークグループ指定](⑨)欄が「有効」の場合、[アドレス帳番号]欄で設定したトークグループが優先して表示されます。

※「設定グループ」メニューで登録されたアドレス帳を使用します。

※[全体呼出の表示](⑧)欄で「無効」を設定すると、アドレス帳から全体呼び出しが選択できなくなります。

◎**無効**: [アドレス帳]キーを押しても、呼出種別は下図の[呼出種別]で設定された内容から切り替わりません。

※[呼出種別]欄で、IP100Hから呼び出す特定の相手局(呼出種別)を指定できます。

「個別」、「グループ」を選択したときは、[呼出先番号]欄に個別番号、またはグループ番号を4桁の数字で入力します。

※着信時、IP100Hの画面には、アドレス帳に登録されている名前が表示されます。

アドレス帳からの呼出:	☒ 無効 ☐ 有効	アドレス帳先頭番号: 全体 ▼
呼出種別:	全体 ▼	

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定

① 個別番号:

0001(営業1) ▼

表示部

② 表示項目:

☒ 時計 ☐ 名前

③ バックライト:

操作時点灯 ▼

送信動作

④ 送信禁止:

☒ 無効 ☐ 有効

⑤ PTTロック:

☒ 無効 ☐ 有効

呼出先指定

⑥ 待受画面での呼出:

☐ 無効 ☒ 有効※無効にすると、待受画面に戻っても、相手局(呼出種別)を表示しません。

⑦ アドレス帳からの呼出:

☐ 無効 ☒ 有効 アドレス帳先頭番号: 全体 ▼

⑧ 全体呼出の表示:

☐ 無効 ☒ 有効

⑨ 起動時のトークグループ指定:

☒ 無効 ☐ 有効 アドレス帳番号: ▼

受信通知

⑩ 通知音量:

10 ▼

⑪ 通知動作:

通知音 ▼

※画面の値は、設定例です。

- ⑧ 全体呼出の表示 …………… アドレス帳からの全体呼び出しについて設定します。(出荷時の設定：無効)
 ※[アドレス帳からの呼出](⑦)欄を「無効」にした場合、この欄は表示されません。
 ◎有効：アドレス帳に全体呼び出しを表示します。
 ◎無効：アドレス帳に全体呼び出しを表示しません。
- ⑨ 起動時の
 トークグループ指定 …… 指定したトークグループを選択した状態で起動します。
 (出荷時の設定：無効)
 ※[アドレス帳からの呼出](⑦)欄を「無効」にした場合、この欄は表示されません。
 ◎有効：[アドレス帳番号]欄で指定したトークグループを選択した状態でIP100Hを起動します。
 ◎無効：トークグループを指定しないでIP100Hを起動します。
- ⑩ 通知音量 …………… 着信時やメッセージ受信時に鳴る通知音の音量レベルを設定します。
 設定できる範囲は、「0」～「32」です。(出荷時の設定：10)
 ※「0」を設定した場合は、IP100H側の音量設定に関わらず、通知音は鳴りません。
 ※「設定グループ詳細」画面の[受信通知音]欄で設定した内容で、着信時やメッセージ受信時に通知音が鳴ります。
- ⑪ 通知動作 …………… 着信時やメッセージ受信時の通知動作を設定します。
 (出荷時の設定：通知音)
 ◎通知音
 着信時やメッセージ受信時、「設定グループ詳細」画面の[受信通知音]欄で設定した通知音でお知らせします。
 ◎バイブレーション
 着信時やメッセージ受信時、音を鳴らさずに振動だけでお知らせします。
 ◎通知音+バイブレーション
 着信時やメッセージ受信時、「設定グループ詳細」画面の[受信通知音]欄で設定した通知音と振動でお知らせします。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定	
通知動作:	通知音 ▼
通知音(受信通知を除く)	
⑫ 通知音量:	10 ▼
機能設定	
⑬ 通信方式:	☐ 単信通信 ☒ 複信通信
⑭ 優先呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑮ 近隣呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑯ メッセージ:	☒ 無効 ☐ 有効 メッセージ先頭番号: 1 ▼
⑰ プレゼンス:	☒ 無効 ☐ 有効
⑱ 低優先度呼出の音声ミキシング:	☒ 無効 ☐ 有効
固定呼出	
⑲ 固定呼出:	無効 ▼
キー割当	
⑳ オプションキー:	無効 ▼
㉑ 通話中の電話切断:	☐ 無効 ☒ 有効
接続確認	
㉒ 接続確認:	☐ 無効 ☒ 有効
キー操作音	
㉓ キー操作音:	☐ 無効 ☒ 有効 音量: 10 ▼

※画面の値は、設定例です。

⑫ 通知音量

(受信通知を除く)

送信時や接続時に鳴る通知音の音量レベルを設定します。

設定できる範囲は、「0」～「32」です。

(出荷時の設定：10)

※「0」を設定した場合は、IP100H側の音量設定に関わらず、通知音は鳴りません。

※「設定グループ詳細」画面で設定した内容で、送信時や接続時に通知音が鳴ります。

⑬ 通信方式

IP100Hで使用する通信方式を設定します。 (出荷時の設定：複信通信)

◎単信通信

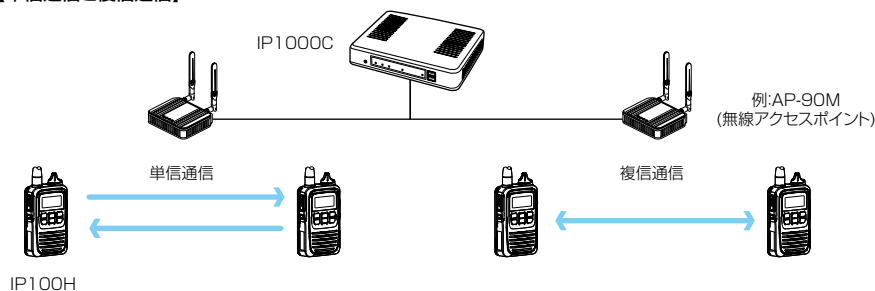
送信と受信を交互に切り替えて交信する方式です。

◎複信通信

複信は電話のように同時通話できる方式です。

※複信通信が設定されている場合は、IP100Hに別売品のマイクロホンなどを接続することで、相手が送信しているときでも、電話のように同時通話できます。

【単信通信と複信通信】



4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定

通知動作:
通知音(受信通知を除く)
⑫通知音量:
機能設定
⑬通信方式:
⑭優先呼出:
⑮近隣呼出:
⑯メッセージ:
⑰プレゼンス:
⑱低優先度呼出の音声ミキシング:
固定呼出
⑲固定呼出:
キー割当
⑳オプションキー:
㉑通話中の電話切断:
接続確認
㉒接続確認:
キー操作音
㉓キー操作音:

通知音

10

☐ 単信通信 ☒ 複信通信

☒ 無効 ☐ 有効

☒ 無効 ☐ 有効

☒ 無効 ☐ 有効

☒ 無効 ☐ 有効

☒ 無効 ☐ 有効

メッセージ先頭番号: 1

無効

無効

☐ 無効 ☒ 有効

☐ 無効 ☒ 有効

音量: 10

※画面の値は、設定例です。

⑭ 優先呼出 IP100Hに優先度の高い呼び出し権限を付与する場合に使用する設定です。
(出荷時の設定：無効)

呼出種別ごとの優先度は、下記ようになります。

優先度	優先順位★	呼出種別	優先呼出	備考
高 ↑ ↓ 低	固定	電話通信	—	電話通信
		緊急呼び出し(優先)	有効	—
		緊急呼び出し	無効	—
	可変	全体呼出(優先)	有効	近隣呼出/IP100FS使用時も含む
		個別呼出(優先)	有効	IP100FS使用時も含む
		グループ呼出(優先)	有効	近隣呼出/IP100FS使用時も含む
		全体呼出	無効	近隣呼出も含む
		個別呼出	無効	—
		グループ呼出	無効	近隣呼出も含む

※同一優先順位内での優先度は、呼び出した順番になります。

※着信時の応答は、発信側の優先度にしたがいます。

★「可変」は、「RoIP通信設定」画面の[通話優先順位]項目(P.4-24)で変更できます。

【通信中に相手局を変更した場合】



4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定	
通知動作:	通知音
通知音(受信通知を除く)	
⑫通知音量:	10
機能設定	
⑬通信方式:	☐ 単信通信 ☒ 複信通信
⑭優先呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑮近隣呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑯メッセージ:	☒ 無効 ☐ 有効
⑰プレゼンス:	☒ 無効 ☐ 有効
⑱低優先度呼出の音声ミキシング:	☒ 無効 ☐ 有効
メッセージ先頭番号: 1	
固定呼出	
⑲固定呼出:	無効
キー割当	
⑳オプションキー:	無効
㉑通話中の電話切断:	☐ 無効 ☒ 有効
接続確認	
㉒接続確認:	☐ 無効 ☒ 有効
キー操作音	
㉓キー操作音:	☐ 無効 ☒ 有効 音量: 10

※画面の値は、設定例です。

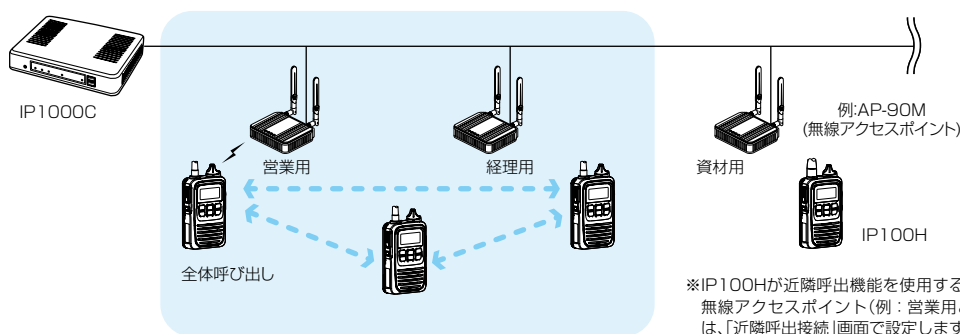
⑮ 近隣呼出

特定のエリアに限定して運用をするときに使用する設定です。

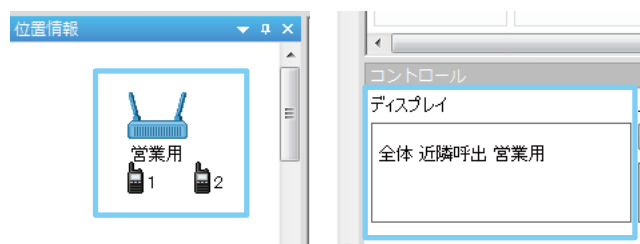
(出荷時の設定：無効)

「有効」に設定して、IP100H側で近隣呼出機能を「ON」にしている状態で全体/グループ呼び出しをすると、IP100Hが接続している無線アクセスポイントと同一エリア内のIP100Hを呼び出します。

【IP100Hから近隣呼出機能で全体呼び出しをした場合】



【IP100FSから近隣呼出機能で呼び出す場合】



※IP100FSから近隣呼出機能を使用する場合は、指定した無線アクセスポイント(例：営業用)と同一エリア内にある無線アクセスポイント(例：経理用)に接続しているIP100Hを呼び出せます。
※位置情報で無線アクセスポイントを選択すると、呼出種別(個別/グループ/全体/近隣/電話)と表示名をディスプレイに表示します。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定	
通知動作:	通知音
通知音(受信通知を除く)	
⑫通知音量:	10
機能設定	
⑬通信方式:	☐ 単信通信 ☒ 複信通信
⑭優先呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑮近隣呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑯メッセージ:	☒ 無効 ☐ 有効
⑰プレゼンス:	☒ 無効 ☐ 有効
⑱低優先度呼出の音声ミキシング:	☒ 無効 ☐ 有効
メッセージ先頭番号: 1	
固定呼出	
⑲固定呼出:	無効
キー割当	
⑳オプションキー:	無効
㉑通話中の電話切断:	☐ 無効 ☒ 有効
接続確認	
㉒接続確認:	☐ 無効 ☒ 有効
キー操作音	
㉓キー操作音:	☐ 無効 ☒ 有効 音量: 10

※画面の値は、設定例です。

⑯メッセージ.....

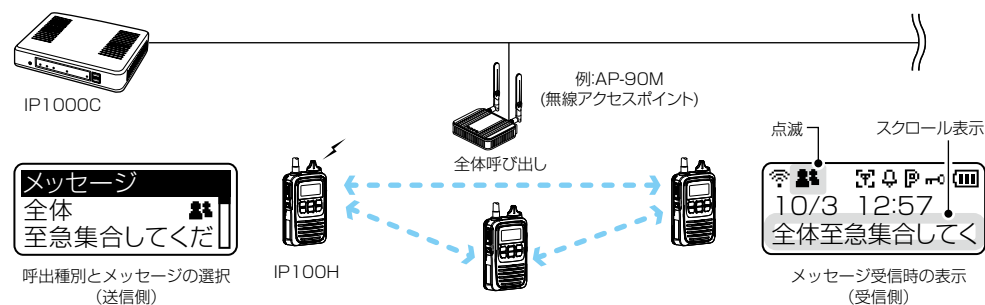
IP100Hでメッセージを送信するときに設定します。(出荷時の設定：無効)
「有効」を設定すると、IP100Hの[FUNC]キーを押してメッセージを選択できます。

※IP100Hから送信する半角32(全角16)文字以内の定型メッセージは、「設定グループ」メニューの「メッセージ」画面で最大10件登録できます。

※はじめに表示するメッセージを、「メッセージ先頭番号」欄で指定します。

☒有効 メッセージ先頭番号: 1(至急集合してください。)

【IP100Hからメッセージを送信する場合】



【IP100FSからメッセージを送信する場合】

コントロール	
ディスプレイ	メッセージ
全体	至急集合してください。
選択した呼出種別	選択、または編集したメッセージ
	遠隔ロック 遠隔ロック解除 遠隔モニター

※IP100FSでは、最大100件の定型メッセージをサイトごとに登録できます。
登録したメッセージを選択、またはメッセージを編集して送信できます。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定

通知動作: 通知音

通知音(受信通知を除く)
(12) 通知音量: 10

機能設定
(13) 通信方式: ☐ 単信通信 ☒ 複信通信
(14) 優先呼出: ☒ 無効 ☐ 有効
(15) 近隣呼出: ☒ 無効 ☐ 有効
(16) メッセージ: ☒ 無効 ☐ 有効 メッセージ先頭番号: 1
(17) プレゼンス: ☒ 無効 ☐ 有効
(18) 低優先度呼出の音声ミキシング: ☒ 無効 ☐ 有効

固定呼出
(19) 固定呼出: 無効

キー割当
(20) オプションキー: 無効
(21) 通話中の電話切断: ☐ 無効 ☒ 有効

接続確認
(22) 接続確認: ☐ 無効 ☒ 有効

キー操作音
(23) キー操作音: ☐ 無効 ☒ 有効 音量: 10

※画面の値は、設定例です。

⑪ プレゼンス

IP100Hからステータス情報(例: 会議中)を送信するときに設定します。

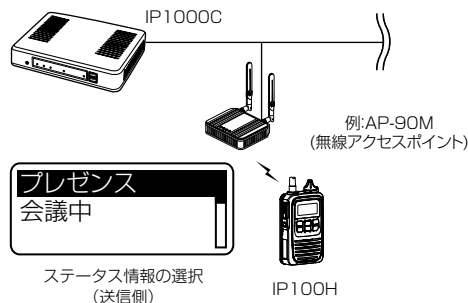
(出荷時の設定: 無効)

※IP100Hから送信する半角32(全角16)文字以内のステータス情報は、「設定グループ」メニューの「プレゼンス」画面で最大10件登録できます。

※「無効」を設定しているときは、IP100Hの[FUNC]キーを押してもプレゼンスを選択できません。

※IP100Hから送信されたステータス情報は、IP100FSのワンタッチボタン画面や本製品の「無線機管理」画面で確認できます。

【IP100Hからプレゼンスを送信する場合】



【IP100FSでプレゼンスを確認する場合】

営業1 0001	営業2 0002	営業グループ1 0001
[1] 会議中	[2] 離席中	

名前、個別番号、番号(本製品で登録されたステータス番号)、ステータス情報

【本製品でプレゼンスを確認する場合】

無線機管理

										レジスト状態の更新
☐ すべて	TRX番号	機種	名前	個別番号	レジスト状態	IPアドレス	プレゼンス	トークグループ	位置情報	バージョン
☐	1	IP100H	営業1	0001	接続中	192.168.0.10	会議中	1	00-90-C7-	Ver. 1.0
☐	2	IP100H	営業2	0002	接続中	192.168.0.11	休憩中	1	00-90-C7-	Ver. 1.0
☐	3	IP100H	営業3	0003	未接続	-	-	-	-	-
☐	4	IP100FS	営業4	0004	未接続	-	-	-	-	-

選択無線機再起動
ファームウェアの強制更新: ☒ 無効 ☐ 有効
無線機再起動: 実行

ステータス情報

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定	
通知動作:	通知音 ▼
通知音(受信通知を除く)	
⑫ 通知音量:	10 ▼
機能設定	
⑬ 通信方式:	☐ 単信通信 ☒ 複信通信
⑭ 優先呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑮ 近隣呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑯ メッセージ:	☒ 無効 ☐ 有効
⑰ プレゼンス:	☒ 無効 ☐ 有効
⑱ 低優先度呼出の音声ミキシング:	☒ 無効 ☐ 有効
固定呼出	
⑲ 固定呼出:	無効 ▼
キー割当	
⑳ オプションキー:	無効 ▼
㉑ 通話中の電話切断:	☐ 無効 ☒ 有効
接続確認	
㉒ 接続確認:	☐ 無効 ☒ 有効
キー操作音	
㉓ キー操作音:	☐ 無効 ☒ 有効 音量: 10 ▼

※画面の値は、設定例です。

⑱ 低優先度呼出の音声

ミキシング

通話中の相手局以外に、自局が所属する通話があれば、音声をミキシングして聞こえるようにできる機能です。 (出荷時の設定：無効)

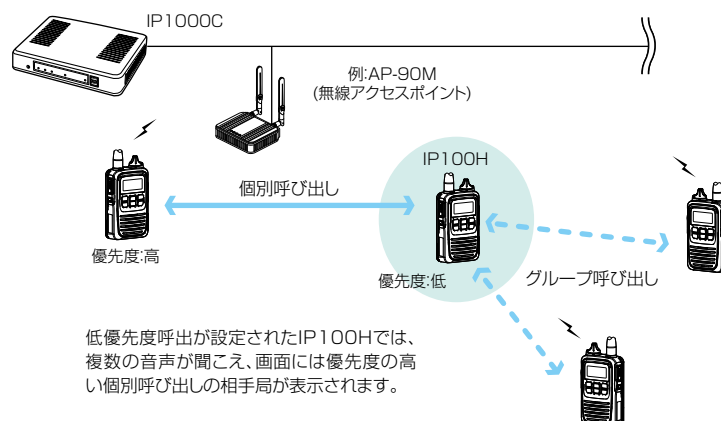
※複数の通話をミキシングしている場合は、IP100Hの画面には、最も高い優先度の通話が表示されます。

優先度について詳しくは、4-45ページをご覧ください。

たとえば、グループ呼び出しで通話中に、ほかの相手局と個別呼び出しで通話するとき、本機能を使用しているIP100Hでは、個別呼び出しに加え、グループ呼び出しの音声もミキシングして聞こえます。

この場合、IP100Hの画面には、優先度の高い個別呼び出しの相手局が表示されます。

【低優先度呼出によるミキシング】

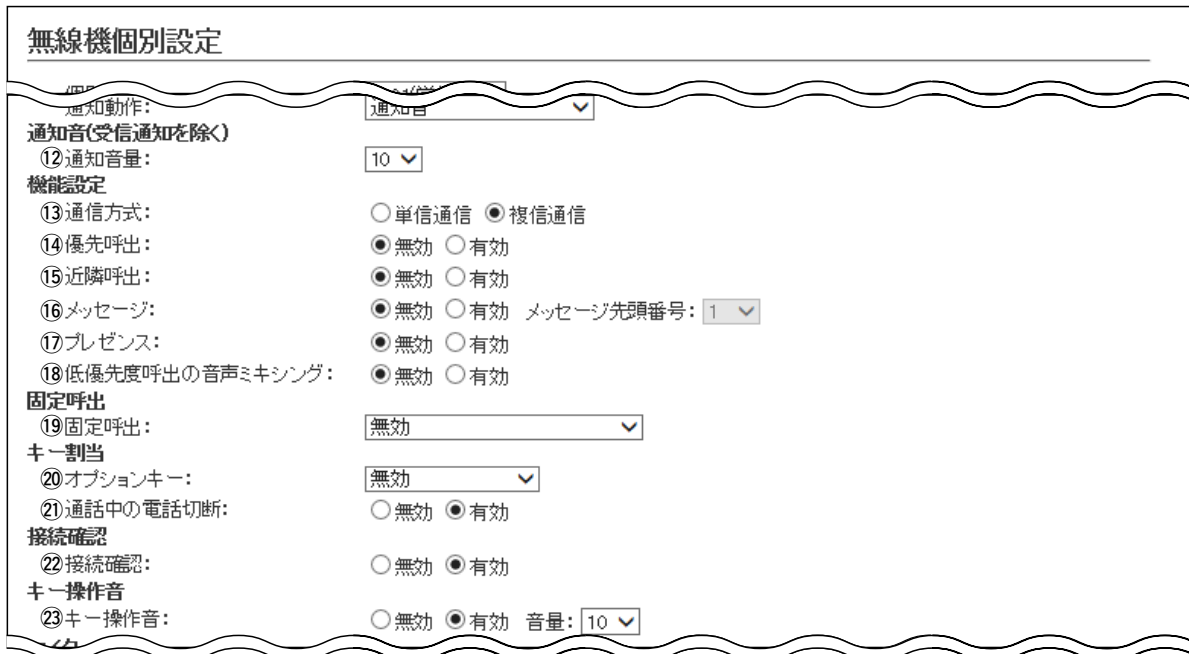


4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)



無線機個別設定

通知動作: 通知音

通知音(受信通知を除く)
⑫通知音量: 10

機能設定
⑬通信方式: ☐ 単信通信 ☒ 複信通信
⑭優先呼出: ☒ 無効 ☐ 有効
⑮近隣呼出: ☒ 無効 ☐ 有効
⑯メッセージ: ☒ 無効 ☐ 有効 メッセージ先頭番号: 1
⑰プレゼンス: ☒ 無効 ☐ 有効
⑱低優先度呼出の音声ミキシング: ☒ 無効 ☐ 有効

固定呼出
⑲固定呼出: 無効

キー割当
⑳オプションキー: 無効
㉑通話中の電話切断: ☐ 無効 ☒ 有効

接続確認
㉒接続確認: ☐ 無効 ☒ 有効

キー操作音
㉓キー操作音: ☐ 無効 ☒ 有効 音量: 10

※画面の値は、設定例です。

⑲ 固定呼出

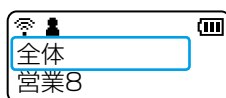
IP100Hの画面(3行目)に表示されている相手ではなく、特定の操作で、あらかじめ指定した別の相手先(呼出種別)を呼び出すときに使用します。

(出荷時の設定：無効)

通常は別売品マイクロホンで運用し、特定の場合にIP100Hの[PTT(送信)]スイッチを押して相手先を切り替えるというような使いかたができます。

◎ **無効**：固定呼出で送信しないとき

◎ **PTT**：IP100Hの[PTT(送信)]スイッチで固定呼出をするとき



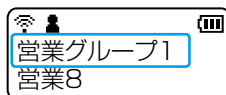
固定呼出「全体」選択時

固定呼出:	PTT
呼出種別:	全体

例：PTTで全体呼び出しをする場合

◎ イヤホンマイクまたはヘッドセット

別売品マイクロホンのPTTスイッチやVOX機能で固定呼出をするとき



固定呼出「グループ」選択時

固定呼出:	イヤホンマイクまたはヘッドセット
呼出種別:	グループ
呼出先番号:	0001

例：イヤホンマイクまたはヘッドセットでグループ呼び出しをする場合

※呼出種別は、「個別」、「グループ」、「全体」から指定します。

※[呼出種別]欄で「個別」、「グループ」を選択したときは、[呼出先番号]欄に個別番号、またはグループ番号を4桁の数字で入力します。

※固定呼出する相手先をIP100Hの画面(通常「日時」を表示している2行目)に常時表示します。

[表示項目](②)欄で「名前」を選択している場合は、自局に登録された名前を表示します。(P.4-40)

※固定呼出を設定したIP100Hでは、受信時に相手先の名前や呼出種別が画面(3行目)に表示されません。

※IP100Hの[PTT(送信)]スイッチと別売品マイクロホンのPTTスイッチで同時に送信した場合、IP100H本体マイクからの音声はミュートします。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定	
通知動作:	通知音
通知音(受信通知を除く)	
⑫通知音量:	10
機能設定	
⑬通信方式:	☐ 単信通信 ☒ 複信通信
⑭優先呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑮近隣呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑯メッセージ:	☒ 無効 ☐ 有効
⑰プレゼンス:	☒ 無効 ☐ 有効
⑱低優先度呼出の音声ミキシング:	☒ 無効 ☐ 有効
固定呼出	
⑲固定呼出:	無効
キー割当	
⑳オプションキー:	無効
㉑通話中の電話切断:	☐ 無効 ☒ 有効
接続確認	
㉒接続確認:	☐ 無効 ☒ 有効
キー操作音	
㉓キー操作音:	☐ 無効 ☒ 有効 音量: 10

※画面の値は、設定例です。

⑳ オプションキー ……………

IP100Hの[オプション]キーに、よく使うメッセージや特定の相手をワンタッチで選択する、または電話を切るなどの機能を割り当てるときに設定します。

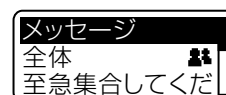
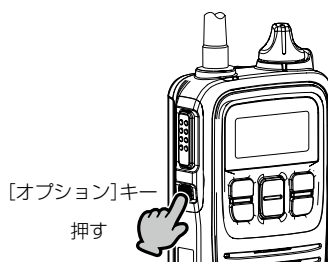
※「無効」を設定しているときは、待受画面で[オプション]キーを押しても何も動作しません。
(出荷時の設定：無効)

◎メッセージ

[オプション]キーを押すだけで、よく使うメッセージを選択したいときに設定します。

[メッセージ番号]欄には、「メッセージ」画面で登録した内容を指定します。

キー割当	
オプションキー:	メッセージ
メッセージ番号:	1(至急集合してください。)



4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定

無線機個別設定	
通知動作:	通知音 ▼
通知音(受信通知を除く)	
⑫通知音量:	10 ▼
機能設定	
⑬通信方式:	☐ 単信通信 ☒ 複信通信
⑭優先呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑮近隣呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑯メッセージ:	☒ 無効 ☐ 有効
⑰プレゼンス:	☒ 無効 ☐ 有効
⑱低優先度呼出の音声ミキシング:	☒ 無効 ☐ 有効
固定呼出	
⑲固定呼出:	無効 ▼
キー割当	
⑳オプションキー:	無効 ▼
㉑通話中の電話切断:	☐ 無効 ☒ 有効
接続確認	
㉒接続確認:	☐ 無効 ☒ 有効
キー操作音	
㉓キー操作音:	☐ 無効 ☒ 有効 音量: 10 ▼

※画面の値は、設定例です。

㉔ オプションキー

(つづき)

◎ワンタッチ

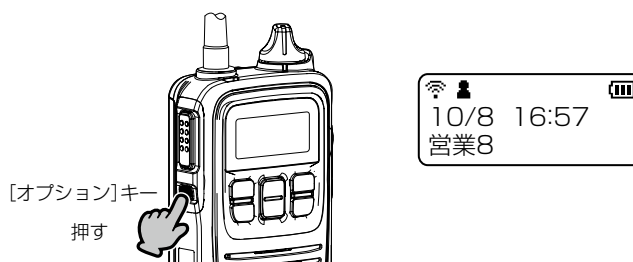
[オプション]キーを押すだけで、特定の呼出種別、または相手を選択したいときに設定します。

呼出種別は、「個別」、「グループ」、「全体」、「電話」から指定します。

※「個別」、「グループ」を選択したときは、[呼出先番号]欄に個別番号、またはグループ番号を4桁の数字で入力します。

※「電話」を選択したときは、[呼出先番号]欄に相手先の電話番号を31桁以内の数字と記号(#、*)で入力します。

キー割当	
オプションキー:	ワンタッチ ▼
呼出種別:	個別
呼出先番号:	グループ
通話中の電話切断:	全体
	電話 有効



4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定

無線機個別設定	
通知動作:	通知音 ▼
通知音(受信通知を除く)	
⑫通知音量:	10 ▼
機能設定	
⑬通信方式:	☐ 単信通信 ☒ 複信通信
⑭優先呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑮近隣呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑯メッセージ:	☒ 無効 ☐ 有効
⑰プレゼンス:	☒ 無効 ☐ 有効
⑱低優先度呼出の音声ミキシング:	☒ 無効 ☐ 有効
固定呼出	
⑲固定呼出:	無効 ▼
キー割当	
⑳オプションキー:	無効 ▼
㉑通話中の電話切断:	☐ 無効 ☒ 有効
接続確認	
㉒接続確認:	☐ 無効 ☒ 有効
キー操作音	
㉓キー操作音:	☐ 無効 ☒ 有効 音量: 10 ▼

※画面の値は、設定例です。

㉑ オプションキー

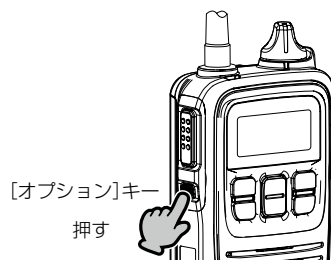
(つづき)

◎電話切断

[オプション]キーを押して、IP100Hから電話を切りたいときに設定します。

※[通話中の電話切断](㉑)欄を「有効」にして、[オプション]キーに、ほかの機能を割り当てることもできます。

キー割当	
オプションキー:	電話切断 ▼



相手が応答する前、または通話中に[オプション]キーを押すと、IP100Hから電話を切れます。

※IP100Hから電話を切れるのは、電話機からIP100Hを個別に呼び出したとき、またはIP100Hから電話機を呼び出したときだけです。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定

無線機個別設定	
通知動作:	通知音
通知音(受信通知を除く)	
⑫通知音量:	10
機能設定	
⑬通信方式:	☐ 単信通信 ☒ 複信通信
⑭優先呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑮近隣呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑯メッセージ:	☒ 無効 ☐ 有効
⑰プレゼンス:	☒ 無効 ☐ 有効
⑱低優先度呼出の音声ミキシング:	☒ 無効 ☐ 有効
固定呼出	
⑲固定呼出:	無効
キー割当	
⑳オプションキー:	無効
㉑通話中の電話切断:	☐ 無効 ☒ 有効
接続確認	
㉒接続確認:	☐ 無効 ☒ 有効
キー操作音	
㉓キー操作音:	☐ 無効 ☒ 有効 音量: 10

※画面の値は、設定例です。

㉔ オプションキー

(つづき)

◎受信音声ミュート

受信した音声(通知音は除く)をミュートしたいときに設定します。

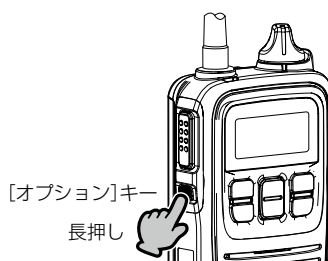
※[オプション]キーを長く(約1秒)押すごとに、ミュート機能をON/OFFできます。

※[PTT(送信)]スイッチを押しても、ミュート機能を解除できます。

ただし、[通話中の電話切断](㉑)欄を「有効」にしている場合、電話通話中は切断動作になります。

※[受信音声ミュート自動解除]欄を「有効」にした場合は、設定時間が経過すると、自動的にミュート機能が解除されます。(出荷時の設定：無効)
「有効」にして使用するとき、ミュート機能が解除されるまでの時間を「10～600」(秒)の範囲で設定します。(出荷時の設定：60)

キー割当	
オプションキー:	受信音声ミュート
受信音声ミュート自動解除:	☒ 無効 ☐ 有効 時間: 60 秒



ミュート時の表示例

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定

無線機個別設定	
通知動作:	通知音 ▼
通知音(受信通知を除く)	
⑫ 通知音量:	10 ▼
機能設定	
⑬ 通信方式:	☐ 単信通信 ☒ 複信通信
⑭ 優先呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑮ 近隣呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑯ メッセージ:	☒ 無効 ☐ 有効
⑰ プレゼンス:	☒ 無効 ☐ 有効
⑱ 低優先度呼出の音声ミキシング:	☒ 無効 ☐ 有効
固定呼出	
⑲ 固定呼出:	無効 ▼
キー割当	
⑳ オプションキー:	無効 ▼
㉑ 通話中の電話切断:	☐ 無効 ☒ 有効
接続確認	
㉒ 接続確認:	☐ 無効 ☒ 有効
キー操作音	
㉓ キー操作音:	☐ 無効 ☒ 有効 音量: 10 ▼

※画面の値は、設定例です。

㉔ オプションキー

(つづき)

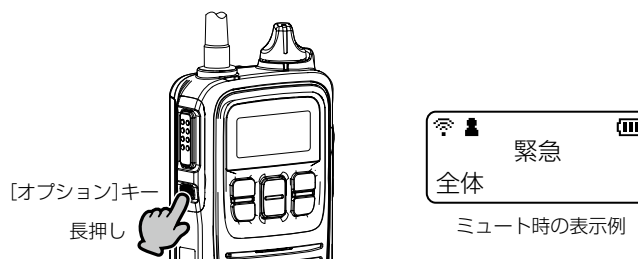
◎エマージェンシー

迅速な連絡が必要な場合など、緊急呼び出しをしたいときに設定します。

※「緊急」と表示されるまで、[オプション]キーを長く押しと、一定間隔で警告音(ピロピロ…)が鳴ります。

相手から応答があったとき、または[オプション]キー★を長く押したときに、緊急呼び出しが解除されます。

★[解除判定時間](㉔)欄が「有効」に設定されているときに動作します。



ご注意

本製品は、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的とした製品ではありません。

電池の消耗や電波環境、無線アクセスポイントやネットワークの状態など、周囲の環境によって、通信できないことがあります。

緊急呼び出し機能、および Lone Worker 機能は、補助的な使用を目的とした機能としてご理解ください。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

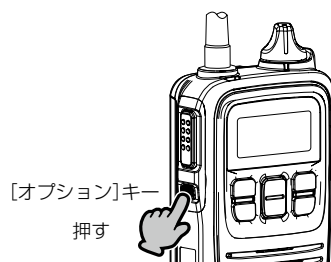
無線機個別設定	
通知動作:	通知音 ▼
通知音(受信通知を除く)	
⑫ 通知音量:	10 ▼
機能設定	
⑬ 通信方式:	☐ 単信通信 ☒ 複信通信
⑭ 優先呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑮ 近隣呼出:	☒ 無効 ☐ 有効
⑯ メッセージ:	☒ 無効 ☐ 有効
⑰ プレゼンス:	☒ 無効 ☐ 有効
⑱ 低優先度呼出の音声ミキシング:	☒ 無効 ☐ 有効
固定呼出	
⑲ 固定呼出:	無効 ▼
キー割当	
⑳ オプションキー:	無効 ▼
㉑ 通話中の電話切断:	☐ 無効 ☒ 有効
接続確認	
㉒ 接続確認:	☐ 無効 ☒ 有効
キー操作音	
㉓ キー操作音:	☐ 無効 ☒ 有効 音量: 10 ▼

※画面の値は、設定例です。

㉑ 通話中の電話切断 ………

[オプション]キーを押して、IP100Hから電話を切りたいときに設定します。
(出荷時の設定: 有効)

※[オプションキー](㉑)欄を「電話切断」にした場合は、表示されない項目です。



相手が応答する前、または通話中に[オプション]キーを押すと、IP100Hから電話を切れます。

※IP100Hから電話を切れるのは、電話機からIP100Hを個別に呼び出したとき、またはIP100Hから電話機を呼び出したときだけです。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定

通知動作: 通知音: 10

機能設定

13 通信方式: ☐ 単信通信 ☒ 複信通信

14 優先呼出: ☒ 無効 ☐ 有効

15 近隣呼出: ☒ 無効 ☐ 有効

16 メッセージ: ☒ 無効 ☐ 有効

17 プレゼンス: ☒ 無効 ☐ 有効

18 低優先度呼出の音声ミキシング: ☒ 無効 ☐ 有効

固定呼出

19 固定呼出: 無効

キー割当

20 オプションキー: 無効

21 通話中の電話切断: ☐ 無効 ☒ 有効

接続確認

22 接続確認: ☐ 無効 ☒ 有効

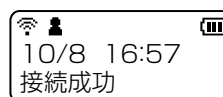
キー操作音

23 キー操作音: ☐ 無効 ☒ 有効 音量: 10

※画面の値は、設定例です。

② 接続確認

IP100Hから個別呼び出しをしたときに、相手先との接続を確認するための設定です。
(出荷時の設定：有効)
「有効」に設定すると、個別呼び出しをしたIP100Hの表示部に接続結果(接続成功/通話中/応答なし)が表示されます。



※相手先が圏外の場合は、「応答なし」が表示されます。

※「設定グループ詳細」画面で、接続通知音が「有効」に設定されているときは接続の成功や失敗を音でもお知らせします。

③ キー操作音

IP100Hのキーやスイッチを操作したときの確認音を設定します。

(出荷時の設定：有効)

◎無効：確認音が鳴りません。

◎有効：確認音が鳴ります。

「有効」にして使用するときには、確認音の音量を、「0」～「32」の範囲で設定します。
(出荷時の設定：10)

※「0」を設定した場合は、IP100H側の音量設定に関わらず、確認音は鳴りません。

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定

マイク

24 マイクゲイン: 0 dB

イヤホンマイク

25 モニター: ☐ 無効 ☒ 有効 音量: 10

ヘッドセット

26 VOX: ☐ 無効 ☒ 有効

27 アタックタイム: 50 ミリ秒

28 リリースタイム: 200 ミリ秒

29 音声遅延: 200 ミリ秒

30 音声スレッシュ: 40 %

31 側音: ☒ 無効 ☐ 有効

32 側音音量: 10

※画面の値は、設定例です。

- 24 マイクゲイン** マイクロホンの感度を設定します。 (出荷時の設定：0)
 設定できる範囲は、「－12(低)」～「12(高)」(3dB刻み)です。
 ※周囲の騒音が大きい場所では、低い値に設定し、大きめの声で話すことで、通話相手に聞きやすい音声になります。
 また、周囲の雑音が小さい場所では、高い値に設定し、小さめの声で話すことで、通話相手に聞きやすい音声になります。
- 25 モニター** イヤホンマイク(別売品)接続時のモニター機能を設定します。 (出荷時の設定：無効)
- ◎**無効**：モニター機能が動作しません。
- ◎**有効**：モニター機能が動作して、イヤホンから自分の音声聞こえるようになり、話しやすくなります。
 「有効」にして使用するときは、イヤホンから聞こえる音量を、「0」～「32」の範囲で設定します。 (出荷時の設定：10)
 ※「0」を設定した場合は、IP100H側の音量設定に関わらず、イヤホンから自分の音声は聞こえません。
 ※HM-186LSなどスピーカーマイクでは、ハウリングを起こすことがありますので、モニター機能を「有効」にしないでください。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定	
マイク	
②4 マイクゲイン:	0 ▼ dB
イヤホンマイク	
②5 モニター:	☐ 無効 ☒ 有効 音量: 10 ▼
ヘッドセット	
②6 VOX:	☐ 無効 ☒ 有効
②7 アタックタイム:	50 ミリ秒
②8 リリースタイム:	200 ミリ秒
②9 音声遅延:	200 ミリ秒
③0 音声スレッシュ:	40 %
③1 側音:	☒ 無効 ☐ 有効
③2 側音音量:	10 ▼

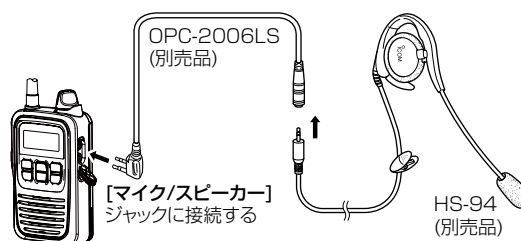
※画面の値は、設定例です。

②6 VOX

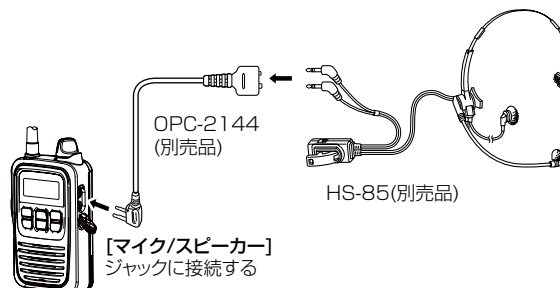
IP100HにVOX機能対応のヘッドセット(別売品)を接続して、音声によって送受信を自動的に切り替えるときに設定します。(出荷時の設定: 無効)「有効」に設定して、別売品のVOX対応変換ケーブル(OPC-2006LS)と、ヘッドセット(HS-94/HS-95/HS-97/HS-99のいずれか)を接続すると使用できます。

※ケーブルを抜き差しする前に、必ずIP100Hの電源を切ってください。

※「有効」を選択すると、[アタックタイム](②7)欄～[側音音量](③2)欄が表示されます。



※HS-85(別売品)はVOX機能が内蔵されていますので、IP100Hに接続して使用する場合、[VOX](②6)欄を「無効」にしてください。



4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

※画面の値は、設定例です。

②⑦ アタックタイム ……………

VOX機能有効時

ヘッドセット(別売品)からIP100Hに音声信号が入力されたことを検知する時間を設定します。(出荷時の設定：50)

検知後、送信を開始します。

設定できる範囲は、「5～500」(5ミリ秒刻み)です。

②⑧ リリースタイム……………

VOX機能有効時

IP100Hに入力されている音声が停止したと判断する時間を設定します。

検知後、送信を停止します。(出荷時の設定：200)

設定できる範囲は、「5～2000」(5ミリ秒刻み)です。

②⑨ 音声遅延 ……………

VOX機能有効時

VOX送信による頭切れを防止するために、音声を遅延させる時間を設定します。(出荷時の設定：200)

設定できる範囲は、「0～500」(5ミリ秒刻み)です。

③⑩ 音声スレッシュ ……………

VOX機能有効時

ヘッドセット(別売品)からIP100Hに音声信号が入力されたことを検知するしきい値レベルを設定します。(出荷時の設定：40)

設定できる範囲は、「0～100」(%)です。

※設定値が小さいほど、小さな音声でも検知します。

③⑪ 側音 ……………

VOX機能有効時

ヘッドセット(別売品)接続時の側音機能を設定します。(出荷時の設定：無効)
「有効」に設定すると、ヘッドセットから自分の音声聞こえるようになり、話しやすくなります。

③⑫ 側音音量 ……………

VOX機能有効時

側音機能を使用するときの音量を調整します。

設定できる範囲は、「0」(最小)～「32」(最大)です。(出荷時の設定：10)

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

※画面の値は、設定例です。

- ③③ エマージェンシー …………… 迅速な連絡が必要な場合など、緊急呼び出しをしたいときに使用する機能です。
(出荷時の設定：無効)
- ※[オプションキー](20)欄を「エマージェンシー」に設定している(P.4-55)、または[履歴キーへの割当](34)欄を「有効」に設定している場合に使用できます。
- ※「緊急」と表示されるまで、[オプション]キーを長く(5秒以上★)押すと、一定間隔で警告音(ピロピロ…)が鳴ります。
- 相手から応答があったとき、または[オプション]キーを長く(5秒以上★)押したときに、緊急呼び出しが解除されます。
- ※[履歴]キーに緊急呼び出し機能が割り当てられている場合も、[オプション]キーと同様に操作できます。
- ★緊急呼び出し動作までの時間は[動作判定時間](35)欄、解除までの時間は[解除判定時間](36)欄で変更できます。
- ③④ 履歴キーへの割当 …………… [履歴]キーを長く押して、緊急呼び出しをするときに設定します。
(緊急呼び出し機能有効時) (出荷時の設定：有効)
- ③⑤ 動作判定時間 …………… [オプション]キー、または[履歴]キーを長く押して、緊急呼び出しが動作するまでの時間を設定します。
(緊急呼び出し機能有効時) (出荷時の設定：5)
- ③⑥ 解除判定時間 …………… [オプション]キー、または[履歴]キーを長く押して、緊急呼び出しを解除するまでの時間を設定します。
(緊急呼び出し機能有効時) (出荷時の設定：無効)
「1～10」秒の範囲で設定します。
- ③⑦ 警告音 …………… 「有効」に設定すると、緊急呼び出し状態で警告音(ピロピロ…)が鳴ります。
(緊急呼び出し機能有効時) 音量を、「0～32」の範囲で設定します。(出荷時の設定：32)
- ※「無効」に設定するとサイレントモードになり、画面の「緊急」を非表示のまま緊急呼び出しが動作します。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定

呼出音量: 10

エマージェンシー設定

③③ エマージェンシー: ☐ 無効 ☒ 有効

③④ 履歴キーへの割当: ☐ 無効 ☒ 有効

③⑤ 動作判定時間: 5 秒

③⑥ 解除判定時間: ☒ 無効 ☐ 有効 2 秒

③⑦ 警告音: ☐ 無効 ☒ 有効 音量: 32

③⑧ 呼出種別: 全体

③⑨ 応答後の解除: ☐ 無効 ☒ 有効

④⑦ 自動解除: ☒ 無効 ☐ 有効 時間: 60 秒

エマージェンシー着信設定

④① 警告音: ☐ 無効 ☒ 有効 音量: 32 動作: 通知音+バイブレーション

Lone Worker設定

④② Lone Worker: ☐ 無効 ☒ 有効

④③ Lone Worker監視タイマー: 60 分

④④ Lone Worker警告タイマー: 60 秒

④⑤ PTT遅延タイマー: ☐ 無効 ☒ 有効 10 x100 ミリ秒

※画面の値は、設定例です。

③⑧ 呼出種別

緊急呼び出し機能有効時

緊急呼び出しを通知する相手を選択します。(出荷時の設定: 全体)

※「個別」、または「グループ」を選択したときは、[呼出先番号]欄に個別番号、またはグループ番号を4桁の数字で入力します。

※「電話」を選択したときは、[呼出先番号]欄に相手先の電話番号を31桁以内の数字/記号(#、*)で入力します。

③⑨ 応答後の解除

緊急呼び出し機能有効時

緊急呼び出しを受信した相手が応答した場合、緊急呼び出しを解除するかどうかを設定します。(出荷時の設定: 有効)

④⑦ 自動解除

緊急呼び出し機能有効時

緊急呼び出しが動作してから一定時間経過すると、緊急呼び出しが解除されます。(出荷時の設定: 無効)

「1～255」秒の範囲で設定します。

④① 警告音

緊急呼び出し機能有効時

緊急呼び出しを受信すると、警告音(ピロピロ…)が鳴動します。

音量を、「0」～「32」の範囲で設定します。(出荷時の設定: 32)

※[動作]欄では、緊急呼び出しを受信したときの動作を、「通知音」、「バイブレーション」、または「通知音+バイブレーション」から選択します。

④② Lone Worker

緊急呼び出し機能有効時

一定時間、無線機の操作がない場合、自動的に緊急呼び出しをする機能を設定します。(出荷時の設定: 無効)

※警備中など定期連絡を義務付けている場合に、何らかの事故が発生して連絡ができなかったときに便利な機能です。

④③ Lone Worker

監視タイマー

Lone Worker機能有効時

一定時間、無線機の操作がないと認識するまでの時間を設定します。

(出荷時の設定: 60)

※設定できる範囲は、「1～255」分です。

※無線機の操作がないと認識されると、ビーブ音(ピッ)が1回鳴って、[Lone Worker警告タイマー](④④)が動作します。

※無線機を操作すると、Lone Worker監視タイマーがリセットされます。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定

警告音量: 10

エマージェンシー設定

③③ エマージェンシー: ☐ 無効 ☒ 有効

③④ 履歴キーへの割当: ☐ 無効 ☒ 有効

③⑤ 動作判定時間: 5 秒

③⑥ 解除判定時間: ☒ 無効 ☐ 有効 2 秒

③⑦ 警告音: ☐ 無効 ☒ 有効 音量: 32

③⑧ 呼出種別: 全体

③⑨ 応答後の解除: ☐ 無効 ☒ 有効

④④ 自動解除: ☒ 無効 ☐ 有効 時間: 60 秒

エマージェンシー着信設定

④① 警告音: ☐ 無効 ☒ 有効 音量: 32 動作: 通知音+バイブレーション

Lone Worker設定

④② Lone Worker: ☐ 無効 ☒ 有効

④③ Lone Worker監視タイマー: 60 分

④④ Lone Worker警告タイマー: 60 秒

④⑤ PTT遅延タイマー: ☐ 無効 ☒ 有効 10 x100 ミリ秒

※画面の値は、設定例です。

④④ Lone Worker

警告タイマー
(Lone Worker機能有効時)

[Lone Worker監視タイマー] (④③)欄で設定した時間を経過後、自動的に緊急呼び出し機能を開始するまでの時間を設定します。

(出荷時の設定: 60)

Lone Worker警告タイマーで設定した時間が経過しても無線機の操作がないときは、自動的に緊急呼び出しを開始します。

※設定できる範囲は、「1～255」秒です。

※緊急呼び出し機能が動作するまでに、無線機を操作すると、Lone Worker監視タイマーとLone Worker警告タイマーがリセットされます。

※Lone Worker警告タイマー動作中は、2秒ごとにピープ音(ピッ)が鳴ります。

④⑤ PTT遅延タイマー (Lone Worker機能有効時)

Lone Worker監視タイマーとLone Worker警告タイマーが動作中に、[PTT] (送信)スイッチを押しつづけたとき、送信されるまでの時間を設定します。

(出荷時の設定: 10)

※時間を長く設定することで、[PTT] (送信)スイッチを押しても、送信されることなく、Lone Worker監視タイマーとLone Worker警告タイマーがリセットできます。

※設定できる範囲は、「1～255」x100ミリ秒です。

※[PTT] (送信)スイッチを設定した時間以上押しつづけると、送信状態になります。

ご注意

本製品は、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的とした製品ではありません。

電池の消耗や電波環境、無線アクセスポイントやネットワークの状態など、周囲の環境によって、通信できないことがあります。

緊急呼び出し機能、および Lone Worker 機能は、補助的な使用を目的とした機能としてご理解ください。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定

無線機個別設定

V/RoP設定

④⑥ジッターバッファ種別:

☐スタティック

☒ダイナミック

④⑦TOS種別:

TOS

▼

④⑧メディア(RTP):

優先度

7

サービスタイプ

0

16進表示:E0

アンテナ設定

④⑨アンテナ種別:

無線機の設定優先

▼

IPアドレス設定

⑤⑩設定方法:

無線機の設定優先

▼

保守設定

⑤①保守サーバー:

⑤②保守サーバー以外からの再起動:

☒無効

☐有効

⑤③SNTPサーバー:

⑤④起動時のファームウェア自動更新:

有効(自動再起動有り)

▼

⑤⑤ファームアップサーバー:

⑤⑥SYSLOGホストアドレス:

⑤⑦SYSLOG送信レベル:

☐DEBUG

☐INFO

☐NOTICE

セキュリティ設定

⑤⑧アクセスパスワード:

⑤⑨

登録

⑥⑩

取消

※画面の値は、設定例です。

④⑥ ジッターバッファ種別

IP100Hが音声を受信したときに、パケットの揺らぎによる音声途切れを軽減するために使用するジッターバッファを、「スタティック」、「ダイナミック」から選択します。
(出荷時の設定：ダイナミック)

◎スタティック

音声を受信したとき、[ジッターバッファサイズ]欄で設定した時間で音声データを蓄えます。

設定できる範囲は、「20」(ミリ秒)～「500」(ミリ秒)です。

設定する時間が短いほど遅延は少なくなりますが、音声途切れやすくなります。

V/RoP設定

ジッターバッファ種別:

☒スタティック

☐ダイナミック

ジッターバッファサイズ:

40

▼

ミリ秒

TOS種別:

TOS

▼

◎ダイナミック

音声を受信したとき、揺らぎに応じて音声データを蓄える時間が変動します。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定

V/RoP設定

④6 ジッターバッファ種別: ☐ スタティック ☒ ダイナミック

④7 TOS種別:

④8 メディア(RTP): 優先度 サービスタイプ 16進表示: E0

アンテナ設定

④9 アンテナ種別:

IPアドレス設定

⑤0 設定方法:

保守設定

⑤1 保守サーバー:

⑤2 保守サーバー以外からの再起動: ☒ 無効 ☐ 有効

⑤3 SNTPサーバー:

⑤4 起動時のファームウェア自動更新:

⑤5 ファームアップサーバー:

⑤6 SYSLOGホストアドレス:

⑤7 SYSLOG送信レベル: ☐ DEBUG ☐ INFO ☐ NOTICE

セキュリティ設定

⑤8 アクセスパスワード:

※画面の値は、設定例です。

- ④7 **TOS種別**
 IP100HのTOS機能について設定します。 (出荷時の設定：TOS)
 ◎**使用しない**
 TOS機能を使用しません。
 ◎**TOS**
 TOS(Type Of Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。
 RFC1349に準拠して、1ビット～3ビットを優先度、4ビット～7ビットをサービスタイプとして、10進数で設定します。
 残りの1ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。
 優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。
 ◎**Diffserv**
 Diffserv(Differentiated Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。
 1ビット～6ビットをDSCPとして、10進数で設定します。
 残りの2ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定

V/RoP設定

④⑥ジッターバッファ種別:

☐スタティック

☒ダイナミック

④⑦TOS種別:

TOS

④⑧メディア(RTP):

優先度

7

サービスタイプ

0

16進表示:E0

アンテナ設定

④⑨アンテナ種別:

無線機の設定優先

IPアドレス設定

⑤⑩設定方法:

無線機の設定優先

保守設定

⑤①保守サーバー:

⑤②保守サーバー以外からの再起動:

☒無効

☐有効

⑤③SNTPサーバー:

⑤④起動時のファームウェア自動更新:

有効(自動再起動有り)

⑤⑤ファームアップサーバー:

⑤⑥SYSLOGホストアドレス:

⑤⑦SYSLOG送信レベル:

☐DEBUG

☐INFO

☐NOTICE

セキュリティ設定

⑤⑧アクセスパスワード:

59

60

登録

取消

※画面の値は、設定例です。

④⑧ メディア(RTP) ……………

TOSフィールド内に出力された音声パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

※[TOS種別] (④⑦)欄で「使用しない」を選択したときは表示されない項目です。

◎優先度

TOSの優先度フィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。(出荷時の設定：7)

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ

TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～15」(10進数)です。(出荷時の設定：0)

◎DSCP

DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。

設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。(出荷時の設定：56)

※[TOS種別] (④⑦)欄で「Diffserv」を選択したときに、表示される項目です。

V/RoP設定

ジッターバッファ種別:

☐スタティック

☒ダイナミック

TOS種別:

Diffserv

メディア(RTP):

DSCP

56

16進表示:E0

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定

無線機個別設定

V/RoP設定

④6ジッターバッファ種別:

☐スタティック

☒ダイナミック

④7TOS種別:

TOS

④8メディア(RTP):

優先度

7

サービスタイプ

0

16進表示:E0

アンテナ設定

④9アンテナ種別:

無線機の設定優先

IPアドレス設定

⑤0設定方法:

無線機の設定優先

保守設定

⑤1保守サーバー:

⑤2保守サーバー以外からの再起動:

☒無効

☐有効

⑤3SNTPサーバー:

⑤4起動時のファームウェア自動更新:

有効(自動再起動有り)

⑤5ファームアップサーバー:

⑤6SYSLOGホストアドレス:

⑤7SYSLOG送信レベル:

☐DEBUG

☐INFO

☐NOTICE

セキュリティ設定

⑤8アクセスパスワード:

59登録

60取消

※画面の値は、設定例です。

④9アンテナ種別……………

IP100Hで使用するアンテナについて設定します。

(出荷時の設定：無線機の設定優先)

◎無線機の設定優先

導入時は、CS-IP100Hで設定された内容を使用しますが、本製品で変更した場合は、その設定内容で動作するようになります。

◎内部アンテナ

下記のようなときに、IP100Hの内部アンテナを使用します。

◎IP100Hから送信される電波が届く範囲を狭めたいとき

◎通信エリアを制限してセキュリティーを高めたいとき

◎突起物がない状態で使いたいとき

◎外部アンテナ

送信される電波を広範囲に届けたいときに、外部アンテナ(IP100H付属品)を接続して使用します。

※IP100Hの内部アンテナは、外部アンテナに比べて、通信距離が短くなります。

※設置する環境や条件などにより、通信距離は異なります。

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定

V/RoP設定

④6ジッターバッファ種別:

④7TOS種別:

④8メディア(RTP):

アンテナ設定

④9アンテナ種別:

IPアドレス設定

⑤0設定方法:

保守設定

⑤1保守サーバー:

⑤2保守サーバー以外からの再起動:

⑤3SNTPサーバー:

⑤4起動時のファームウェア自動更新:

⑤5ファームアップサーバー:

⑤6SYSLOGホストアドレス:

⑤7SYSLOG送信レベル:

セキュリティ設定

⑤8アクセスパスワード:

☐スタティック
☒ダイナミック

TOS

優先度 7 サービスタイプ 0 16進表示:E0

無線機の設定優先

無線機の設定優先

☒無効 ☐有効

有効(自動再起動有り)

☐DEBUG ☐INFO ☐NOTICE

59 登録

60 取消

※画面の値は、設定例です。

⑤0 設定方法

IP100HのIPアドレスに関する設定をします。

(出荷時の設定：無線機の設定優先)

◎無線機の設定優先

導入時は、CS-IP100Hで設定された内容を使用しますが、本製品で変更した場合は、その設定内容で動作するようになります。

◎DHCPクライアント

DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得するときに使用します。

IPアドレス設定

設定方法:

プライマリーDNSサーバー:

セカンダリーDNSサーバー:

DHCPクライアント

※必要に応じて、プライマリーDNSサーバー、セカンダリーDNSサーバーを設定してください。

(次ページにつづく)

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■無線機個別設定

無線機個別設定

V/RoP設定

④6 ジッターバッファ種別: ☐ スタティック ☒ ダイナミック

④7 TOS種別:

④8 メディア(RTP): 優先度 サービスタイプ 16進表示: E0

アンテナ設定

④9 アンテナ種別:

IPアドレス設定

⑤0 設定方法:

保守設定

⑤1 保守サーバー:

⑤2 保守サーバー以外からの再起動: ☒ 無効 ☐ 有効

⑤3 SNTPサーバー:

⑤4 起動時のファームウェア自動更新:

⑤5 ファームアップサーバー:

⑤6 SYSLOGホストアドレス:

⑤7 SYSLOG送信レベル: ☐ DEBUG ☐ INFO ☐ NOTICE

セキュリティ設定

⑤8 アクセスパスワード:

※画面の値は、設定例です。

⑤⑤ 設定方法(つづき)

◎固定IP

固定IPアドレスを割り当てるときに使用します。
ご利用になるネットワーク環境に応じて設定してください。

IPアドレス設定	
設定方法:	固定IP 
IPアドレス:	
サブネット マスク:	
デフォルトゲートウェイ:	
プライマリDNSサーバー:	
セカンダリDNSサーバー:	

※ネットワーク部が異なる接続先と通信する場合、パケット転送先機器の IP アドレスをデフォルトゲートウェイに入力します。

※必要に応じて、プライマリーDNSサーバー、セカンダリーDNSサーバーを設定してください。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定

V/RoP設定

④⑥ジッターバッファ種別: ☐スタティック ☒ダイナミック

④⑦TOS種別: TOS

④⑧メディア(RTP): 優先度 7 サービスタイプ 0 16進表示:E0

アンテナ設定

④⑨アンテナ種別: 無線機の設定優先

IPアドレス設定

⑤⑩設定方法: 無線機の設定優先

保守設定

⑤①保守サーバー:

⑤②保守サーバー以外からの再起動: ☒無効 ☐有効

⑤③SNTPサーバー:

⑤④起動時のファームウェア自動更新: 有効(自動再起動有り)

⑤⑤ファームアップサーバー:

⑤⑥SYSLOGホストアドレス:

⑤⑦SYSLOG送信レベル: ☐DEBUG ☐INFO ☐NOTICE

セキュリティ設定

⑤⑧アクセスパスワード:

59 登録 60 取消

※画面の値は、設定例です。

- ⑤① 保守サーバー IP100Hの保守サーバーに指定する機器のIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
※本製品を保守サーバーとして使用する場合は、この欄を設定する必要はありません。
- ⑤② 保守サーバー以外からの再起動 保守サーバー(⑤①)として指定した機器以外から、IP100Hを再起動させるかどうかを設定します。(出荷時の設定：無効)
※2018年1月現在、IP1000C、AP-9500以外に対応した製品はありません。
- ⑤③ SNTPサーバー IP100HのSNTPサーバーに指定する機器のIPアドレスを入力します。
※本製品をSNTPサーバーとして使用する場合は、この欄を設定する必要はありません。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定

V/RoP設定

④6ジッターバッファ種別:

☐スタティック

☒ダイナミック

④7TOS種別:

TOS

④8メディア(RTP):

優先度 7 サービスタイプ 0 16進表示:E0

アンテナ設定

④9アンテナ種別:

無線機の設定優先

IPアドレス設定

⑤0設定方法:

無線機の設定優先

保守設定

⑤1保守サーバー:

⑤2保守サーバー以外からの再起動:

☒無効

☐有効

⑤3SNTPサーバー:

⑤4起動時のファームウェア自動更新:

有効(自動再起動有り)

⑤5ファームアップサーバー:

⑤6SYSLOGホストアドレス:

⑤7SYSLOG送信レベル:

☐DEBUG

☐INFO

☐NOTICE

セキュリティ設定

⑤8アクセスパスワード:

59登録

60取消

※画面の値は、設定例です。

⑤4 起動時のファームウェア

自動更新

本製品からIP100Hのファームウェアを自動更新するための設定です。
(出荷時の設定：有効(自動再起動有り))

◎無効

本製品によるIP100Hのファームウェア自動更新を無効にします。

◎有効(自動再起動無し)

IP100Hの電源を入れたとき、本製品に内蔵しているファームウェアを確認し、更新する内容がある場合、IP100Hはファームウェアを取得します。
IP100Hの電源を入れたとき、ファームウェアの更新を開始します。

◎有効(自動再起動有り)

IP100Hの電源を入れたとき、本製品に内蔵しているファームウェアを確認し、更新する内容がある場合、IP100Hはファームウェアの更新を開始します。

更新が完了すると、自動的にIP100Hが再起動します。

※本製品に内蔵しているIP100Hのファームウェアのバージョン情報は、「TOP」メニューで確認できます。

⑤5 ファームアップサーバー

IP100Hのファームアップサーバーに指定する機器のIPアドレス、またはホスト名を入力します。

入力は、半角英数字で63文字までです。

※本製品をファームアップサーバーとして使用する場合は、この欄を設定する必要はありません。

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■ 無線機個別設定(つづき)

無線機個別設定

V/RoP設定

④6ジッターバッファ種別:

☐スタティック

☒ダイナミック

④7TOS種別:

TOS

④8メディア(RTP):

優先度

7

サービスタイプ

0

16進表示:E0

アンテナ設定

④9アンテナ種別:

無線機の設定優先

IPアドレス設定

⑤0設定方法:

無線機の設定優先

保守設定

⑤1保守サーバー:

⑤2保守サーバー以外からの再起動:

☒無効

☐有効

⑤3SNTPサーバー:

⑤4起動時のファームウェア自動更新:

有効(自動再起動有り)

⑤5ファームアップサーバー:

⑤6SYSLOGホストアドレス:

⑤7SYSLOG送信レベル:

☐DEBUG

☐INFO

☐NOTICE

セキュリティ設定

⑤8アクセスパスワード:

⑤9

登録

⑥0

取消

※画面の値は、設定例です。

- | | |
|-------------------|--|
| ⑤6 SYSLOGホストアドレス | IP100HのSYSLOGサーバーに指定する機器(ホスト)のIPアドレスを入力します。
※ホストは、SYSLOGサーバー機能に対応している必要があります。 |
| ⑤7 SYSLOG送信レベル …… | [SYSLOGホストアドレス](⑤6)欄に入力したホストへ送信するログ情報の各レベルを選択します。(出荷時の設定：□ DEBUG □ INFO □ NOTICE)
ログ出力するレベルのチェックボックスをクリックして、チェックマーク[✓]を入れます。 |
| ⑤8 アクセスパスワード …… | CS-IP100H*から、書き込み、読み込み、ファームウェア更新をする場合の認証用パスワードを、半角16文字以内で設定します。
★CS-IP100Hは、IP100Hの無線LANや保守サーバーを設定できるソフトウェアです。
弊社ホームページからダウンロードできます。 |
| ⑤9<登録> …………… | [無線機個別設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[無線機個別設定一覧]項目に表示されます。 |
| ⑥0<取消> …………… | [無線機個別設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。 |

4 設定画面について

8.「無線機設定」メニュー

「無線機設定」－「無線機個別」

■無線機個別設定コピー

[無線機個別設定] 項目で登録した無線機の設定内容をほかの無線機にコピーできます。

※IPアドレス設定はコピーされません。

無線機個別設定コピー

コピー元無線機: 0001(営業1) ※[無線機個別設定]-[個別番号]で選択します。

コピー先無線機

① ☐すべて ☐0002(営業2) ☐0003(営業3)

② コピー ③ 取消

※画面は、表示例です。

- ① **選択ボックス** ボックスにチェックマークを入れて、コピー先の無線機を選択します。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
- ② **〈コピー〉** クリックすると、[無線機別設定]項目に表示されている登録内容が、選択した個別番号の無線機(①)にコピーされます。
- ③ **〈取消〉** クリックすると、[選択ボックス](①)欄のチェックマークが解除されます。
※〈コピー〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■無線機個別設定一覧

[無線機個別設定] 項目で登録した内容の一覧です。

登録内容を編集、確認するときは、[無線機個別設定]項目で[個別番号(名前)]を選択します。

無線機個別設定一覧							
機種	名前	個別番号	アドレス帳からの呼出	近隣呼出	メッセージ	プレゼンス	オプションキー
IP100H	営業1	0001	有効	有効	有効	有効	ワンタッチ
IP100H	営業2	0002	有効	有効	有効	有効	メッセージ
IP100H	営業3	0003	有効	有効	有効	有効	メッセージ

※画面は、表示例です。

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー

「設定グループ」-「無線LAN」

■無線LAN設定

IP100Hの無線LANに関する共通項目の設定を登録します。

※「設定グループ詳細」画面で、IP100Hが所属する設定グループごとに、無線LAN設定を指定できます。

※設定内容を変更した場合は、IP100Hの再起動が必要です。

※画面の値は、入力例です。

- ① 番号 IP100Hが所属する設定グループで共用する無線LAN設定を登録するために、「1」～「20」の番号を選択します。
最大20件まで登録できます。
- ② 名前 任意の名称を、半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ③ スキャンモード IP100Hで使用する無線LAN規格を設定します。
ここで設定した無線LAN規格の無線アクセスポイントに接続すると、通信できます。
(出荷時の設定： ☒ 11g、
☒ 11a(☒ W52 ☒ W53 ☒ W56))
※チェックマークを入れた無線LAN規格のチャンネルが、自動設定するチャンネルの検索範囲になります。
※5.2/5.3GHz帯無線LANの使用は、電波法により、屋内に限定されます。
5GHz帯を屋外で使用する場合は、11a(W56)だけにチェックマークを入れてください。

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー

「設定グループ」—「無線LAN」

■ 無線LAN設定(つづき)

無線LAN設定

※無線機の無線LAN設定の変更に使用します。

①番号: 1

②名前:

③スキャンモード: ☒ 11g
☒ 11a (☒ W52 ☒ W53 ☒ W56)

④通信チャンネル(11g): 自動(1-13)

⑤パワーレベル: 高

⑥ローミング閾値: -75 dBm

※SSIDを空にすると設定がクリアされます。

⑦SSID	⑧ネットワーク認証	⑨暗号化方式	⑩ WEPキー または PSK(Pre-Shared Key)
	オープンシステム・共有キー	なし	WEP:
	オープンシステム・共有キー	なし	WEP:
	オープンシステム・共有キー	なし	WEP:

⑪登録 ⑫取消

※画面の値は、入力例です。

④通信チャンネル(11g) …

IP100Hで2.4GHz帯(11g)を使用する場合に、スキャンするチャンネルを設定します。
(出荷時の設定：自動(1-13))
「自動(1-13)」、「自動(1,5,9,13)」、「固定」から選択します。

【特定のチャンネルを指定する場合は】

[通信チャンネル(11g)]欄で「固定」を選択して、[固定チャンネル(11g)]欄から使用するチャンネル(1～13)を指定します。

スキャンモード: ☒ 11g
☒ 11a (☒ W52 ☒ W53 ☒ W56)

通信チャンネル(11g): 固定

固定チャンネル(11g): 1

パワーレベル:

ローミング閾値:

※SSIDを空にすると設定がクリアされます。

SSID	ネットワーク認証	暗号化方式
	オープンシステム・共有	なし
	オープンシステム・共有	なし
	オープンシステム・共有	なし
	オープンシステム・共有	なし
	オープンシステム・共有	なし
	オープンシステム・共有	なし
	オープンシステム・共有	なし
	オープンシステム・共有	なし
	オープンシステム・共有	なし
	オープンシステム・共有	なし
	オープンシステム・共有	なし
	オープンシステム・共有	なし
	オープンシステム・共有	なし
	オープンシステム・共有	なし
	オープンシステム・共有	なし

⑤パワーレベル ……………

IP100Hの送信出力を、高/中/低(3段階)の中から選択します。
(出荷時の設定：高)

IP100Hの最大伝送距離は、パワーレベルが「高」の場合です。
パワーレベルを低くすると、伝送距離も短くなります。

【パワーレベルを低くする目的について】

- ◎IP100Hから送信される電波が広範囲に届くのを軽減したいとき
- ◎通信エリアを制限してセキュリティを高めたいとき
- ◎比較的狭いエリアに複数台の無線アクセスポイントが設置された環境で、近くの無線LAN機器との電波干渉をなくして、通信速度の低下などを軽減したいとき

⑥ローミング閾値 ……………

IP100Hがローミングを開始する受信信号強度を、「-1」～「-100」(dBm)から選択します。
(出荷時の設定：-75)
設定値が大きい(例：-65)ほどローミングしやすく、設定値が小さい(例：-85)ほどローミングしにくくなります。

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー

「設定グループ」—「無線LAN」

■ 無線LAN設定(つづき)

無線LAN設定

※無線機の無線LAN設定の変更に使用します。

① 番号: 1 ▼

② 名前:

③ スキャンモード: ☒ 11g
☒ 11a (☒ W52 ☒ W53 ☒ W56)

④ 通信チャンネル(11g): 自動(1-13) ▼

⑤ パワーレベル: 高 ▼

⑥ ローミング閾値: -75 ▼ dBm

※SSIDを空にすると設定がクリアされます。

⑦ SSID	⑧ ネットワーク認証	⑨ 暗号化方式	⑩ WEPキー または PSK(Pre-Shared Key)
	オープンシステム・共有キー ▼	なし ▼	WEP:
	オープンシステム・共有キー ▼	なし ▼	WEP:
	オープンシステム・共有キー ▼	なし ▼	WEP:

⑪ 登録 ⑫ 取消

※画面の値は、入力例です。

⑦ SSID

無線アクセスポイントに設定されたSSID(無線ネットワーク名)を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字32文字以内で入力します。

※最大10件のSSIDを登録できます。

※[SSID]は、無線ネットワークのグループ分けをするために使用します。

[SSID]の異なる無線LAN機器とは接続できません。

※無線アクセスポイントが無線伝送エリア内に複数存在しているような場合、個々の無線ネットワークグループを[SSID]で識別できます。

※複数の[SSID]を登録した場合、IP100Hは電波が強い無線アクセスポイントを自動で選択し、接続します。

※弊社以外の無線LAN機器では[ESSID]と表記されている場合があります。

[SSID]と[ESSID]は、同じ意味で使用しています。

※Ver 1.64以前のファームから更新した場合は、先頭の[SSID]に設定を引き継ぎます。

ご注意

次のような場合、無線LAN設定の登録はできません。

◎[SSID] (⑦)と[暗号化方式] (⑨)の組み合わせが重複する場合

◎先頭のSSIDが、他の無線LAN設定(「番号」(①)が異なる設定)と重複する場合

⑧ ネットワーク認証

無線アクセスポイントに設定されたネットワーク認証方式を選択します。

(出荷時の設定: オープンシステム・共有キー)

※異なる認証方式の相手とは互換性がないので、通信する無線アクセスポイントと同じ設定にしてください。

【認証方式について】

◎ オープンシステム・共有キー:

無線アクセスポイントにアクセスするとき、「オープンシステム」と「共有キー」を自動認識しますので、無線アクセスポイントと暗号鍵(キー)が同じであれば通信できます。

◎ オープンシステム:

無線アクセスポイントにアクセスするとき、暗号鍵(キー)の認証をしません。

◎ WPA-PSK・WPA2-PSK:

「WPA-PSK」認証と「WPA2-PSK」認証を自動認識します。

■ 無線LAN設定

無線LAN設定

※無線機の無線LAN設定の変更に使用します。

①番号:

②名前:

③スキャンモード: ☒ 11g
☒ 11a (☒ W52 ☒ W53 ☒ W56)

④通信チャンネル(11g):

⑤パワーレベル:

⑥ローミング閾値: dBm

※SSIDを空にすると設定がクリアされます。

⑦SSID	⑧ネットワーク認証	⑨暗号化方式	⑩ WEPキー または PSK(Pre-Shared Key)
	オープンシステム・共有キー	なし	WEP:
	オープンシステム・共有キー	なし	WEP:
	オープンシステム・共有キー	なし	WEP:

※画面の値は、入力例です。

⑧ ネットワーク認証(つづき)...

【ネットワーク認証と暗号化方式の対応について】

	オープンシステム	オープンシステム・共有キー	WPA-PSK WPA2-PSK
なし	○	○	×
WEP RC4	○	○	×
TKIP・AES	×	×	○

⑨ 暗号化方式

無線アクセスポイントに設定された暗号化方式を選択します。

(出荷時の設定：なし)

対応する暗号化方式は、「WEP RC4」、「TKIP・AES」です。

※異なる暗号化方式の相手とは互換性がないので、通信する無線アクセスポイントと同じ設定にしてください。

【暗号化方式について】

◎ なし

データを暗号化しないで通信します。

※[ネットワーク認証](⑧)欄で、「オープンシステム・共有キー」、または「オープンシステム」を選択したときに使用できます。

※IEEE802.11n/a/b/g規格に準拠します。

◎ WEP RC4

暗号鍵(キー)が一致した場合に、通信できる暗号化方式です。

※暗号鍵(キー)の長さは、64(40)/128(104)ビットの中から選択できます。

※[ネットワーク認証](⑧)欄で、「オープンシステム・共有キー」、または「オープンシステム」を選択したときに使用できます。

※IEEE802.11a/b/g規格に準拠します。

◎ TKIP・AES

無線LAN端末からのアクセスに対して、「TKIP」と「AES」を自動認識します。

※[ネットワーク認証](⑧)欄で、「WPA-PSK・WPA2-PSK」を選択したときに使用できます。

※「AES」は、無線通信で標準的に使われている強力な暗号化方式です。

※「AES」が認識されたときだけ、IEEE802.11n規格で通信できます。

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー

「設定グループ」—「無線LAN」

■ 無線LAN設定(つづき)

無線LAN設定

※無線機の無線LAN設定の変更に使用します。

① 番号: 1 ▼

② 名前:

③ スキャンモード: ☒ 11g
☒ 11a (☒ W52 ☒ W53 ☒ W56)

④ 通信チャンネル(11g): 自動(1-13) ▼

⑤ パワーレベル: 高 ▼

⑥ ローミング閾値: -75 ▼ dBm

※SSIDを空にすると設定がクリアされます。

⑦ SSID	⑧ ネットワーク認証	⑨ 暗号化方式	⑩ WEPキー または PSK(Pre-Shared Key)
	オープンシステム・共有キー ▼	なし ▼	WEP:
	オープンシステム・共有キー ▼	なし ▼	WEP:
	オープンシステム・共有キー ▼	なし ▼	WEP:

⑪ 登録 ⑫ 取消

※画面の値は、入力例です。

⑩ WEPキー または PSK(Pre-Shared Key) …

【WEPキーについて】

無線アクセスポイントに設定された暗号鍵(キー)を入力します。

ネットワーク認証	暗号化方式	WEPキー または PSK(Pre-Shared Key)
オープンシステム・共有キー ▼	WEP RC4 64(40) ▼	WEP: 0000000000

※[ネットワーク認証](⑧)欄で、「オープンシステム・共有キー」、または「オープンシステム」を選択したときに設定できます。

※「0～9」、および「a～f(またはA～F)」の16進数、またはASCII文字で、半角入力してください。

※入力する暗号鍵(キー)の桁数は、[暗号化方式](⑨)欄を設定したとき表示される桁数(10桁の表示例: 0000000000)と同じに設定してください。ASCII文字で入力する場合は、16進数の半分(例: 5文字)で入力してください。

【PSK(Pre-Shared Key)について】

無線アクセスポイントで設定した共有鍵(キー)を半角英数字で入力します。

ネットワーク認証	暗号化方式	WEPキー または PSK(Pre-Shared Key)
WPA-PSK・WPA2-PSK ▼	TKIP・AES ▼	PSK: 00000000

※[ネットワーク認証](⑧)欄で、「WPA-PSK・WPA2-PSK」を選択したときに設定できます。

※同じ暗号化方式を使用する相手と、同じ共有鍵(キー)を設定してください。

※16進数で設定するときは、64桁を入力してください。

※ASCII文字で設定するときは、大文字/小文字の区別に注意して、8文字～63文字を入力してください。

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー

「設定グループ」-「無線LAN」

■ 無線LAN設定(つづき)

無線LAN設定

※無線機の無線LAN設定の変更に使用します。

①番号:

②名前:

③スキャンモード: ☒ 11g
☒ 11a (☒ W52 ☒ W53 ☒ W56)

④通信チャンネル(11g):

⑤パワーレベル:

⑥ローミング閾値: dBm

※SSIDを空にすると設定がクリアされます。

⑦SSID	⑧ネットワーク認証	⑨暗号化方式	⑩ WEPキー または PSK(Pre-Shared Key)
無線LAN設定	オープンシステム・共有キー	なし	WEP:
無線LAN設定	オープンシステム・共有キー	なし	WEP:
無線LAN設定	オープンシステム・共有キー	なし	WEP:

⑪ ⑫

※画面の値は、入力例です。

- ⑪<登録> [無線LAN設定] 項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[無線LAN設定一覧] 項目に表示されます。
- ⑫<取消> [無線LAN設定] 項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー(つづき)

「設定グループ」-「無線LAN」

■無線LAN設定一覧

[無線LAN設定]項目で登録した内容を表示します。

無線LAN設定一覧				
番号	名前	SSID	①	②
1	営業用	無線LAN-営業用	編集	削除
2	総務用	無線LAN-総務用	編集	削除
				③ 全削除

※画面の値は、入力例です。

- ①<編集> クリックすると、登録内容を編集できます。
編集内容は、[無線LAN設定]項目に表示されます。
- ②<削除> クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ③<全削除> クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー(つづき)

「設定グループ」→「アドレス帳」

■アドレス帳グループ設定

IP100Hが使用するアドレス帳を登録するときに使用します。

※「設定グループ詳細」画面で、IP100Hが所属する設定グループごとに、アドレス帳を指定できます。

※設定内容を変更した場合は、IP100Hの再起動が必要です。

アドレス帳グループ設定	
アドレス帳グループ番号:	1(0件) ▼ ※変更すると、表示するアドレス帳のグループが変更されます。

アドレス帳グループ番号……

IP100Hが使用するアドレス帳を登録するために、「1」～「100」の番号を選択します。

最大100件までグループを登録できます。

※グループに名前や呼出先番号が登録されているときは、下図のように表示されます。

アドレス帳グループ番号:	1(営業部 / 7件) ▼
--------------	--------------------------

■アドレス帳グループ詳細設定

[アドレス帳グループ設定]項目で選択したグループに任意の名称を登録します。

アドレス帳グループ詳細設定	
①名前:	
	②登録 ③取消

- ①名前 …………… 任意の名称を、半角31(全角15)文字以内で入力します。
※「アドレス帳」画面と「設定グループ詳細」画面で、グループを選択すると入力した名前が表示されます。
- ②〈登録〉 …………… [アドレス帳グループ詳細設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ③〈取消〉 …………… [アドレス帳グループ詳細設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■ アドレス帳設定の保存と書き込み

[アドレス帳グループ設定]項目で選択したグループのアドレス帳をファイルに保存したり、保存したファイルを本製品に書き込んだりします。

※設定内容を変更した場合は、IP100Hの再起動が必要です。

アドレス帳設定の保存と書き込み(営業部)

①保存したファイルを書き込む:

参照...
書き込み

CSV形式のファイルが書き込みできます。
ファイルを書き込むと、現在の設定は破棄されます。

②ファイルに保存する:

保存

tn01_id_list001.csvで保存されます。

※上図は、[アドレス帳グループ設定]項目(P.4-81)でグループ番号「1」を選択したときの画面です。

※グループに名前(例：営業部)が登録されていないときは、項目名だけ表示されます。

①保存したファイルを

書き込む ……………

[ファイルに保存する](②)欄の操作で保存したアドレス帳ファイル(拡張子：csv)の内容を本製品に書き込むとき使用します。

ファイルの保存先を指定するため、〈参照...〉をクリックします。

表示された画面で目的のファイルを選択して、〈開く(O)〉をクリックします。

テキストボックスに保存先を指定後、〈書き込み〉をクリックすると、[アドレス帳設定一覧]項目にその内容を書き込みます。

※書き込む前の内容は、消去されますのでご注意ください。

※「管理」メニューの「設定の保存/復元」画面で保存された設定ファイルを書き込むと、上書きされますのでご注意ください。

※[ファイルに保存する](②)欄の操作で保存した状態のファイル、および4-83ページの書式で編集したファイル以外のインポートは、保証対象外になります。

②ファイルに保存する ……

[アドレス帳設定一覧]項目に表示された内容をアドレス帳ファイルとして、パソコンに保存します。

〈保存〉をクリックして、表示された画面の〈保存(S)〉をクリックすると、アドレス帳ファイル(拡張子：csv)として保存できます。

※ファイル名は、[アドレス帳グループ設定]項目で選択したグループ番号に応じて変わります。

たとえば、テナント1のグループ1を選択したときのファイル名は、tn01_id_list001.csvになります。

■ アドレス帳設定の保存と書き込み(つづき)

アドレス帳ファイルのインポートについて

保存した状態のファイル(P.4-82)、および下記条件で編集したファイル以外の書き込みは、保証対象外になります。

「アドレス帳ファイル」(拡張子: csv)の書式

```
#,IP100C,アドレス帳設定,設定保存ファイル
#,Firm Ver.,,,
#,File Ver.,,,
#グループ名, "営業部"
#番号,名前,呼出種別(indi=個別,group=グループ,tel=電話),呼出先番号(個別,グループ),呼出先番号(電話),トークグループ
1,"個別0001","indi","0001","",0
2,"個別0002","indi","0002","",0
3,"個別0003","indi","0003","",0
4,"グループ10","group","0010","",0
5,"IP500H_11","indi","00011","",0
6,"IP500H_12","indi","0012","",0
7,"IP500H_13","indi","0013","",0
```

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

- ①グループ名 : 半角31(全角15)文字以内
- ②番号 : 1～50 ※重複しない番号を入力
- ③名前 : 半角32(全角16)文字以内
 ※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。
 ※環境依存文字を入力しないでください。
 環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。
- ④呼出種別 : 個別 indi、グループ group、電話 tel
- ⑤呼出先番号(個別、グループ) : 半角数字4桁
- ⑥呼出先番号(電話) : 半角数字/記号(#、*)31桁以内
- ⑦トークグループ : 無効 0、有効 1

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー(つづき)

「設定グループ」→「アドレス帳」

■アドレス帳設定

[アドレス帳グループ設定]項目で選択したグループにアドレス帳を登録します。

※グループごとに、最大50件まで登録できます。

アドレス帳設定(営業部)

①登録方法: ☒ 個別入力 ☐ 一覧から選択

②番号: 1 ▼

③名前:

④呼出種別: 個別 ▼

⑤呼出先番号: 0001

⑥ 登録 ⑦ 取消

※上図は、[登録方法]欄で「個別入力」を選択したときの画面です。

※グループに名前(例：営業部)が登録されていないときは、項目名だけ表示されます。

- ①登録方法 アドレス帳に通話相手を登録する方法を、「個別入力」、「一覧から選択」から選択します。

登録方法: ☐ 個別入力 ☒ 一覧から選択

☐ すべて	名前	呼出種別	呼出先番号
☒	営業1	個別	0001
☒	営業2	個別	0002
☒	営業3	個別	0003
☒	個別0004	個別	0004
☒	営業グループ1	グループ	0101
☒	トークグループ1001	トークグループ	1001

登録 取消

※「一覧から選択」をクリックすると、「無線機追加」画面や「呼出先設定」画面で登録した呼出先番号が一覧で表示されます。(上図参照)

※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。

- ②番号 個別入力時、アドレス帳に通話相手を登録するために、「1」～「50」の番号を選択します。
最大50件まで登録できます。

- ③名前 個別入力時、任意の名称を、半角32(全角16)文字以内で入力します。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

- ④呼出種別 個別入力時、通話相手の種別を、「個別」、「グループ」、「トークグループ」、「電話」から選択します。

- ⑤呼出先番号 個別入力時、個別番号、グループやトークグループの番号を4桁の数字で入力します。
※[呼出種別]④欄で「電話」を選択したときは、相手先の電話番号を31桁以内の数字/記号(#、*)で入力します。

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー

「設定グループ」－「アドレス帳」

■ アドレス帳設定(つづき)

アドレス帳設定(営業部)

①登録方法:

☒ 個別入力 ☐ 一覧から選択

②番号:

1 ▾

③名前:

④呼出種別:

個別 ▾

⑤呼出先番号:

0001

⑥登録

⑦取消

※上図は、[登録方法]欄で「個別入力」を選択したときの画面です。

※グループに名前(例：営業部)が登録されていないときは、項目名だけ表示されます。

⑥<登録> [アドレス帳設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[アドレス帳設定一覧]項目に表示されます。

⑦<取消> [アドレス帳設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー(つづき)

「設定グループ」-「アドレス帳」

■アドレス帳設定一覧

[アドレス帳設定]項目で登録した内容を表示します。

アドレス帳設定一覧(営業部)					
番号	名前	呼出種別	呼出先番号	①	②
1	営業1	個別	0001	編集	削除
2	営業2	個別	0002	編集	削除
3	営業グループ1	グループ	0101	編集	削除
				③ 全削除	

※画面の値は、入力例です。

※グループに名前(例：営業部)が登録されていないときは、項目名だけ表示されます。

- ①<編集> クリックすると、登録内容を編集できます。
編集内容は、[アドレス帳設定]項目に表示されます。
- ②<削除> クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ③<全削除> クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

【本製品に登録されていない呼出先番号を登録した場合】

「無線機追加」画面や「呼出先設定」画面に登録されていない呼出先番号を、アドレス帳に登録すると、[アドレス帳設定一覧]項目にエラーとして赤字で表示されます。

※呼出種別が「電話」の場合、デフォルト発信ブリッジ番号(P.4-100)が設定されているときは、エラーにはなりません。

※TRX番号設定と呼出先設定で有効な設定がありません。					
番号	名前	呼出種別	呼出先番号		
1	営業1	個別	0101	編集	削除
4	営業4	個別	1004	編集	削除
				全削除	

※「TOP」画面、「呼出先設定」画面、設定メニュー(×)にも、エラー情報が表示されます。

TOP

▼情報表示

▼ネットワーク設定

RoP通信設定

テナント設定

▼RoPサーバー設定

▼無線機設定

▼設定グループ x

呼出先設定 x

▼管理

TOP

設定エラー情報

製品情報

本体名称
IPL
バージョン
LAN MACアドレス
内蔵ファームウェアバージョン

ネットワーク情報

LAN IPアドレス
DHCPサーバー

TOP

▼情報表示

▼ネットワーク設定

RoP通信設定

テナント設定

▼RoPサーバー設定

▼無線機設定

▼設定グループ x

無線LAN
アドレス帳 x
メッセージ
プレゼンス
設定グループ詳細

呼出先設定 x

呼出先設定(テナント1)

呼出先がないアドレス帳があります。
アドレス帳グループ1(1004(個別))

呼出先設定

番号:
名前:
呼出種別:
呼出先番号:
優先度:
無線機呼出
通信種別:
所属する無線機
☐すべて ☐0001(営業)
他拠点:
他拠点:

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー(つづき)

「設定グループ」-「メッセージ」

■メッセージグループ設定

IP100Hが送信するメッセージを登録するときに使用します。

※「設定グループ詳細」画面で、IP100Hが所属する設定グループごとに、メッセージグループを指定できます。

※設定内容を変更した場合は、IP100Hの再起動が必要です。

メッセージグループ設定	
メッセージグループ番号:	1(0件) ▼ ※変更すると、表示するメッセージのグループが変更されます。

メッセージグループ番号……

IP100Hが使用するメッセージを登録するために、「1」～「100」の番号を選択します。

最大100件までグループを登録できます。

※グループに名前やメッセージが登録されているときは、下図のように表示されます。

メッセージグループ番号:	1(営業部 / 10件) ▼
--------------	---------------------------

■メッセージグループ詳細設定

[メッセージグループ設定]項目で選択したグループに任意の名称を登録します。

メッセージグループ詳細設定	
①名前:	② 登録 ③ 取消

①名前 ……………

任意の名称を、半角31(全角15)文字以内で入力します。

※「メッセージ」画面と「設定グループ詳細」画面で、グループを選択すると入力した名前が表示されます。

②〈登録〉 ……………

[メッセージグループ詳細設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

③〈取消〉 ……………

[メッセージグループ詳細設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。

なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■メッセージ設定の保存と書き込み

[メッセージグループ設定]項目で選択したグループのメッセージをファイルに保存したり、保存したファイルを本製品に書き込んだりします。

※設定内容を変更した場合は、IP100Hの再起動が必要です。

メッセージ設定の保存と書き込み(営業部)

①保存したファイルを書き込む:

参照...

書き込み

CSV形式のファイルが書き込みできます。
ファイルを書き込むと、現在の設定は破棄されます。

②ファイルに保存する:

保存

tn01_msg_list001.csvで保存されます。

※上図は、[メッセージグループ設定]項目(P.4-87)でグループ番号「1」を選択したときの画面です。

※グループに名前(例：営業部)が登録されていないときは、項目名だけ表示されます。

①保存したファイルを

書き込む.....

[ファイルに保存する]②欄の操作で保存したメッセージファイル(拡張子：csv)の内容を本製品に書き込むとき使用します。

ファイルの保存先を指定するため、〈参照...〉をクリックします。

表示された画面で目的のファイルを選択して、〈開く(O)〉をクリックします。

テキストボックスに保存先を指定後、〈書き込み〉をクリックすると、[メッセージ設定]項目にその内容を書き込みます。

※書き込む前の内容は、消去されますのでご注意ください。

※「管理」メニューの「設定の保存/復元」画面で保存された設定ファイルを書き込むと、上書きされますのでご注意ください。

※[ファイルに保存する]②欄の操作で保存した状態のファイル、および4-89ページの書式で編集したファイル以外のインポートは、保証対象外になります。

②ファイルに保存する

[メッセージ設定]項目に表示された内容をメッセージファイルとして、パソコンに保存します。

〈保存〉をクリックして、表示された画面の〈保存(S)〉をクリックすると、メッセージファイル(拡張子：csv)として保存できます。

※ファイル名は、[メッセージグループ設定]項目で選択したグループ番号に応じて変わります。

たとえば、テナント1のグループ1を選択したときのファイル名は、tn01_msg_list001.csvになります。

■メッセージ設定の保存と書き込み(つづき)

メッセージファイルのインポートについて

保存した状態のファイル(P.4-88)、および下記条件で編集したファイル以外の書き込みは、保証対象外になります。

「メッセージファイル」(拡張子: csv)の書式

```
#, IP1000C, メッセージ設定, 設定保存ファイル
#, Firm Ver. , ,
#, File Ver. , ,
① #グループ名, "営業部",
#番号, 定型文メッセージ
1, "至急集合してください。"
2, "メッセージを送りました。"
3, "メッセージを確認してください。"
4, "問題ないですか。"
5, "返信をお願いします。"
6, "至急返信をお願いします。"
7, "解散してください。"
8, "作業が完了次第、戻ってください。"
9, "荷物が届きました。"
② ③ 10, "作業が終わりました。"
```

①グループ名 : 半角31(全角15)文字以内

②番号 : 1～10 ※重複しない番号を入力

③定型文メッセージ : 半角32(全角16)文字以内

※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。

※環境依存文字を入力しないでください。

環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー(つづき)

「設定グループ」―「メッセージ」

■メッセージ設定

[メッセージグループ設定]項目で選択したグループにメッセージを登録します。

IP100Hから送信できる定型メッセージは半角32(全角16)文字以内です。

※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。

※環境依存文字を入力しないでください。

環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

※グループごとに、最大10件まで登録できます。

メッセージ設定(営業部)	
番号	定型文メッセージ
1	至急集合してください。
2	メッセージを送りました。
3	メッセージを確認してください。
4	問題ないですか。
5	返信をお願いします。
6	至急返信をお願いします。
7	解散してください。
8	作業が完了次第、戻ってください。
9	荷物が届きました。
10	作業が終わりました。

① 登録 ② 取消

※画面の値は、入力例です。

※グループに名前(例：営業部)が登録されていないときは、項目名だけ表示されます。

①<登録>

[メッセージ設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。

②<取消>

[メッセージ設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。

なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー(つづき)

「設定グループ」-「プレゼンス」

■プレゼンス設定

IP100Hが送信するステータス情報を登録するときに使用します。

ステータス情報は半角32(全角16)文字以内で、最大10件まで登録できます。

※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。

※環境依存文字を入力しないでください。

環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

※設定内容を変更した場合は、IP100Hの再起動が必要です。

プレゼンス設定		
① ☒ すべて	ステータス番号	ステータス名
☒	1	会議中
☒	2	離席中
☒	3	食事中
☒	4	巡回中
☒	5	在席中
☒	6	作業中
☒	7	待機中
☒	8	準備中
☒	9	対応中
☒	10	休憩中

② 登録 ③ 取消

※画面の値は、入力例です。

- ① **選択ボックス** 登録された内容を無線機に表示するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[ステータス名] 欄に入力していても、ボックスにチェックマークを入れない場合は、無線機に表示しません。
[ステータス名] 欄が空白の場合でも、ボックスにチェックマークを入れると、[ステータス番号] を表示します。
※[すべて] 欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
- ② **〈登録〉** [プレゼンス設定] 項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ③ **〈取消〉** [プレゼンス設定] 項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻るボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー(つづき)

「設定グループ」-「設定グループ詳細」

■設定グループ設定一覧

[設定グループ設定]項目で登録した内容を表示します。

設定グループ設定一覧					
番号	名前	無線LAN	アドレス帳グループ	メッセージグループ	
1	①	無線機の設定優先	1	1	②編集 ③削除
2	追加				④全削除

※画面は、設定例です。

- ①<追加> クリックすると、新しいグループが追加されます。
- ②<編集> クリックすると、登録内容を編集できます。
編集内容は、[設定グループ設定]項目に表示されます。
- ③<削除> クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ④<全削除> クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

■設定グループ設定

IP100Hが所属する設定グループごとに、アドレス帳や通知音などを設定します。

※設定変更後は、IP100Hの再起動が必要です。

※画面の値は、設定例です。

- | | |
|-------------------|---|
| ① 番号 | IP100Hが所属する設定グループについて、詳細な設定を登録するために、「1」～「100」の番号を選択します。
最大100件まで登録できます。 |
| ② 名前 | 任意の名称を、半角31(全角15)文字以内で入力します。
※「無線機追加」画面の「設定グループ」欄と「設定グループ詳細」画面の「設定グループ設定一覧」項目で入力した名前が表示されます。 |
| ③ 無線LAN | 設定グループで共用する無線LAN設定を選択します。
(出荷時の設定：無線機の設定優先)
※「無線機の設定優先」は、最後に設定された内容で動作します。
※導入時は、CS-IP100Hで設定された内容を使用して、IP100Hが無線アクセスポイントに接続します。
本製品で変更した場合は、その設定内容で動作するようになります。
※選択する無線LAN設定は、「無線LAN」画面で登録した番号で指定します。 |
| ④ アドレス帳グループ | 設定グループで共用するアドレス帳を選択します。(出荷時の設定：無効)
※出荷時の設定では、IP100Hはアドレス帳(呼出種別の切替)を使用できません。
※選択するアドレス帳は、「アドレス帳」画面で登録したグループ番号で指定します。 |
| ⑤ メッセージグループ | 設定グループで共用するメッセージを選択します。(出荷時の設定：無効)
※出荷時の設定では、IP100Hはメッセージを送信できません。
※選択するメッセージは、「メッセージ」画面で登録したグループ番号で指定します。 |

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー

「設定グループ」-「設定グループ詳細」

■ 設定グループ設定(つづき)

※画面の値は、設定例です。

- ⑥ レジストサーバー …………… IP100Hを接続するサーバーのIPアドレスを設定します。
- ⑦ 登録時間 …………… IP100Hが通信システムを使用するための登録情報を送信する間隔を設定します。
(出荷時の設定：60)
設定できる範囲は、「30～300」(秒)です。
※通常は、出荷時の設定(60秒)で使用します。
※設定時間を短くすると、IP100Hが通話エリアの圏外に出た場合に本製品側での登録状況識別を早めることができます。
これにより、該当のIP100Hへの個別呼び出しなどで、呼び出し側への不在応答を早めることができます。
- ⑧ 登録失敗時の再送時間 …………… IP100Hが本製品との接続に失敗した場合に、再接続するまでの時間を設定します。
(出荷時の設定：10)
設定できる範囲は、「1～30」(秒)です。
- ⑨ 登録失敗時の再送回数 …………… IP100Hが本製品との接続に失敗した場合に、再接続する回数を設定します。
(出荷時の設定：2)
設定できる範囲は、「1～10」(回)です。
- ⑩ サーバー接続監視時間 …………… 本製品がIP100Hの接続状態を監視する間隔を設定します。
(出荷時の設定：180)
設定できる範囲は、登録時間(⑦)+「1～900」(秒)です。
※通常は、出荷時の設定(180秒)で使用します。
※登録時間(⑦)より短い時間は設定できません。
- ⑪ 送信開始通知音 …………… 呼出種別ごとに、送信開始時の通知音を「無効」、「通知音1」～「通知音8」から設定します。
(出荷時の設定：通知音1)

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー

「設定グループ」-「設定グループ詳細」

■ 設定グループ設定(つづき)

設定グループ設定

無線通信: [グループ1]

⑫ 接続通知音: ☐ 無効 ☒ 有効

⑬ 失敗通知: ☐ 無効 ☒ 有効

※画面の値は、設定例です。

- ⑫ **接続通知** 接続に成功したことをお知らせする通知音を設定します。
(出荷時の設定：有効)
※個別呼び出し、またはメッセージやプレゼンスの送信、電話発信時に鳴動します。
※「無線機設定」メニューの「無線機個別」画面の[接続確認]項目が「無効」の場合は動作しません。
- ⑬ **失敗通知** 接続に失敗したことをお知らせする通知音を設定します。
(出荷時の設定：有効)
※個別呼び出し、またはメッセージやプレゼンスの送信、電話発信時に鳴動します。
※「無線機設定」メニューの「無線機個別」画面の[接続確認]項目が「無効」の場合は動作しません。

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー

「設定グループ」-「設定グループ詳細」

■ 設定グループ設定(つづき)

設定項目	通知音	呼出方式	呼出回数
受信通知	通知音1	ポケットビープ	連続
個別呼出	通知音2	Pベル	3
グループ呼出	通知音3	Pベル	3
全体呼出	通知音3	Pベル	3
電話通信	無効	Pベル	3
メッセージ受信	無効		
受信終了通知音	無効		

※画面の値は、設定例です。

⑭受信通知音 呼出種別ごとに、着信時または受信時の通知音を「無効」、「通知音1」～「通知音8」から設定します。
(出荷時の設定：無効)

⑮呼出方式 着信時の呼出方式を、「ポケットビープ」、「Pベル」から設定します。
(出荷時の設定：Pベル)

※[受信通知音] (⑭)欄が「無効」の場合は、設定できません。

※メッセージ受信の場合は、呼出方式の設定はありません。

◎ポケットビープ

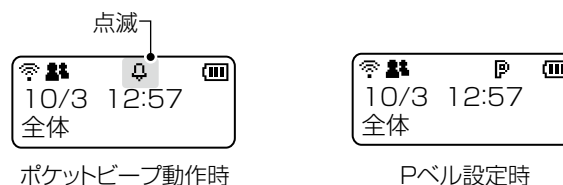
着信時、通知音とアイコンの点滅でお知らせする機能です。

◎Pベル

着信時、通知音でお知らせする機能です。

応答するまで、相手の音声をミュート(聞こえないように)します。

※IP100Hの[PTT(送信)]スイッチを押して応答すると、音声ミュートを解除し、相手の音声がかかります。



⑯呼出回数 呼出種別ごとに、[受信通知音] (⑭)欄で選択した通知音の鳴動回数を設定します。
(出荷時の設定：3)
呼出回数は、「連続」、「1」、「3」、「10」、「20」(回)から選択します。

■ 設定グループ設定(つづき)

※画面の値は、設定例です。

- ①⑦ **受信終了通知音** …………… 呼出種別ごとに、音声受信終了時の通知音を「無効」、「通知音1」～「通知音8」から設定します。 (出荷時の設定：通知音1)
※受信が終了するたびに設定した通知音が鳴ります。
- ①⑧ **通信圏外通知音** …………… 圏外などで通信できなくなった、または圏内に戻り通信できる状態になったことをお知らせする通知音を設定します。 (出荷時の設定：無効)
◎**無効**： 圏外時や圏内復帰時に通知音は鳴りません。
◎**有効**： 圏外時や圏内復帰時に通知音が鳴ります。
- ①⑨ **側音停止** …………… 側音やモニター機能を停止して、圏外などで通信できなくなったことをお知らせする機能を設定します。 (出荷時の設定：無効)
◎**無効**： 圏外時でも、ヘッドセットから自分の音声聞こえます。
◎**有効**： 圏外になると、ヘッドセットから自分の音声聞こえなくなります。
※「無線機設定」メニューの「無線機個別」画面の[モニター]項目、または[側音]項目が「無効」の場合は動作しません。

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー

「設定グループ」―「設定グループ詳細」

■ 設定グループ設定(つづき)

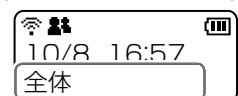
設定グループ設定	
通話停止:	☒ 無効 ☐ 有効
端末表示	
②⑩ 相手局の表示切替:	無効
②① 全体/グループ呼出時の発信者ID表示:	☒ 無効 ☐ 有効
②② 履歴表示:	☐ 無効 ☒ 有効
②③ トークグループ選択:	☒ FUNCキー ☐ アドレス帳キー
終話判定	

※画面の値は、設定例です。

②⑩ 相手局の表示切替 ………

送信や操作後など、IP100Hが待受画面に戻ったときに、表示する相手局(呼出種別)の切り替えについて設定します。 (出荷時の設定：無効)

◎無効 : 「無線機設定」メニューの「無線機個別」画面(呼出先指定)で設定した相手局、または呼出種別を表示します。



◎送信操作 : 最後に送信した相手局を表示します。

相手局(呼出種別)表示

◎送受信操作 : 最後に送信、または受信した相手局を表示します。

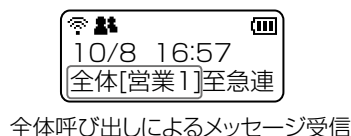
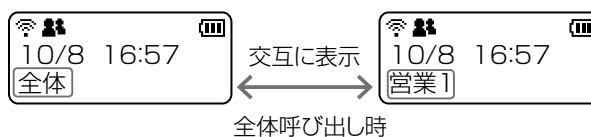
◎全操作 : 最後に送信、または受信した相手局か、アドレス帳/履歴で表示した相手局を表示します。

②① 全体/グループ呼出時の 発信者ID表示 ………

全体やグループ呼び出しを複数の端末で受信した場合、どの端末から送信されたのか確認できるように、IP100HやIP100FSの画面に発信者を表示する機能です。 (出荷時の設定：無効)

◎無効 : 呼出種別だけを表示します。

◎有効 : 呼出種別と発信者を表示します。(表示例：発信元が営業1の場合)



全体呼び出しによるメッセージ受信

②② 履歴表示 ………

履歴の表示を設定します。 (出荷時の設定：有効)

◎無効 : [履歴]キーを押しても履歴を表示しません。

◎有効 : [履歴]キーを押すと履歴を表示します。

②③ トークグループ選択 ……

トークグループの選択方法を設定します。(P.2-10)

(出荷時の設定：FUNCキー)

◎FUNCキー : [FUNC]キーを操作してトークグループを選択します。

◎アドレス帳キー : [アドレス帳]キーを操作してトークグループを選択します。

■ 設定グループ設定(つづき)

※画面の値は、設定例です。

- ②④ 終話判定時間 …………… 通話相手からの送信が終了したあと、待ち受け状態(待受画面)に戻るまでの時間を「1」～「30」(秒)で設定します。 (出荷時の設定：有効(5秒))
 ※「無効」に設定した場合は、[送信/受信]ランプの消灯と同時に待ち受け状態(待受画面)に戻ります。
- ②⑤ 終話判定時間
 (電話通信) …………… 電話通信で通話相手からの送信が終了したあと、待ち受け状態(待受画面)に戻るまでの時間を「0」～「600」(秒)で設定します。 (出荷時の設定：15)
 ※「0」を設定した場合は、終話判定しません。
 通話中に[オプション]キーを押して切断する、または相手が切断するまで通話状態となります。
- ②⑥ 終話判定時間内の
 新規着信拒否 …………… 通話相手からの送信が終了したあと、待ち受け状態(待受画面)に戻るまでに着信があった場合、優先度に応じて着信を受けるか拒否するか(有効/無効)を設定します。 (出荷時の設定：有効)
 ◎有効(拒否する)
 現在の通話よりも高い優先度の着信は受け付けるが、それ以下または同等の優先度の着信は受け付けません。
 終話判定時間が経過したあとに受け付けます。
 ◎無効(拒否しない)
 新規着信を受け付けます。
- ②⑦ 連続送信規制 …………… 連続送信を規制するときに設定します。 (出荷時の設定：無効)
 「無効」に設定しているときは、連続送信を規制しません。
 ※「有効」を選択すると、[連続送信時間](②⑧)、[ペナルティー](②⑨)、[通知音](③⑩)、[電話通話時の連続送信規制](③⑪)欄が表示されます。
 ※不用意にIP100Hの[PTT(送信)]スイッチが押しつづけられているときなどに有効です。

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー

「設定グループ」―「設定グループ詳細」

■ 設定グループ設定(つづき)

※画面の値は、設定例です。

- ②⑧ 連続送信時間 連続送信規制有効時に、連続送信できる時間を設定します。
設定できる範囲は、「11～600」(秒)です。 (出荷時の設定：180)
※設定した時間を超えた場合は、自動的に送信を停止します。
- ②⑨ ペナルティ [連続送信時間] (②⑧) 欄で設定した時間を超えたあと、再送信できるまでの時間(送信禁止時間)を設定します。 (出荷時の設定：30)
設定できる範囲は、「1～600」(秒)です。
※送信禁止中は[PTT(送信)]スイッチを押しても、送信できません。
- ③⑩ 通知音 連続送信を検出して送信規制するときに、規制音を鳴らして通知するための設定です。 (出荷時の設定：有効)
※「有効」を選択すると、[連続送信時間] (②⑧) 欄で設定した時間の10秒前に規制音が鳴ります。
- ③① 電話通話時の
連続送信規制 電話通話時、[連続送信時間] (②⑧) で設定した時間を超えて送信した場合に、送信を自動停止するための設定です。 (出荷時の設定：有効)
※「無効」に設定すると、電話通話中に[連続送信時間] (②⑧) で設定した時間を超えても、送信を停止しません。
- ③② デフォルト発信ブリッジ
番号 IP100Hから発信した電話番号に一致する呼出先設定がない場合に使用するブリッジ番号を指定します。(P.4-111、P.4-116) (出荷時の設定：なし)
指定するブリッジ番号は、「ブリッジ」画面のブリッジ設定(P.4-25)やブリッジグループ設定(P.4-27)で割り当てた番号から選択します。
- ③③ <登録> [設定グループ設定] 項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[設定グループ設定一覧] 項目に表示されます。
- ③④ <取消> [設定グループ設定] 項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻るボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

9.「設定グループ」メニュー(つづき)

「設定グループ」-「設定グループ詳細」

■設定グループ一括設定

連番で設定グループを一括登録したり、すでに登録した設定内容を他の設定グループにコピーしたりできます。

設定グループ一括設定	
①グループ番号:	~ 追加 ※指定した範囲の連番を設定グループとして登録します。
②設定参照元:	初期値

①グループ番号 ……………

連番で一括に登録したい設定グループの範囲を設定します。

〈追加〉

クリックすると、設定した範囲(例: 4~10)のグループ番号が登録されます。

※設定した範囲で、すでに登録された個別番号がある場合は、「設定を上書きします。」が表示されます。

②設定参照元 ……………

初期値、またはすでに登録した設定内容を参照するかどうかを選択します。

(出荷時の設定: 初期値)

10.「呼出先設定」メニュー

「呼出先設定」

■呼出先設定 全体

IPネットワークを経由して、同一テナント内のIP100H、IP100FSすべてを呼び出す設定です。

※[呼出先設定一覧(全体)]項目の<編集>をクリックすると、表示される画面です。

呼出先設定

呼出種別:

全体

無線機呼出

① 通信種別:

☐ 同報
☒ 会議

② トークグループへの送信:

☐ 無効
☒ 有効

③ 他拠点

☐ すべて
☐ 1(営業所1(サブ))
☐ 2(営業所2(サブ))

④ 登録

⑤ 取消

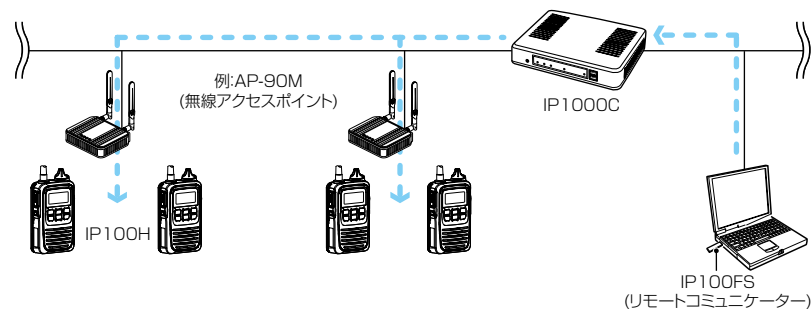
※画面は、呼出種別「全体」を編集するときの表示例です。

①通信種別

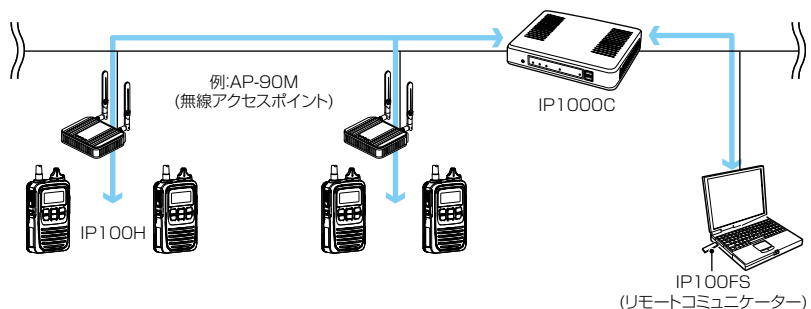
「同報」(単信通信による1対N)、または「会議」(複信通信による多者間通話)を設定します。

単信通信による同報

※「同報」を設定した場合は、呼び出し側の送信が終わるまで呼び出された側から返答できません。



複信通信による会議



②トークグループへの送信

全体呼び出しの対象に、トークグループに所属している端末も含めるかどうかを設定します。
(出荷時の設定：有効)

4 設定画面について

10.「呼出先設定」メニュー

「呼出先設定」

■ 呼出先設定(つづき) 全体

※画面は、呼出種別「全体」を編集するときの表示例です。

- ③ **他拠点** 複数の拠点を接続して、はなれた拠点間で全体呼び出しをするとき、接続先となる機器(他拠点)を選択します。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
※「RoIP通信設定」画面で、他拠点通信モードを「サブ」に設定している場合(下図参照)は、マスターとなるコントローラーを接続先に指定します。

- ④ **登録** [呼出先設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[呼出先設定一覧(全体)]項目に表示されます。
- ⑤ **取消** [呼出先設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお登録をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■呼出先設定 グループ

IPネットワークを経由して、呼び出すグループについて設定します。

※[呼出種別](③)に応じて、表示される内容が一部変更になります。

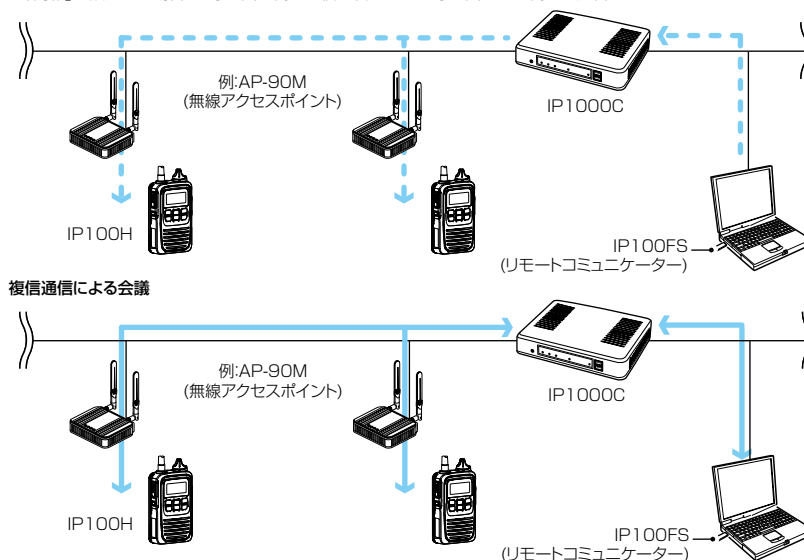
呼出先設定	
① 番号:	1
② 名前:	営業グループ1
③ 呼出種別:	グループ
④ 呼出先番号:	0101
⑤ 優先度:	☒ 通常 ☐ 優先
無線機呼出	
⑥ 通信種別:	☐ 同報 ☒ 会議
⑦ 所属する無線機	☐ すべて ☒ 0001(営業1) ☒ 0002(営業2) ☒ 0003(営業3) ☐ 0004(IP100FS)
⑧ 他拠点	☐ すべて ☐ 1(営業所1(サブ)) ☐ 2(営業所2(サブ))
9 登録 10 取消	

※画面は、[呼出種別](③)欄で「グループ」を選択したときの表示例です。

- ①番号 呼び出すグループを登録するために、「1」～「990」の番号を選択します。
最大990件まで登録できます。
- ②名前 任意の名称を、半角31(全角15)文字以内で入力します。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証
できるのは最大15文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。
- ③呼出種別 通話相手の種別として、「グループ」を選択します。
- ④呼出先番号 通話相手のグループ番号を、4桁の数字で入力します。
- ⑤優先度 グループ通話同士の優先度を、「通常」、または「優先」から選択します。
※[呼出種別](③)欄で「グループ」を選択したときに設定できます。
- ⑥通信種別 「同報」(単信通信による1対N)、または「会議」(複信通信による多者間通話)
を設定します。

単信通信による同報

※「同報」を設定した場合は、呼び出し側の送信が終わるまで呼び出された側から返答できません。



4 設定画面について

10.「呼出先設定」メニュー

「呼出先設定」

■ 呼出先設定(つづき) グループ

呼出先設定

① 番号:

1

② 名前:

営業グループ1

③ 呼出種別:

グループ

④ 呼出先番号:

0101

⑤ 優先度:

通常

優先

無線機呼出

⑥ 通信種別:

同報

会議

⑦ 所属する無線機

すべて

0001(営業1)

0002(営業2)

0003(営業3)

0004(IP100FS)

⑧ 他拠点

すべて

1(営業所1(サブ))

2(営業所2(サブ))

⑨ 登録

⑩ 取消

※画面は、[呼出種別] (③)欄で「グループ」を選択したときの表示例です。

⑦ 所属する無線機 …………… 一覧からグループに所属するIP100H、IP100FSを選択します。
※「無線機追加」画面で追加したIP100H、IP100FSが一覧に表示されます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。

⑧ 他拠点 …………… 複数の拠点を接続して、はなれた拠点間でグループ呼び出しをするとき、接続先となる機器(他拠点)を選択します。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
※「RoIP通信設定」画面で、他拠点通信モードを「サブ」に設定している場合(下図)は、マスターとなるコントローラーを接続先に指定します。

通信種別:

同報

会議

所属する無線機

すべて

0001(営業1)

0002(営業2)

0003(営業3)

他拠点:

なし

1(本社(マスター))

2(営業所1(サブ))

⑨ <登録> …………… [呼出先設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[呼出先設定一覧(グループ)]項目に表示されます。

⑩ <取消> …………… [呼出先設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

【ご注意】

他拠点接続機能をご使用になる場合は、「呼出先設定」画面(P.4-102)で他拠点間が対となるように設定してください。
たとえば、他拠点1でグループ1の呼出先設定が他拠点2となる場合は、他拠点2のグループ1の呼出先設定が他拠点1となるように設定してください。

※他拠点間の接続構成が、マスターと複数のサブからなる場合も同様です。

4 設定画面について

10.「呼出先設定」メニュー

「呼出先設定」

■呼出先設定 トークグループ

IPネットワークを経由して、呼び出すトークグループについて設定します。

※[呼出種別] (③)に応じて、表示される内容が一部変更になります。

※画面は、[呼出種別] (③)欄で「トークグループ」を選択したときの表示例です。

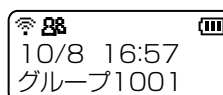
- ①番号 特定のトークグループを登録して呼び出すために、「1」～「990」の番号を選択します。
最大990件まで登録できます。
- ②名前 任意の名称を、半角31(全角15)文字以内で入力します。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大15文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。
- ③呼出種別 通話相手の種別として、「トークグループ」を選択します。
- ④呼出先番号 トークグループ番号を、4桁の数字で入力します。
※ここで設定した番号を、「アドレス帳」画面の[アドレス帳設定]項目に登録する必要があります。
※IP100Hの[FUNC]キーを押して、トークグループ番号を選択すると、同じトークグループに所属する端末と通話できる状態になります。
「OFF」を選択すると、通常の待受画面に戻ります。



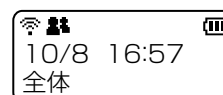
トークグループ
選択時



トークグループ
OFF時



トークグループ
選択時の待受画面



トークグループ
OFF時の待受画面

■ 呼出先設定(つづき) トークグループ

呼出先設定

① 番号:

13

② 名前:

トークグループ*1001

③ 呼出種別:

トークグループ

④ 呼出先番号:

1001

⑤ トークグループ種別:

☒ 通常
☐ 管理用

無線機呼出

⑥ 通信種別:

☐ 同報
☒ 会議

⑦ IP100FSへの送信:

☐ 無効
☒ 有効

⑧ IP100FSへの呼出先指定:

☒ すべて
☐ 指定

呼出先番号:

⑨ 他拠点

☐ すべて
☐ 1(営業所1(サブ))
☐ 2(営業所2(サブ))

10 登録

11 取消

※画面は、[呼出種別] (③)欄で「トークグループ」を選択したときの表示例です。

⑤ トークグループ種別 …… 「管理用」を設定(下図)すると複数のトークグループと通話できます。

トークグループ種別:

☐ 通常
☒ 管理用

所属するトークグループ

1002(トークグループ*1002)

1003(トークグループ*1003)

※[呼出種別] (③)欄で「トークグループ」を選択したときに設定できます。

※管理用トークグループに、他の管理用トークグループを所属させることはできません。

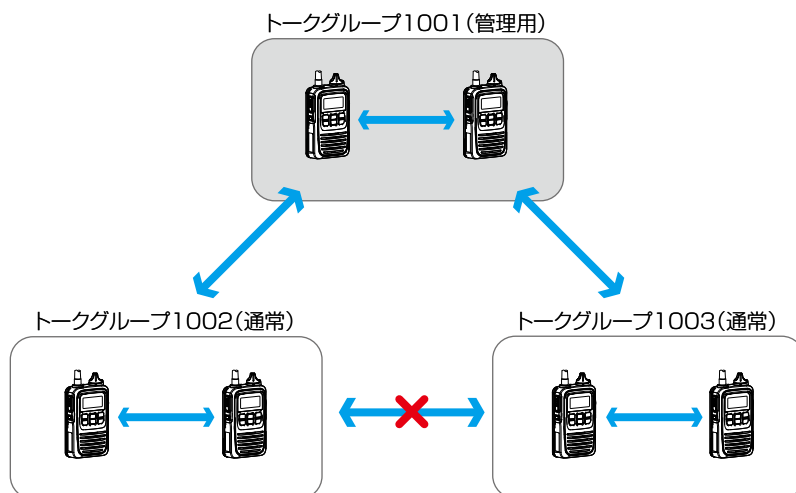
※トークグループは、複数の管理用トークグループに所属することはできません。

【例：トークグループ1002(通常)とトークグループ1003(通常)をトークグループ1001(管理用)に所属させた場合】

◎1001の呼び出しは、1001、1002、1003に所属している端末が呼び出される

◎1002の呼び出しは、1001、1002に所属している端末が呼び出される

◎1003の呼び出しは、1001、1003に所属している端末が呼び出される



4 設定画面について

10.「呼出先設定」メニュー

「呼出先設定」

■ 呼出先設定(つづき) トークグループ

呼出先設定	
① 番号:	13
② 名前:	トークグループ*1001
③ 呼出種別:	トークグループ
④ 呼出先番号:	1001
⑤ トークグループ種別:	☒ 通常 ☐ 管理用
無線機呼出	
⑥ 通信種別:	☐ 同報 ☒ 会議
⑦ IP100FSへの送信:	☐ 無効 ☒ 有効
⑧ IP100FSへの呼出先指定:	☒ すべて ☐ 指定 呼出先番号:
⑨ 他拠点	☐ すべて ☐ 1(営業所1(サブ)) ☐ 2(営業所2(サブ))
10 登録 11 取消	

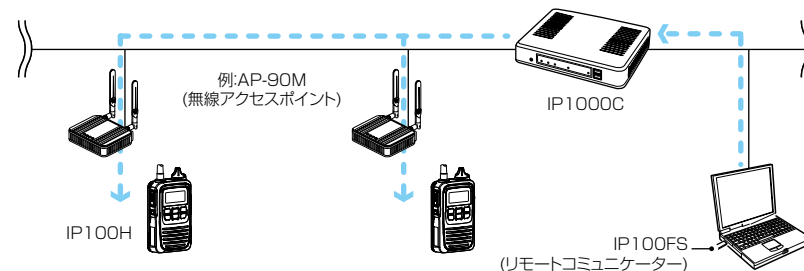
※画面は、[呼出種別] (③)欄で「トークグループ」を選択したときの表示例です。

⑥ 通信種別

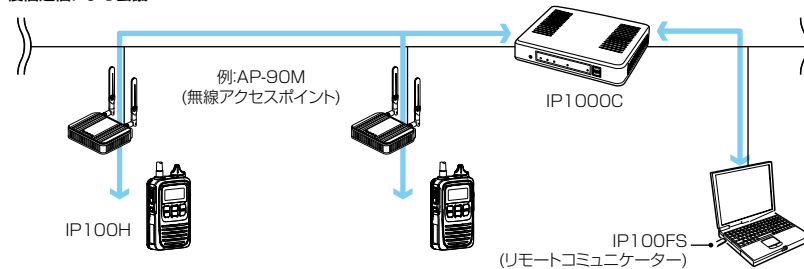
「同報」(単信通信による1対N)、または「会議」(複信通信による多者間通話)を設定します。

単信通信による同報

※「同報」を設定した場合は、呼び出し側の送信が終わるまで呼び出された側から返答できません。



複信通信による会議



4 設定画面について

10.「呼出先設定」メニュー

「呼出先設定」

■ 呼出先設定(つづき) トークグループ

呼出先設定

① 番号: 13

② 名前: トークグループ*1001

③ 呼出種別: トークグループ

④ 呼出先番号: 1001

⑤ トークグループ種別: ☒ 通常 ☐ 管理用

無線機呼出

⑥ 通信種別: ☐ 同報 ☒ 会議

⑦ IP100FSへの送信: ☐ 無効 ☒ 有効

⑧ IP100FSへの呼出先指定: ☒ すべて ☐ 指定 呼出先番号: [] [] [] [] []

⑨ 他拠点

☐ すべて ☐ 1(営業所1(サブ)) ☐ 2(営業所2(サブ))

⑩ 登録 ⑪ 取消

※画面は、[呼出種別] (③)欄で「トークグループ」を選択したときの表示例です。

⑦ IP100FSへの送信 …………… トークグループ呼び出しの対象に、IP100FSも含めるかどうかを設定します。
(出荷時の設定：有効)

⑧ IP100FSへの呼出先指定 トークグループ呼び出しの対象にIP100FSも含める(⑦)場合、呼び出し先となるIP100FSを設定します。
(出荷時の設定：すべて)
※「指定」を選択した場合は、IP100FSの個別番号(4桁)を最大5件まで設定できます。

⑨ 他拠点 …………… 複数の拠点を接続して、はなれた拠点間でトークグループ呼び出しをするとき、接続先となる機器(他拠点)を選択します。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
※「RoIP通信設定」画面で、他拠点通信モードを「サブ」に設定している場合(下図)は、マスターとなるコントローラーを接続先に指定します。

IP100FSへの呼出先指定: ☒ すべて ☐ 指定 呼出先番号: [] [] [] [] []

他拠点: なし
1(本社(マスター))
2(営業所1(サブ))

⑩ <登録> …………… [呼出先設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[呼出先設定一覧(トークグループ)]項目に表示されます。

⑪ <取消> …………… [呼出先設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

10.「呼出先設定」メニュー

「呼出先設定」

■呼出先設定 個別

IPネットワークを経由して、呼び出す相手局について設定します。

※[呼出種別](③)に応じて、表示される内容が一部変更になります。

呼出先設定

① 番号:

3

② 名前:

営業1

③ 呼出種別:

個別

④ 呼出先番号:

0001

無線機呼出

⑤ 他拠点:

なし

⑥ 登録

⑦ 取消

※画面は、[呼出種別](③)欄で「個別」を選択したときの表示例です。

- | | |
|--------|---|
| ①番号 | 呼び出す相手局を登録するために、「1」～「990」の番号を選択します。
最大990件まで登録できます。 |
| ②名前 | 任意の名称を、半角31(全角15)文字以内で入力します。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証
できるのは最大15文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。 |
| ③呼出種別 | 通話相手の種別として、「個別」を選択します。 |
| ④呼出先番号 | 通話相手の個別番号を、4桁の数字で入力します。 |
| ⑤他拠点 | ほかの拠点と接続して、はなれた拠点間で個別呼び出しをするとき、接続先
となる機器(他拠点)を選択します。 |
| ⑥<登録> | [呼出先設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[呼出先設定一覧(個別)]項目に表示されます。 |
| ⑦<取消> | [呼出先設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンで
す。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。 |

4 設定画面について

10.「呼出先設定」メニュー

「呼出先設定」

■呼出先設定 電話

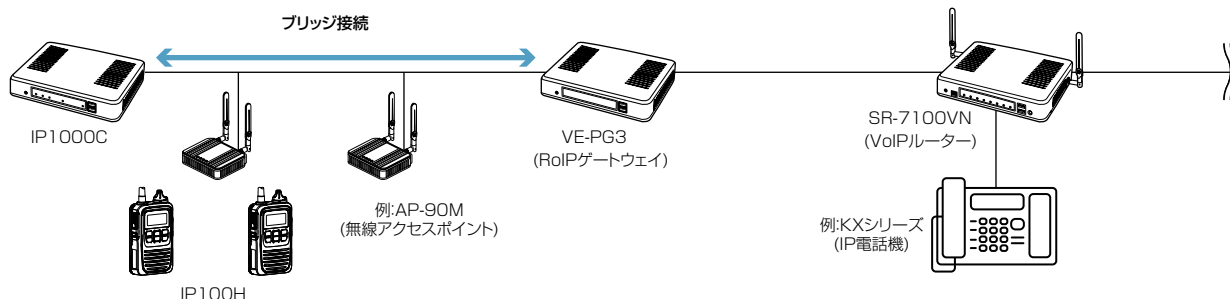
IPネットワークを経由して、電話機を呼び出すときに設定します。

※[呼出種別] (③)に応じて、表示される内容が一部変更になります。

呼出先設定	
① 番号:	12 ▼
② 名前:	500(VP-701)
③ 呼出種別:	電話 ▼
④ 呼出先番号:	500
⑤ ブリッジ番号:	1 ▼
⑥ 登録 ⑦ 取消	

※画面は、[呼出種別] (③)欄で「電話」を選択したときの表示例です。

- ① **番号** 呼び出す通話相手を登録するために、「1」～「990」の番号を選択します。
最大990件まで登録できます。
- ② **名前** 任意の名称を、半角31(全角15)文字以内で入力します。
※IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証
できるのは最大15文字になります。
※環境依存文字を入力しないでください。
環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。
- ③ **呼出種別** 通話相手の種別として、「電話」を選択します。
※ここで選択する「電話」には、ブリッジ接続(VE-PG3経由)による通話で接
続する弊社製無線機(例：IC-4810やIC-D60など)も含まれます。
- ④ **呼出先番号** 相手先の電話番号を、31桁以内の数字と記号(#、*)で入力します。
- ⑤ **ブリッジ番号** 電話機へ発信するために、ブリッジ接続する機器(VE-PG3)を選択します。
※あらかじめ、本製品の「RoIPサーバー設定」メニューの「ブリッジ」画面と
接続する相手側(VE-PG3)の設定画面でブリッジ接続を完了しておく必要
があります。
- ⑥ **登録** [呼出先設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
クリックすると、[呼出先設定一覧(電話)]項目に表示されます。
- ⑦ **取消** [呼出先設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンで
す。
なお登録をクリックすると、変更前の状態には戻りません。



4 設定画面について

10.「呼出先設定」メニュー

「呼出先設定」

■呼出先設定一覧(全体)

[呼出先設定] 項目で編集した内容を表示します。

※〈編集〉をクリックすると、[呼出先設定] 項目で登録内容を編集できます。

呼出先設定一覧(全体)			
通信種別	トークグループへの送信	他拠点	
会議	有効	なし	編集

※画面の値は、入力例です。

■呼出先設定一覧(グループ)

[呼出先設定] 項目で登録した内容を表示します。

呼出先設定一覧(グループ)

① ☐ すべて	番号	名前	呼出先番号	優先度	所属する無線機台数	他拠点	②	③
☐	1	営業グループ1	0101	通常	3	なし	編集	削除
☐	4	営業所1(サブ)	0201	通常	-	あり	編集	削除
☐	5	営業所2(サブ)	0301	通常	-	あり	編集	削除
							④ 選択削除	⑤ 全削除

※画面の値は、入力例です。

- ① **選択ボックス** 登録された内容を複数削除するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて] 欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
- ② **〈編集〉** クリックすると、登録内容を編集できます。
編集内容は、[呼出先設定] 項目に表示されます。
- ③ **〈削除〉** クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ④ **〈選択削除〉** クリックすると、[選択ボックス] ① 欄で選択した番号の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ⑤ **〈全削除〉** クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

4 設定画面について

10.「呼出先設定」メニュー

「呼出先設定」

■呼出先設定一覧(トークグループ)

[呼出先設定]項目で登録した内容を表示します。

呼出先設定一覧(トークグループ)					
① ☐ すべて	番号	名前	呼出先番号	他拠点	
☐	13	トークグループ*1001	1001	なし	
					②編集 ③削除
					④選択削除 ⑤全削除

※画面の値は、入力例です。

- ①**選択ボックス** …………… 登録された内容を複数削除するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
- ②**編集** …………… クリックすると、登録内容を編集できます。
編集内容は、[呼出先設定]項目に表示されます。
- ③**削除** …………… クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ④**選択削除** …………… クリックすると、[選択ボックス](①)欄で選択した番号の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ⑤**全削除** …………… クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

4 設定画面について

10.「呼出先設定」メニュー

「呼出先設定」

■呼出先設定一覧(管理用トークグループ)

[呼出先設定]項目で登録した内容を表示します。

呼出先設定一覧(管理用トークグループ)					
① ☐ すべて	番号	名前	呼出先番号	所属するトークグループ	
☐	23	トークグループ1011(管理用)	1011	1001	
					②編集 ③削除
					④選択削除 ⑤全削除

※画面の値は、入力例です。

- ①<選択ボックス> 登録された内容を複数削除するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
- ②<編集> クリックすると、登録内容を編集できます。
編集内容は、[呼出先設定]項目に表示されます。
- ③<削除> クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ④<選択削除> クリックすると、[選択ボックス](①)欄で選択した番号の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ⑤<全削除> クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

4 設定画面について

10.「呼出先設定」メニュー

「呼出先設定」

■呼出先設定一覧(個別)

[呼出先設定]項目で登録した内容を表示します。

呼出先設定一覧(個別)					
① ☐ すべて	番号	名前	呼出先番号	他拠点	
☐	3	営業1	0001	-	②編集 ③削除
☐	6	営業2	0002	-	②編集 ③削除
					④選択削除 ⑤全削除

※画面の値は、入力例です。

- ①<選択ボックス> 登録された内容を複数削除するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
- ②<編集> クリックすると、登録内容を編集できます。
編集内容は、[呼出先設定]項目に表示されます。
- ③<削除> クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ④<選択削除> クリックすると、[選択ボックス](①)欄で選択した番号の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ⑤<全削除> クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

4 設定画面について

10.「呼出先設定」メニュー

「呼出先設定」

■呼出先設定一覧(電話)

[呼出先設定] 項目で登録した内容を表示します。

呼出先設定一覧(電話)					
① ☐ すべて	番号	名前	呼出先番号	ブリッジ番号	
☐	12	500(VP-701)	500	1	
					② 編集 ③ 削除
					④ 選択削除 ⑤ 全削除

※画面の値は、入力例です。

- ① **選択ボックス** 登録された内容を複数削除するとき、ボックスにチェックマークを入れます。
※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
- ② **編集** クリックすると、登録内容を編集できます。
編集内容は、[呼出先設定]項目に表示されます。
- ③ **削除** クリックすると、その行の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ④ **選択削除** クリックすると、[選択ボックス](①)欄で選択した番号の登録内容が削除されます。
※削除すると、元に戻せません。
- ⑤ **全削除** クリックすると、すべての登録内容が削除されます。
※全削除すると、元に戻せません。

■呼出先一括設定

連番で呼出先番号を一括登録したり、すでに登録した設定内容を他の呼出先にコピーしたりできます。

呼出先一括設定	
① 呼出種別:	グループ ▼
② 呼出先番号:	~ 追加 ※指定した範囲の連番を呼出先番号として登録します。
③ 設定参照元:	0101(営業グループ1) ▼

※画面の値は、入力例です。

- ① **呼出種別** 通話相手の種別を、「個別」、「グループ」、「トークグループ」から選択します。
- ② **呼出先番号** 連番で一括に登録したい呼出先番号の範囲を入力します。
- 〈追加〉**
 クリックすると、テキストボックスに入力した範囲(例：0102～0105)の呼出先番号が登録されます。
 ※入力した範囲で、すでに登録された呼出先番号がある場合は、「設定を上書きします。」が表示されます。
- ③ **設定参照元** すでに登録した端末やグループの設定内容から参照元を選択します。

4 設定画面について

11.「管理」メニュー

「管理」—「管理者」

■管理者パスワードの変更

本製品の設定画面にアクセスするためのパスワードを変更します。

管理者パスワードの変更	
① 管理者ID:	admin
② 現在のパスワード:	
③ 新しいパスワード:	
④ 新しいパスワード再入力:	
⑤ 登録 ⑥ 取消	

- ①**管理者ID** 本製品の設定画面へのアクセスを許可する管理者IDを表示します。
※本製品の設定画面にアクセスすると、ユーザー名として入力を求められますので、本製品の管理者ID(admin)を入力します。
※本製品の[管理者ID]は、変更できません。
- ②**現在のパスワード** 新しいパスワードに変更するとき、現在のパスワードを大文字/小文字の区別に注意して入力します。 (出荷時の設定：admin)
※入力中の文字は、すべて* (アスタリスク)、または●(黒丸)で表示します。
- ③**新しいパスワード** 新しいパスワードを入力します。
大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字/記号(半角31文字以内)で入力します。
※新しいパスワードを登録後は、設定内容がマスクされ、すぐにパスワードの入力を求める画面を表示しますので、そこに新しいパスワードを入力します。
- ④**新しいパスワード再入力** 確認のために、新しいパスワードを再入力します。
- ⑤**〈登録〉** [管理者パスワードの変更]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ⑥**〈取消〉** [管理者パスワードの変更]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

不正アクセス防止のアドバイス

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。

数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものにし、さらに定期的にパスワードを変更されることをおすすめします。

【ご注意】

管理者パスワードを忘れた場合、設定画面を確認するには、工場出荷時(初期化)の状態に戻す必要があります。

※ 初期化するときは、5-4ページの内容にしたがって、本製品の〈INIT〉ボタンを操作してください。

4 設定画面について

11.「管理」メニュー(つづき)

「管理」－「時計」

■時刻設定

本製品の内部時計を手動で設定します。

時刻設定	
① 本体の現在時刻:	2018年 01月 12日 14時 07分
② 設定する時刻:	2018 年 01 月 12 日 14 時 07 分 ③ 設定

- ① **本体の現在時刻** 本製品に設定されている時刻を表示します。
※自動時計設定時、インターネット上に存在するNTPサーバーに日時の間
い合わせをしているときは、「NTPサーバーへアクセスしています...」を表
示します。
- ② **設定する時刻** 本製品の設定画面にアクセスしたときの時刻を表示します。
※お使いのWWWブラウザで表示画面を更新すると、パソコンの時計設定
を取得して表示します。
- ③ **〈設定〉** [設定する時刻] (②)欄に表示された時刻を本製品に手動で設定するボタンで
す。
※時刻を手動で設定するときは、本製品の設定画面に再度アクセスするか、
お使いのWWWブラウザで表示画面を更新してから、〈設定〉をクリック
してください。

4 設定画面について

11.「管理」メニュー(つづき)

「管理」-「時計」

■自動時計設定

本製品の内部時計を自動設定するとき、アクセスするタイムサーバーの設定です。

自動時計設定	
① 自動時計設定:	☐ 無効 ☒ 有効
② NTPサーバー1:	210.173.160.27
③ NTPサーバー2:	210.173.160.57
④ アクセス時間間隔:	1 日
⑤ 前回アクセス日時:	---/---/---
⑥ 次回アクセス日時:	2018/01/13 14:07

- ① **自動時計設定** 本製品の自動時計設定機能を設定します。 (出荷時の設定: 有効)
「有効」に設定すると、インターネット上に存在するNTPサーバーに日時の問い合わせをして、内部時計を自動設定します。
- ② **NTPサーバー1** アクセスするNTPサーバーのIPアドレスを入力します。
(出荷時の設定: 210.173.160.27)
応答がないときは、[NTPサーバー2] (③) 欄で設定したNTPサーバーにアクセスします。
※ 初期に参照しているNTPサーバーアドレスは、インターネットマルチフィード株式会社 <http://www.jst.mfeed.ad.jp/> のものです。
- ③ **NTPサーバー2** [NTPサーバー1]の次にアクセスさせるNTPサーバーがあるときは、そのIPアドレスを入力します。
(出荷時の設定: 210.173.160.57)
- ④ **アクセス時間間隔** NTPサーバーにアクセスする間隔を設定します。 (出荷時の設定: 1)
設定できる範囲は、「1～99」(日)です。
※ 設定した日数でアクセスできなかったときは、次の間隔までアクセスしません。
- ⑤ **前回アクセス日時** NTPサーバーにアクセスした日時を表示します。
- ⑥ **次回アクセス日時** NTPサーバーにアクセスする予定日時を、[前回アクセス日時] (⑤) 欄と[アクセス時間間隔] (④) 欄で設定された日数より算出して表示します。

【ご注意】

自動時計設定機能は、NTPサーバーへの問い合わせ先(経路)を設定する必要があります。
経路を設定しないときは、問い合わせできませんので、自動時計設定機能をお使いいただけません。
「ネットワーク設定」メニュー→「本体IPアドレス」画面→[IPアドレス設定]項目にある[デフォルトゲートウェイ]欄、または「スタティックルーティング」画面の[スタティックルーティング設定]項目で、ルーティングテーブルを設定してください。

■SNTPサーバー設定

SNTPサーバー設定

① SNTPサーバー機能:

☐無効

☒有効

外部NTPサーバーへの経路が確保できない弊社RoIP機器用です。

②

登録

③

取消

- | | | |
|-------------|-------|--|
| ①SNTPサーバー機能 | …… | 本製品を弊社製RoIP機器用のNTPサーバーとして使用するときの設定です。
(出荷時の設定：有効)
「有効」に設定すると、NTPサーバーとして動作する本製品にIP100Hが日時の問い合わせをして、内部時計を自動設定します。
※この機能は、外部のNTPサーバーへの問い合わせ先(経路)が設定できない弊社製RoIP機器専用です。
※外部のNTPサーバーへの問い合わせ先(経路)が設定できない弊社製RoIP機器を本製品と併用している場合に、この機能を使用されることをおすすめします。
※この機能を使用するには、あらかじめ「時計」画面で、本製品本体の時計を設定してください。 |
| ②<登録> | …………… | [自動時計設定]項目、[SNTPサーバー設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。 |
| ③<取消> | …………… | [自動時計設定]項目、[SNTPサーバー設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。 |

■SYSLOG設定

指定したホストにログ情報などを出力するための設定です。

SYSLOG設定

① DEBUG:

☒無効 ☐有効

② INFO:

☐無効 ☒有効

③ NOTICE:

☐無効 ☒有効

④ ホストアドレス:

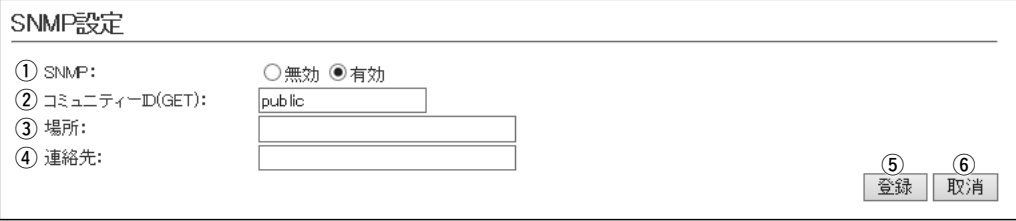
⑤ 登録

⑥ 取消

- | | |
|------------------------|--|
| ① DEBUG | 各種デバッグ情報をSYSLOGに出力する設定です。（出荷時の設定：無効） |
| ② INFO | INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力する設定です。
（出荷時の設定：有効） |
| ③ NOTICE | NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力する設定です。
（出荷時の設定：有効） |
| ④ ホストアドレス | SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
※ホストは、SYSLOGサーバー機能に対応している必要があります。 |
| ⑤ 〈登録〉 | [SYSLOG設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。 |
| ⑥ 〈取消〉 | [SYSLOG設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。 |

■SNMP設定

TCP/IPネットワークにおいて、ネットワーク上の各ホストから本製品の情報を自動的に収集して、ネットワーク管理をするときの設定です。



SNMP設定

① SNMP: ☐ 無効 ☒ 有効

② コミュニティーID(GET):

③ 場所:

④ 連絡先:

⑤ 登録 ⑥ 取消

- | | |
|----------------------|--|
| ①SNMP | 本製品のSNMP機能を設定します。
「有効」に設定すると、本製品の設定情報をSNMP管理ツール側で管理できます。
(出荷時の設定：有効) |
| ② コミュニティーID(GET) ... | 本製品の設定情報をSNMP管理ツール側から読み出すことを許可するIDを、半角31文字以内の英数字で入力します。
(出荷時の設定：public) |
| ③ 場所 | MIB-II(RFC1213)に対応するSNMP管理ツール側で表示される場所を、半角127文字以内の英数字で入力します。 |
| ④ 連絡先 | MIB-II(RFC1213)に対応するSNMP管理ツール側で表示される連絡先を、半角127文字以内の英数字で入力します。 |
| ⑤〈登録〉 | [SNMP設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。 |
| ⑥〈取消〉 | [SNMP設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。 |

■USB設定

市販のUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んだときの動作を設定します。

USB設定

① USBメモリー: ○無効 ●有効

② USBアクセス許可: ☑ファームウェアの更新
 ☑設定の保存／復元

③ 登録 ④ 取消

- ① **USBメモリー** USBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んだときの動作について設定します。 (出荷時の設定：有効)
※「無効」に設定されていると、本製品のファームウェアファイルや設定ファイルなどを保存したUSBメモリーを差し込んだ状態で、本製品の電源を接続しても、ファイルを読み込みません。
- ② **USBアクセス許可** 本製品に接続されたUSBメモリーから読み込むファイルを選択します。
(出荷時の設定：☑ファームウェアの更新
☑設定の保存／復元)
※チェックマーク[✓]をはずすと、ファイルを保存したUSBメモリーを差し込んだ状態で、本製品の電源を接続しても、該当ファイルを読み込みません。
◎ファームウェアの更新(P.5-16)
本製品のファームウェアファイル(拡張子：dat)を保存したUSBメモリーを差し込むと、ファームウェアをバージョンアップします。
◎設定の保存／復元(P.5-13)
本製品の設定ファイルをUSBメモリーに保存後、設定が異なる本製品にUSBメモリーを差し込んで、自動で設定を復元します。
- ③ **〈登録〉** [USB設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。
- ④ **〈取消〉** [USB設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

4 設定画面について

11.「管理」メニュー(つづき)

「管理」-「ネットワークテスト」

■PINGテスト

本製品からPINGを送出し、ネットワークの疎通確認テストをします。



PINGテスト

① ホスト:

② 試行回数: 4 回

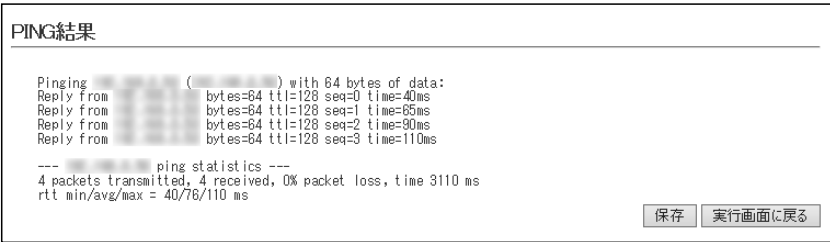
③ パケットサイズ: 64 バイト

④ タイムアウト時間: 1000 ミリ秒

⑤ 実行

- ① **ホスト** PINGを送出する対象ホストのアドレスを入力します。
- ② **試行回数** PINGを送出する回数を、「1」、「2」、「4」、「8」から選択します。
(出荷時の設定：4)
- ③ **パケットサイズ** 送信するパケットのデータ部分のサイズを設定します。(出荷時の設定：64)
設定できるサイズは、「32」、「64」、「128」、「256」、「512」、「1024」、「1448」、「1500」、「2048」(バイト)です。
- ④ **タイムアウト時間** PING送出後、応答を待つ時間を、「500」、「1000」、「5000」(ミリ秒)から選択します。
(出荷時の設定：1000)
設定した時間以内に応答がないときは、タイムアウトになります。
- ⑤ **〈実行〉** PINGテストを実行するボタンです。
クリックして、表示される画面にしたがって操作すると、「PING結果」表示に切り替わり、テスト結果を表示します。

【PING結果について】



PING結果

```
Pinging 192.168.1.1 (192.168.1.1) with 64 bytes of data:
Reply from 192.168.1.1: bytes=64 ttl=128 seq=0 time=40ms
Reply from 192.168.1.1: bytes=64 ttl=128 seq=1 time=85ms
Reply from 192.168.1.1: bytes=64 ttl=128 seq=2 time=90ms
Reply from 192.168.1.1: bytes=64 ttl=128 seq=3 time=110ms

--- 192.168.1.1 ping statistics ---
4 packets transmitted, 4 received, 0% packet loss, time 3110 ms
rtt min/avg/max = 40/76/110 ms
```

保存 実行画面に戻る

※上図は、表示例です。

◎〈保存〉をクリックすると、テスト結果をファイル(拡張子:txt)に保存します。

※ファイル名は、「ping_[対象ホストのアドレス].txt」で保存されます。

◎〈実行画面に戻る〉をクリックすると、画面が「PINGテスト」表示に戻ります。

4 設定画面について

11.「管理」メニュー(つづき)

「管理」-「ネットワークテスト」

■経路テスト

本製品から特定のノードに対しての経路テスト(tracert/traceroute)をします。

経路テスト

① ノード:

② 最大ホップ数: 16 ▼

③ タイムアウト時間: 3 ▼ 秒

④ DNS名前解決: ☐ 無効 ☒ 有効

⑤ 実行

- ① **ノード** 経路テストをする対象ノード(機器)のアドレスを入力します。
- ② **最大ホップ数** 経由するホップ数(中継設備数)の最大値を、「4」、「8」、「16」、「32」から選択します。
(出荷時の設定：16)
- ③ **タイムアウト時間** テスト開始後、応答を待つ時間を、「1」、「3」、「5」(秒)から選択します。
(出荷時の設定：3)
設定した時間以内に応答がないときは、タイムアウトになります。
- ④ **DNS名前解決** テスト結果に表示するIPアドレスを、ホスト名に変換するかどうか設定します。
(出荷時の設定：有効)
「有効」に設定すると、中継設備や対象ノードのアドレスに対して、DNS名前解決をします。
- ⑤ **〈実行〉** 経路テストを実行するボタンです。
クリックして、表示される画面にしたがって操作すると、「経路テスト結果」表示に切り替わり、テスト結果を表示します。

【経路テスト結果について】

経路テスト結果

traceroute to 1.1.1.1 (1.1.1.1) from 1.1.1.1, 16 hops max

1: 0 ms 5 ms 0 ms

保存 実行画面に戻る

※上図は、表示例です。

- ◎〈保存〉をクリックすると、テスト結果をファイル(拡張子:txt)に保存します。
※ファイル名は、「tracert_[対象ノードのアドレス].txt」で保存されます。
- ◎〈実行画面に戻る〉をクリックすると、画面が「経路テスト」表示に戻ります。

4 設定画面について

11.「管理」メニュー(つづき)

「管理」－「再起動」

■再起動

〈実行〉をクリックすると、本製品は再起動します。

再起動

再起動:

実行

4 設定画面について

11.「管理」メニュー(つづき)

「管理」―「設定の保存/復元」

■設定の保存

本製品の設定内容を保存します。

設定の保存	
設定の保存:	保存

設定の保存……………

本製品すべての設定内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップできます。

〈保存〉をクリックして、表示された画面にしたがって操作すると、設定ファイル(拡張子：sav)を保存できます。

保存したファイルは、[設定の復元]項目の操作で、本製品に書き込みできます。

※保存した設定ファイル(拡張子：sav)は、本製品以外では使用できません。

■設定の復元

保存した設定ファイルを本製品に書き込みます。

※書き込みには数分かかる場合があります。

設定の復元	
① 設定ファイルの選択:	参照…
② 復元:	復元

①設定ファイルの選択 ……

[設定の保存]項目の操作で保存した設定ファイル(拡張子：sav)の内容を本製品に書き込むとき使用します。

設定ファイルの保存先を指定するため、〈参照…〉をクリックします。

表示された画面から目的の設定ファイルをクリックして、〈開く(O)〉をクリックすると、選択した設定ファイルの参照先が表示されます。

②復元 ……………

[設定ファイルの選択] (①)欄のテキストボックスに保存先を指定後、〈復元〉をクリックすると、本製品にその設定内容を書き込みます。

書き込む前の設定内容は、消去されますのでご注意ください。

※書き込みを完了すると、本製品は自動的に再起動します。

※市販のソフトウェアなどで編集したものは、誤動作の原因になりますので、本製品に登録しないでください。

【設定ファイルについてのご注意】

本製品以外の機器へ書き込み、改変による障害、および書き込みに伴う本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、または停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■オンライン設定

本製品の設定内容を暗号化された通信経路を利用して転送でき、遠隔地から保守できます。

※オンライン設定を使用するには、別途SFTPサーバーが必要です。

オンライン設定

① オンライン設定:

☒ 無効
☐ 有効

② サーバーホスト名:

③ 契約ユーザー名:

④ パスワード:

⑤ 設定をアップロード:

実行

⑥ 設定をダウンロード:

実行

⑦ 登録

⑧ 取消

- | | |
|-------------------|--|
| ① オンライン設定 | オンライン設定を使用するとき、「有効」にします。（出荷時の設定：無効）
※SFTPサーバーの設備がない場合は、「有効」に設定しても、使用できません。 |
| ② サーバーホスト名 | SFTPサーバーホスト名のIPアドレス、またはFQDN(Fully Qualified Domain Name)を128文字(半角)以内で入力します。 |
| ③ 契約ユーザー名 | SFTPサーバー契約ユーザー名を、128文字(半角英数字/記号)以内で入力します。 |
| ④ パスワード | SFTPサーバーパスワードを、128文字(半角英数字/記号)以内で入力します。 |
| ⑤ 設定をアップロード | 〈実行〉をクリックすると、本製品から設定内容を読み出して、自動でSFTPサーバーへ転送します。 |
| ⑥ 設定をダウンロード | 〈実行〉をクリックすると、SFTPサーバーから本製品の設定内容を読み出して、本製品に自動で書き込みます。
※設定内容の書き込みが完了すると、本製品が自動的に再起動され、設定が有効になります。 |
| ⑦ 〈登録〉 | [オンライン設定]項目で設定した内容を登録するボタンです。 |
| ⑧ 〈取消〉 | [オンライン設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。 |

4 設定画面について

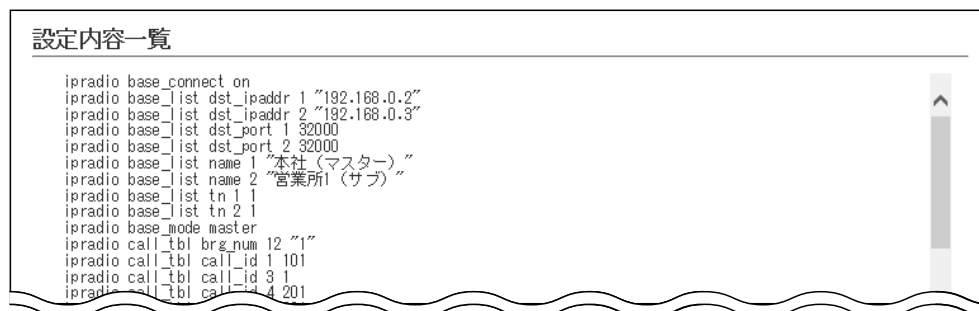
11.「管理」メニュー(つづき)

「管理」→「設定の保存/復元」

■設定内容一覧

出荷時の設定から変更された内容を表示します。

※出荷時や全設定初期化後は、何も表示されません。



※画面の内容は、表示例です。

4 設定画面について

11.「管理」メニュー(つづき)

「管理」―「初期化」

■初期化

〈実行〉をクリックすると、本製品に設定されたすべての内容を出荷時の状態に戻します。

初期化

初期化:

実行

初期化を行うとすべての設定が工場出荷状態となります。

※IPアドレスと管理者用のパスワードが不明な場合などの初期化については、5-4ページをご覧ください。

【ご注意】

初期化すると、本製品のIPアドレスは「192.168.0.1(出荷時の設定)」になります。

初期化実行後、本製品にアクセスできなくなったときは、パソコンのIPアドレスを変更してください。

4 設定画面について

11. 「管理」メニュー(つづき)

「管理」→「ファームウェアの更新」

【バージョンアップについてのご注意】

故障の原因になるため、ファームウェアの更新が完了するまで、本製品の電源を切らないでください。

※バージョンアップによって追加や変更になる機能、注意事項については、あらかじめ弊社ホームページでご確認ください。

■ファームウェア情報

本製品のファームウェアについて、バージョン情報を表示します。

ファームウェア情報

PL:	Rev.
バージョン:	IP1000C Ver Copyright Icom Inc.

■オンライン更新

ファームウェアをオンラインでバージョンアップします。

※ファームウェアの確認には、インターネットへの接続環境と本製品へのDNS設定、デフォルトゲートウェイ(P.4-12)の設定が必要です。

オンライン更新

ファームウェアの確認:

確認

ファームウェアの確認……………

〈確認〉をクリックすると、アップデート管理サーバーに接続します。
接続に成功すると、最新のファームウェア情報(下図)を表示します。

ファームウェアオンライン更新	
ファームウェア情報	
状況:	情報取得成功
バージョン:	
更新内容:	
最新の情報に更新 ファームウェアを更新	

【ファームウェア情報について】

- ◎「新しいファームウェアはありません」が表示されるときは、現在のファームウェアが最新ですので、ファームウェアの更新は必要ありません。
- ◎新しいファームウェアがあるときは、「情報取得成功」と更新内容が表示されたときは、〈ファームウェアを更新〉をクリックすると最新のファームウェアをアップデート管理サーバーからオンラインで更新できます。
- ◎「接続失敗」や「サーバーからエラーが返されました」が表示されるときは、下記を参考に、本製品からアップデート管理サーバーへ接続できる環境であることをご確認ください。

デフォルトゲートウェイとDNSサーバーアドレスを本製品に設定していますか？

→「ネットワーク設定」メニューの「本体IPアドレス」画面で設定を確認する

本製品からWeb通信することを、ファイアウォールなどで遮断していませんか？

→ネットワーク管理者に確認する

【バージョンアップについてのご注意】

故障の原因になるため、ファームウェアの更新が完了するまで、本製品の電源を切らないでください。

※バージョンアップによって追加や変更になる機能、注意事項については、あらかじめ弊社ホームページでご確認ください。

4 設定画面について

11.「管理」メニュー(つづき)

「管理」－「ファームウェアの更新」

■自動更新

ファームウェアの自動更新機能を使用するときに設定します。

自動更新	
① 自動更新:	☐ 無効 ☒ 有効
	② 登録 ③ 取消

- | | |
|--------------|--|
| ① 自動更新 | ファームウェアの自動更新機能を設定します。 (出荷時の設定：有効)
「有効」に設定されている場合は、オンラインで新しいファームウェアを検知したときに、[MSG]ランプが緑色に点灯します。
ご都合の良いときに、4-133ページの手順でファームウェアの更新をしてください。
※更新内容によっては、アップデート管理サーバーから本製品のファームウェアが自動更新されることがあります。
適用中にファームウェアを更新して本製品が再起動しますので、自動更新を望まない場合は「無効」(出荷時の設定：有効)に設定してください。 |
| ② <登録> | [自動更新]項目で設定した内容を登録するボタンです。 |
| ③ <取消> | [自動更新]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。 |

【バージョンアップについてのご注意】

故障の原因になるため、ファームウェアの更新が完了するまで、本製品の電源を切らないでください。

※バージョンアップによって追加や変更になる機能、注意事項については、あらかじめ弊社ホームページでご確認ください。

■手動更新

パソコンに保存しているファイルを指定してファームウェアをバージョンアップします。

手動更新	
① ファームウェアの選択:	参照...
② ファームウェアの更新:	更新

- ① **ファームウェアの選択** ... 〈参照...〉をクリックして、表示された画面から、パソコンに保存している本製品のファームウェアファイル(拡張子：dat)を選択して、〈開く(O)〉をクリックします。
選択したファイルとその階層が、[ファームウェアの選択]項目のテキストボックスに自動入力されたことを確認します。
- ② **ファームウェアの更新** 〈更新〉をクリックすると、[ファームウェアの選択]項目のテキストボックスに表示された保存先のファームウェアファイル(拡張子：dat)を本製品に書き込みます。
更新を開始すると、「ファームウェアを更新しています。」と表示されます。

【バージョンアップについてのご注意】

故障の原因になるため、ファームウェアの更新が完了するまで、本製品の電源を切らないでください。

※バージョンアップによって追加や変更になる機能、注意事項については、あらかじめ弊社ホームページでご確認ください。

この章では、

本製品の設定内容保存や初期化、ファームウェアのバージョンアップをする手順について説明しています。

1. 設定内容の確認または保存	5-2
確認と保存のしかた	5-2
2. 保存された設定の書き込み(復元)	5-3
書き込みかた	5-3
3. 設定を出荷時の状態に戻すには	5-4
[A] 〈INIT〉ボタンを使用する	5-4
[B] 設定画面を使用する	5-5
4. ファームウェアをバージョンアップする	5-6
ファームウェアについて	5-6
バージョンアップについてのご注意	5-6
[A] ファイルを指定して更新する	5-7
[B] オンラインバージョンアップ	5-8
5. USBメモリーによる自動設定機能について	5-9
■ USBメモリーによる自動設定機能について	5-9
6. USBメモリーから自動で設定を復元するには	5-13
設定ファイルを保存して復元するまでの手順	5-13
7. USBメモリーからファームウェアをバージョンアップするには	5-16
バージョンアップするまでの手順	5-16

5 保守について

1. 設定内容の確認または保存

本製品の設定画面で変更された内容を確認して、その内容を設定ファイル(拡張子: sav)としてパソコン、またはUSBメモリーに保存できます。

※保存した設定ファイル(拡張子: sav)は、本製品以外の製品では使用できません。

※設定を保存しておく、誤って設定内容が失われたときなどに利用できます。

※設定ファイルをUSBメモリー(市販品)に保存して、本製品に書き込むこともできます。(P.5-13)

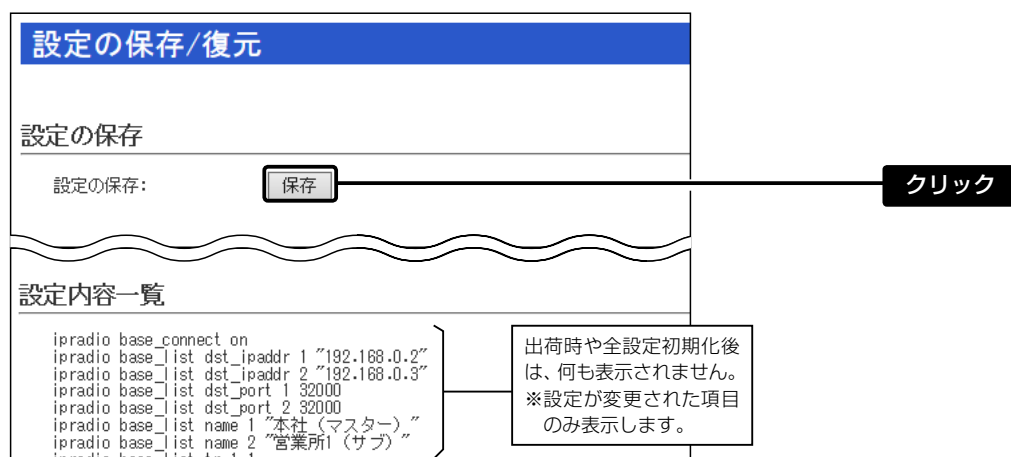
■ 確認と保存のしかた

- 1 「管理」メニュー、「設定の保存/復元」の順にクリックします。

「設定の保存/復元」画面が表示されます。

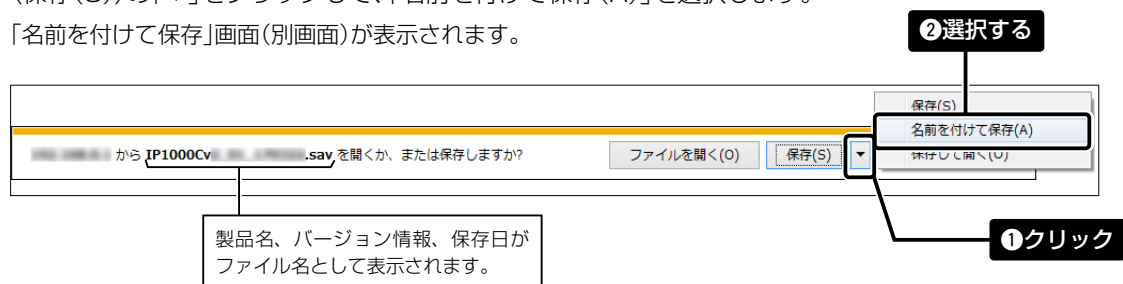
- 2 「設定の保存」欄の「保存」をクリックします。

ファイルの確認画面(別画面)が表示されます。



- 3 「保存(S)」の「▼」をクリックして、「名前を付けて保存(A)」を選択します。

「名前を付けて保存」画面(別画面)が表示されます。



- 4 保存する場所を選択して、「保存(S)」をクリックします。

選択した場所に設定ファイル(拡張子: sav)が保存されます。

2. 保存された設定の書き込み(復元)

本製品の設定画面からパソコンに保存した設定ファイル(P.5-2)を本製品に書き込む手順を説明します。
※設定ファイルをUSBメモリー(市販品)に保存して、本製品に書き込むこともできます。(P.5-13)

■ 書き込みかた

- 1 「管理」メニュー、「設定の保存/復元」の順にクリックします。
「設定の保存/復元」画面が表示されます。

- 2 設定ファイルを指定するため、〈参照...〉をクリックします。
「アップロードするファイルの選択」画面(別画面)が表示されます。

- 3 「アップロードするファイルの選択」画面(別画面)から、設定ファイル(拡張子: sav)を指定して、〈開く(O)〉をクリックします。
「設定ファイルの選択」欄のテキストボックスに、書き込む設定ファイルが表示されます。

- 4 〈復元〉をクリックします。
「設定データを復元しています。」が表示され、設定を復元するために本製品が再起動します。

【設定ファイルについてのご注意】

本製品以外の機器への書き込み、改変による障害、および書き込みに伴う本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

3. 設定を出荷時の状態に戻すには

ネットワーク構成を変更するときなど、既存の設定データをすべて消去して、設定をはじめからやりなおすときは、本製品の設定内容を出荷時の状態に戻せます。

そのときの状況に応じて、次の2とおりの方法があります。

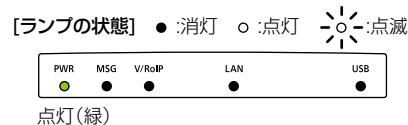
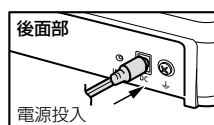
A 〈INIT〉ボタンを使用する

本製品に設定されたIPアドレスと管理者パスワードが不明な場合など、設定画面にアクセスできないとき

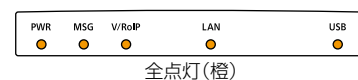
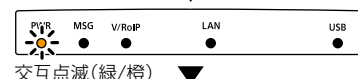
B 設定画面を使用する(P.5-5)

A 〈INIT〉ボタンを使用する

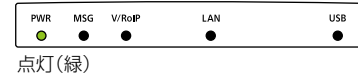
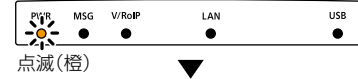
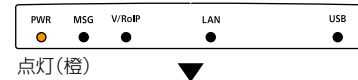
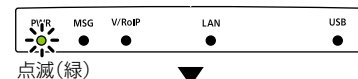
- 1 本製品からすべての機器を取りはずして、電源を入れます。
※[PWR]ランプが●緑点灯してから、手順2の操作を開始してください。



- 2 すべてのランプが●橙点灯するまで、〈INIT〉ボタンを押します。



すべてのランプが●橙点灯したら、〈INIT〉ボタンから手をはなします。
※[PWR]ランプが、●緑点灯に切り替わると、初期化完了です。



【ご注意】

初期化すると、本製品のIPアドレスは「192.168.0.1(出荷時の設定)」になります。
初期化実行後、本製品にアクセスできなくなった場合は、パソコンのIPアドレスを変更してください。

5 保守について

3. 設定を出荷時の状態に戻すには(つづき)

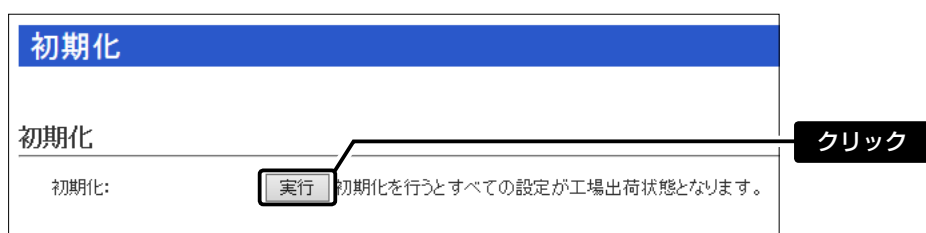
本製品に設定されたIPアドレスと管理者パスワードがわかっていて、そのIPアドレスで設定画面にアクセスできるときは、本製品の設定画面から、すべての設定を出荷時の状態に戻せます。

IPアドレスと管理者パスワードが不明な場合などの初期化については、5-4ページをご覧ください。

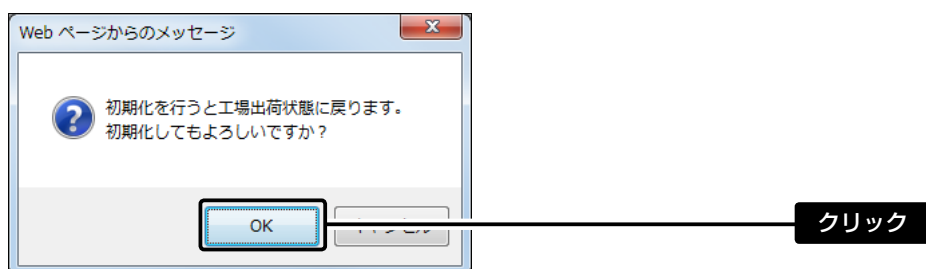
B 設定画面を使用する

- 1 「管理」メニュー、「初期化」の順にクリックします。
「初期化」画面が表示されます。

- 2 「実行」をクリックします。



- 3 「OK」をクリックします。
出荷時の状態に戻すために、本製品が再起動します。



【ご注意】

初期化すると、本製品のIPアドレスは「192.168.0.1(出荷時の設定)」になります。
初期化実行後、本製品にアクセスできなくなった場合は、パソコンのIPアドレスを変更してください。

4. ファームウェアをバージョンアップする

本製品の設定画面からファームウェアをバージョンアップできます。

Ⓐ ファイルを指定して更新する

オンラインバージョンアップできない環境では、あらかじめ弊社ホームページからダウンロードしたファームウェアを指定して、手動でバージョンアップできます。

Ⓑ オンラインバージョンアップ(P.5-8)

インターネットから本製品のファームウェアを最新の状態に自動更新できます。

※ ファームウェアファイルをUSBメモリー(市販品)に保存して、本製品をバージョンアップすることもできます。(P.5-16)

※ 本製品の[MSG]ランプが ● 緑点灯しているときは、最新ファームウェアがありますので、〈UPDATE〉ボタンを操作してもバージョンアップできます。(別紙の「IP1000Cご注意と保守について」)

■ ファームウェアについて

ファームウェアは、本製品を動作させるために、出荷時から本製品のフラッシュメモリーに書き込まれているプログラムです。

このプログラムは、機能の拡張や改良のため、バージョンアップをすることがあります。

バージョンアップの作業をする前に、本製品の設定画面にアクセスして、「TOP」画面に表示するバージョン情報を確認してください。

バージョンアップをすると、機能の追加など、本製品を最良の状態にできます。

TOP	
製品情報	
本体名称	IP1000C
PL	Rev. 02
バージョン	Ver. 02.00 Copyright Icom Inc.
LAN MACアドレス	00-90-C7-XXXXXX
内蔵ファームウェアバージョン(IP100H)	Ver. 02.00

バージョン情報

※ファームウェアのバージョン情報に「(#02)」が記載されている場合は、IP1000C #02用のファームウェアをご使用ください。

■ バージョンアップについてのご注意

◎ ファームウェアの更新中は、絶対に本製品の電源を切らないでください。

更新中に電源を切ると、データの消失や故障の原因になります。

◎ ご使用のパソコンでファイアウォール機能が動作していると、バージョンアップできないことがあります。

バージョンアップできない場合は、ファイアウォール機能を「無効」にしてください。

◆ バージョンアップの結果については、自己責任の範囲となります。

次に示す内容をよくお読みになってから、弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> より提供される本製品のアップデート用ファームウェアファイルをご使用ください。

本製品以外の機器への書き込み、改変による障害、および書き込みに伴う本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

5 保守について

4. ファームウェアをバージョンアップする(つづき)

A ファイルを指定して更新する

バージョンアップの前に、現在の設定内容を保存されることをおすすめします。(P.5-2)

※バージョンアップ後、既存の設定内容が初期化されるファームウェアファイルがありますので、ダウンロードするときは、弊社ホームページに記載の内容をご確認ください。

※日常、管理者以外の端末からバージョンアップできないように、設定画面へのアクセス制限の設定(P.4-118)をおすすめします。

- 1 「管理」メニュー、「ファームウェアの更新」の順にクリックします。
「ファームウェアの更新」画面が表示されます。

- 2 下記のように、弊社ホームページよりダウンロードして解凍したファームウェアファイル(拡張子：dat)の保存先を指定して、更新します。

更新を開始すると、「ファームウェアを更新しています。」(下図)が表示されます。

※ファームウェアの更新を完了すると、「TOP」画面になります。

The screenshot shows the '手動更新' (Manual Update) screen. It has two sections: 'ファームウェアの選択:' (Firmware Selection) and 'ファームウェアの更新:' (Firmware Update). In the selection section, a file path is entered: '%Desktop%ip1000cv .dat'. To the right of the path is a button labeled '参照...' (Browse...). A callout box points to this button with the text 'ファームウェアファイル(拡張子：dat)の保存先を確認します。' (Check the save location of the firmware file (extension: dat)). A line with a circle and the number '1' points to the '参照...' button, labeled '①クリック' (Click 1). In the update section, there is a button labeled '更新' (Update). A line with a circle and the number '2' points to this button, labeled '②クリック' (Click 2). A large blue arrow points down from the '更新' button to the next screen.

ファームウェアを更新しています。

ファームウェアの更新中は、絶対に本体の電源を切らないでください。
ファームウェアの更新が完了すると、本体は自動的に再起動します。

再起動するまで 秒です。

本体の起動を確認後、画面更新されない場合は、[Back]をクリックしてください。

[Back]

【ご注意】

ファームウェアの更新が完了するまで、ご使用のパソコンや本製品の電源を絶対に切らないでください。

途中で電源を切ると、データの消失や誤動作の原因になります。

※出荷時の設定内容に戻るような注意書きがあるバージョンアップ用ファームウェアの場合は、上図の[Back]をクリックしても設定画面に戻れないことがあります。

接続するパソコンのIPアドレスを「例：192.168.0.100」に設定してから、本製品の設定画面にアクセスしなおしてください。

5 保守について

4. ファームウェアをバージョンアップする(つづき)

⑧ オンラインバージョンアップ

下記の手順で、最新のファームウェアを確認後、[MSG] ランプが ● 緑点灯しているときは、本製品のファームウェアをオンラインでバージョンアップできます。

※ ファームウェアの確認には、インターネットへの接続環境と本製品へのDNS設定、デフォルトゲートウェイの設定が必要です。(P.4-12)

※ バージョンアップの前に、現在の設定内容を保存されることをおすすめします。(P.5-2)

- 1 「管理」メニュー、「ファームウェアの更新」の順にクリックします。
「ファームウェアの更新」画面が表示されます。

- 2 [ファームウェアの確認] 欄の<確認>をクリックして、表示される更新内容を確認します。
※「新しいファームウェアはありません。」が表示され、[MSG] ランプが ● 緑点灯のときは、バージョンアップは必要ありません。

オンライン更新

ファームウェアの確認:

①クリック

↓

ファームウェア情報

状況:
バージョン:
更新内容:

情報取得成功

②確認する

最新の情報に更新 ファームウェアを更新

- 3 <ファームウェアを更新>をクリックします。
弊社のアップデート管理サーバーにアクセスを開始します。
※バージョンアップにより、既存の設定内容が初期化されるファームウェアファイルがありますので、バージョンアップする前に、表示される更新内容をご確認ください。

- 4 更新が完了するまで、そのまま数分程度お待ちください。
弊社のアップデート管理サーバーに接続すると、ファームウェアのダウンロードを開始し、更新後は、自動的に再起動します。

ファームウェア更新中は絶対に本体の電源を切らないでください。
ファームウェア更新中はブラウザを閉じず、そのままお待ちください。
ファームウェアの更新が完了すると、本体は自動で再起動します。

自動更新機能有効時の通知機能について

本製品の自動更新機能が「有効」に設定されている場合は、オンラインで新しいファームウェアを検知したときに、[MSG] ランプが緑色に点灯します。

ご都合の良いときに、上記の手順でファームウェアの更新をしてください。

※更新内容によっては、アップデート管理サーバーから本製品のファームウェアが自動更新されることがあります。

適用中にファームウェアを更新して本製品が再起動しますので、自動更新を望まない場合は「無効」(出荷時の設定：有効)に設定してください。

自動更新

自動更新: ☐ 無効 ☒ 有効

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ USBメモリーによる自動設定機能について

本製品の[USB]ポートにUSBメモリー(市販品)を接続して電源を入れると、あらかじめUSBメモリーに保存されたファームウェアファイルや設定ファイル(本製品の設定が保存されたファイル)などを本製品に自動で読み込みます。

また、本製品のMACアドレスをフォルダー名とするフォルダーを作成することで、1つのUSBメモリーを使用して、複数台(本製品)の設定復元やファームウェアのバージョンアップができます。

※操作方法については、5-11ページ～5-12ページをご覧ください。

◎ファームウェアの更新(P.5-16)

本製品のファームウェアファイル(拡張子: dat)をUSBメモリーに保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、ファームウェアをバージョンアップします。

◎設定の保存／復元(P.5-13)

本製品の設定ファイルをUSBメモリーに保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、自動で設定を復元します。

【ご参考に】

「管理」メニューの「USB」画面で、[USBメモリー]欄が「有効」に設定されているとき、USBメモリーが差し込まれた本製品の電源を入れると、USBメモリーへのアクセスが開始されます。(P.4-124)

USB設定

USBメモリー:	☐ 無効 ☒ 有効
USBアクセス許可:	☒ ファームウェアの更新
	☒ 設定の保存／復元

(※画面の内容は、出荷時の設定です。)

(次ページにつづく)

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ USBメモリーによる自動設定機能について(つづき)

【USBメモリー使用時のご注意】

- ◎ 指紋認証型、アプリケーション認証(パスワード認証)型など、セキュリティー対応型のUSBメモリーは使用できません。
- ◎ ご使用になる前に、あらかじめ、USBメモリー内のデータをバックアップしてください。
- ◎ データ保護のため、必ず本製品の電源を切ってから、USBメモリーの接続や取りはずしをしてください。
設定保存/復元、ファームウェアのバージョンアップを使用する場合など、USBメモリーにアクセス中([USB]ランプが●緑/●橙交互点滅中)は、絶対にUSBメモリーを取りはずさないでください。
ファイルの消失や故障の原因になります。
- ◎ USBメモリーは、どちらか一方の[USB]ポートにだけ接続してください。
2つの[USB]ポートを同時には使用できません。
- ◎ USBメモリーを差し込むときは、形状と差し込み方向に注意して、奥まで確実に差し込んでください。
- ◎ USBメモリーにアクセス中は、[USB]ランプが●橙と●緑で交互に点滅します。
設定復元が完了すると、[USB]ランプが●緑点灯に切り替わります。
ファームウェアのバージョンアップ中は、すべてのランプが●橙点灯します。
- ◎ 設定を復元する直前の設定値は、設定ファイル(bakdata.sav)として、本製品に接続したUSBメモリーにバックアップされます。
- ◎ USBメモリーに保存された設定ファイルやファームウェアファイルが、本製品に適用されているものと同じ場合や、破損していたり、本製品以外のものであったりするときは、自動設定、またはファームウェアの更新をしません。
※本製品で動作中のものより古い設定ファイルやファームウェアファイルが、USBメモリーに保存されている場合は、その内容で自動設定されます。
- ◎ 設定ファイルとファームウェアファイルの両方がUSBメモリーに保存されている場合は、設定復元、ファームウェアのバージョンアップの順に自動設定を実行します。

【対応するUSBの規格】

インターフェース : USB2.0

デバイス : USB 大容量デバイス(USB Mass Storage Class)

フォーマット : FAT16/FAT32(exFATやNTFSなど、ほかのフォーマットには対応していません。)

※すべてのUSBメモリーでの動作を保証するものではありません。

(次ページにつづく)

5. USBメモリーによる自動設定機能について(つづき)

■ USBメモリーによる自動設定機能について

【自動設定に使用するファイル名の付けかた】

設定ファイル名は、「savedata」(拡張子：sav)でUSBメモリーに保存してください。

※自動設定に使用する設定ファイルは、「管理」メニュー→「設定の保存/復元」画面→[設定の保存]項目(P.5-2)で保存したもの以外を使用できません。

ファームウェアファイル名は、「firmware」(拡張子：dat)でUSBメモリーに保存してください。

※ファームウェアの自動バージョンアップに使用するファームウェアファイルは、弊社ホームページからダウンロードし、解凍してから、ファームウェアファイル名を変更してください。

【自動バックアップされる設定ファイルについて】

バックアップは、下記のファイル名で、最大10世代前まで自動バックアップされます。

最新のバックアップ設定ファイルは、bakdata.savで自動バックアップされます。

例：1世代前のファイル名 bakdata_1.sav

2世代前のファイル名 bakdata_2.sav

3世代前のファイル名 bakdata_3.sav

～ 中略 ～

10世代前のファイル名 bakdata_10.sav

※10世代を超えると、最も古いバックアップ設定ファイル(bakdata_10.sav)が削除されます。

また、削除と同時に、ファイル名の数字が1世代後退します。(例：bakdata_9.sav→bakdata_10.sav)

※ファームウェアファイルは、バックアップされません。

※本製品の設定内容を変更した場合に、設定ファイル(bakdata.sav)が自動バックアップされます。

(次ページにつづく)

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ USBメモリーによる自動設定機能について(つづき)

【複数台分の設定ファイルを1つのUSBメモリーで管理するには】

1つのUSBメモリーを使用して、本製品(複数台分)の設定復元やファームウェアのバージョンアップをするときは、あらかじめ、本製品のMACアドレス(P.4-5)をフォルダー名★とするフォルダーを作成し、そのフォルダーに本製品の設定ファイルやファームウェアファイルを保存しておく必要があります。

★全角のフォルダー名は使用できません。

ルートディレクトリーにフォルダーがないとき

自身のMACアドレスと一致するフォルダーがないため、USBメモリーのルートディレクトリーにバックアップ設定ファイルを作成します。

自身のMACアドレスと一致するフォルダーがないため、ルートディレクトリーにある設定ファイルやファームウェアファイルを読み込みます。

自身のMACアドレス(例：0090C7000001)と一致するフォルダーがあるとき

あらかじめ作成しておいたフォルダーの中にバックアップ設定ファイルを作成します。

あらかじめ作成しておいたフォルダーの中にある設定ファイルやファームウェアファイルを読み込みます。

自身のMACアドレス(例：0090C7000002)と一致するフォルダーがないとき

自身のMACアドレスと一致するフォルダーがないため、USBメモリーのルートディレクトリーにバックアップ設定ファイルを作成します。

自身のMACアドレスと一致するフォルダーがないため、ルートディレクトリーにある設定ファイルやファームウェアファイルを読み込みます。

(次ページにつづく)

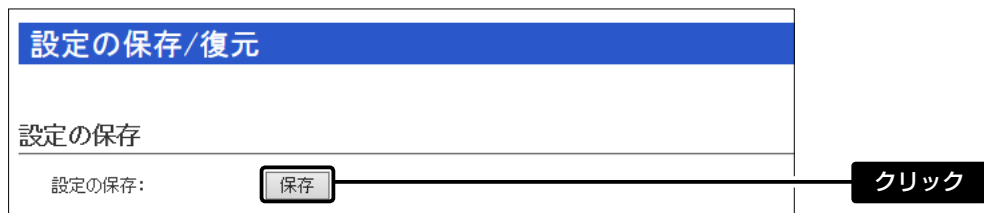
6. USBメモリーから自動で設定を復元するには

本製品の設定ファイルをUSBメモリー(市販品)に保存後、設定が異なる本製品にUSBメモリーを差し込んで、自動で設定を復元するまでの手順について説明します。

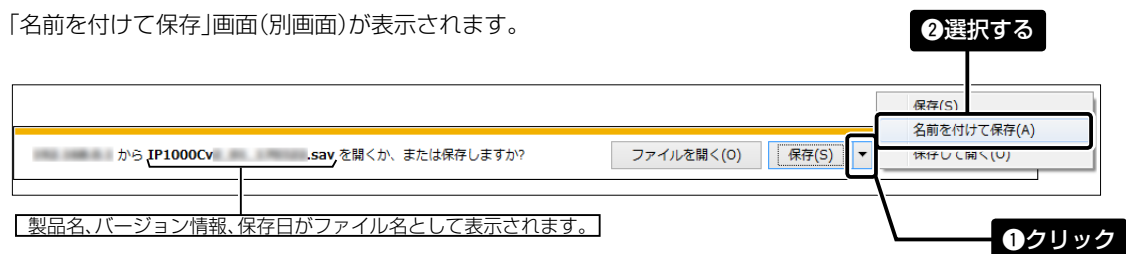
※ 使用条件については、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.5-10)をご覧ください。

■ 設定ファイルを保存して復元するまでの手順

- 1 「USBメモリーをパソコンに差し込みます。
- 2 本製品の設定画面にアクセスします。(別紙の「IP1000C接続ガイド」)
- 3 「管理」メニュー、「設定の保存/復元」の順にクリックします。
「設定の保存/復元」画面が表示されます。
- 4 「設定の保存」欄の〈保存〉をクリックします。
ファイルの確認画面(別画面)が表示されます。



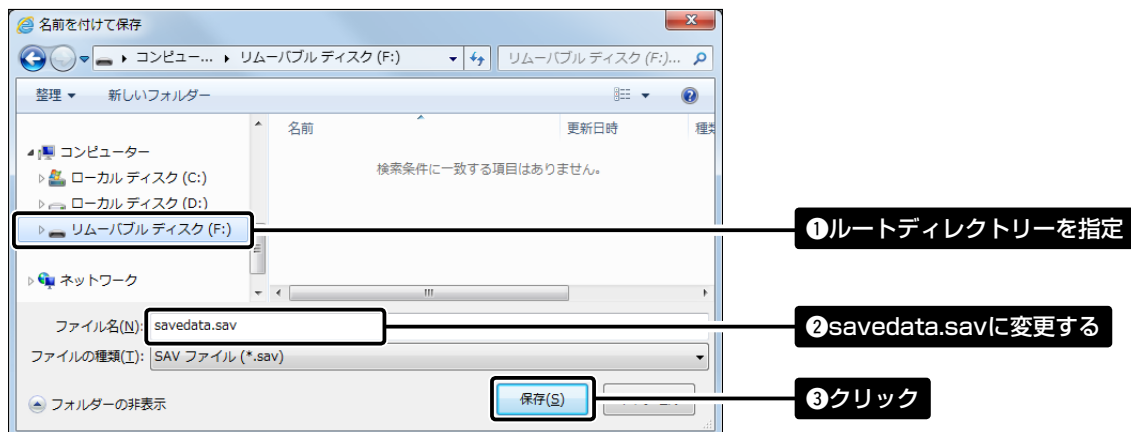
- 5 〈保存(S)〉の「▼」をクリックして、「名前を付けて保存(A)」を選択します。
「名前を付けて保存」画面(別画面)が表示されます。



- 6 「名前を付けて保存」(別画面)画面で、設定ファイルの保存先にUSBメモリーのルートディレクトリーを指定し、ファイル名を「savedata.sav」に変更してから、〈保存(S)〉をクリックします。

※ ファイル名は、必ず「savedata.sav」に変更してください。

「savedata.sav」以外のファイル名では、USBメモリーからの復元に使用できません。



(次ページにつづく)

6. USBメモリーから自動で設定を復元するには

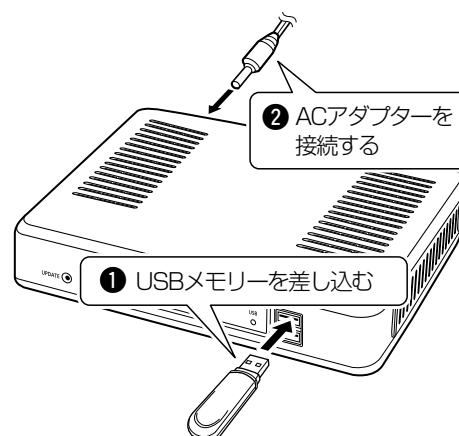
■ 設定ファイルを保存して復元するまでの手順(つづき)

- 7** USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。

- 8** 設定を復元する本製品を用意します。

- 9** 本製品の電源を切ります。

- 10** savedata.savが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んでから、本製品の電源を入れます。

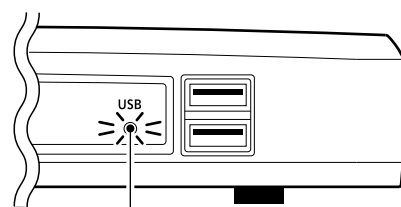


- 11** [PWR]ランプが●緑点灯後、約3秒経過すると、USBメモリーへのアクセスが開始されます。アクセス中は、[USB]ランプが、●橙色と●緑色で交互に点滅します。

【ご注意】 設定復元(アクセス)が完了するまで、絶対にUSBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりしないでください。

途中で、USBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりすると、設定ファイルの消失や故障の原因になります。

また、設定復元が完了するまで、本製品の設定画面にアクセスしないでください。



アクセス中は交互に点滅(橙色/緑色)

(次ページにつづく)

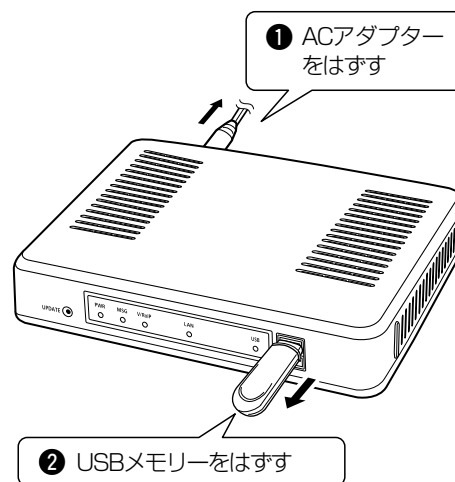
5 保守について

6. USBメモリーから自動で設定を復元するには

■ 設定ファイルを保存して復元するまでの手順(つづき)

- 12** すべてのランプが消灯し、本製品が再起動します。
起動中、[PWR]ランプが $\bullet$ 緑点滅から $\bullet$ 緑点灯に切り替わったことを確認してから本製品の電源を切ります。
最後に、本製品からUSBメモリーを取りはずします。
※USBメモリーには、復元前の設定内容を保存した設定ファイルが自動でバックアップファイル(bakdata.sav)として保存されています。

【ご注意】 データ保護のため、必ず本製品の電源を切ってから、USBメモリーを取りはずしてください。



【ご参考に】

「管理」メニューの「USB」画面で、[USBメモリー]欄が「有効」(出荷時の設定)に設定されているとき、USBメモリーが差し込まれた本製品の電源を入れると、USBメモリーへのアクセスが開始されます。(P.4-124)

7. USBメモリーからファームウェアをバージョンアップするには

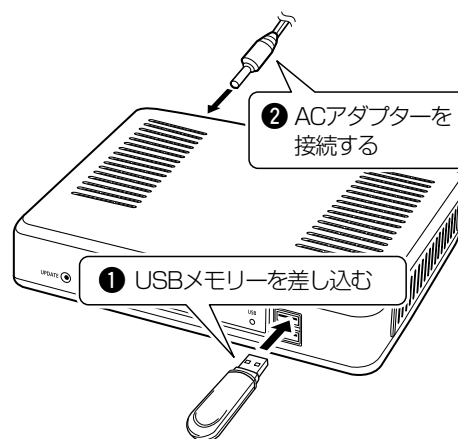
弊社ホームページよりダウンロードした本製品のファームウェアファイル(拡張子: dat)をUSBメモリー(市販品)に保存して、本製品のファームウェアをバージョンアップするまでの手順について説明します。

※使用条件については、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.5-9)をご覧ください。

※バージョンアップの前に、「バージョンアップについてのご注意」(P.5-6)をご覧ください。

■ バージョンアップするまでの手順

- 1 本製品のファームウェアファイルを弊社ホームページよりダウンロードして、解凍します。
- 2 ダウンロードしたファームウェアファイルのファイル名を firmware.dat に変更します。
※ファイル名は、必ず「firmware.dat」に変更してください。
「firmware.dat」以外のファイル名は、USBメモリーからのバージョンアップに使用できません。
- 3 USBメモリーをパソコンに差し込みます。
- 4 firmware.dat をUSBメモリーのルートディレクトリーに保存します。
- 5 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。
- 6 バージョンアップする本製品を用意します。
- 7 本製品の電源を切り、本製品に接続するすべての機器を取りはずします。
- 8 firmware.dat が保存されたUSBメモリーを本製品の [USB] ポートに差し込んでから、本製品の電源を入れます。

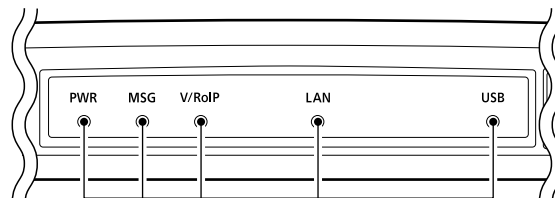


(次ページにつづく)

7. USBメモリーからファームウェアをバージョンアップするには

■ バージョンアップするまでの手順(つづき)

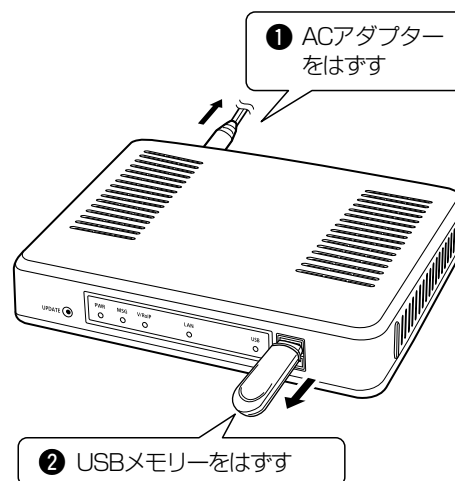
- 9** [PWR] ランプが ● 緑点灯後、約3秒経過すると、USBメモリーへのアクセスが開始されます。アクセス中は、[USB] ランプが、 橙色と  緑色で交互に点滅します。
- ※ ファームウェアのバージョンアップ中は、すべてのランプが ● 橙点灯します。



バージョンアップ中は橙色で点灯

【ご注意】 ファームウェアのバージョンアップが完了するまで、絶対にUSBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりしないでください。バージョンアップ中に、USBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりすると、故障の原因になります。

- 10** すべてのランプが消灯し、本製品が再起動します。起動中、[PWR] ランプが  緑点滅から ● 緑点灯に切り替わったことを確認してから本製品から電源を切ります。最後に、本製品からUSBメモリーを取りはずします。
- 【ご注意】** データ保護のため、必ず本製品の電源を切ってから、USBメモリーを取りはずしてください。



バージョンアップ操作後は、本製品の設定画面にアクセスして、ファームウェアバージョンを確認してください。USBメモリーに保存された設定ファイルやファームウェアファイルが本製品に適用されているものと同じとき、破損や本製品以外のものである場合は、自動設定、またはファームウェアの更新をしません。

この章では、
困ったときの対処法、設定画面の構成、仕様などを説明しています。

1. 困ったときは	6-2
2. Telnetで接続するには	6-4
■ Windows 7の場合	6-4
■ [CONSOLE] ポートを使用する	6-4
■ Telnetコマンドについて	6-5
3. 設定画面の構成について	6-6
4. 機能一覧	6-8
■ 無線機関連機能	6-8
■ ネットワーク機能	6-8
■ ネットワーク管理機能	6-8
■ その他	6-8
5. 定格について	6-9
■ 一般仕様	6-9
■ 有線部	6-9

1. 困ったときは

下記のような現象は、故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

[PWR]ランプが点灯しない

- ACアダプターが本製品に接続されていない
→ ACアダプター、およびDCプラグの接続を確認する
- ACアダプターをパソコンなどの電源と連動したコンセントに接続している
→ 本製品のACアダプターを壁などのコンセントに直接接続する

[LAN]ランプが点灯しない

- LANケーブルが本製品と正しく接続されていない
→ 本製品やパソコンの[LAN]ポート、またはLANケーブルを確認する
- パソコン、またはHUBの電源が入っていない
→ パソコンとHUBの電源が入っていることを確認する

本製品の設定画面にアクセスできない

- パソコンのIPアドレスを設定していない
→ 本製品の出荷時や全設定初期化時は、パソコンのIPアドレスを固定IPアドレスに設定する
- IPアドレスのネットワーク部が、本製品とパソコンで異なっている
→ パソコンに設定されたIPアドレスのネットワーク部を本製品と同じにする
- ご使用のWWWブラウザにプロキシサーバーが設定されている
→ Internet Explorerの「ツール(T)」メニューから「インターネットオプション(O)」、[接続]タブ、〈LANの設定(L)〉ボタンの順に操作して、「設定を自動的に検出する(A)」や[LANにプロキシサーバーを使用する(これらの設定はダイヤルアップ、またはVPN接続には適用されません)(X)]にチェックマークが入っていないことを確認する

本製品の設定画面を正しく表示しない

- WWWブラウザのJavaScript機能、およびCookieを無効に設定している
→ JavaScript機能、およびCookieを有効に設定する
- Microsoft Internet Explorer 9.0以降を使用していない
→ Microsoft Internet Explorer 9.0以降を使用する

オンラインバージョンアップができない

- デフォルトゲートウェイとDNSサーバーアドレスを設定していない
→ 「ネットワーク設定」メニューの「本体IPアドレス」画面で設定を確認する
設定されていない場合は、デフォルトゲートウェイとDNSサーバーアドレスを設定する(P.4-12)
- ファイアウォールなどで遮断されている
→ ネットワーク管理者に相談し、ファイアウォールの設定を確認する

1. 困ったときは(つづき)

IP100Hが圏外、または「接続試行中」と表示される

- 無線アクセスポイントとの距離がはなれすぎている
→ 場所を移動してみる
- 無線アクセスポイントの電源が入っていない
→ 無線アクセスポイントの電源を入れる
- IP100Hの無線LAN設定が接続先の無線アクセスポイントと合っていない
→ 接続先の無線アクセスポイント側で無線LAN設定などを確認する
→ CS-IP100H(クローニングソフトウェア)からIP100Hの無線LAN設定などを確認、または変更する
- 接続先の無線アクセスポイントがANY拒否などSSIDステルス(隠蔽)機能を設定している(5GHz帯(W53/W56)利用時)
→ 接続先の無線アクセスポイント側でANY拒否などSSIDステルス(隠蔽)機能を確認する

IP100Hが「設定取得失敗」と表示される

- IP100Hの保守サーバー設定が接続先の本製品と合っていない(圏内表示の場合)
→ CS-IP100H(クローニングソフトウェア)からIP100Hの保守サーバー設定などを確認、または変更する
→ 本製品でIP100Hの保守サーバー設定などを確認、または変更する
- 本製品がネットワークに接続されていない
→ 本製品やHUB、またはLANケーブルを確認する

IP100Hで通話できない

- 相手局番号、またはグループ番号を間違えている
→ 相手局番号、またはグループ番号を確認する
- 相手先の電話番号、またはグループ番号を「呼出先設定」画面に登録していない
→ 相手先の電話番号、またはグループ番号を「呼出先設定」画面で確認する
→ 接続先のVE-PG3とブリッジ接続できているか確認する

IP100Hで近隣呼び出しができない

- 近隣呼出機能が無効に設定されている
→ 本製品の「無線機個別」画面で近隣呼出機能を確認する
→ IP100Hを再起動して、本製品の設定内容を取得する
→ IP100Hの[FUNC]キーを押して近隣呼出機能を「ON」にする
- IP100Hが近隣呼出機能で接続する無線アクセスポイントが設定されていない
→ 本製品の「近隣呼出接続」画面で設定内容を確認する

2. Telnetで接続するには

Telnetでの接続について説明します。

ご使用のOSやTelnetクライアントが異なるときは、それぞれの使用方法をご確認ください。

■ Windows 7の場合

お使いいただくときは、「コントロールパネル」→「プログラム」→「Windows の機能の有効化または無効化」から、「Telnetクライアント」を有効にしてから、下記の手順で操作してください。

【設定のしかた】

①Windowsを起動します。

②[スタート](ロゴボタン)から[プログラムとファイルの検索]を選択します。

名前欄に「telnet.exe」と入力し、[Enter]キーを押します。

※Windows 8.1やWindows 10の場合は、[スタート](ロゴボタン)を右クリックし、[ファイル名を指定して実行]を選択します。

③Telnetクライアントが起動しますので、下記のように入力します。

Microsoft Telnet>open 本製品のLAN側IPアドレス(入力例：open 192.168.0.1)

④下記を入力して[Enter]キーを押すと、ログインできます。

login : admin

password: admin

※出荷時や全設定初期化時のpasswordは、adminです。(P.4-118)

⑤ログインメッセージ(IP1000C #)が表示されます。

■ [CONSOLE]ポートを使用する

本製品の[CONSOLE]ポートとパソコンの[COM]ポートを設定用ケーブル(別売品：OPC-1402)で接続すると、ターミナルソフトウェアから設定できます。

使用するときには、パソコンの[COM]ポートを下記の値に設定します。

◎[接続方法]の選択： 設定用ケーブルを接続している[COM]ポートの番号を指定します。

◎通信速度 : 115200(ビット/秒)

◎データビット : 8

◎パリティ : なし

◎ストップビット : 1

◎フロー制御 : なし

※設定後、何も入力せずに[Enter]キーを押すと、「IP1000C #」と表示されます。

2. Telnetで接続するには(つづき)

■ Telnetコマンドについて

本製品で利用できるTelnetコマンドの表示方法と、コマンド入力について説明します。

コマンド一覧……………	[Tab]キーを押すと、使用できるコマンドの一覧が表示されます。 コマンド名の入力につづいて[Tab]キーを押すと、サブコマンドの一覧が表示されます。
コマンドヘルプ……………	コマンドの意味を知りたいときは、ヘルプコマンドにつづいて、コマンド名を入力するとコマンドのヘルプが表示されます。 例) help save （saveコマンドのヘルプを表示する場合）
コマンド名の補完……………	コマンド名を先頭から数文字入力し[Tab]キーを押すと、コマンド名が補完されます。 入力した文字につづくコマンドが1つしかないときは、コマンド名を最後まで補完します。 例) n [Tab]→network 複数のコマンドがあるときは、コマンドの候補を表示します。 例) res [Tab]→reset restart

3. 設定画面の構成について

本製品の全設定を初期化したとき、WWWブラウザに表示される画面構成です。

★1は、「テナント設定」画面で指定した番号のテナント内で使用する設定です。

★2は、グループ番号を変更すると、表示される内容が切り替わります。

設定メニュー	設定画面	設定項目
TOP	TOP	製品情報
		ネットワーク情報
		ポート情報
		無線機情報
情報表示	SYSLOG	SYSLOG
	統計情報	メモリー使用率
		トラフィック統計
ネットワーク設定	本体IPアドレス	本体名称
		IPアドレス設定
	DHCPサーバー	DHCPサーバー設定
		静的DHCPサーバー設定
		静的DHCPサーバー設定一覧
	スタティックルーティング	IP経路情報
		スタティックルーティング設定
		スタティックルーティング設定一覧
RoIP通信設定	RoIP通信設定	他拠点通信設定
		VoIP拡張設定
テナント設定	テナント設定	テナント設定
RoIPサーバー設定★ ¹	RoIPサーバー	通話優先順位設定
		ブリッジ
	ブリッジ	ブリッジ設定
		ブリッジ設定一覧
		ブリッジグループ設定
		ブリッジグループ設定一覧
	他拠点接続	他拠点接続設定
		他拠点設定一覧
	近隣呼出接続	近隣呼出接続設定
		アクセスポイント検索設定
		近隣呼出接続設定一覧
無線機設定★ ¹	無線機管理	無線機管理
	無線機追加	TRX番号設定
		TRX番号設定一覧
		TRX番号一括設定
	無線機個別	無線機個別設定
		無線機個別設定コピー
		無線機個別設定一覧
設定グループ★ ¹	無線LAN	無線LAN設定
		無線LAN設定一覧
	アドレス帳	アドレス帳グループ設定
		アドレス帳グループ詳細設定★ ²
		アドレス帳設定の保存と書き込み★ ²

3. 設定画面の構成について(つづき)

設定メニュー	設定画面	設定項目
設定グループ★ ¹	メッセージ	アドレス帳設定★ ²
		アドレス帳設定一覧★ ²
		メッセージグループ設定
		メッセージグループ詳細設定★ ²
		メッセージ設定の保存と書き込み★ ²
		メッセージ設定★ ²
	プレゼンス	プレゼンス設定
	設定グループ詳細	設定グループ設定一覧
		設定グループ設定
		設定グループ一括設定
呼出先設定★ ¹	呼出先設定	呼出先設定
		呼出先設定一覧(全体)
		呼出先設定一覧(グループ)
		呼出先設定一覧(トークグループ)
		呼出先設定一覧(管理用トークグループ)
		呼出先設定一覧(個別)
		呼出先設定一覧(電話)
		呼出先一括設定
管理	管理者	管理者パスワードの変更
	時計	時刻設定
		自動時計設定
		SNTPサーバー設定
	SYSLOG	SYSLOG設定
	SNMP	SNMP設定
	USB	USB設定
	ネットワークテスト	PINGテスト
		経路テスト
	再起動	再起動
	設定の保存/復元	設定の保存
		設定の復元
		オンライン設定
		設定内容一覧
	初期化	初期化
	ファームウェアの更新	ファームウェア情報
		オンライン更新
		自動更新
		手動更新

4. 機能一覧

■ 無線機関連機能

- 無線機制御(100台)
※IP1000C #02の場合は20台
- 単信通信(シンプレックス)
- 複信通信(フルデュプレックス)
- 多重通信
- 全体/グループ呼び出し
- トークグループ呼び出し
- 個別呼び出し
- 優先呼び出し
- 近隣呼び出し
- グループ会議
- プレゼンス機能(10件)
- メッセージ機能(10件)
- アドレス帳(50件)
- 位置情報
- 受信音声ミュート機能
- 通信圏外通知機能
- オートプロビジョニング
- 無線アクセスポイント検索機能
- 他拠点接続機能
- 弊社製無線機との通信
※VE-PG3が必要
- VoIPシステムとの通信
※VE-PG3と弊社製SIPサーバーが必要
- オーダーコールシステム対応

■ ネットワーク機能

- DHCPサーバー機能
- 静的DHCPサーバー機能
- スタティックルーティング

■ ネットワーク管理機能

- SYSLOG
- SNMP (MIB-II)

■ その他

- 接続制限機能(管理者ID/パスワード)
- 自動時計設定
- 設定保存
- WEBメンテナンス
- Telnetメンテナンス
- オンラインファームアップ(自動/手動)
- USBメモリーから設定ファイルとファームウェアを自動適用
- 通信経路品質チェック

IP100H/IP100FS対応表

下記のように、IP100H、IP100FSで利用できる機能は異なります。

機能		IP100H	IP100FS ^{★1}
通信方式	単信通信	○	○
	複信通信	○	○
呼出種別	全体	○	○
	グループ	○	○
	個別	○	○
	近隣	接続している無線アクセスポイントと同一エリア内に発信	無線アクセスポイントを指定して発信
	優先	端末ごとに指定	常時優先
	マニュアル	—	○
	アドレス帳	起動時に本製品からダウンロード	個別設定
アドレス帳	件数	50件(1グループ)	500件(1サイト)
	登録数	1	16サイト
メッセージ	設定方法	起動時に本製品からダウンロード	個別設定
	文字数 ^{★2}	半角32(全角16)文字以内	50文字以内
	定形文数	10個(1グループ)	100個(1サイト)
	フリー	—	○
位置情報		—	IP100Hが接続している無線アクセスポイントを表示

★1 IP100FSからの遠隔操作で、特定のIP100Hを強制的に送信状態にし、周囲の音声をモニターしたり、指定したIP100Hの送信を禁止したりできます。(使用方法について詳しくは、IP100FSのヘルプをご覧ください。)

★2 IP100HがUTF-8を採用しているため、半角カタカナの場合、動作保証できるのは最大16文字になります。環境依存文字を入力しないでください。環境依存文字を使用すると、IP100Hの画面で正常に表示されません。

5. 定格について

■一般仕様

電 源 : DC12V $\pm$ 10% [DCプラグ極性 : 
※ACアダプター(付属)は、AC100V $\pm$ 10%
最大15W (付属のACアダプター使用時)
使 用 環 境 : 温度0 $\sim$ 40 $^{\circ}$ C、湿度5 $\sim$ 95% (結露状態を除く)
外 形 寸 法 : 約232(W) $\times$ 38(H) $\times$ 168(D)mm (突起物を除く)
重 量 : 約750g (付属品を除く)
適 合 規 格 : クラスB情報技術装置 (VCCI)
インターフェース : ランプ (PWR、MSG、V/RoIP、LAN、USB)
ボタン (UPDATE、INIT)
[USB] ポート (USB2.0) $\times$ 2

■有線部

インターフェース : [LAN] ポート (RJ-45型) $\times$ 4 (Auto MDI/MDI-X)
●IEEE802.3/10BASE-T準拠
●IEEE802.3u/100BASE-TX準拠
●IEEE802.3ab/1000BASE-T準拠
[CONSOLE] ポート (RJ-11型) $\times$ 1
●RS-232C準拠
通 信 速 度 : [LAN] 部 10/100/1000Mbps (自動切り替え/全二重)

定格・仕様・外観等は改良のため予告なく変更する場合があります。

高品質がテーマです。

